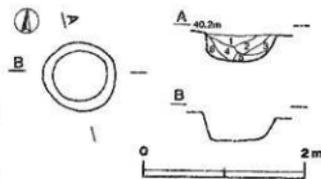


## 土層解説

1 黒色	ローム粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒色	ロームブロック破片	5 黒褐色	ロームブロック少量
3 黒色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片1点、弥生土器片2点が覆土中及び境界土中から出土している。

**所見** 本跡に伴うと考えられる遺物がなく、時期・性格等は不明である。



第161図 第13号土坑実測図

## 第15号土坑 (第162図)

**位置** 調査区の南端部、G4i8区に位置している。

**規模と形状** 径1.07mのほぼ円形で、深さは22cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

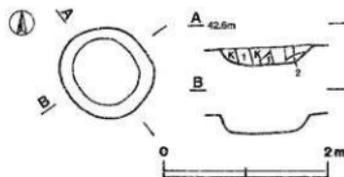
**覆土** 2層からなる。全体にロームブロックが混入し、層の境界面の凹凸が激しいことから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 黒色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 本跡に伴う遺物がなく、性格・時期等は不明である。



第162図 第15号土坑実測図

## 第18号土坑 (第163図)

**位置** 調査区の東部、F7e1区に位置している。

**規模と形状** 長径1.68m、短径0.83mの楕円形で、深さは29cmである。壁面は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。長径方向はN-13°-Wである。

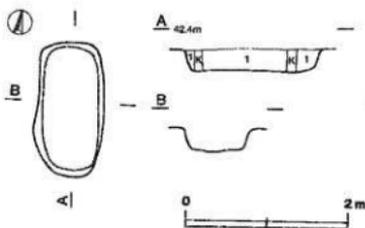
**覆土** 単一層である。全体にロームブロックが混入しており、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量
-------	-----------

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 本跡に伴う遺物がなく、時期・性格等は不明である。

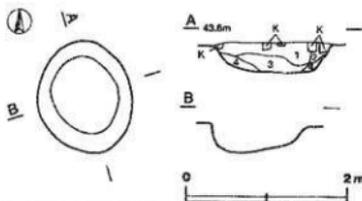


第163図 第18号土坑実測図

## 第36号土坑 (第164図)

**位置** 調査区の北端部、C2h6区に位置している。

**規模と形状** 長径1.43m、短径1.16mの楕円形で、深さは37cmである。壁面は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。長径方向はN-16°-Wである。



第164図 第36号土坑実測図

**覆土** 4層からなる。全体にロームブロックが混入していることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 本跡に伴う遺物がなく、時期・性格等は不明である。

**第48号土坑（第165図）**

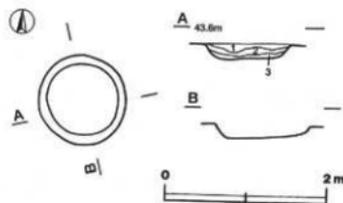
**位置** 調査区の北端部、D2h9区に位置している。

**規模と形状** 径1.03mの円形で、深さは16cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**覆土** 3層からなる。各層中に炭化粒子、焼土粒子が混入しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子多量、ロームブロック微量      |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |



第165図 第48号土坑実測図

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 本跡に伴う遺物がなく、時期・性格等は不明である。

**第58号土坑（第166図）**

**位置** 調査区の中央部、E5i1区に位置している。

**規模と形状** 長径1.3m、短径1.12mの楕円形で、深さは36cmである。壁面は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。長径方向はN-48°-Wである。

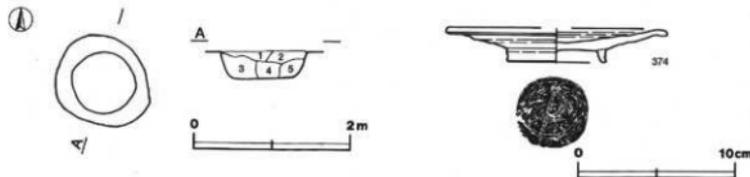
**覆土** 5層からなる。全体的にロームブロックが混入していることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |       |           |

**遺物出土状況** 攪乱土中から須恵器片1点が出土している。

**所見** 本跡に伴う遺物がなく、時期・性格等は不明である。



第166図 第58号土坑・出土遺物実測図

## 第58号土坑出土遺物観察表 (第166図)

発見	種別	数量	寸法	材質	色調	状態	備考
374	灰土層	高台付組	(14.0)	2.2	8.3	灰赤	良好

## 第67号土坑 (第167図)

位置 調査区の西端部, E2c9区に位置している。

規模と形状 径0.95mの円形で、深さは22cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

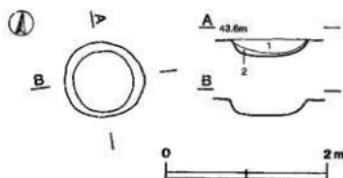
覆土 2層からなる。ロームブロック、炭化粒子、焼土粒子が混入していることから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡に伴う遺物がなく、時期・性格等は不明である。



第167図 第67号土坑実測図

## 第69号土坑 (第168図)

位置 調査区の西端部, E2i0区に位置している。

重複関係 第83号土坑の北側を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.03m、短軸1.41mの長方形で、深さは29cmである。壁面は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。長軸方向はN-25°-Wである。

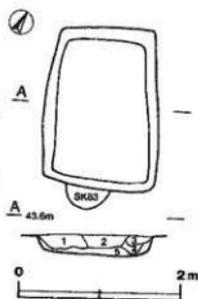
覆土 5層からなる。全体的にロームブロックが混入していることから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量

遺物出土状況 攪乱土中から土師器壺片が9点出土している。いずれも細片で図化できない。

所見 出土遺物は遺構に伴うかどうか判断は困難である。時期・性格等は不明である。



第168図 第69号土坑実測図

## 第81号土坑 (第169図)

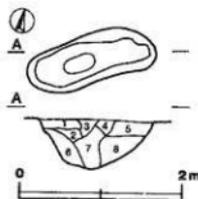
位置 調査区の中央部, E4h2区に位置している。

規模と形状 長径1.58m、短径0.6mの楕円形で、深さは62cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、底面は皿状である。長径方向はN-58°-Eである。

覆土 8層からなる。大半の土層中にロームブロックが混入していることから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子少量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量

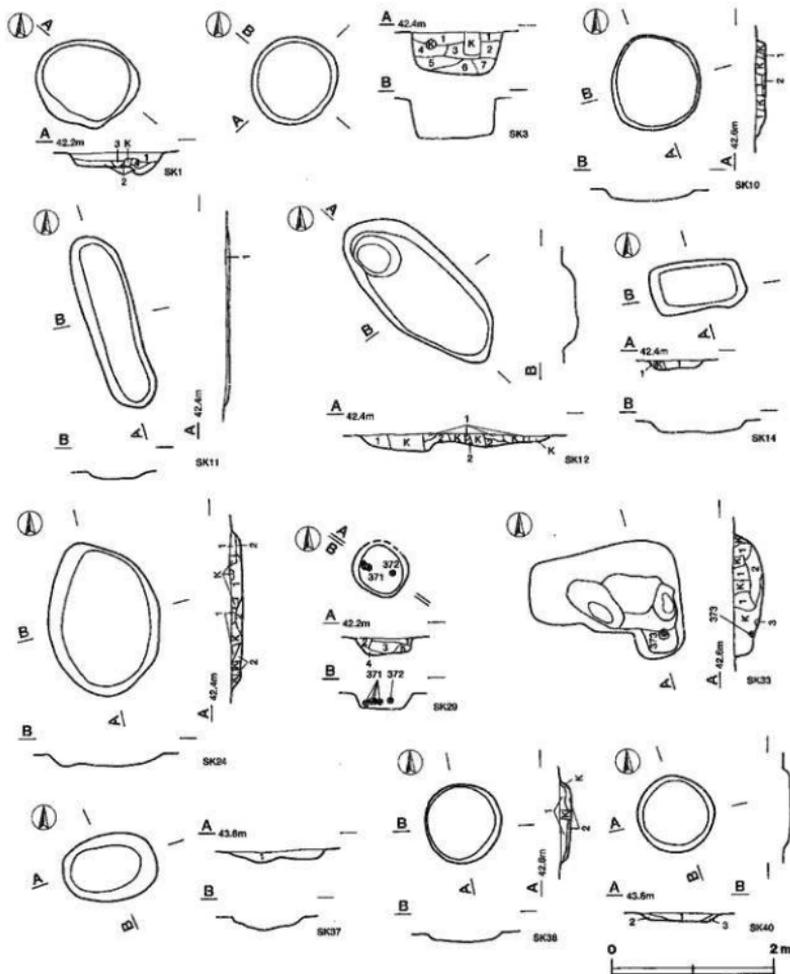


第169図 第81号土坑実測図

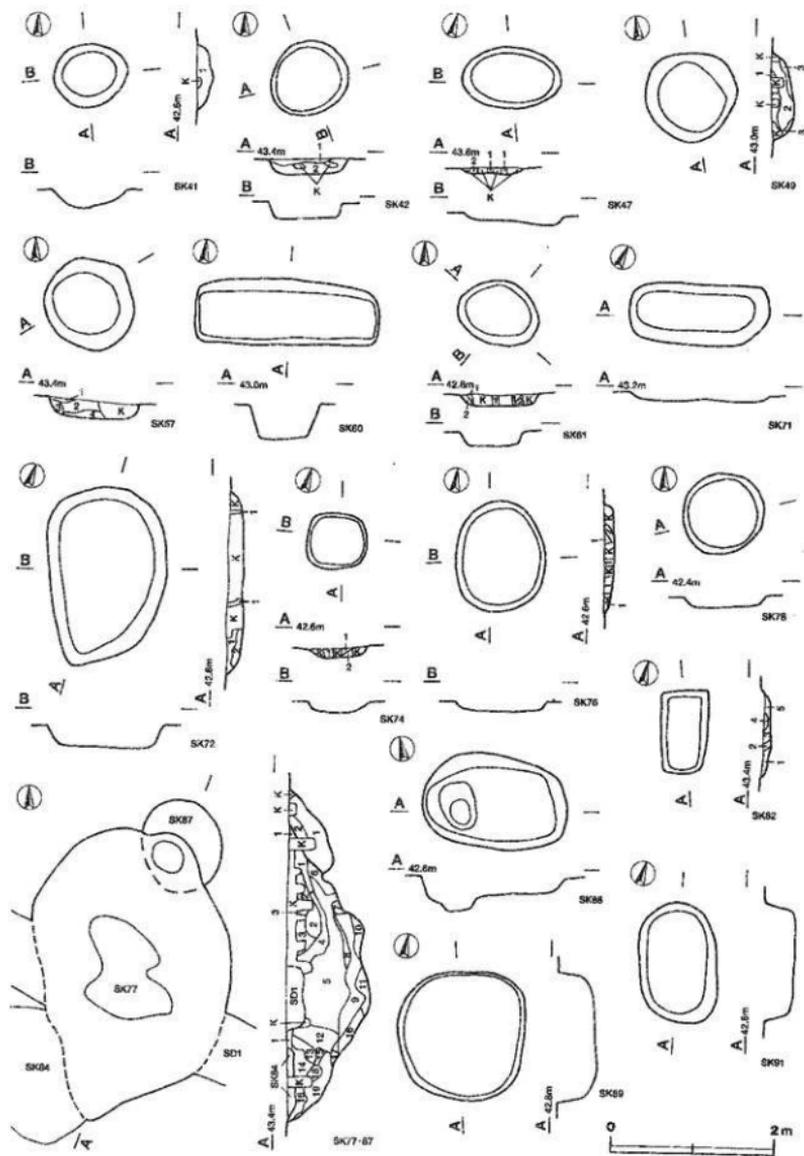
- 5 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡に伴う遺物がなく、時期・性格等は不明である。



第170図 その他の土坑実測図(1)



第171図 その他の土坑実測図(2)

- 第1号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
  - 2 褐色 ローム粒子多量
  - 3 黒褐色 ローム粒子中量
  - 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 第3号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
  - 2 黒褐色 ロームブロック少量
  - 3 褐色 ロームブロック微量
  - 4 褐色 ロームブロック少量
  - 5 黒褐色 ロームブロック中量
  - 6 暗褐色 ロームブロック少量
  - 7 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

- 第10号土坑土層解説**
- 1 黒色 ローム粒子微量
  - 2 黒褐色 ロームブロック少量

- 第11号土坑土層解説**
- 1 黒色 ローム粒子微量

- 第12号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
  - 2 暗褐色 ローム粒子中量

- 第14号土坑土層解説**
- 1 黒色 ロームブロック少量

- 第24号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、砂粒微量
  - 2 暗褐色 ロームブロック中量、砂粒微量

- 第29号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
  - 2 暗褐色 ローム粒子微量
  - 3 暗褐色 ロームブロック微量
  - 4 褐色 ロームブロック少量
  - 5 暗褐色 ロームブロック少量

- 第33号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ロームブロック中量
  - 2 暗褐色 ロームブロック多量
  - 3 黒褐色 ロームブロック少量

- 第37号土坑土層解説**
- 1 黒色 ロームブロック少量

- 第38号土坑土層解説**
- 1 黒色 ロームブロック少量
  - 2 褐色 ロームブロック多量

- 第40号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
  - 2 黒褐色 ロームブロック中量
  - 3 褐色 ロームブロック中量

- 第41号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ロームブロック少量

- 第42号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
  - 2 黒褐色 ロームブロック少量

- 第47号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子少量
  - 2 暗褐色 炭化粒子、ローム粒子中量

- 第49号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
  - 2 暗褐色 ロームブロック少量
  - 3 褐色 ロームブロック中量

- 第57号土坑土層解説**
- 1 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子微量
  - 2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子微量
  - 3 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子微量、粒状子多量
  - 4 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子多量、粒状子多量

- 第60号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ロームブロック中量

- 第61号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
  - 2 暗褐色 ローム粒子中量

- 第72号土坑土層解説**
- 1 暗褐色 ロームブロック中量
  - 2 黒褐色 ロームブロック中量

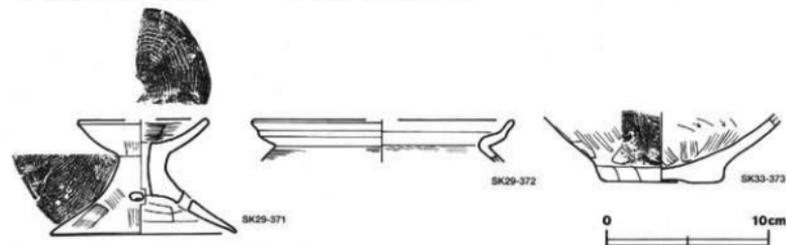
- 第74号土坑土層解説**
- 1 黒色 ロームブロック微量
  - 2 黒褐色 ロームブロック微量

- 第76号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
  - 2 暗褐色 ロームブロック微量

- 第77号土坑土層解説**
- 1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・粒状子微量
  - 2 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・粒状子微量
  - 3 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック微量
  - 4 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・粒状子微量
  - 5 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・粒状子微量
  - 6 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
  - 7 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
  - 8 黒色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
  - 9 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
  - 10 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
  - 11 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
  - 12 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子微量
  - 13 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
  - 14 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子微量
  - 15 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
  - 16 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子少量
  - 17 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
  - 18 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子少量
  - 19 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子少量、粒状子多量

- 第82号土坑土層解説**
- 1 黒色 炭化粒子多量、ロームブロック微量
  - 2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子微量
  - 3 黒色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
  - 4 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子微量
  - 5 黒色 炭化粒子多量、ロームブロック中量

- 第87号土坑土層解説**
- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
  - 2 赤褐色 炭化粒子・ローム粒子中量



第172図 第29・33号土坑出土遺物実測図  
第29-33号土坑出土遺物観察表 (第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	釉色	手法の特徴	出土位置	備考
371	土師器	香付	[7.8]	7.2	[11.6]	長石・石英	にじみ黄褐色	普通	器底部内外面ハケ目調整 陶器内外面ハケ目調整、内面ヘラナシ	SK-29埋土中	45% PL28
372	土師器	甕	[16.2]	(2.6)	-	石英・重曹	にじみ黄褐色	普通	口縁部内外面横ナシ 底部内外面ハケ目調整	SK-29埋土上	5%
373	土師器	甕	-	(4.4)	7.4	長石・石英・重曹	にじみ黄褐色	普通	作部内面ヘラ目調整後ヘラ磨き、内面ヘラ目調整、ハケ目調整	SK-33埋土上	5%

表3 二の沢A遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	方位方向	開口部平面形状	築 構		地層	底面	高さ	覆土	出土品・土層記号	その他特徴(注→別)
				開口部 (長×幅(m))	深さ (cm)						
1	B007	N-80°-W	楕円形	1.19×1.01	17	外堀	平坦	入土	土層記号	SI10→本層	
3	G267	N-80°-E	円形	1.11×1.04	49	外堀	平坦	入土	土層記号	SI36→本層	
4	G35	N-30°-W	円形	0.99×0.96	22	外堀	平坦	入土	炭灰層下、土層記号	SI13→本層	
5	G269	N-8°-W	円形	0.57×0.61	16	雜草	底状	—	—	—	
6	B967	N-16°-W	円形	1.03×0.97	32	外堀	平坦	入土	土層記号、炭灰層片	—	
7	B97	N-25°-W	楕円形	2.70×1.30	20	雜草	凹内	入土	炭灰土層片、土層記号	—	
8	G61	N-10°-W	小楕円形	0.69×0.65	20	雜草	底状	入土	—	—	
9	G69	N-21°-W	楕円形	0.84×0.69	17	雜草	底状	—	炭灰土層片、土層記号	—	
10	G49	N-17°-W	楕円形	1.30×1.08	14	雜草	底状	入土	—	—	
11	G51	N-21°-W	長楕円形	2.25×0.62	7	雜草	平坦	入土	—	—	
12	B660	S-46°-W	長楕円形	2.33×1.04	17	雜草	平坦	入土	—	—	
13	F7c3	N-15°-W	円形	0.88×0.87	34	外堀	平坦	入土	炭灰土層片、土層記号	—	
14	G266	N-79°-E	楕円形	1.13×0.63	13	雜草	平坦	入土	—	—	
15	G48	N-38°-W	円形	1.17×1.06	22	雜草	平坦	入土	—	—	
16	F7d1	N-15°-W	楕円形	0.69×0.54	34	外堀	平坦	入土	土層記号	—	
17	F7d1	N-80°-W	楕円形	0.96×0.66	42	外堀	平坦	入土	—	—	
18	F7e1	N-13°-W	楕円形	1.67×0.82	29	外堀	凹内	入土	—	—	
19	F7e1	N-7°-W	楕円形	0.56×0.36	45	外堀	平坦	入土	—	—	
20	B61	N-79°-E	小楕円形	1.79×1.30	63	雜草	底状	入土	土層記号	—	
21	G46	—	円形	(0.88、×0.90)	14	雜草	平坦	—	—	—	
22	G45	N-20°-E	楕円形	(0.92)×0.78	15	外堀	平坦	—	—	—	
23	G44	N-20°-W	楕円形	0.80×0.63	27	外堀	底状	—	—	—	
24	G6d	N-13°-W	楕円形	1.83×1.38	12	雑草	平坦	入土	—	—	
25	B65	N-89°-E	円形	0.80×0.80	9	外堀	平坦	入土	—	—	
26	B62	N-65°-W	円形	1.24×1.19	34	外堀	底状	入土	—	—	
27	B62	N-79°-E	円形	0.60×0.56	33	外堀	平坦	—	—	—	
28	B62	N-64°-W	楕円形	1.20×0.81	13	雜草	平坦	—	—	—	
29	B66a	N-30°-W	楕円形	0.72×0.63	20	外堀	平坦	入土	土層記号(凹内・右付蓋一枚取上)	SI10→本層	
30	B67	N-26°-E	不規則形	1.42×1.36	56	外堀	平坦	自然	—	—	
31	F6c3	N-78°-E	楕円形	2.03×1.10	45	外堀	底状	入土	—	—	
32	F6c3	N-85°-E	不規則形	1.83×1.10	37	雑草	凹内	入土	土層記号(突→埋込土)	—	
34	C3g1	N-58°-W	楕円形	0.57×0.50	14	雑草	平坦	入土	土層記号	—	
35	C3f1	N-17°-W	不規則形	1.13×1.02	18	雑草	凹内	—	土層記号	—	
36	C2b	N-16°-W	楕円形	1.44×1.18	37	外堀	平坦	入土	—	—	
37	C2f4	N-79°-E	楕円形	1.15×0.85	15	外堀	平坦	入土	—	—	
38	F6e3	N-8°-W	楕円形	0.98×0.94	11	雑草	平坦	入土	—	—	
39	C2g7	N-80°-E	楕円形	0.84×0.66	79	雑草	平坦	自然	—	—	
40	D2b	N-80°-E	円形	0.95×0.89	10	外堀	平坦	入土	—	—	
41	F5g6	N-84°-E	楕円形	0.91×0.79	22	雑草	底状	入土	—	—	
42	D6f	N-47°-E	円形	1.00×0.90	20	外堀	平坦	入土	—	—	
43	F5e0	N-61°-E	楕円形	0.81×0.62	32	雑草	底状	入土	—	—	
44	F5e0	N-66°-E	不規則形	1.30×1.00	25	雑草	平坦	入土	—	—	
45	F5b0	N-20°-W	楕円形	0.85×0.75	25	雑草	平坦	入土	—	—	
46	F5b0	—	円形	1.48×1.06	10	雑草	平坦	—	—	—	
47	D2g0	N-76°-E	楕円形	1.22×0.73	12	雑草	平坦	入土	—	—	

十位 番号	用途	方位	開口部 寸法	窓		窓西	窓南	備考	住宅用主要部	取付位置 (図)
				開口部 寸法 (長×高)	深さ (cm)					
48	D208	-	円形	1.14×1.19	16	傾斜	平置	人海		
49	E34	-	円形	1.13×1.12	27	傾斜	平置	人海		
50	D250	N-20°-W	楕円形	1.10×1.03	16	傾斜	平置	-		
51	D28	N-25°-W	長楕円形	1.12×0.43	12	傾斜	平置	人海		
52	K40	N-16°-E	楕円形	1.26×0.87	14	傾斜	直立	人海		
53	D26	-	円形	0.79×0.68	9	傾斜	平置	人海		
54	D260	N-28°-W	円形	0.89×0.87	33	傾斜	直立	-		
55	D20	N-20°-W	円形	1.44×1.19	27	傾斜	平置	人海		
56	D41	N-63°-E	楕円形	1.75×1.25	42	傾斜	平置	人海		
57	R51	N-20°-W	不定形	1.15×1.06	23	傾斜	平置	人海		
58	E51	N-48°-W	楕円形	1.30×1.12	36	傾斜	平置	人海	斜置部 (両面付部一體汎用)	
59	E42	N-21°-E	円形	0.39×0.47	14	傾斜	平置	人海		
60	F26	N-41°-E	長方形	2.26×0.84	40	傾斜	平置	人海		
61	F27	N-62°-W	楕円形	1.00×0.60	18	傾斜	平置	-	上向き	
62	E14	N-23°-E	円形	0.94×0.91	31	傾斜	平置	-		
63	C2	-	円形	0.92×0.96	19	傾斜	平置	-		
64	C21	-	円形	0.73×0.65	40	傾斜	平置	-		
65	C34	N-40°-W	楕円形	1.93×0.59	7	傾斜	平置	人海		
66	D41	N-84°-E	楕円形	1.02×0.86	-	-	-	-		
67	C29	-	円形	0.88×0.95	22	傾斜	平置	人海		
68	L20	-	円形	0.89×0.83	15	傾斜	平置	人海		
69	K20	N-25°-W	長方形	2.03×1.41	39	傾斜	平置	人海	上向き	
70	C2	N-53°-E	楕円形	0.97×0.80	15	傾斜	直立	-		SK21-本機
71	C34	N-66°-E	楕円形	1.72×0.71	15	傾斜	平置	人海		
72	G2	N-40°-W	楕円形	2.26×1.49	26	傾斜	平置	人海		
73	G49	N-41°-E	楕円形	0.88×0.71	18	傾斜	平置	人海		
74	G49	N-72°-E	長方形	0.74×0.20	12	傾斜	平置	人海		
75	G49	N-66°-E	不定形	1.45×0.91	13	傾斜	直立	自然	床面直下、上部開口	
76	G52	N-20°-W	楕円形	1.31×1.10	12	傾斜	平置	向付		
77	E24	N-20°-E	不定形	4.15×2.45	100	傾斜	直立	自然		SK27-本機 -SK31-本機
78	G35	-	円形	1.06×1.00	12	傾斜	平置	-		
79	G40	N-11°-W	楕円形	0.78×0.82	10	傾斜	平置	人海		
80	G34	-	円形	0.74×0.72	15	傾斜	直立	人海		
81	E14	N-58°-E	楕円形	1.58×0.60	42	傾斜	直立	人海		
82	K29	N-13°-W	長方形	1.03×0.58	11	傾斜	平置	人海		SK2-本機
83	K20	-	円形	0.56×1.05	38	傾斜	直立	自然		SK29-本機
84	K21	N-42°-W	楕円形	1.75×1.35	47	傾斜	直立	人海		SK27-本機
85	F24	N-65°-E	楕円形	0.23×0.27	23	傾斜	平置	人海		
86	F24	N-89°-E	楕円形	0.82×0.69	24	傾斜	平置	自然		
87	E24	N-13°-W	楕円形	1.15×0.96	30	傾斜	直立	人海		
88	F41	N-82°-W	楕円形	1.29×1.16	43	傾斜	平置	人海		
89	F41	N-77°-E	長方形	1.90×1.53	46	傾斜	平置	人海	上向き	
90	F41	-	円形	0.69×0.67	23	傾斜	平置	人海		
91	F41	N-13°-W	楕円形	1.42×0.85	34	傾斜	平置	自然		
92	F41	N-80°-E	長方形	1.22×1.10	40	傾斜	平置	人海		
93	E23	N-23°-W	不定形	3.18×2.48	23	傾斜	平置	人海	窓上向き (図)	

## (2) 溝

今回の調査では時期不明の溝を1条確認した。以下、確認した遺構について記載する。なお、平面図は遺構全体図に示した。

## 第1号溝 (付図)

**位置** 調査区西端部、E1b4区からG3a4区に位置している。

**重複関係** 第59号住居跡の南西コーナーを掘り込み、第77号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 両端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは、151.2mである。上幅0.52~0.84m、下幅0.40~0.53m、深さ0.1~0.18mで、断面形は逆台形状である。

**方向** G3a4区から北東(N-32°-E)へ一直線にF3e0区まで約35m伸び、そこから北西(N-61°-W)に折れ、更に一直線に116.2m伸び調査区外に至っている。

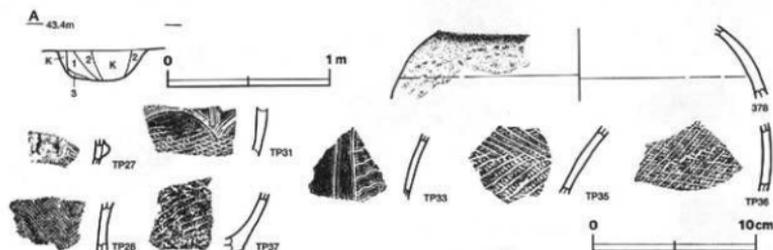
**覆土** 3層からなる。ロームブロックが認められないことや、レンズ状堆積を呈していることから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量  
3 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片194点、須恵器片12点、弥生土器片53点が出土しているが、その殆どがトレンチャーによる攪乱土中からである。378の須恵器長頸瓶は、北西部の攪乱土中から出土している。

**所見** 両端部が調査区域外であるため全体像は不明であるが、確認範囲での規模や形状から判断し、何らかの区画のための溝と推測される。本跡に伴うと考えられる遺物がなく時期は不明であるが、第59号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代前期以降と思われる。



第173図 第1号溝・出土遺物実測図

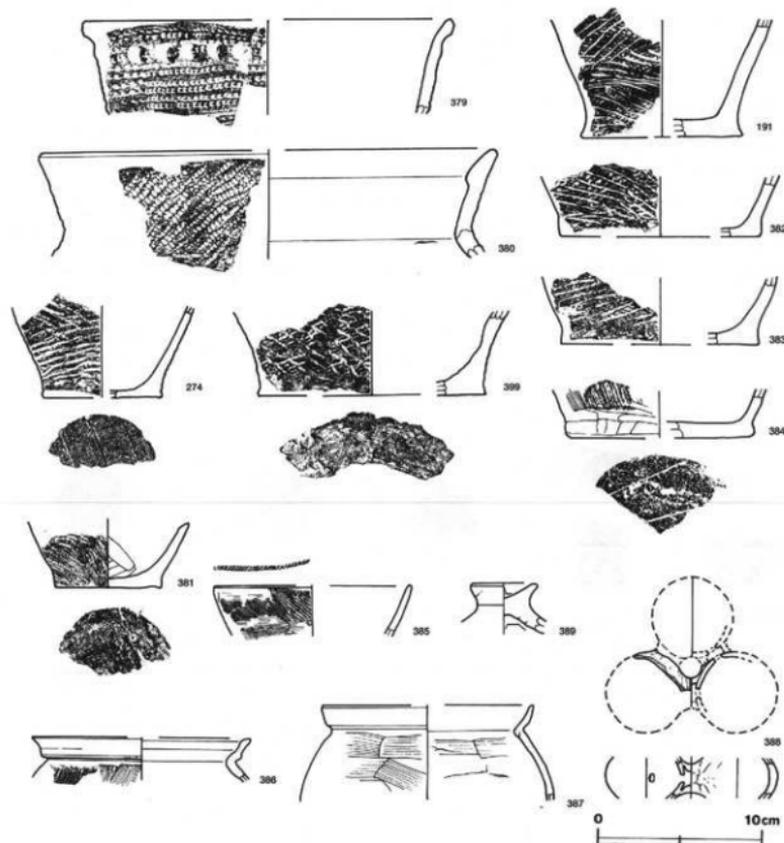
第1号溝出土遺物観察表 (第173図)

番号	種別	器種	口径	器高	成型	胎土	色調	焼成	手法	特徴 (文様の特徴)	出土位置	備考
378	須恵器	長頸瓶	-	(4.4)	-	長石	褐色	普通	体部内面横ナデ	外蓋自然輪付帯	攪乱土中	30%
TP27	弥生土器	皿	-	(1.7)	-	石英・長石・スコリア	赤褐色	普通	瀬田片	野加奈二層附加(条)の縄文施文	掘り継ぎ中	
TP26	弥生土器	瓶	-	(3.3)	-	石英・スコリア	にぶい褐色	普通	瀬田片	瀬田伏土層(3本層面)による山形文施文	攪乱土中	外蓋炭化物付帯
TP31	弥生土器	皿	-	(3.2)	-	石英・長石・スコリア	浅黄褐色	普通	瀬田片	瀬田伏土層(3本層面)による縄文施文	攪乱土中	TP.29

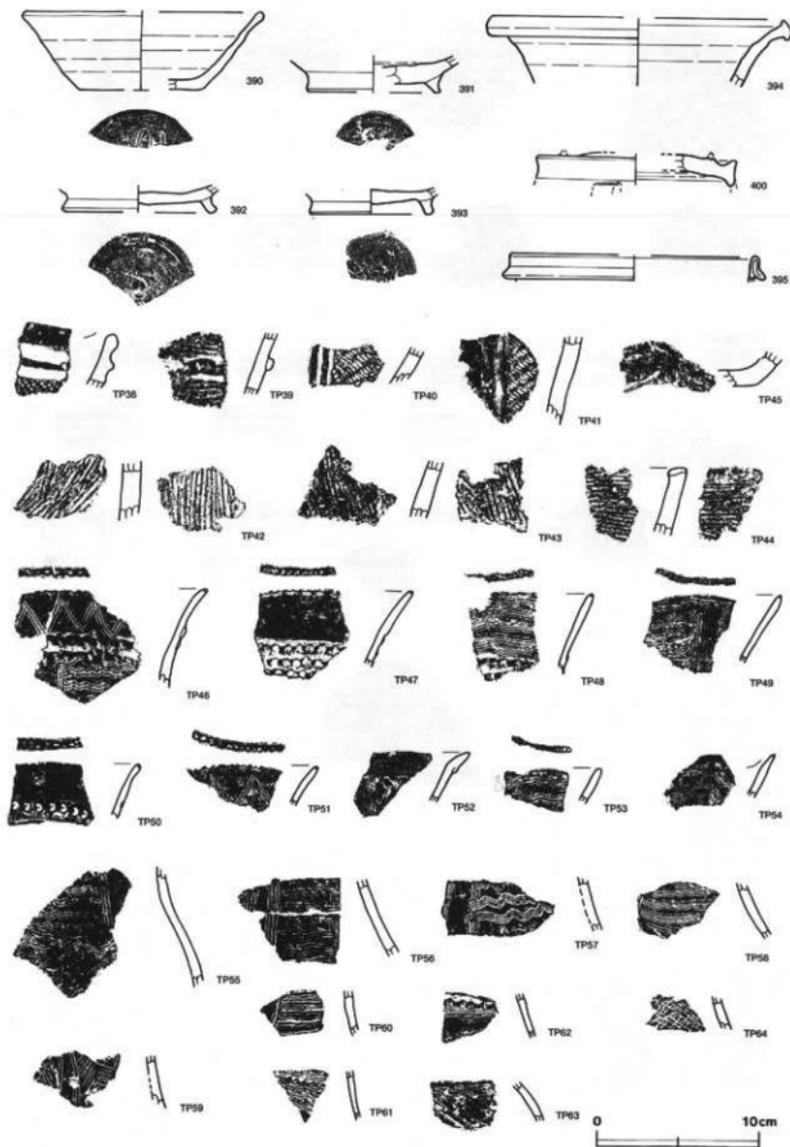
番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴(文様の特徴)	出土位置	備考
TP93	弥生土器	壺	—	(4.6)	—	長石・スコリア	黄褐色	普通	頸部内 縦長片状文 胴部外 柳葉状工具4本による縦区画後、区画内光線状	埋土中	PL29
TP95	弥生土器	壺	—	(4.7)	—	長石・スコリア	褐色	普通	胴部内 附加条二條附加1条の縄文筋文 口縁帯縁	埋土中	
TP96	弥生土器	壺	—	(4.3)	—	長石・雲母	明褐色	普通	胴部内 附加条二條附加1条の縄文筋文	埋土中	PL29
TP97	弥生土器	壺	—	(4.2)	—	長石・スコリア	にぶい褐色	普通	底部内 附加条二條附加1条の縄文筋文	埋土中	外面皮付物有 PL29

### (3) 遺構外出土遺物

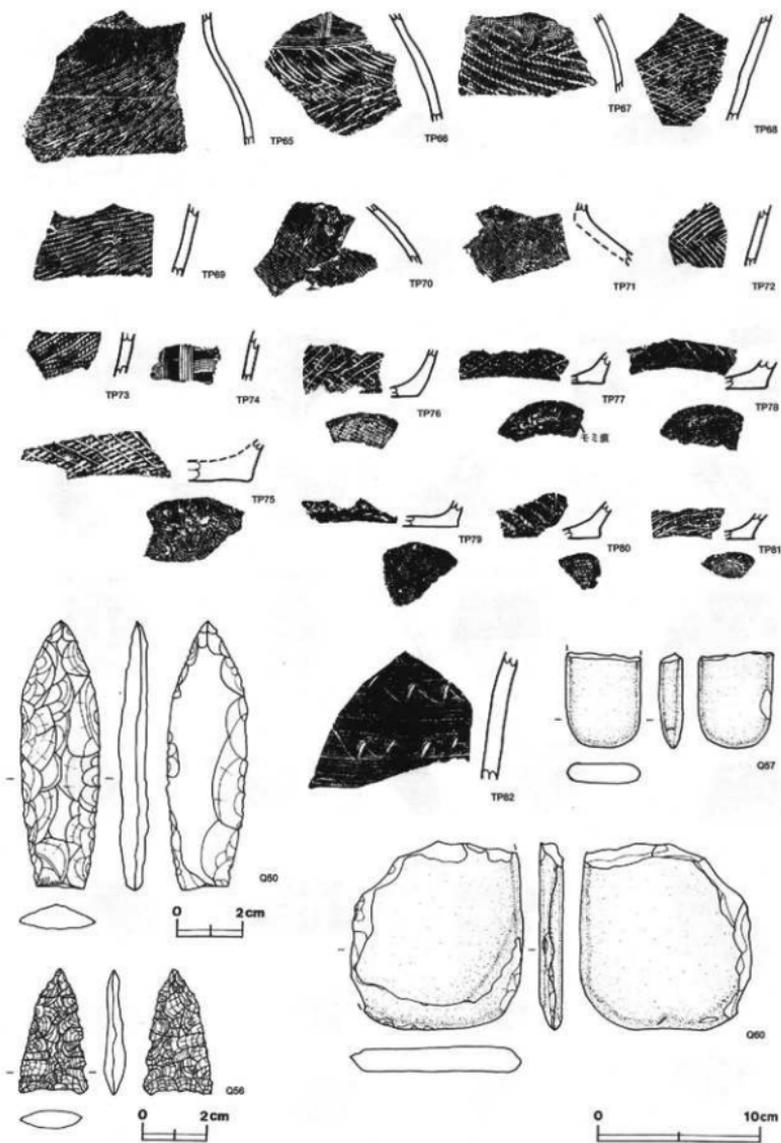
表土除去作業時やトレンチャーによる掘削の中などから、遺構に伴わない縄文時代から中世にかけての遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的な物について掲載する。



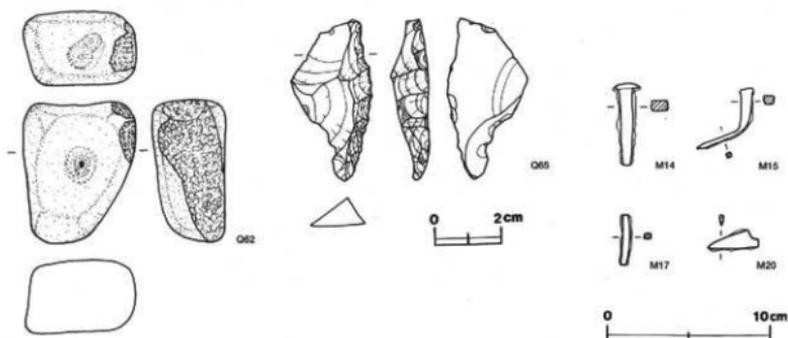
第174図 遺構外出土遺物実測図(1)



第175図 遺構外出土遺物実測図(2)



第176图 遗構外出土遺物実測図(3)



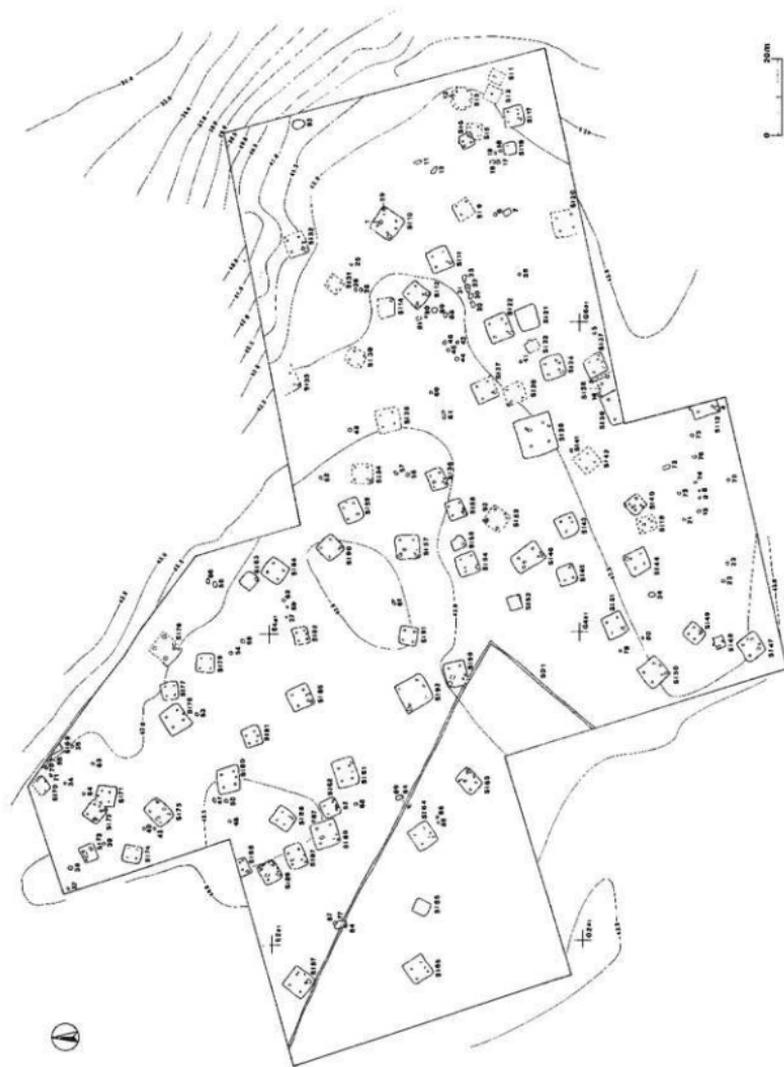
第177図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表(第174~177図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴(文様の特徴)	出土位置	備考
191	弥生土器	甕	-	(7.3)	(9.8)	石英・長石	にぶい黄褐色	普通	胴部外面附加条二種(附加1条)の縄文施文 羽状溝成	S1-97 覆瓦土中	5%
194	弥生土器	甕	-	(5.6)	(7.3)	石英・長石・パミス	にぶい黄褐色	普通	胴部外面附加条二種(附加1条)の縄文施文 羽状溝成 底面布目紋	S1-75 覆瓦土中	5%
197	縄文土器	深鉢	[22.1]	(5.8)	-	石英・長石	灰黄褐色	普通	口縁部、体部に中軸片管状の工具による縦位の押し引き	S1-71 覆瓦土中	5%
180	縄文土器	深鉢	[27.5]	(6.7)	-	石英・長石・パミス	にぶい黄褐色	普通	口縁部、体部に準縄文乃至縄文 内面ヘラナデ	S1-67 覆瓦土中	5%
181	弥生土器	甕	-	(4.6)	(6.6)	石英・長石・パミス・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	胴部外面附加条一種(附加2条)の縄文施文	表採	10%
182	弥生土器	甕	-	(3.8)	(12.2)	石英・長石・スコリア	にぶい黄褐色	普通	胴部外面附加条二種(附加1条)の縄文施文	S1-85 覆瓦土中	5%
183	弥生土器	甕	-	(4.2)	(12.0)	石英・長石・スコリア	にぶい黄褐色	普通	胴部外面附加条二種(附加1条)の縄文施文	S1-81 覆瓦土中	5%
184	弥生土器	甕	-	(3.0)	(11.20)	石英・長石	にぶい赤褐色	普通	胴部下端ヘラナデ、一部ハケ目調整 底面木葉痕	表採	5%
185	弥生土器	甕	[12.0]	(3.1)	-	石英・長石	にぶい黄褐色	焼成	口縁部、口縁部外面に準縄文乃至縄文 口縁部下端に準縄文工による窪み凹突、口縁部外面上端凹形の赤筋、下端及び内面赤筋	表採	5%
186	土師器	台付甕	[13.2]	(2.7)	-	石英・長石・スコリア	にぶい黄褐色	普通	体部外面附加条のハケ目調整、内面ナデ	表採	5%
187	土師器	小形甕	[13.4]	(6.0)	-	石英・長石・スコリア	黄褐色	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ	S1-6 覆瓦土中	5%
188	土師器	三連小形甕	-	(2.5)	-	石英・長石	にぶい黄褐色	普通	口縁部、体部内外面調整によるナデ	表採	5%
189	土師器	甕	3.8	(3.1)	-	石英・長石	にぶい黄褐色	普通	つまみ部回転ヘラ削り調整 天蓋部ヘラナデ	表採	5%
190	弥生土器	坪	[14.8]	4.9	(7.8)	石英・長石・針状鉱物	黄褐色	普通	口縁部、体部内外面調整ナデ 底面半縁ヘラ削り調整 底面へつ配り有り	表採	25%
191	弥生土器	高台付坪	-	(2.3)	(8.2)	石英・長石・針状鉱物	黄褐色	普通	体部内外面調整ナデ 底面回転ヘラ削り調整 高台部貼り付け調整ナデ	S1-32 覆瓦土中	10%
192	弥生土器	高台付坪	-	(1.7)	(9.6)	石英・長石	黄褐色	普通	底面回転ヘラ削り調整 高台部貼り付け調整ナデ	S1-38 覆瓦土中	10%
193	弥生土器	高台付坪	-	(1.7)	(7.6)	石英・長石・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	底面回転ヘラ削り調整 高台部貼り付け調整ナデ 底面へつ配り有り	S1-12 覆瓦土中	10%
194	弥生土器	甕	[18.0]	(4.2)	-	石英・長石	黄褐色	普通	口縁部内外面調整ナデ	S1-43 覆瓦土中	5%
195	弥生土器	甕	[15.4]	(1.5)	-	石英・長石	黄褐色	普通	口縁部内外面調整ナデ 削り直し口縁	S1-77 覆瓦土中	5%
199	弥生土器	甕	-	(5.2)	(14.0)	長石・スコリア	にぶい黄褐色	普通	胴部外面附加条施文施文 底面中央は焼成後に準縄文底面布目紋	表採	5%
180	弥生土器	円形甕	[2.6]	(2.0)	-	長石・針状鉱物	黄褐色	普通	胴部外面調整ナデ 底面中央へつ削り	表採	5%



番号	産 出 品 種	材質	形状	用途	出土	出所	状況	千 波 の 考 察 (文献の掲載)	出土位置	備考
Tb2	埴輪香 土		(7.7)	—	石室・葬石・文シリア	陶瓦	毀断中	外周にヘラ状上片による横溝状文縁文		
番号	産 出 品 種	長さ (cm)	幅 (丸径)	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考	
Q50	ポイント	8.4	2.5	0.9	20.0	安山岩	棒子の短長断面を有す。背面は方みを残せる状態有り	表層	PL30	
Q56	鏃	3.9	2.1	0.7	4.3	チャート	断面押し倒縁。尖凸の形状。裏面	表層	PL30	
Q57	磨製石斧	(5.0)	4.7	1.4	75.5	ホルンフェルス	裏面は自然産。刃部に使用痕有り	表層	1号33欠損 PL30	
Q60	鏃	(11.4)	(10.6)	1.4	326.3	燧石質	先端部に使用痕有り	表層	1号34欠損	
Q62	磨石	8.8	6.9	4.6	133.7	砂岩	両面形は長方形。3面に磨きの使用痕。1面に溝み有り	SI 50 遺跡上層		
Q65	磨石	5.0	2.5	1.2	10.3	チャート	厚手の薄片を素材とする。1面のみ押込痕	表層		
M14	釘	5.2	1.1	0.7	8.7	鉄	断面は長方形。先端部欠損	表層		
M15	釘	3.5	0.8	0.5	4.1	鉄	断面は方形。下半から大きく曲がる。先端部欠損	表層		
M17	釘	3.2	0.6	0.5	2.3	鉄	断面は方形。上下は欠損	表層		
M20	刀子	3.2	1.4	0.25	1.9	鉄	断面は鋭形。先端部のみで短は欠損	表層		



第178図 遺構全体図

## 第4節 ま と め

### (1) 縄文時代

確認された遺構は、堅穴住居跡1軒（第3号住居跡）のみである。耕作による擾乱がひどいため、遺構の規模や形状は柱穴の配置から推測することにした。確認した位置が、台地縁辺部で調査区域の境界付近であることから、さらに南東方向の調査区域外へ広がる可能性がある。南東側には二の沢B遺跡（古墳群）が位置しており、縄文時代の住居跡が、4軒確認されている。西田川付近では、炭化したトチの実が縄文土器片と伴って表面採集されている。以上のことから、縄文時代の遺構は谷津周辺から西田川付近にかけて分布していると推測される。

縄文土器は、擾乱のため遺構からは出土していないが、周辺の掘削土中や確認面から少量の破片が出土している。住居跡から出土している土器片は、表裏条痕文または0段多条の単節縄文が施されている。早期末葉の時期に住居が廃絶されたと考えられる。また、混入と考えられる土器片の中に、加賀利EⅡ・Ⅲに比定されるものがある。当遺跡では、縄文時代早期末葉、中期後半に生活の場として利用されていたと推測される。

### (2) 弥生時代

確認された遺構は、堅穴住居跡2軒、土坑1基である。住居跡が確認されたのは、調査区の南東端部である。台地縁辺部のため、緩やかに傾斜する場所で、すぐ附近は河岸段丘の急斜面部となっている。その斜面部をすぎると二の沢B遺跡（古墳群）となり、そこでは同時期の集落跡（住居跡14軒、墓塚1期）が確認されている。河岸段丘中位の西田川寄りが、集落の中心であったと考えられる。また、当遺跡の南側には谷津が大きく入り込み、台地を二分割している。その谷津を越えた南側には、ニガサワ古墳群が位置している。ニガサワ古墳群でも、やはり同様に台地縁辺部に、同時期の住居跡が8軒確認されている。

遺跡から出土した弥生土器片は、住居跡2軒という数と比較して考えると、遙かに上回る数量である。これは、表上、トレンチャー溝からの出土量が多いためである。耕作により、表土と地山が攪拌されたため、結果として確認面が、地表面から約1mほど下がった位置となっている。したがって、この約1mの深さまでに弥生時代の遺構が、遺存していた可能性が高いと推測される。他時期の住居跡の覆土中から、出土している弥生土器片は総数731点で、その8割弱が調査1区と2区の南側部分からである。そのことから推定すると、南側に位置する谷津頭に沿うように、住居跡が存在していた可能性が高い。

住居跡2軒からは遺構に伴う良好な資料が出土していない。当遺跡から出土している当該期の土器片は、附加条二種の縄文が施され、羽状構成をとるものがほとんどである。頸部片では、櫛歯状工具により縦区画され、区画内には横走波状文が施されているものが多い。櫛歯数は、3～5本である。これらの土器片は土上台式土器と考えられるため、後期後半の時期と判断される。底部片は、布目痕を有するものが多く、木炭痕や砂目痕を持つものはわずかである。他にわずかであるが、附加条一種（附加二条）の縄文が施されている土器片や、口縁部下端に縦長の筋が貼り付けられている土器片が出土している。それらの土器片の胎土は、明褐色で角のとがった石英粒子が多く含有されており、原田遺跡群出土の上稲吉式土器に類似している。

### (3) 古墳時代

今回の調査では、古墳時代の住居跡が最も多く確認され、集落としては最盛期であったと考えられる。住居跡の時期は、すべて古墳時代前期である。当該期の住居跡は72軒あるが、ある程度形となった土器の出土して

いる65軒について記載することにする。時期は、4世紀の前半と後半の2期に分けられる。住居跡の規模は、床面積49㎡以上を超大型、30～48㎡を大形、20～29㎡を中形、20㎡未満を小形とする。

#### 第1期（4世紀前半）

第5・10・19・20・31・44・49・50・57・58・64～68・70～73・75・76・79～82・85・89・90・92号住居跡の29軒が該当する。遺構は、調査区全体に散在しているが、特に中央部から北西方向に集中する傾向が見られる。北西方向には、台地を巻くように谷津が入り込んでいる。その谷津頭周辺に向かうに連れて、住居跡が増していく傾向がうかがえる。規模別では、超大型2軒、大形14軒、中形7軒、小形6軒で、平均床面積は32.4㎡である。主柱穴が、4カ所確認されている住居跡は24軒である。第19・65号住居跡は、炉跡、柱穴のない小形の住居跡である。第70・73号住居跡も小形である。第73号住居跡は、床面の中央部に不整長方形の落ち込みが見られ、その落ち込みに焼土が面的に確認される特異な住居跡である。壁柱穴の可能性が考えられる壁際のピット列は、第19・57・64・66・67・73号住居跡の6軒で確認されている。炉は23軒の住居跡から確認され、すべて地床炉である。そのうち7軒の住居跡で、炉石が確認されている。複数の炉跡が確認されているのは、第10・44号住居跡で2カ所、第31号住居跡で3カ所である。炉跡と主柱穴との位置関係では、主柱穴を結んだ線上に位置している住居跡が4軒、線のやや内寄りに位置している住居跡が13軒、線の内側に位置している住居跡が2軒である。貯蔵穴は、18軒の住居跡で確認されている。第57号住居跡では、2カ所確認されている。平面形は、円形・楕円形は17カ所、方形・長方形が2カ所である。位置は、出入り口施設と思われるピットから見て、手前右側コーナー部で確認された住居跡は13軒、手前左側コーナー部で確認された住居跡は4軒、左側で手前と奥のコーナー部の2カ所で確認された住居跡は1軒である。遺物は、土師器の高杯・器台・埴・壺・甕・台付甕・小形鉢・手捏土器である。特に台付甕では、S字状口縁を有するものが多数出土している。第31号住居跡から出土しているS字状口縁台付甕は、赤塚編年のB類と考えられる。本期は、この1点を除くとS字甕はC・D類が共存する段階と考えられる。第89号住居跡からは、全面にハケ目調整の見られる有段口縁甕や、口縁部に3本1単位の棒状浮文が貼付され、内面には疑似綾彩文が施されたものが出土している。さらに、頸部にキザミ目が施された粘土紐を貼り付けたパレス姿の様相を示す甕や、口縁部から脚部にかけて指頭による押圧が見られる台付輪が出土している。

#### 第2期（4世紀後半）

第12・14・17・21・22・26～28・32・33・36～40・43・45～47・51～54・56・59・61～63・74・77・78・84・86～88号住居跡の36軒が該当する。遺構は、調査区全体に散在しているが、特に中央部から南東方向に集中する傾向が見られる。その中心には、超大型の第28号住居跡が位置している。さらに南東方向には、深い谷津が入り込んでいる。当該期の住居跡は、この谷津周辺に集中する様相を呈している。規模別では、超大型2軒、大形21軒、中形11軒、小形2軒である。平均床面積は33.1㎡で、第1期と比べてほぼ同じであるが、第28号住居跡は214㎡もあり、際立って大形である。規模の傾向としては、第1期に比べると大形・中形の住居跡が増加し、超大型・小形の住居跡が減少している。主柱穴が4カ所の住居跡は、29軒である。しかし、トレンチャーによる擾乱が激しいため柱穴が不明な住居跡が多い。壁柱穴の可能性が考えられるピット列は、第52・54・63号住居跡の3軒で確認されている。第1期に比べて減少傾向がうかがえる。炉跡は29軒の住居跡から確認され、すべて地床炉である。その中で、炉石が確認された住居跡は7軒である。炉跡と主柱穴の位置関係では、主柱穴を結んだ線上に位置している住居跡が5軒、線のやや内寄りに位置している住居跡が16軒、線の内側に位置している住居跡が4軒である（29軒の中で主柱穴が確認されていない4軒を除く）。炉跡の位置は、第1期とほぼ同じで中央部に位置している。貯蔵穴は、26軒の住居跡で確認されている。2カ所確認されている住

居跡は5軒あり、第1期に比べて増えている。平面形は、円形・楕円形が29か所、方形・長方形が2か所である。位置は出入り口施設と思われるピットから見て、右側手前のコーナー部で確認された住居跡が17軒と主体的で、左側手前のコーナー部で確認された住居跡は4軒、左側で手前と奥のコーナー部の2か所で確認された住居跡は2軒のほか、右側で手前と奥のコーナー部の2か所、左側手前と右側奥のコーナー部を結ぶ対角線上の2か所、手前の左右コーナー部での2か所で確認された住居跡が各1軒みられる。その中で、コーナー部の壁に接するように付設されている住居跡が6軒あり、第1期に比べコーナーの壁に接するように移動する傾向がみられる。遺物は、土師器の高坏・器台・埴・壺・甕・土付甕・甗である。本期は、S字壺のD類のみが出土する段階と考えられる。本期でも新しい時期と考えられる第28号住居跡からは、口縁部が間延びしたようなS字壺や脚部が柱状の器台が出土している。また、第1期にはみられなかった単孔式の鉢形甗が出土している。

全体として、S字状口縁土付甕は27点出土している。これらは、赤塚堀年のB～D類に位置付けられると考える。周辺遺跡では、十方原遺跡やニガサワ遺跡、常北町上人野遺跡でもS字状口縁土付甕が出土している。その中で、十方原遺跡からB類に比定できるものも出土しているが、それ以外はD類に位置づけられると思われる。当遺跡での、古墳時代の集落は4世紀代で終わりとなり、5世紀には他へ移動したものと考えられる。隣接する十方原遺跡やニガサワ遺跡では、5世紀まで継続して集落が存続している。

#### (4) 平安時代

平安時代の住居跡は、7軒確認された。弥生時代の住居跡と同様に、谷津寄りに片寄って確認されている。住居跡は、出土遺物や遺構の形態から2期に分類できる。

##### 第1期（9世紀後半）

第6・13・48・69号住居跡の4軒が当該期の遺構である。第69号住居跡は大半が調査区外のため不明であるが、主軸方向は、N-13°-25°-Wの範囲となり、ほぼ北向きの住居跡群といえる。竈は壁中央部に付設され、4軒とも北向きである。規模は、第6号住居跡と第48号住居跡が長軸3.0～3.5m、短軸2.7～3.3mのほぼ方形で、床面積は8.1～11.6㎡である。第69号住居跡の規模も、これにほぼ近いと推測できる。中でも一番大形なのが第13号住居跡で、長軸が7m、短軸は推定で6.0～6.5mと思われ、推定床面積は42～45.5㎡である。当該期における他の住居跡のおおよそ4倍となり、突出して大規模である。これが、集落の中でどのような意味をもつ住居であったのか、確認された遺構数が4軒という中では判断しがたい。ただ、第13号住居跡は竈の構築材として凝灰岩の切石を用いていることや、掘り方から刀子が出土していることなど、他の3軒とは明らかに差異が認められる。やはり、何らかの中心的立場を担っていたと推測される。遺物は、土師器では坏・高台付坏・皿・甕が、須恵器では坏・高台付坏・甕・甗が出土している。須恵器は、土師器に比べ少量出土している。

##### 第2期（10世紀前半）

第23・41・55号住居跡の3軒が当該期の遺構である。第41号住居跡は、竈の残存部のみの確認のため遺構の形態は不明である。主軸方向は、N-55°-58°-Eである。ほぼ東向きの住居跡群といえる。規模は、長軸3.4～3.6m、短軸2.8～3.0mの長方形である。主軸方向から見て、横長の形状となる。床面積は、9.5～10.8㎡で、第13号住居跡を除く第1期の住居跡と同程度である。竈は3軒とも東向きで、位置は第23号住居跡が壁中央部、第55号住居跡が南東コーナー寄りである。土器片や石材等の構築材は、いずれからも検出されていない。柱穴は、第55号住居跡から出入り口施設と考えられるピットを検出したが、第23・41号住居跡では確認できなかった。出土遺物は少ないが、土師器では坏、甕が出土している。須恵器はほとんど出土していない。須恵器の坏

片が、第55号住居跡から出土しているが、耕作機械による攪乱土中からであるため、遺構に伴うとは断定できない。第41号住居跡からは、遺物が出していないが、主軸方向や道の向き等から第23・55号住居跡と同一時期と思われる。第1期と第2期とでは竈の位置が北から東に変わることから、居住空間の利用方法に大きな変化があったものと思われる。主軸方向から見れば、縦長から横長の空間利用となる。また、精査したが第2期では3軒とも主柱穴が検出できなかった。このことは、住居建築技術や居住空間の活用意識に何らかの変化があったものと推察される。県内では、10世紀になると竈の位置が北から東に変化する傾向があることについて、浅井哲也氏の指摘がある。当遺跡においても、浅井氏の指摘と同様の様相を呈している。

今回の調査で、二の沢A遺跡においては縄文時代早期末葉、弥生時代後期、古墳時代前期、平安時代中頃までの集落跡であることを確認した。縄文時代においては、生活の中心は当遺跡の南東側、西田川から谷津周辺にかけてであったと推測される。西田川周辺の表探遺物（縄文土器片、トナりの実の炭化物）からもそのことがうかがえる。弥生時代後期にも集落が構成されるが、やはりその中心は二の沢B遺跡（古墳群）で、谷津周辺であったと考えられる。古墳時代前期には集落として最盛期となる。出土土器の特異な点として、東海系土器の特徴である「S字状口縁」を有する台付甕が多く出土していることがあげられる。県内の遺跡と比較しても、その数はきわめて多いと言える。東海地方との交流が、積極的に行われていた可能性が高い。古墳時代の中期・後期になると生活の根拠が認められず、何らかの理由で他へ移動したと考えられる。しかし、9世紀後半から10世紀前半まで、また生活の場としてこの地が利用された。今後、那珂川流域と東海地方の係わりについて、さらに分析を深めていくことが重要と考える。

#### 註

- 1 浅井修一 「古墳時代型穴住居の構造的変遷と居住空間」『研究連絡誌』第11号 千葉県文化財センター 1985年2月
- 2 土生朗治 「貯蔵穴の移動について」『研究ノート』3号 茨城県教育財団 1994年6月
- 3 赤塚次郎 「『S字甕』覚書' 85」財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1986年3月
- 4 皆川 修 「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 十万原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集 茨城県教育財団 2001年3月
- 5 宮田和男 「都市計画道路藤井橋十万原線改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 十万原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第193集 茨城県教育財団 2002年3月
- 6 小林 孝 「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ ニガサワ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第169集 茨城県教育財団 2000年3月
- 7 古墳時代研究班 「茨城の『S字状口縁台付甕』について(3)」『研究ノート』7号 茨城県教育財団 1988年6月
- 8 齋藤秀樹 「八田村野牛島地区における奈良・平安時代の住居跡」『山梨縣考古学協会誌』第13号 山梨縣考古学協会 2002年5月
- 9 浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ・Ⅱ）」『研究ノート』創刊号・2号 茨城県教育財団 1992・1993年7月  
浅井哲也 「那珂台地及びその周辺における奈良・平安時代の土器について」『年報10』茨城県教育財団 1991年3月  
浅井哲也 「カマドが東へ移るとき」『茨城県考古学協会誌』第5号 茨城県考古学協会 1993年5月
- 10 古墳時代土器研究会 「土器が語る—関東古墳時代の黎明—」1997年5月
- 11 日本考古学協会新潟大会実行委員会 「シンポジウム2 東日本における古墳出現過程の再検討」1993年10月

## 第4章 二の沢B遺跡(古墳群)

### 第1節 遺跡の概要

二の沢B遺跡(古墳群)は、那珂川の支流の西田川右岸の標高30m前後の河岸段丘上の中位に立地する縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。調査前の現況は畑で、調査面積は15,550㎡である。

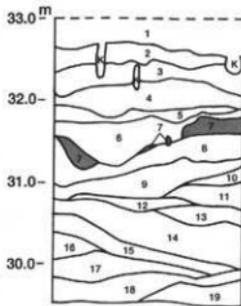
今回の調査によって、縄文時代の竪穴住居跡4軒(内2軒が早期末葉から前期初頭)、土坑(陥し穴)1基、弥生時代の竪穴住居跡13軒、土坑5基(内1基は土墳墓)、古墳時代の竪穴住居跡6軒、土坑2基、周溝墓5基(前方後方形3基、円形1基、方形1基)、平安時代の竪穴住居跡11軒、中世の地下式墳2基、時期不明の土坑132基、溝2条、井戸跡2基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)で45箱分が出土した。主な遺物は、縄文土器片、弥生土器(広口壺、高坏)、土師器(坏・高坏・高台付坏・器台・埴・甕・台付甕・壺・甌)、須恵器(坏・高台付坏・甕・短頸壺・長頸壺・円面碗・甌)、緑釉陶器(椀)、土製品(紡錘車・管状土錘・支脚)、石器・石製品(管玉・紡錘車・磨石・蔵石・鎌・凹石)、鉄製品(刀子・鎌・鋤先・鎌)である。

### 第2節 基本層序

調査区の南西部、D8h8区にテストピットを設定し、土層の堆積状況の観察を行った(第179図)。

- 1層は、層厚100cm以上ある、黒褐色の耕作土である。
- 2層は、層厚12~30cmで、褐色のローム層で、第1黒色帯を含む層と思われる。
- 3層は、層厚14~38cmで、にぶい褐色のローム層で、始良Tn火山灰(AT)を含む層と思われる。
- 4層は、層厚14~40cmで、褐色のローム層で、第2黒色帯を含む層と思われる。
- 5層は、層厚6~20cmで、にぶい褐色のローム層である。
- 6層は、層厚4~53cmで、ローム粒子を極めて多量、鹿沼軽石粒子を少量含む赤城・鹿沼軽石層の漸移層であり、極めて締りが強い。
- 7層は、層厚20cmで、鹿沼軽石粒子を多量含む赤城・鹿沼軽石層である。
- 8層は、層厚12~58cmで、砂・礫を少量、赤色火山灰ブロックを極微量含んだにぶい褐色のローム層であり、極めて締りが強い。
- 9層は、層厚8~40cmで、砂・礫を少量、白色火山灰ブロックを微量、赤色火山灰ブロック・トトロ石を極微量含んだにぶい褐色のローム層であり、極めて締りが強い。
- 10層は、層厚8~16cmで、ローム粒子を中量、赤色火山灰ブロック・トトロ石を極微量含んだにぶい褐色の砂層である。
- 11層は、層厚12~24cmで、ローム粒子を中量、赤色・白色火山灰ブロックを微量含んだにぶい褐色の小礫層である。
- 12層は、層厚6~18cmで、ローム粒子・砂を少量、赤色・白色火山灰ブロック・トトロ石を極微量含んだにぶい褐色の小礫層である。



第179図 基本土層図

13層は、層厚20～24cmで、ローム粒子を少量、トトロ石を微量、白色火山灰ブロックを極微量含んだにぶい褐色の中層層である。

14層は、層厚18～32cmで、砂を中量、ローム粒子を少量、白色火山灰ブロック微量、赤色火山灰ブロックを極微量含んだ褐色の小礫層である。

15層は、層厚14～23cmで、礫を中量、赤色・白色火山灰ブロックを極微量含んだ褐色の砂層である。

16層は、層厚10～34cmで、礫を少量、赤色・白色火山灰ブロックを極微量含んだ褐色の砂層である。

17層は、層厚9～40cmで、礫を中量、赤色火山灰ブロックを極微量含んだ褐色の砂層である。

18層は、砂を少量、粘土粒子を微量含んだ褐色の小礫層である。

19層は、礫を中量、粘土粒子を少量含んだ褐色の砂層である。

なお、遺構は5層上面で確認した。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された縄文時代の遺構は、竪穴住居跡4軒、土坑1（陥穴）基である。これらの遺構は調査区の南部に位置している。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について、記述していく。

##### (1) 竪穴住居跡

###### 第28号住居跡（第180回）

**位置** 調査区の南東部、D10f0区。標高29.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.06m、短軸3.81mの不整形である。壁は高さ20cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-11°-Wである。

**床** ほゞ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 中央部に設けられている。長径70cm、短径60cmの楕円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みはみられない。

**ピット** 9か所。P1～3は配置から主柱穴と考えられる。P4～9は配置から補助柱穴または壁柱穴と考えられる。深さはP1～3が14～23cm、P4～9は8～21cmである。

###### P1土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**覆土** 2層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる擾乱が多いため、堆積状況は不明である。

###### 土層解説

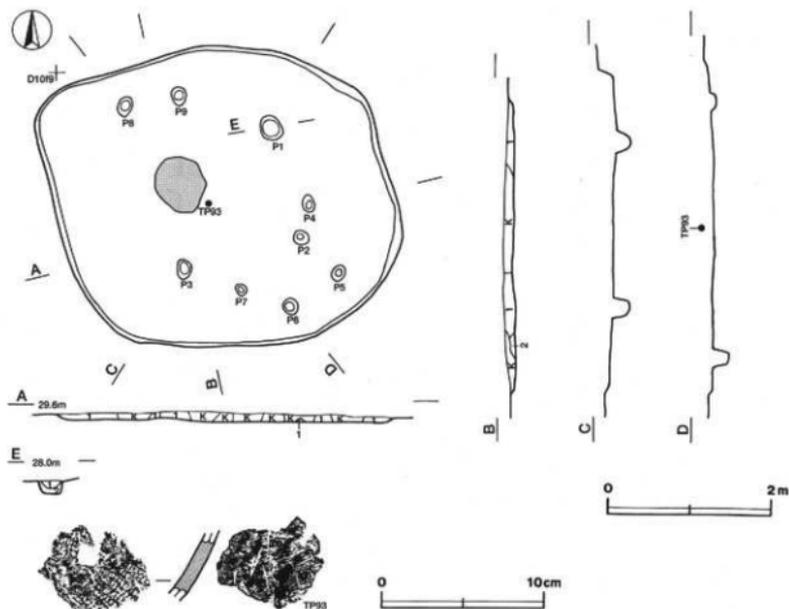
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・礫・炭化バミス微量 2 黒褐色 ロームブロック・礫・赤色粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片4点が住居跡の南東部から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から縄文時代早期末葉から前期初頭と考えられる。

##### 第28号住居跡出土遺物観察表（第180回）

番号	群	品名	形状	数量	位置	出土	材質	年代	出土の状況	出土位置	備考
7793	縄文前期	土器	-	(4)	-	竪穴・炉内・裏手・壁付	土	縄文	第28号住居跡出土の縄文土器	炉内土器	1号土器ヤマト



第180図 第28号住居跡・出土遺物実測図

## 第29号住居跡 (第181図)

**位置** 調査区の南西部, D9c2区。標高30.4mの平坦部に位置している。南側に第30号住居跡が隣接している。

**重複関係** 中央部を第57号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 壁は削平されているが、推定長径4.8m, 短径3.8mの楕円形と考えられる。主軸方向はN-48°-Eと推定される。

**床** は平坦である。硬化面は確認されなかった。

**炉** 確認されなかった。

**ピット** 15か所。P1~13は配置から主柱穴と考えられる。P14は中央部に位置しているが性格は不明である。P15は壁外に位置しているが、壁からの距離と規模や内傾している形状から本跡に伴うものと考えられる。深さはP1・2・5・6・9・13が22~30cm, P3・4・7・8・10~12・14・15が14~20cmである。

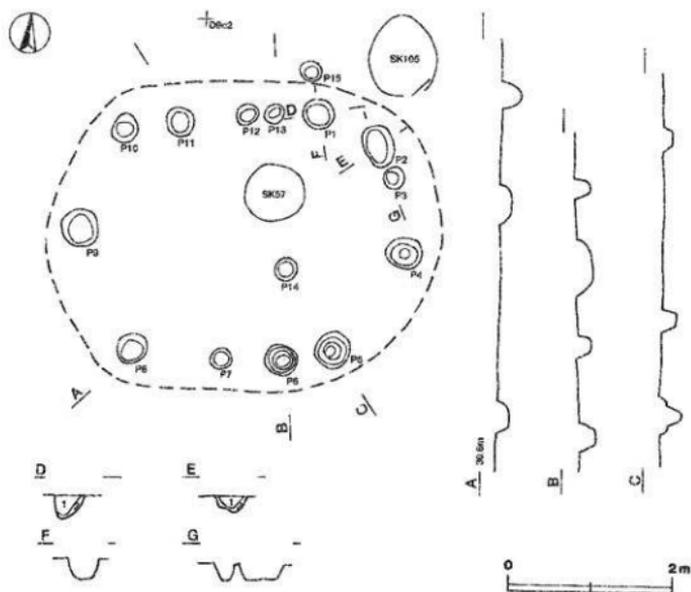
## P1・2土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・麻屑・バミス微量

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**所見** 出土遺物がいないため、時期を決定することは難しいが、柱穴の配列から縄文時代と判断した。



第181図 第29号住居跡実測図

### 第30号住居跡 (第182図)

位置 調査区の南西部、D9d2区。標高30.4mの平州部に位置している。北側に第29号住居跡が隣接している。

規模と形状 壁は削平されているが、推定長径4.37m、短径4.16mのはほぼ円形と考えられる。主軸方向はN-43°-Wと推定される。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉 確認されなかった。

ピット 24か所。P1～11は規模と配列から壁際を巡る主柱穴と考えられる。P12～15は主柱穴の周囲の小ピットであり、補助柱穴と考えられる。P16～18の性格は不明である。P19～24は壁外に位置しているが、壁からの距離と規模から本跡に伴うものと考えられる。P1～4・6・7・11・12・15・16・19・20・22・24が10～18cm、P5・8～10・13・14・17・18・21・23が21～28cmである。

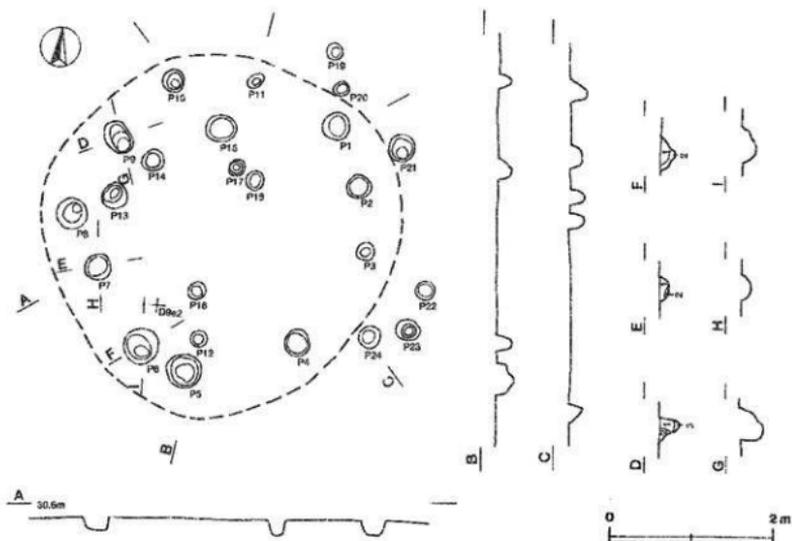
#### P6・7・9土層解説

- 1 黒褐色 赤色粒了少砂、ロームブロック散在  
2 暗褐色 ロームブロック・赤色粒了微量

- 3 暗褐色 ロームブロック・赤色粒了・赤土ブロック散在

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がないため、時期を決定することは難しいが、柱穴の配列から縄文時代と判断した。



第182図 第30号住居跡実測図

## 第35号住居跡 (第183図)

位置 調査区の南部, E10d6区。標高31.0mの平坦部に位置している。

重複関係 第6号周溝墓の後方部墳丘下で確認し, 第33号住居跡に覆上の中層以上を掘り込まれている。

規模と形状 壁は削平されているが, 推定長軸5.4m, 短軸3.28mの楕円形に近い隅丸長方形と考えられる。主軸方向は $N-49^{\circ}-E$ と推定される。

床 平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉 確認されなかった。

ピット 13か所。P1~11は配列から主柱穴の可能性が考えられる。P12・13の性格は不明である。深さはP1~5・8・11・12が11~16cm, P6・9が8・9cm, P7・10が22・23cm, P13が38cmである。

## P8・12土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・砂粒微量

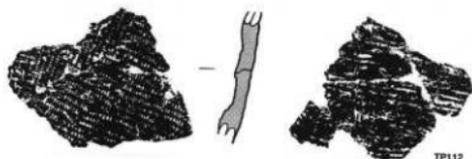
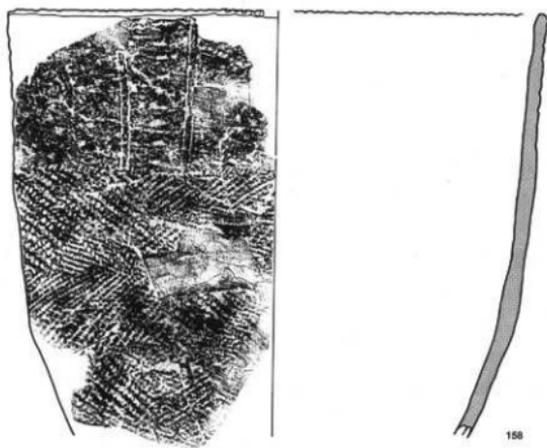
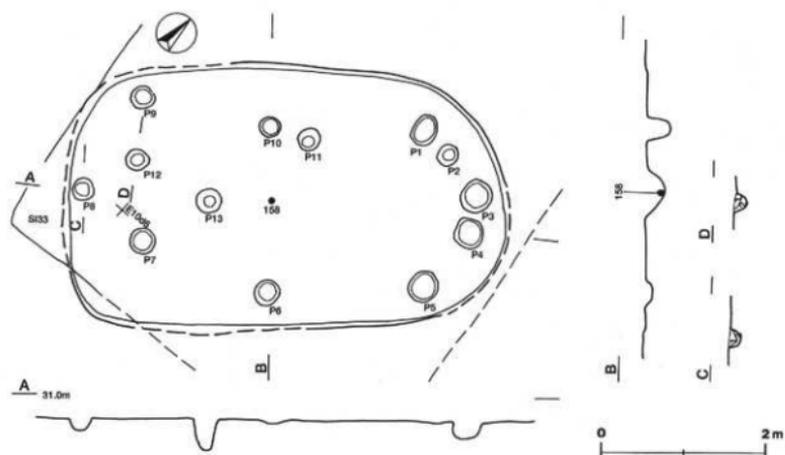
2 暗褐色 ローム粒子・赤色粒少量

遺物出土状況 縄文土器片110点, 礎2点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片5点が出土している。遺物は中央部から北東部にかけてから出土している。158の縄文土器深鉢は中央部でつぶれた状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器等から縄文時代早期末葉から前期初頭と考えられる。

## 第35号住居跡出土遺物観察表 (第183図)

番号	種別	図様	口徑	器高	底径	出土	色澤	状態	手法の形態	出土位置	備考
158	縄文土器	深鉢	21.5	26.7	—	石室・墓石・墓埴・扉柱	暗赤褐色	割断	1) 野鳥や虫による凹部(基部)の欠損 2) 手掘り等による平打 3) 母文が消失 4) 断面が凹部の縁を呈出している	中央部北東部 58cm	25%
159	縄文土器	深鉢	—	38.0	—	遺構・石室・墓石・墓埴	5.0~6.0% 暗赤褐色	割断	1) 野鳥や虫による凹部(基部)の欠損 2) 手掘り等による平打 3) 断面が凹部の縁を呈出している	中央部北東部 58cm	—



第183图 第35号住居跡・出土遺物実測図

## (2) 土坑

## 第18号土坑 (第184図)

**位置** 調査区の南部, d9e2区。標高30.4mの平坦部に位置している。本跡の北側に縄文時代の第29・30号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長径2.58m, 短径1.4mの不整形円形で、確認面からの深さは78cmで、壁は急激に外傾して立ち上がっている。長径方向はN-34°-Wである。底面は皿状である。底面に小ピットが4か所 (P1~4), 並ぶように確認されている。深さはP1・4が40cm前後, P2・3が10cm前後である。

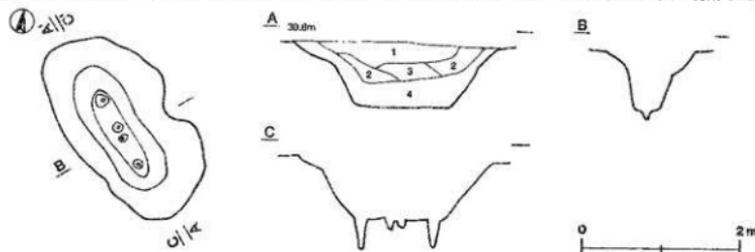
**覆土** 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭屑パミス・赤色粒少量 3 黒褐色 ロームブロック・炭屑パミス少量, 焼土粒子・赤色粒少量  
2 黒褐色 炭屑パミス少量, ローム粒子・焼土粒子・赤色粒少量 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・赤色粒少量

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**所見** 出土遺物がないため、時期を決定することは難しいが、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と判断した。



第184図 第18号土坑実測図

## 2 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された弥生時代の遺構は、堅穴住居跡13軒, 土坑5基(内1基は土壇墓)である。これらの遺構は調査区北部・中央部・南部に位置している。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について、記述していく。

## (1) 堅穴住居跡

## 第7号住居跡 (第185図)

**位置** 調査区の中央部, B9g3区。標高30.7mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 推定長軸4.42m, 短軸4.0mの不整形長方形と考えられる。壁は高さ6cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-24°-Wである。

**床** ほほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部に設けられている。長径100cm, 短径64cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉床の中央部に長さ26cmほどの炉石を持っている。

## 炉土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量  
2 黒い褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量  
3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量  
4 黒い赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 8 灰色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 灰微量

- |    |        |                             |    |        |                             |
|----|--------|-----------------------------|----|--------|-----------------------------|
| 9  | にぶい赤褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 12 | 赤褐色    | ローム粒子・焼土粒子多量, 炭化粒子中量        |
| 10 | 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量           | 13 | にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量   |
| 11 | 明赤褐色   | ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子微量     | 14 | 灰褐色    | ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック・灰微量 |

ピット 6か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置し、壁側に傾くような形状から、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。深さはP1～4が66～78cm, P5が45cm, P6が12cmである。

**P1土層解説**

- |   |   |    |            |
|---|---|----|------------|
| 1 | 橙 | 色  | ローム粒子多量    |
| 2 | 橙 | 色  | ローム粒子多量    |
| 3 | 明 | 褐色 | ローム粒子極めて多量 |
| 4 | 褐 | 色  | ローム粒子多量    |
| 5 | 橙 | 色  | ローム粒子多量    |

**P2土層解説**

- |   |   |   |         |
|---|---|---|---------|
| 1 | 橙 | 色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 橙 | 色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 褐 | 色 | ローム粒子多量 |

**P3土層解説**

- |   |   |   |         |
|---|---|---|---------|
| 1 | 橙 | 色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 褐 | 色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 褐 | 色 | ローム粒子多量 |

**P4土層解説**

- |   |   |   |         |
|---|---|---|---------|
| 1 | 橙 | 色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 橙 | 色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 褐 | 色 | ローム粒子中量 |

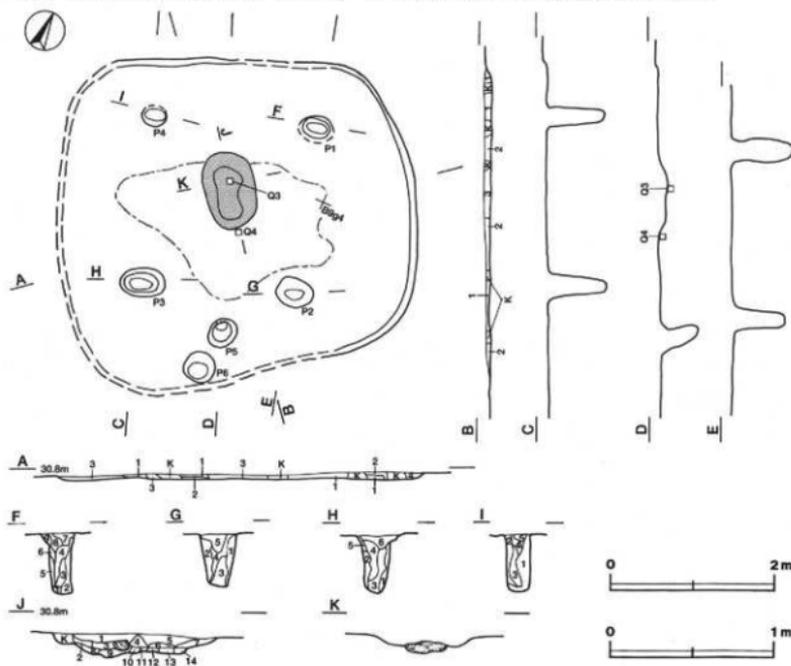
- |   |       |         |
|---|-------|---------|
| 6 | にぶい褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 | 黒褐色   | ローム粒子中量 |
| 8 | 暗褐色   | ローム粒子中量 |
| 9 | 褐色    | ローム粒子中量 |

- |   |     |                 |
|---|-----|-----------------|
| 4 | 褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量  |

- |   |     |         |
|---|-----|---------|
| 4 | 褐色  | ローム粒子中量 |
| 5 | 褐色  | ローム粒子中量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |

- |   |     |         |
|---|-----|---------|
| 4 | 褐色  | ローム粒子中量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |

覆土 4層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる擾乱が多いため、堆積状況は不明である。



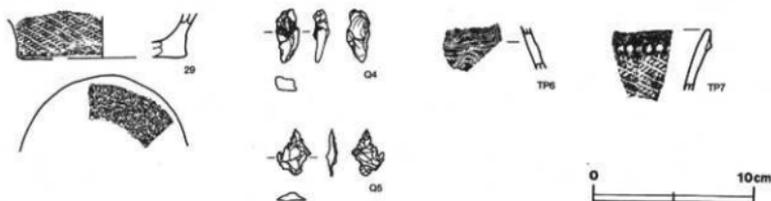
第185図 第7号住居跡実測図

## 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 3 黒色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量  
 2 灰褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片34点、鏝10点のほか、攪乱等により混入したとみられる土師器片16点、須恵器片1点が出土している。これらの遺物は炉跡の南西部から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第186図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
29	弥生土器	甕	-	(2.6)	(10.4)	長石・雲母	褐色	普通	調査附加条二種附加1条の縄文施文 底面砂目肌	南東部壁土中	5%
TP6	弥生土器	甕	-	(2.5)	-	石英・長石・雲母	黒褐色	普通	外面4半輪面による波状文・縄文施文	南東部壁土中	
TP7	弥生土器	甕	-	(3.7)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	粘土紐取り付け部修理工具による押圧 調査附加条二種 附加1条の縄文施文	南東部壁土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砂石	25.0	7.5	7.1	1645.4	雲母片岩	脱熱痕あり	南東部壁土中	未掲載
Q4	網片	3.3	1.4	0.9	3.3	黒曜石	上方から打撃を加えられた割片	北西部床面	調査系系 14.51
Q5	網片	2.9	2.0	0.6	1.8	瑪瑙	厚手の割	南東部壁土中	久野川産 14.51

## 第11号住居跡 (第187図)

**位置** 調査区の中央部、B8i0区。標高30.7mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.91m、短軸4.6mの方形である。壁は高さ21cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-40°-Wである。

**床** はほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。壁際に径が10~20cmの円形をし、深さ12~49cm程度の小ビット群が25か所見られ、壁柱穴の可能性が考えられる。

**炉** 中央部に設けられている。長径106cm、短径71cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが強いので、長期間の使用と考えられる。

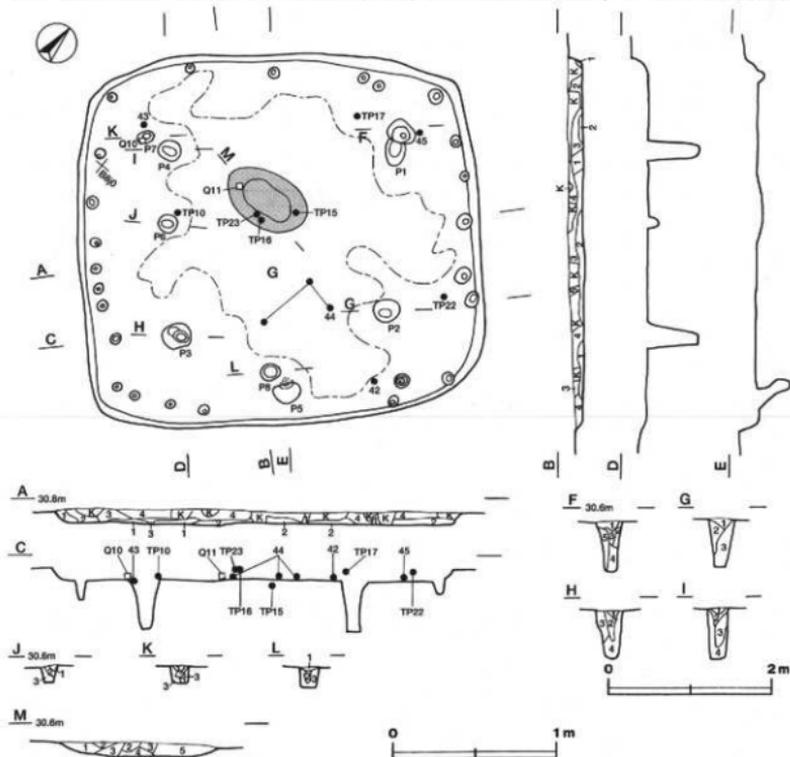
## 炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 4 にぶい赤褐色 焼土粒子・灰中量、ローム粒子・炭化粒子少量  
 2 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量 5 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック微量  
 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ロームブロック少量

**ビット** 33か所 (その中の25か所は床面の項で述べた壁際のビット群)。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うビットと考えられる。P6・7は補助柱穴と考えられる。P8はP5に隣接する位置で確認されていることから、何らかの出入口施設に関わるビットと考えられる。深さはP1~4が62~67cm, P5が41cm, P6・7が21~57cm, P8が27cmである。

<b>P 1 土層解説</b>					
1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	にぶい褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
2	明褐色	ローム粒子極めて多量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	明褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	灰褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量			
<b>P 2 土層解説</b>					
1	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	3	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量			
<b>P 3 土層解説</b>					
1	黒褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	4	にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
<b>P 4 土層解説</b>					
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	灰褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	にぶい褐色	ローム粒子極めて多量、焼土粒子・炭化粒子微量
<b>P 6 土層解説</b>					
1	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	3	にぶい褐色	ローム粒子極めて多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量			
<b>P 7 土層解説</b>					
1	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	にぶい褐色	ローム粒子極めて多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量			
<b>P 8 土層解説</b>					
1	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量			

覆土 5層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いが、ブロック状の堆積を示し、ロームブロックや焼土粒



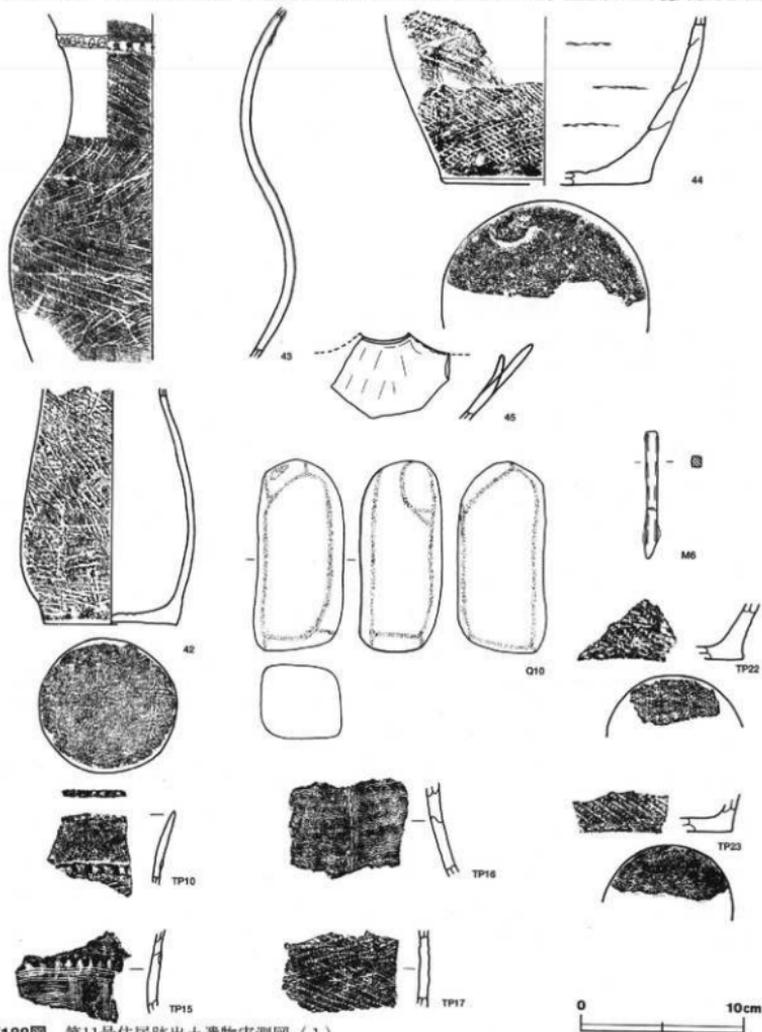
第187図 第11号住居跡実測図

子、炭化粒子を含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                          |      |                           |
|-------|--------------------------|------|---------------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量    | 4 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・燻灰パミス微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量    | 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量     |
| 3 黒色  | 炭化粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |      |                           |

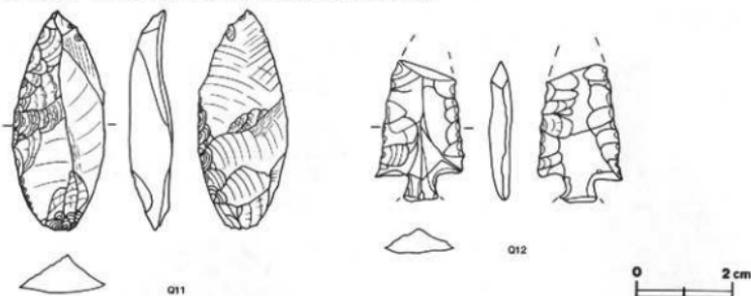
遺物出土状況 弥生土器片153点、不明鉄製品1点、磨石1点、礫56点のほか、攪乱等により混入したとみら



第188図 第11号住居跡出土遺物実測図(1)

れる土師器片3点、剥片1点、石鏃1点が出土している。遺物は炉跡を中心にその周辺の広い範囲から出土している。42の弥生土器広口壺は東コーナー部の床面から横位の状態で、43の弥生土器広口壺は西コーナー部から正位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第189図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)

第11号住居跡出土遺物観察表(第188・189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
42	弥生土器	壺	-	(14.7)	8.2	石英・長石・燐	灰褐色	普通	胴部附加二條附加1条の縄文を多方向に施文 底面斜目面	東コーナー部 床面	80% PL47
43	弥生土器	広口壺	-	(21.4)	-	石英・長石・燐	にぶい黄褐色	普通	胴部附加二條附加1条の縄文施文 羽状構成	西コーナー部 床面	50% PL47
44	弥生土器	壺	-	(10.5)	(12.8)	石英・長石・燐・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	胴部附加二條附加1条の縄文施文 流跡砂目面	中央部床面	10%
45	弥生土器	片口鉢	-	(4.7)	-	石英・長石・燐・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口唇部縄文の押圧 外面ヘラナデ	北部覆土下層	5%
TP10	弥生土器	壺	-	(4.4)	-	石英・長石・燐・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口唇部縄文の押圧 底面部標状工具による押圧 胴部附加条の縄文施文	中央部覆土中層	
TP15	弥生土器	壺	-	(4.7)	-	石英・長石・燐	にぶい黄褐色	普通	底面部標状工具による押圧 胴部外面4本條による 壓区範囲に4本條による標状施文	伊奈面	
TP16	弥生土器	壺	-	(5.5)	-	石英・長石・燐・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	胴部4本條による壓区範囲に4本條による標状施文	中央部覆土中層	
TP17	弥生土器	壺	-	(4.8)	-	石英・長石・燐・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	胴部附加二條附加1条の縄文施文 底面斜目面	北部覆土中層	
TP22	弥生土器	壺	-	(4.3)	-	石英・長石・燐	にぶい黄褐色	普通	胴部附加二條附加1条の縄文施文 底面斜目面	東部覆土中層	
TP23	弥生土器	壺	-	()	-	石英・長石・燐	にぶい黄褐色	普通	胴部附加二條附加1条の縄文施文 底面斜目面	中央部覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	磨石	12.8	5.4	5.0	567.1	安山岩	4面磨りの痕跡有り	西部床面	
Q11	ナイフ形石部	4.6	1.9	0.8	(6.2)	黒輝石	縦長剥片を両面から両磨	伊奈面下	復元番号 PL51
Q12	石鏃	(2.9)	1.8	0.4	(2.2)	チャート	有茎 両面潤縁・アメリカ式石鏃	北西部覆土中	PL51
M4	鉄鏃	(7.9)	0.6	0.6	(8.8)	鉄	鏃身部・茎尻部欠損 茎部断面方形	南西部覆土中	PL51

### 第13号住居跡(第190図)

位置 調査区の中央部, B10h2区。標高30.3mの平坦部に位置している。

重複関係 西南部を第117号土坑に掘り込まれている。

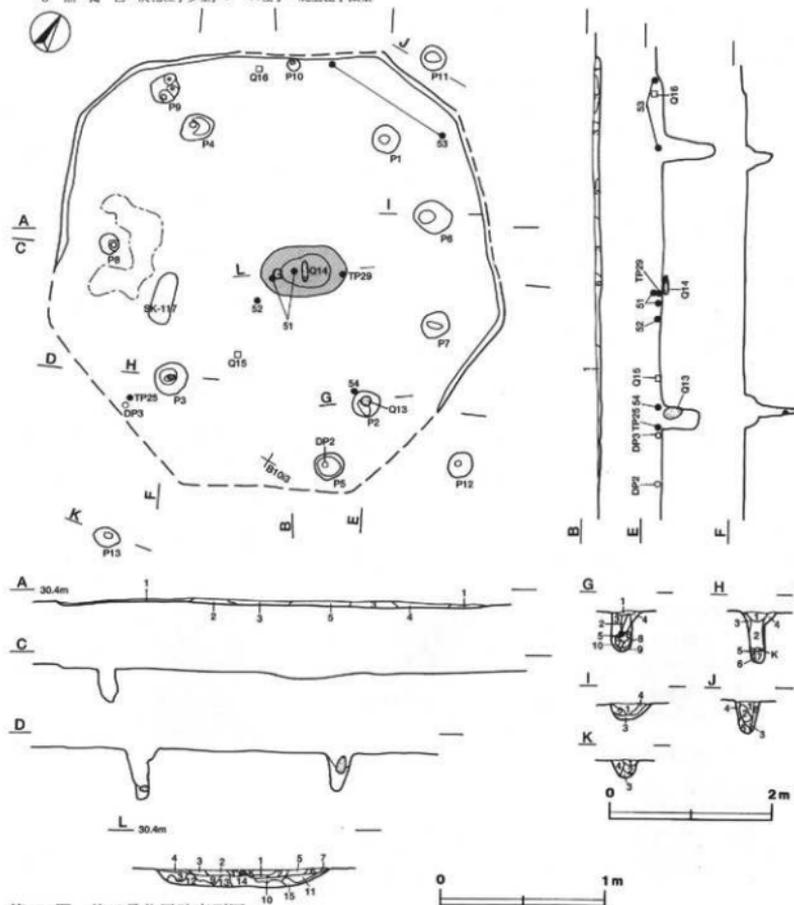
規模と形状 長軸・短軸5.28mの不整八角形と推定される。壁は高さ6cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-44°-Wである。

床 はほぼ平坦である。西部にわずかに硬化面が見られる。

炉 中央部に設けられている。長径106cm、短径62cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが強いため、長期間の使用と考えられる。炉床の中央部に長さ26cmほどの炉石を持っている。

伊土層解説

- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量      | 9 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量  |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子少量、焼土粒子微量    | 10 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック微量    |
| 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量  | 11 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量  |
| 4 にぶい赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量    | 13 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 6 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量      | 14 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量  |
| 7 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量      | 15 にぶい赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量      |                                 |



第190図 第13号住居跡実測図

ピット 13か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東コーナー壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～9は補助柱穴と考えられる。P10は北西壁際に位置しているが、性格は不明である。P11～13は壁外に位置しているが、壁からの距離と規模から本跡に伴うものと考えられる。主柱穴のP2・3からは掘った穴を少し埋め戻して、そこに礎石的あるいは柱押さ的に使用されたと思われる石が確認されている。深さはP1～4が33～64cm, P5・7・12が11～17cm, P6・9・10・13が21～24cm, P8が45cm, P11が40cmである。

**P2土層解説**

- |       |              |       |           |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・砂粒少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量      | 7 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 褐色  | ロームブロック少量    | 8 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 4 褐色  | ローム粒子中量      | 9 褐色  | ロームブロック少量 |
| 5 褐色  | ロームブロック中量    | 10 褐色 | ローム粒子中量   |

**P3土層解説**

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・赤色粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色  | ロームブロック・赤色粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子少量   |       |         |

**P6土層解説**

- |       |                         |       |                   |
|-------|-------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 炭屑バミス・赤色粒子少量, ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 赤色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 赤色粒子少量, ロームブロック微量       | 4 褐色  | ロームブロック少量         |

**P11土層解説**

- |       |            |       |                    |
|-------|------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量 | 4 褐色  | ローム粒子・赤色粒子中量, 砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・赤色粒子少量     |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量  | 6 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子・砂粒少量    |

**P13土層解説**

- |       |                |       |                    |
|-------|----------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量        | 3 褐色  | ローム粒子中量, 赤色粒子少量    |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・赤色粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 赤色粒子微量 |

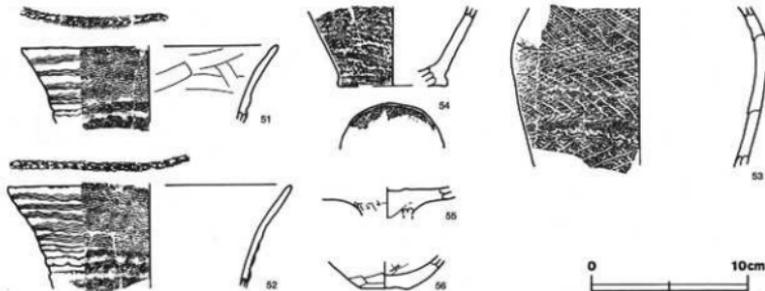
**覆土** 6層からなる。層厚が薄い、ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

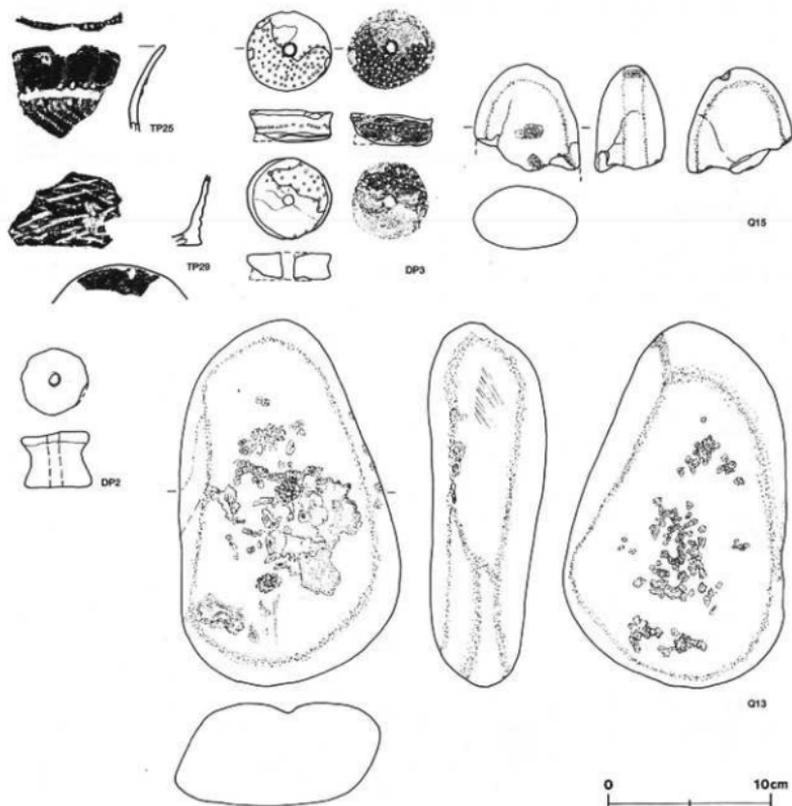
- |       |                        |       |                         |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量   | 4 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

**遺物出土状況** 弥生土器片29点, 炉石1点, 磨石1点, 凹石1点, 瑪瑙の原石2点, 土製紡錘車2点が出土している。土師器片が38点も出土しているが、すべて覆土中の出土なので、共存しているとは考えられない。遺物は炉跡の周辺から散在した状況で出土している。51の弥生土器壺は炉跡から、DP2の土製紡錘車は南東部の床面から、DP3の土製紡錘車は南西部の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉である。



第191図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第192図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表(第191-192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
31	弥生土器	底口壺	[16.0]	(4.8)	—	石英・長石・雲母	にぶい砂	普通	口唇部縄文の押圧 □縁部3・4本輪歯による波状文施文	伊実面	10%
32	弥生土器	広口壺	[18.0]	(6.6)	—	石英・長石	灰褐色	普通	口唇部縄文の押圧 □縁部3本輪歯による波状文施文	中央部北面	5%
53	弥生土器	壺	—	(10.2)	—	石英・長石・雲母	にぶい砂	普通	胴部附加糸二重附加1糸の縄文施文 羽状溝成	北部覆土下層	10%
54	弥生土器	壺	—	(5.1)	[6.6]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄砂	普通	胴部附加糸二重附加1糸の縄文施文 底部を日置	東部覆土下層	5%
55	土師器	高坏	—	(1.8)	—	赤色粒子	にぶい赤砂	普通	係部外面へうねり	南西部覆土中	5%
56	土師器	小形壺	—	(2.0)	3.0	長石・雲母	明赤色	普通	係部外面下部へうねり	覆土中	5%
TP25	弥生土器	広口壺	—	(5.3)	—	石英・長石・雲母	にぶい砂	普通	口唇部縄文の押圧 □縁部6本輪歯による波状文施文 胴部附加糸二重附加1糸の縄文施文	南部覆土下層	
TP20	弥生土器	壺	—	(5.3)	—	石英・長石・雲母	にぶい砂	普通	胴部附加糸二重附加1糸の縄文施文 羽状溝成 底部を日置	中央部覆土下層	

番号	器種	長さ(径)	幅(口径)	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	特殊車	4.0	0.8	3.0	(57.8)	土	外面がテ前面が巻き形	南東部北面	95% PL50
DP3	特殊車	5.1	0.8	1.9	(40.6)	土	上下面・後面斜交文 前面長方形 下面から側面傾熱	南西部北面	80% PL50

番号	器種	長さ(径)	幅(口径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	四石	22.7	13.7	7.4	3004.2	砂岩	四部の側面に敲打痕あり	F 2内	
Q14	炉石	26.5	5.5	3.5	649.1	粘板岩	焼熱痕あり	炉跡面	本調査
Q15	磨石	(6.6)	6.4	4.3	(210.0)	安山岩	3周に磨りの痕跡あり	中央部床面	
Q16	磨石	4.6	4.9	2.8	76.9	燧石		北西部床面	久慈川産 本調査
Q17	磨石	6.1	4.7	3.5	98.2	燧石		F 4内	久慈川産 本調査

### 第15号住居跡 (第193図)

**位置** 調査区の部, B9j7区。標高30.5mの平坦部に位置している。

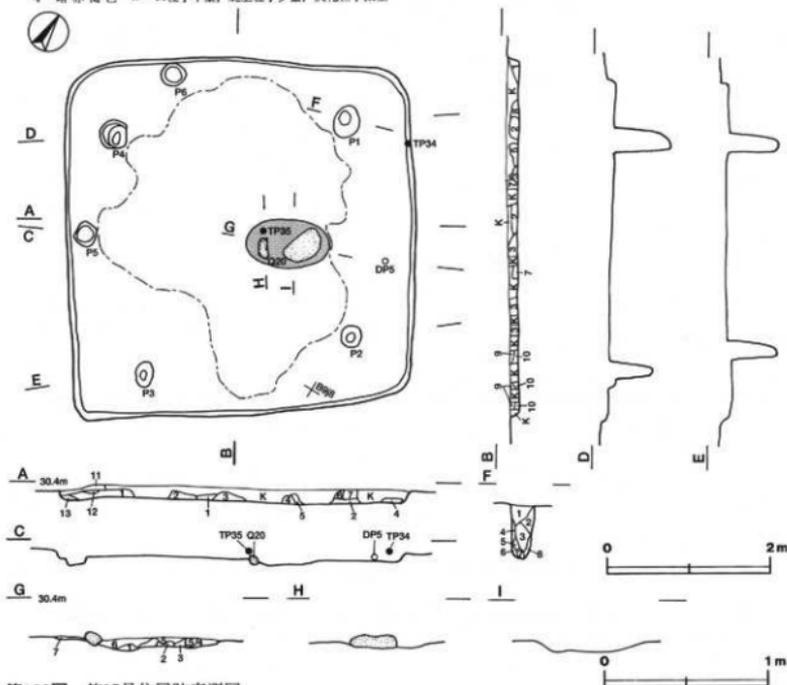
**規模と形状** 長軸4.45m, 短軸4.30mの方形である。壁は高さ15cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-33°-Wである。

**床** ほほ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや東寄りに設けられている。長径103cm, 短径60cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくはめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉床の西部に長さ26cmほどの炉石を持っている。

#### 炉土層解説

- |        |                         |         |                      |
|--------|-------------------------|---------|----------------------|
| 1 橙 色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       | 5 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量          | 6 赤 黒 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 3 明赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |         |                      |



第193図 第15号住居跡実測図

ピット 6か所。P 1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P 5は南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6は北西壁際に位置しているが、性格は不明である。深さはP 1～4が56～71cm, P 5が9cm, P 6が8cmである。

## P 1土層解説

- |       |                              |          |                         |
|-------|------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量       | 5 明黄褐色   | ローム粒子多量, 炭化粒子微量         |
| 2 褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 黄褐色    | ローム粒子多量                 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量       | 7 褐色     | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黄褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量              | 8 におい黄褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量         |

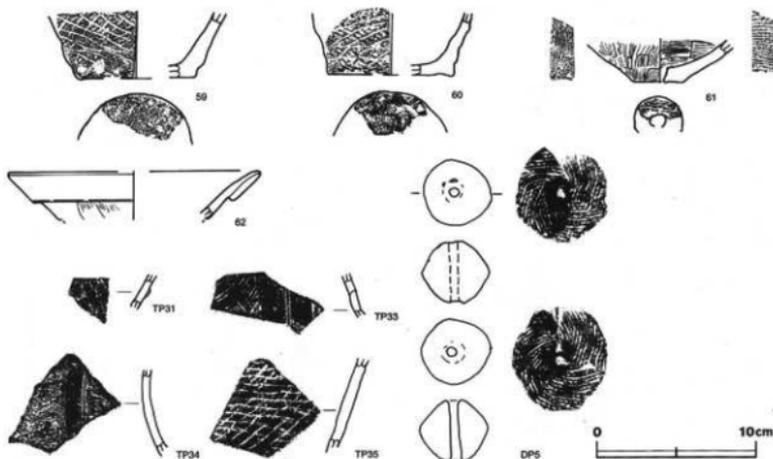
覆土 13層からなる。トレンチャーによる擾乱が多いが、各層にロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が見られることから人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- |       |                             |        |                        |
|-------|-----------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 8 黒色   | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量         | 9 黒褐色  | ロームブロック・砂粒少量           |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量      | 10 黒褐色 | ロームブロック少量              |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量        | 11 黒褐色 | ロームブロック少量              |
| 5 褐色  | ローム粒子多量, 鹿角バミス少量, 炭化粒子微量    | 12 暗褐色 | ロームブロック中量              |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量        | 13 黒褐色 | ロームブロック少量              |
| 7 黒色  | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量        |        |                        |

遺物出土状況 弥生土器片38点, 埴石1点, 礎24点, 土製紡錘車1点のほか, 擾乱等により混入したとみられる土師器片3点が出土している。遺物は炉跡の周辺から出土している。DP5の土製紡錘車は東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第194図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表(第194図)

番号	種別	砂粒	口徑	器高	底径	胎土	色類	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	弥生土器	並	—	(42)	[72]	石灰・雲母	におい橙	普通	隅部附加条二條附加1条の縄文施文	北東階層土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地式	手法の特徴	出土位置	備考
60	弥生土器	甕	-	(3.9)	(7.8)	石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加1条)の縄文施文	南西部覆土中	5%
61	土師器	甕	-	(2.7)	(3.3)	石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部内・外両ハケ目調整 孔は内から外	南東部覆土中	5%
62	土師器	甕	(15.6)	(3.0)	-	灰石・雲母	にぶい橙	普通	胴部外面ハケ目調整	北西部覆土中	5%
TP31	弥生土器	甕	-	(2.0)	-	石英・長石・雲母	黒	普通	胴部附加条の縄文の地文上に結核	北西部覆土中	5%
TP33	弥生土器	壺	-	(2.7)	-	灰石・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	胴部2本筋線による縦区画内に山形文施文	北西部覆土中	
TP34	弥生土器	甕	-	(4.9)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部5本筋線による縦区画内に波状文施文	北部覆土中層	
TP35	弥生土器	甕	-	(5.6)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条一種附加1条の縄文施文 羽状硬皮	中央部覆土の層	

番号	器種	長さ(横)	幅(口径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	陶師土	4.4	0.6	3.8	54.3	土	胴部附加条の縄文 縦面線盤玉状	東部覆土中層	100% PL10
Q20	砂石	28.1	11.1	6.7	370.0	重母片岩	板状硬皮あり	炉跡面	未確認

### 第16号住居跡 (第195図)

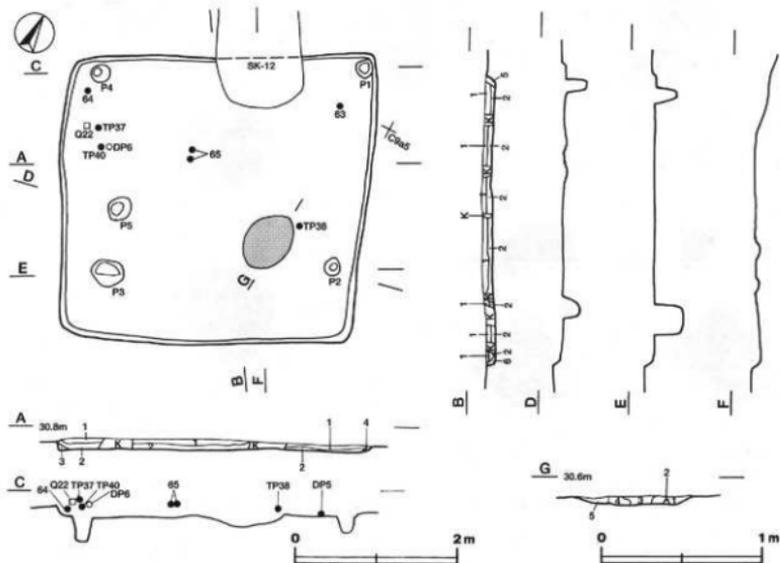
位置 調査区の中央部、C9a4区。標高30.6mの平坦部に位置している。

重複関係 北西壁中央部を第12号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m、短軸3.48mの方形である。壁は高さ12cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-24°-Wである。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉 中央部やや東寄りには設けられている。長径78cm、短径54cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。



第195図 第16号住居跡実測図

炉土層解説

- |        |                         |       |                      |
|--------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 4 灰褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子微量       | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子微量    |       |                      |

ピット 5か所。P 2・3は配置と規模から主柱穴と考えられる。P 1・4は壁際に寄っているが、P 2・3と同じように配置と規模から主柱穴と考えられる。P 5は南西壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1~4が20~36cm, P 5が22cmである。

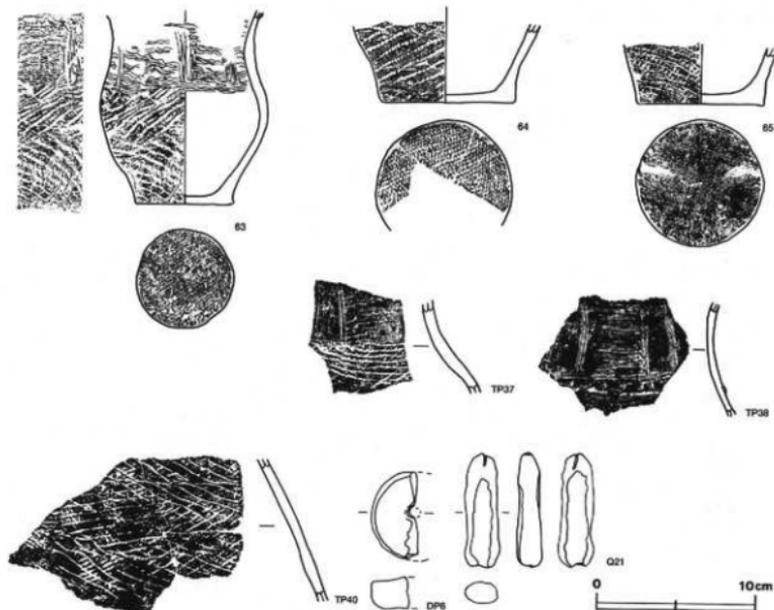
覆土 6層からなる。ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                          |       |                          |
|-------|--------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒・赤色粒子少量          | 4 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子少量             |
| 2 暗褐色 | 赤色粒子中量, ローム粒子・砂粒・鹿沼パミス少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子少量             |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・赤色粒子少量             | 6 褐色  | 赤色粒子中量, ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量 |

遺物出土状況 弥生土器片68点, 不明石製品1点, 瑪瑙の原石1点, 鏝5点, 土製紡錘車1点のほか, 攪乱等により混入したとみられる土師器片20点が出土している。これらの遺物は散在した状況で出土している。63の弥生土器広口壺は北コーナー部の床面から横位の状態で, DP6の土製紡錘車は西コーナー部の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第196図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表 (第196図)

番号	種別	図録	材料	数量	成産	出土	出處	焼成	子口の特徴	出土位置	備考
63	赤土片	巻	—	(12.5)	6.0	石炭・長石・ 磁石・赤化粒子	高麗	青焼	新羅宮南側による紀伊国、巨港内にも本層位による武蔵 支文 新羅宮加毛二層附加上土の焼成支文 3枚検出	北部埋蔵	50%に1.47
64	赤土片	巻	—	14.0	8.4	石炭・長石・ 磁石	にふい	青焼	新羅宮加毛二層附加上土の焼成支文 成産未詳	南部埋蔵	10%
65	赤土片	巻	—	13.0	7.8	石炭・長石・ 磁石	にふい	青焼	新羅宮加毛二層附加上土の焼成支文 成産未詳	中央埋蔵	10%
Y97	赤土片	巻	—	15.0	—	石炭・長石・ 磁石	明和	青焼	新羅宮南側による紀伊国内にも本層位による後伏支文 新羅宮加毛二層附加上土の焼成支文 3枚検出	川原土上	—
Y98	赤土片	巻	—	16.0	—	石炭・長石・ 磁石	明和	青焼	新羅宮南側による紀伊国内にも本層位による後伏支文 新羅宮加毛二層附加上土の焼成支文 3枚検出	川原土上	—
Y99	赤土片	巻	—	18.0	—	石炭・長石・ 磁石・赤化粒子	にふい	青焼	新羅宮加毛二層附加上土の焼成支文 3枚検出	内原土上	—

番号	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形状	出土位置	備考
D16	磁器	5.4	0.7	2.0	0.21g	土	新羅宮方	南部埋蔵	50%
Q21	磁器	2.2	2.2	1.5	32.0	赤土	上下層部にあり込みあり	北部埋蔵	—
Q22	磁石	3.1	2.6	2.5	30.8	焼成	—	西部土上	新羅宮南側

## 第18号住居跡 (第197図)

位置 調査区の中央部、C8d8区。標高30.6mの平坦部に位置している。

重複関係 北西壁を第10号土境に掘り込まれている。

規模と形状 長・短軸4.45mの不整隅丸方形である。壁は高さ10cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-40°-Wである。

床 ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

炉 中央部に設けられている。長径70cm、短径58cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉床の南部に長さ36cmほどの炉石を持っている。

## 炉土層解説

- |         |                |       |                |
|---------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色   | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量   |
| 2 にふい褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒微量  | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量   |
| 3 黒褐色   | 焼土粒子少量、炭化粒子微量  | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 |

ピット 9か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は炉跡を挟んで対になって、P8・9は主柱穴のP2に隣接して位置していることから、補助柱穴と考えられる。深さはP1~4が34~76cm、P5・6が24cm、P7が22cm、P8・9が19cmである。

## P3土層解説

- |       |                       |       |                     |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 褐色  | ローム粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 明褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

## P5土層解説

- |       |                   |       |                |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒少量     | 4 褐色  | ローム粒中量、焼土粒少量   |

## P6土層解説

- |       |                  |       |         |
|-------|------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒微量 | 4 褐色  | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量     | 5 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量   |       |         |

覆土 11層からなる。層厚は薄いが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

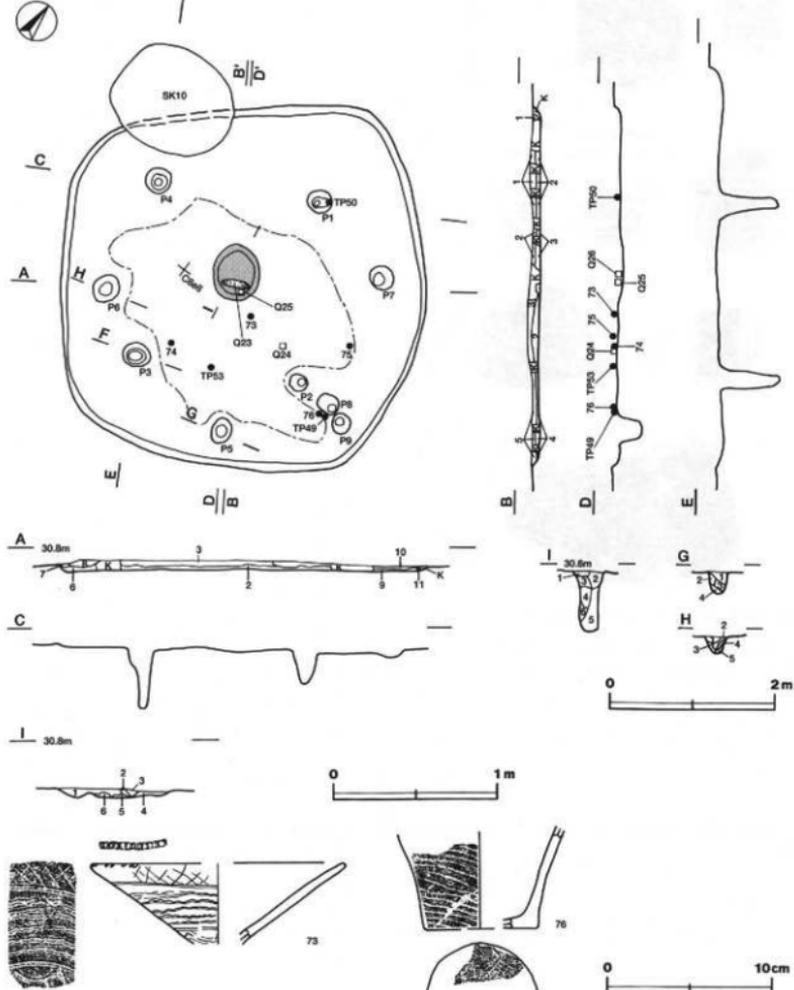
- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1 灰褐色   | ローム粒子中量 | 4 赤褐色   | ローム粒子少量 |
| 2 にふい褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色   | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色   | ローム粒子少量 | 6 にふい褐色 | ローム粒多量  |

- 7 褐 色 ローム粒子少量  
 8 黒 褐色 ローム粒子微量  
 9 褐 色 ローム粒子少量

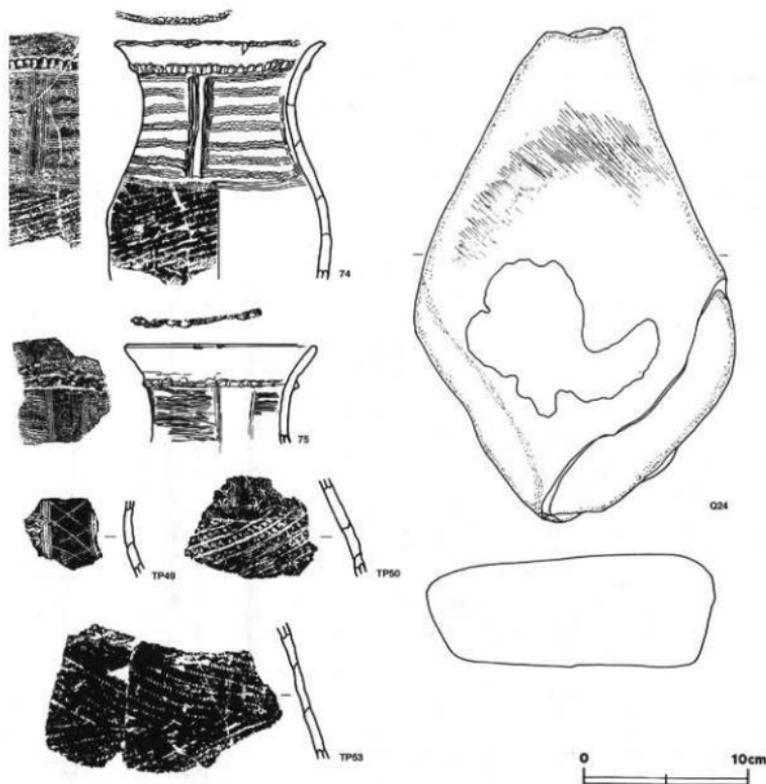
- 10 灰 褐色 ローム粒子少量  
 11 褐 色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 弥生土器片144点、炉石1点、台石1点、瑪瑙の原石1点のほか、攪乱等により混入したとみられる土師器片7点、須恵器片2点が出土している。遺物は炉跡の周辺から散在した状態で出土している。73の弥生土器高坏が炉跡の南東側の床面から、74の弥生土器広口壺は炉跡の南側の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第197図 第18号住居跡・出土遺物実測図



第198図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表 (第197・198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産成	平 法 の 特 徴	出土位置	備考
73	弥生土器	高坏	[15.6]	[5.0]	-	石英・長石・雲母	にぶい産物	普通	口唇部縄文の押圧 耳部格子目文、2本脚面による横走文・波状文・遠近文	中央部床面	5%
74	弥生土器	甕	[12.4]	[14.7]	-	石英・長石・雲母・礫	にぶい産物	普通	口唇部縄文の押圧海文 器部は5区画、器区画内に4本脚面による波状文・遠近文、頸部附加条二條附加1条の縄文施文 羽状横溝	南西部床面	20% PL47
75	弥生土器	甕	[11.4]	[6.0]	-	石英・長石・雲母、赤色粒子	にぶい産物	普通	口唇部に縄文の押圧 器区画内に横走文・施文	東部置土下層	5%
76	弥生土器	甕	-	[6.2]	[7.0]	石英・雲母	にぶい産物	普通	頸部附加条二條附加1条の縄文施文 底部本葉面	南東部床面	5%
TP48	弥生土器	甕	-	[4.2]	-	石英・長石・雲母	灰褐色	普通	器部4本脚面による器区画内に格子目文・施文	南東部床面	
TP50	弥生土器	甕	-	[5.7]	-	石英・長石・雲母	にぶい産物	普通	器部7本脚面による器区画内に波状文・施文 頸部附加条二條附加1条の縄文施文	北東部床面	
TP53	弥生土器	甕	-	[8.2]	-	石英・長石・雲母、赤色粒子	灰褐色	普通	頸部附加条一條附加1条の縄文施文 羽状横溝	南西部床面	

番号	器種	長さ(㎝)	幅(口径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	台石	30.6	19.8	7.0	5475.8	砂岩	表面磨りの痕跡有り	南東部床面	
Q25	炉石	35.2	8.8	8.4	2321.8	雲母片岩	炭素の痕跡有り	伊床面	未調査
Q26	基石	3.7	2.1	1.1	10.2	珸岩		伊床面	久慈川産 未調査

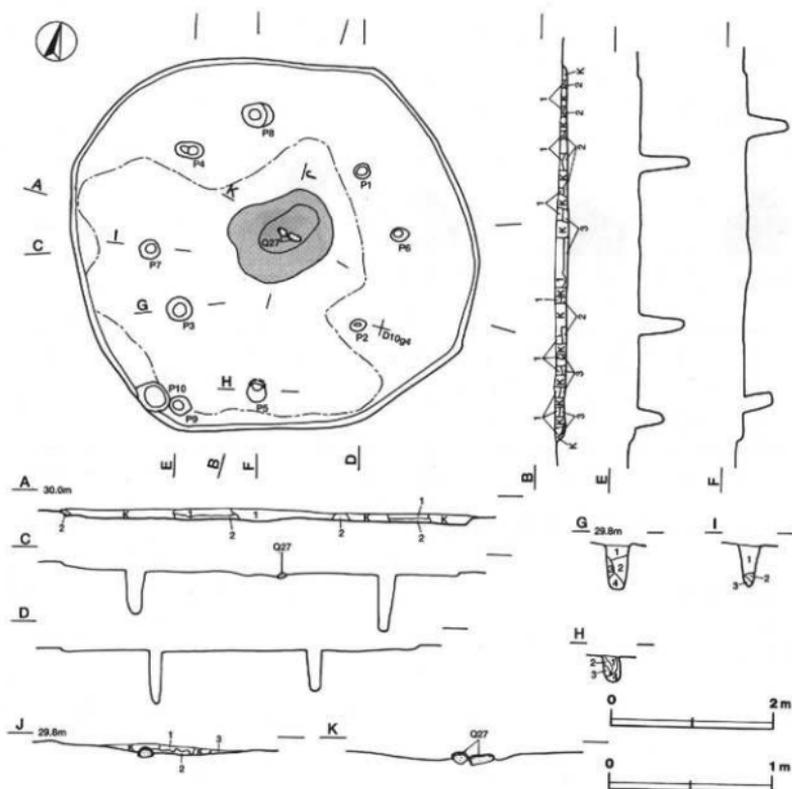
## 第21号住居跡 (第199図)

**位置** 調査区の南部, D10f3区。標高29.8mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.85m, 短軸4.64mの不整形八角形と考えられる。壁は高さ7cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-35°-Eである。

**床** はほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部に設けられている。長径130cm, 短径105cmの楕円形で, 床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉床中央部に長さ15cmと10cmの二つに割れた状態の炉石を持っている。



第199図 第21号住居跡実測図

炉土層解説

- 1 赤黒色 炭化材少量、焼土粒子・ローム粒子微量 3 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量  
 2 赤黒色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

ピット 10か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東端際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～8は主柱穴と主柱穴の中間に位置していることから、補助柱穴と考えられる。P9・10は端際に位置しているが性格は不明である。深さはP1～4が53～66cm、P5が36cm、P6～8が53～70cm、P9・10が9～32cmである。

P3土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒色 炭化粒子極めて多量、ローム粒子・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 4 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

P5土層解説

- 1 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 2 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量

P7土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 におい褐色 ロームブロック・焼土粒子少量  
 2 におい褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

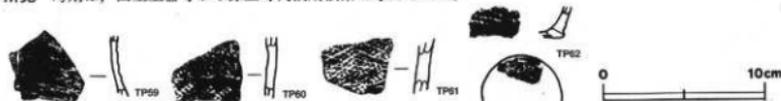
覆土 3層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱も見られるが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒色 炭化粒子極めて多量、ローム粒子・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片30点、炉石1点が出土している。遺物は遺構全体に散在した状況で出土している。

所見 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第200図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表 (第200図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP59	弥生土器	甕	—	(3.6)	—	石英・長石・雲母	におい褐色	普通	撫製2本磨面による粗粒肉内に放射状施文	南西隅埋土中	
TP60	弥生土器	甕	—	(3.7)	—	石英・長石・雲母	におい褐色	普通	新形附加条二條附加1条の縄文施文 羽状磨成	南西隅埋土中	
TP61	弥生土器	甕	—	(3.1)	—	石英・長石・雲母	におい褐色	普通	新形附加条二條附加1条の縄文施文 羽状磨成	東西隅埋土中	
TP62	弥生土器	甕	—	(1.9)	—	石英・長石・雲母	におい褐色	普通	新形附加条の縄文施文 砥石布目磨	北西隅埋土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	炉石	22.3	9.7	6.4	1692.6	燧石砂岩	熱痕あり	伊味面	未掲載

第22号住居跡 (第201図)

位置 調査区の南部、D9g0区。標高29.9mの平坦部に位置している。

規模と形状 壁は削平されているが、推定長軸4.8m、短軸4.5mの方形と考えられる。主軸方向はN-31°-Wと推定される。

床 はほぼ平坦である。炉跡の西側に硬化面が見られる。炭化材が床面に貼り付くように確認されている。

炉 中央部やや東寄りに設けられている。長径58cm、短径50cmの不整形円形をした地床炉で、炉床は火熱を受けて、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

ピット 5か所。P 1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P 5は南コーナー部に位置しているが、性格は不明である。深さはP 1～4が19～53cm、P 5が20cmである。

**P 3土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**P 4土層解説**

- 1 黒色 ロームブロック多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
4 黄褐色 ローム粒子極めて多量、焼土粒子・炭化粒子微量

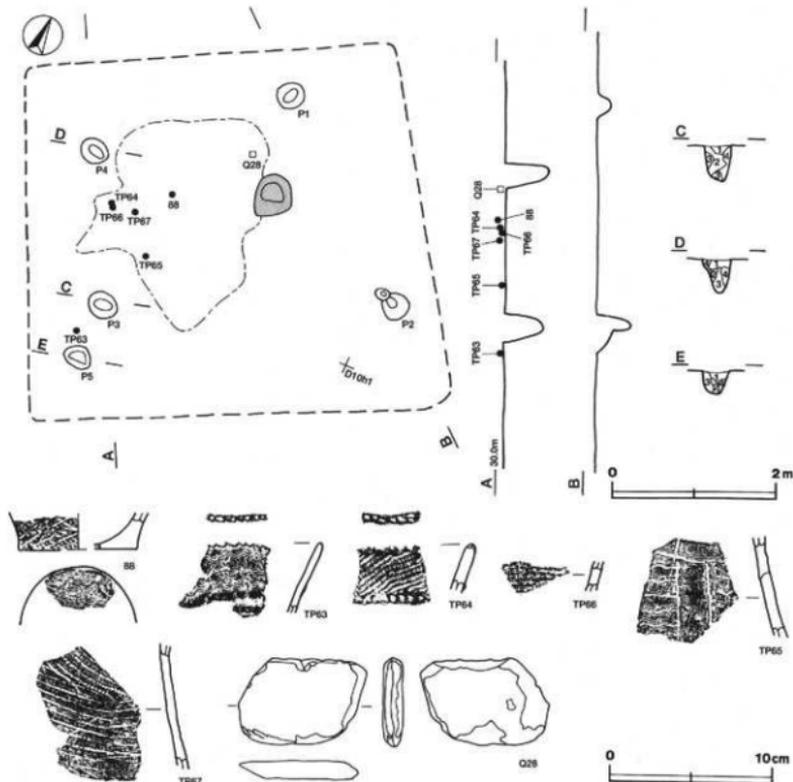
**P 5土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
4 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片112点、不明石製品1点のほか、攪乱等により混入したとみられる土師器片2点、須恵器片5点が出土している。遺物は炉跡の周辺から西部にかけて出土している。88の弥生土器広口壺は西部の床面から出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第201図 第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表 (第201回)

番号	種類	写 真	口徑	断面	長さ	出土	色 澤	状況	子 汰 の 智 識	出土状況	備考
88	弥生土器	壺	-	(12.3)	(7.2)	石炭・灰石・漆跡	にぶい焼	青黒	別冊附録表「福岡県1号の縄文時代 北郡野呂遺跡」	中央部破損	5号
TV63	弥生土器	土門器	-	(4.2)	-	石炭・灰石・漆跡	にぶい焼	青黒	1号部破損の形状、1号部3号部部による破損文様、破損程度は出土品による推定	南側破損	
TV64	弥生土器	壺	-	(2.7)	-	石炭・灰石・漆跡、赤色粘土	にぶい焼	青黒	1号部、1号部下の縄文時代の所産、1号部部部1号の縄文時代	底部破損	
TV65	弥生土器	壺	-	(6.2)	-	石炭・灰石・漆跡、赤色粘土	にぶい焼	青黒	1号部4号部部による破損部内に破損文様	中央部破損	
TV66	弥生土器	壺	-	(1.8)	-	石炭・灰石・漆跡	にぶい焼	青黒	別冊附録表「福岡県1号の縄文時代」	底部破損	
TV67	弥生土器	壺	-	(7.7)	-	石炭・灰石・漆跡、赤色粘土	にぶい焼	青黒	別冊附録表「福岡県1号の縄文時代」	底部破損	

番号	器 種	長 さ	幅	厚 さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q26	小形土器片	(2.6)	(1.7)	1.2	(7.6)	赤褐色片	器底の刃部の可能性あり	中央部破損	

## 第23号住居跡 (第202回)

位置 調査区の中央部、C9f4区。標高30.9mの平坦部に位置している。

重複関係 第1号周溝墓の後方部の墳丘下で確認されている。

規模と形状 長径6.13m、短径5.36mの楕円形である。壁は高さ15cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-45°-Eである。

床 ほぼ平沢である。灰跡を中心に広い範囲で硬化面が見られ、その硬化の度合いは極めて高い。炉跡の北西側に長径150cm、短径80cmの楕円形をした厚さ10cmで灰混じり土の高まりが見られる。部分的に炭化材が貼り付くように見られる。

炉 中央部に設けられている。長径120cm、短径70cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地球炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉床中央部に長さ42cmほどの灰石を持っている。

## 出土遺物観察

1	黒 色	灰中量、ロームブロック・炭化材少量	6	暗 赤 褐色	焼土ブロック・灰少量
2	黒 褐色	炭化粘土・灰少許、焼土粒子少量	7	黒 褐色	焼土ブロック・灰少量
3	暗 赤褐色	灰中量、焼土ブロック・炭化粘土少量	8	黒 褐色	焼土ブロック少量、灰微量
4	暗 赤褐色	灰中量、焼土ブロック少量、炭化粘土微量	9	暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化粘土少量
5	暗 赤褐色	灰中量、焼土ブロック・炭化粘土少量			

ピット 13か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南西端際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は主柱穴間に位置していることから、P8・9は主柱穴に隣接して位置していることから、補助柱穴と考えられる。P10～13の端際に位置していることから、壁柱穴の可能性が考えられる。深さはP1～4が24～62cm、P5が34cm、P6・8・11・12が24～28cm、P7が35cm、P9が54cm、P10が18cm、P13が14cmである。

## P2土層解説

1	黒 褐色	ローム粒子少量	3	明 褐色	ローム粒子多量
2	明 褐色	ローム粒子多量			

## P3土層解説

1	黒 褐色	ロームブロック微粉	4	明 褐色	ローム粒子多量
2	暗 褐色	ロームブロック少量	5	暗 褐色	ローム粒子少量
3	明 褐色	ローム粒子多量			

## P7土層解説

1	黒 褐色	ローム粒子少量	3	暗 褐色	ローム粒子中量
2	暗 褐色	ローム粒子少量	4	暗 褐色	ローム粒子少量

## P9土層解説

1	黒 褐色	ロームブロック微量	3	明 褐色	ローム粒子多量
2	明 褐色	ローム粒子多量			

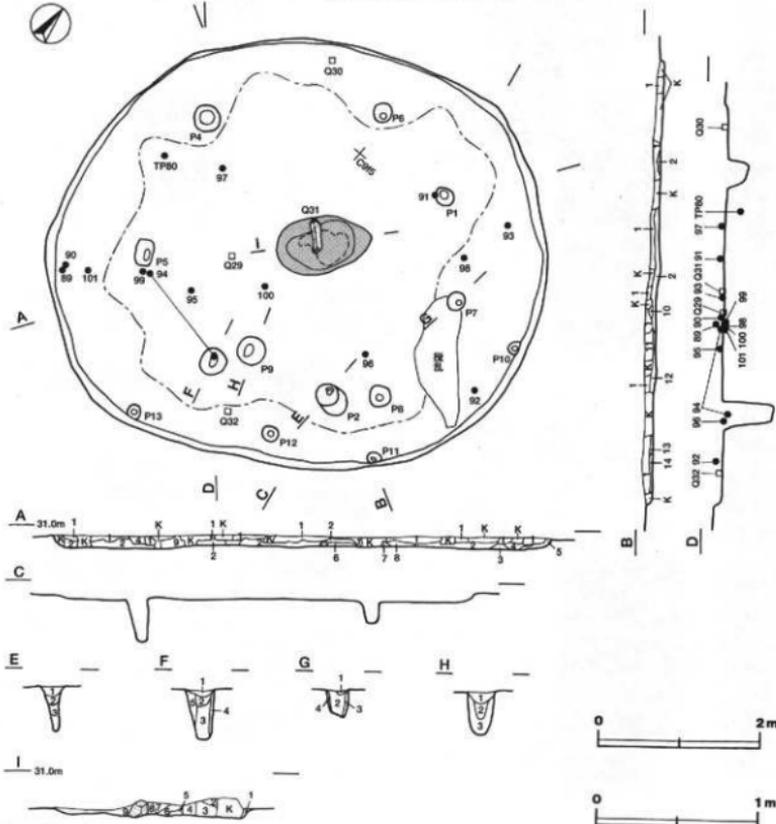
覆土 14層からなる。壁際はブロック状の堆積を示し、人為堆積と考えられるが、中央部はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

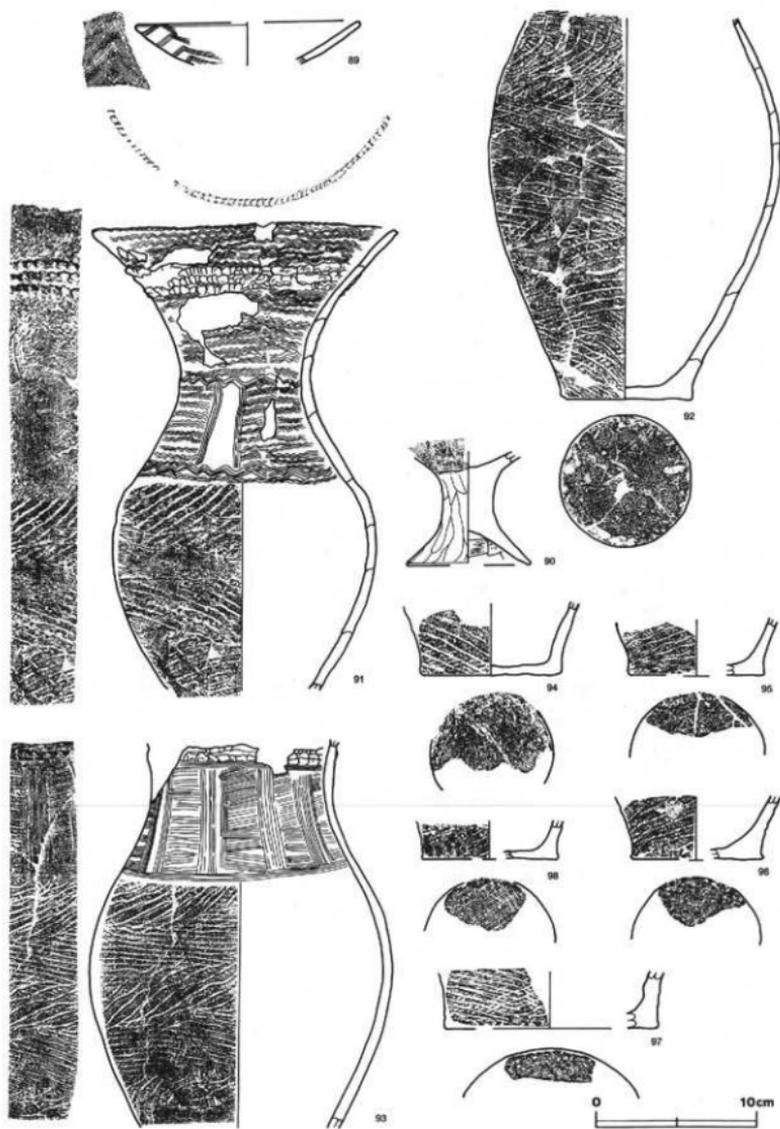
- |        |                     |        |                       |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量    | 8 黒褐色  | 灰中量、ロームブロック・炭化材少量     |
| 2 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量    | 9 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ロームブロック中量           | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          |
| 4 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          |
| 5 暗褐色  | ロームブロック少量           | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化材少量    |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・灰少量    | 13 黒褐色 | ロームブロック少量             |
| 7 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・灰少量      | 14 黒褐色 | ロームブロック少量             |

遺物出土状況 土師器片375点、炉石1点、凹石1点、瑪瑙の原石1点、礫6点のほか、攪乱等により混入したとみられる土師器片3点、剥片1点が出土している。遺物は遺構全体に散在した状況で出土している。90の弥生土器高坏は南西壁際の覆土下層から正位の状態、91の弥生土器広口壺は北東部の床面からつぶれた状態で、92の弥生土器広口壺は東コーナー部の床面から横位の状況で出土している。

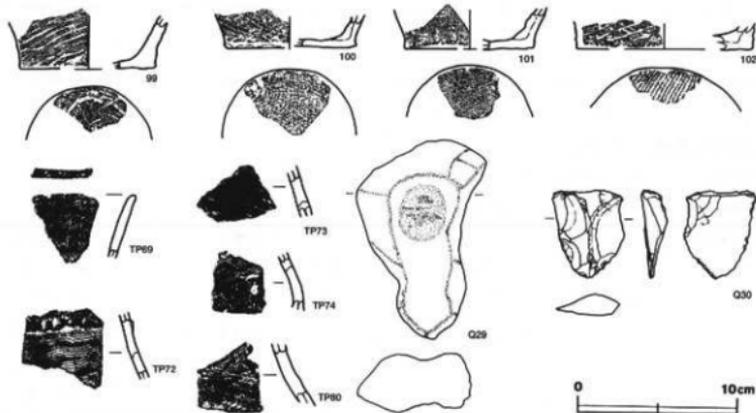
所見 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることや床面に炭化材が貼り付いていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第202図 第23号住居跡実測図



第203图 第23号住居跡出土遺物実測図(1)



第204図 第23号住居跡出土遺物実測図(2)

第23号住居跡出土遺物観察表(第203・204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
89	弥生土器	高杯	113.9	32.7	-	黄母	にがい黄鉄	普通	口唇部縄文の押圧 坏部4本轡曲による山形支脚文	南西部塚上層	5%
90	弥生土器	高杯	-	72.0	7.6	灰石・黄母	淡黄	普通	坏部波状支脚文 坏部外面ヘラナデ、内面強いヘラナデ	南西部塚上層	40% PL47
91	弥生土器	広口皿	18.7	29.5	-	石英・灰石・黄母	淡黄	普通	口唇部キザミ目口縁部4本轡曲による波状支脚文 器底5分割、区画内4本轡曲による波状支脚文 朝部附加条二種附加1条の縄文筋文	北東部塚上層	50% PL47
92	弥生土器	広口皿	-	24.1	8.2	石英・灰石	にがい赤褐色	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 表底構成	北東部塚上層	70% PL48
93	弥生土器	広口皿	-	24.7	-	石英・黄母	にがい橙	普通	面制線区画により5分割され、区画内に4本轡曲による波状支脚文 朝部附加条二種附加1条の縄文筋文	北東部塚上層	40% PL47
94	弥生土器	甕	-	44.0	7.8	灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 表底砂目直	北西部塚上層	5%
95	弥生土器	甕	-	33.0	8.4	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	朝部附加条一種附加1条の縄文筋文 表底本轡曲	南西部塚上層	5%
96	弥生土器	甕	-	44.0	18.0	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 底砂目直	南東部塚上層	5%
97	弥生土器	甕	-	33.0	13.4	石英・黄母	にがい黄鉄	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 底砂目直	北西部塚上層	5%
98	弥生土器	甕	-	22.5	8.4	石英・灰石・黄母・赤色粘土	淡黄	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 底砂目直	北東部塚上層	5%
99	弥生土器	甕	-	33.0	8.3	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	朝部附加条一種附加1条の縄文筋文 底部本轡曲	南西部塚上層	5%
100	弥生土器	甕	-	22.1	8.4	石英・灰石・赤色粘土	にがい黄鉄	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 底砂目直	中央部塚上層	5%
101	弥生土器	甕	-	23.9	8.0	石英・灰石・黄母	黄	普通	朝部外文 底砂目直	南西部塚上層	5%
102	弥生土器	甕	-	11.0	11.0	灰石・黄母・黄	にがい黄鉄	普通	朝部附加条二種附加1条の縄文筋文 底砂目直	南西部塚上層	5%
TP69	弥生土器	甕	-	33.0	-	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	口唇部縄文の押圧 口縁部7本轡曲による波状支脚文	南東部塚上層	
TP72	弥生土器	甕	-	42.0	-	石英・灰石・黄母・赤色粘土	にがい黄鉄	普通	段帯形沖状工具による押圧 器底4本轡曲による横状支脚文	北東部塚上層	
TP73	弥生土器	甕	-	33.1	-	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	朝部砂目直、横状支脚文 朝部附加条二種附加1条の縄文筋文	北東部塚上層	
TP74	弥生土器	甕	-	33.0	-	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	器底3本轡曲による山形支脚文 波状支脚文 朝部附加条二種附加1条の縄文筋文	北西部塚上層	
TP80	弥生土器	甕	-	33.0	-	石英・灰石・黄母	にがい黄鉄	普通	器底砂目直支脚文 朝部附加条二種附加1条の縄文筋文	南西部塚上層	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	原石	12.4	8.2	3.7	305.4	安山岩	凹部の両面に磨痕あり	中央部塚上層	
Q30	洞片	3.5	4.5	1.4	28.5	流紋岩	2方向からの打撃による磨痕	北西部塚上層	

番号	図種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	炉石	40.8	11.0	8.4	7350.0	砂岩	縦溝あり	伊原面	未調査
Q30	炉石	3.8	2.0	1.4	12.5	陶磁		常磐層直下層	久慈川産 未調査

### 第25号住居跡 (第205図)

**位置** 調査区の南東部, D11g2区。標高29.3mの平坦部に位置している。

**重複関係** 第5号別溝墓の墳丘下で確認されている。

**規模と形状** 長軸3.7m, 短軸3.18mの長方形である。壁は高さ5cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-45°-Wである。

**床** ほほ平坦である。硬化面は確認されなかった。

**炉** 中央部に設けられている。径が65cmほどの円形をした地床炉で, 炉床は赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。

**ピット** 8か所。P1~4は配置から主柱穴の可能性が考えられるが, 規模が小形である。P5は南東壁際の中央部のやや東寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6はP4に隣接する位置で確認されていることから, 補助柱穴の可能性が考えられる。P7は北コーナー部で, P8は炉跡に隣接する位置で確認されているが, 共に性格は不明である。深さはP1~4が10~18cm, P5が12cm, P6~8が8~26cmである。

#### P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 3 褐色 ロームブロック微量  
2 褐色 ロームブロック・赤色粒子微量

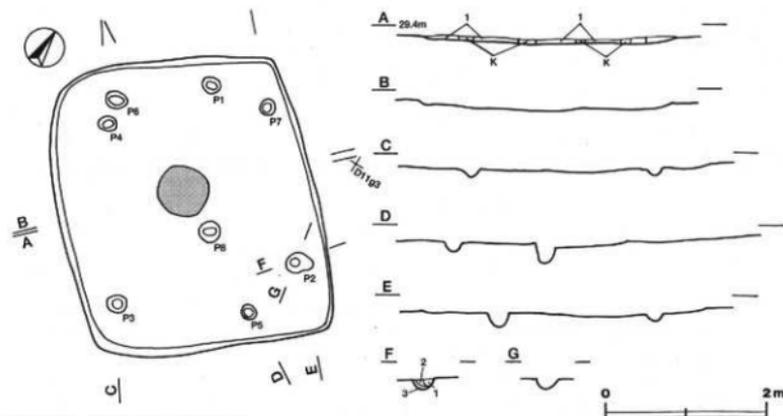
**覆土** 単一層である。層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・赤色粒子微量

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**所見** 出土遺物がないため, 時期を決定することは難しいが, 遺構の形態から弥生時代と考えられる。



第205図 第25号住居跡実測図

## 第26号住居跡(第206図)

位置 調査区の中央部、D8a9区。標高30.7mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.37m, 短軸4.98mの不整八角形である。壁は高さ14cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-65°-Eである。

床 平坦である。炉跡の西側に硬化面が見られる。

炉 中央部に設けられている。長径82cm, 短径55cmの楕円形で、炉床を7cmほど掘りくはめた地床で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉床中央部に長さ32cmほどの炉石を持っている。

## 炉土層解説

- |       |                      |        |                           |
|-------|----------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色   | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    | 8 褐色   | ローム粒子多量, 炭化粒子・焼土粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  | 9 褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量    |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 明褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |        |                           |

ピット 36か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～9は主柱穴に隣接する位置で確認されていることから、補助柱穴と考えられる。P10～23は壁際を巡るように確認されていることから、壁柱穴の可能性が考えられる。P24～P36は壁外に位置しているが、壁からの距離と規模から本跡に伴うものと考えられる。深さはP1～4が35～53cm, P5が15cm, P6が29cm, P9が10cm, P10～23が11～21cm, P24・31・32・34～36が20～28cm, P7・8・25・27・29が31～36cm, P26が49cm, P28・30・33が14～18cm, P29が31cmである。

## P3土層解説

- |       |                         |       |                         |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色  | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |

## P29土層解説

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    |

## P30土層解説

- |       |                           |      |                   |
|-------|---------------------------|------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量   | 3 褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |      |                   |

## P31土層解説

- |       |                         |      |                      |
|-------|-------------------------|------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |      |                      |

## P32土層解説

- |       |                        |       |                        |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色  | 炭化粒子少量, ロームブロック微量      |
| 2 褐色  | 炭化粒子少量, ロームブロック微量      | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

## P33土層解説

- |       |                      |      |                        |
|-------|----------------------|------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|----------------------|------|------------------------|

## P35土層解説

- |       |                         |      |                        |
|-------|-------------------------|------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
|-------|-------------------------|------|------------------------|

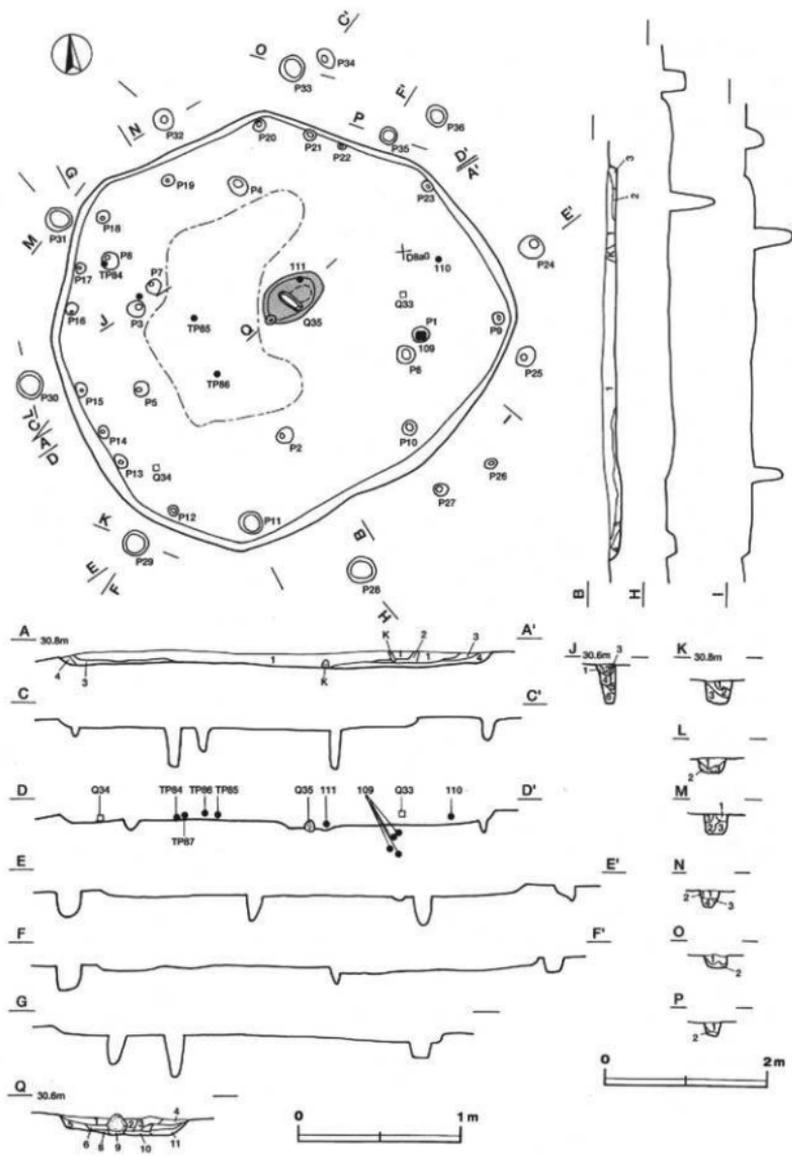
覆土 4層からなる。壁際はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられ、その後中央部を中心に人為的に埋め戻した様相を示している。

## 土層解説

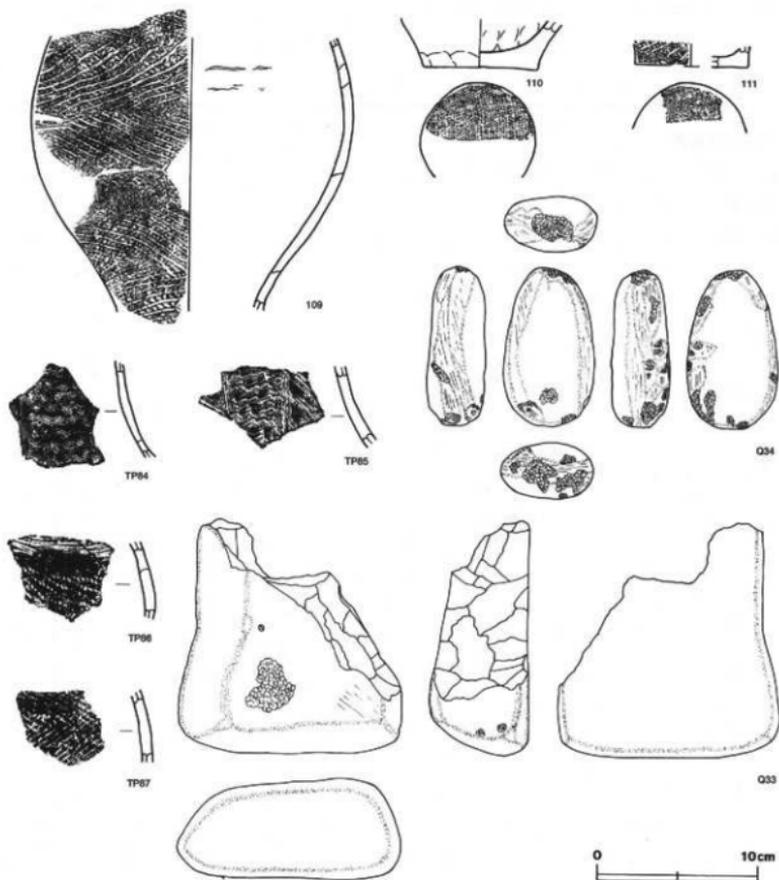
- |       |                           |       |                        |
|-------|---------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片30点, 磨石2点, 炉石1点が出土している。遺物は遺構全体に散在した状況で出土している。109の弥生土器広口壺はP1内から, 110の弥生土器広口壺は東部の覆土下層から, 111の弥生土器広口壺は炉跡から出土している。

所見 時期は, 出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第206图 第26号住居跡実測图



第207図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
109	弥生土器	甕	—	(17.2)	—	黄母	にぶい黄橙	普通	胴部附加糸二種附加1条の縄文施文 凹状構成	P1内	20%
110	弥生土器	甕	—	(3.1)	7.0	石英・長石・雲母	灰褐	普通	胴部施文 流部帯目痕	東部覆土下層	5%
111	弥生土器	甕	—	(1.4)	[7.0]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加糸二種附加1条の縄文施文 流部帯目痕	中央部表面	5%
TP84	弥生土器	甕	—	(5.8)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部4本脚蓋による縦区画。区画内に流状文施文	北部覆土中層	
TP85	弥生土器	甕	—	(4.3)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部4本脚蓋による縦区画。区画内に流状文施文、縦形文施文	中央部覆土下層	
TP86	弥生土器	甕	—	(4.8)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加糸一種・附加糸二種の縄文施文	中央部覆土中層	
TP87	弥生土器	甕	—	(4.6)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部附加糸一種附加1条の縄文施文 凹状構成	P4内	

番号	名称	長さ	幅	高さ	容積	材質	特徴	出土品	備考
Q33	壁石	14.8	14.0	0.2	700.6	陶器	4面に對りの取付あり、1面の部分に横行あり	黄銅製土小管	
Q31	礎石	5.9	2.7	2.7	251.3	笠石	4面に對りの取付あり、伊土層部に取付あり	南漆器土管	
Q35	礎石	30.6	10.0	0.6	107.3	新築	取付あり	伊土製	未調査

### 第31号住居跡 (第208図)

**位置** 調査区の北部、A8b7区。標高30.9mの平坦部に位置している。

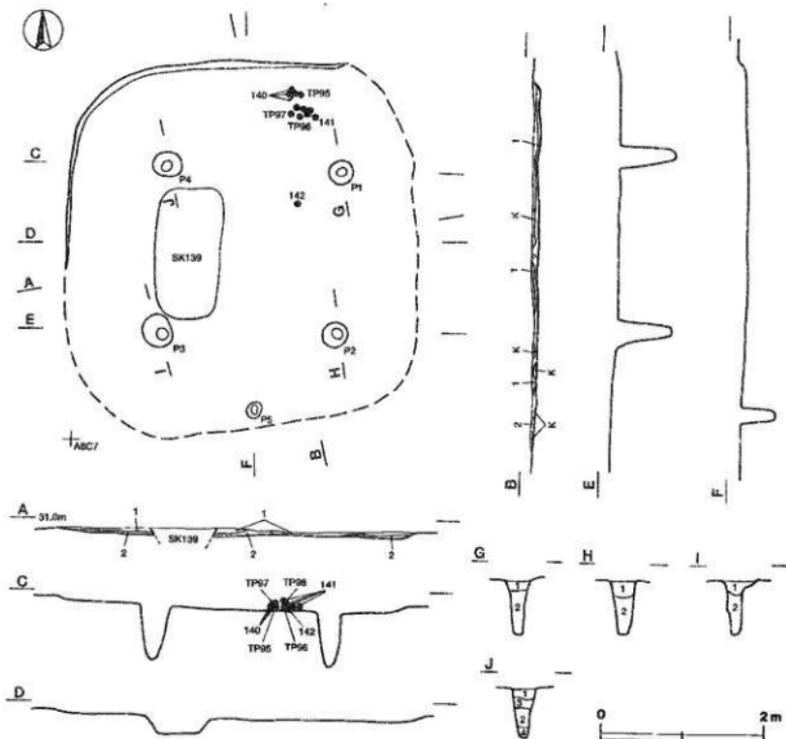
**重複関係** 西側を第139号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南壁と東壁は削平されているが、推定長軸4.55m、短軸4.3mの方形と考えられる。壁は高さ10cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-16°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

**炉** 確認されなかった。

**ピット** 5か所。P1～4は配属と規模から土柱穴と考えられる。P5は推定南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が69～71cm、P5が42cmである。



第208図 第31号住居跡実測図

## P1~4土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量  
 3 極暗褐色 ロームブロック少量  
 4 暗褐色 ロームブロック中量

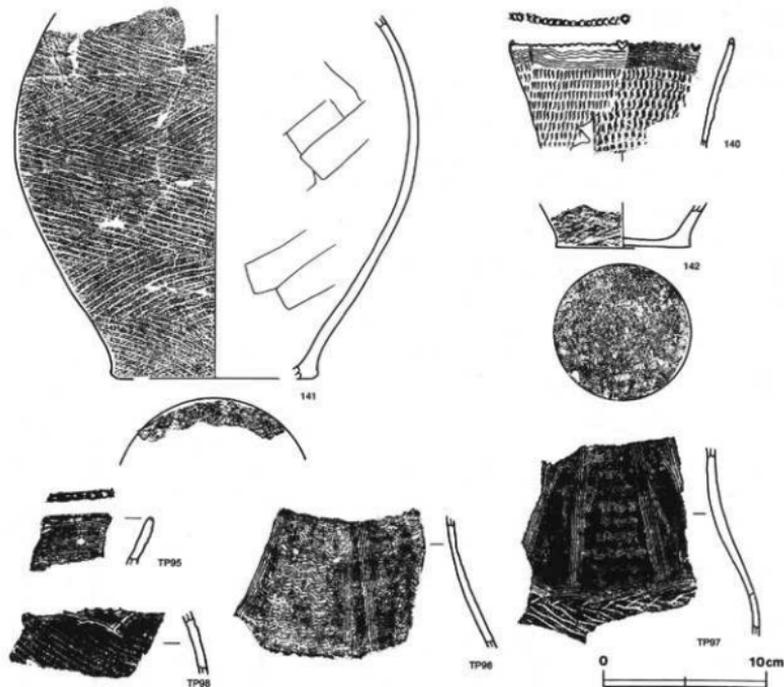
覆土 2層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物・炭沼バミス微量  
 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・炭沼バミス微量

遺物出土状況 弥生土器片17点が出土している。遺物は中央部から北東部にかけて出土している。140と141の弥生土器広口壺は北東部の床面から、142の弥生土器広口壺は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第209図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表 (第209図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	出土	色調	焼成	手法の特征	出土位置	備考
140	弥生土器	壺	[13.6]	[6.5]	—	灰石	灰褐色	普通	口唇部にキザミ目・突起口縁部3本横線による波状文・平縁付管文を押しつけて施す	北東部床面	5%
141	弥生土器	広口壺	—	[22.6]	[12.6]	石英・雲母	にじみ・黄褐色	普通	腹部3本横線による波状文施文 頸部附加条二種附加1条の縄文施文 底部砂目肌	北東部床面	20%
142	弥生土器	壺	—	(2.7)	8.4	石英・灰石	にじみ褐色	普通	頸部附加条の縄文施文 底部砂目肌	中央部床面	10%

番号	種別	素材	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特色	出土位置	備考
TP95	養生土器	土	-	(28)	-	石英・長石・黒付	にぶい黄橙	普通	口唇部織文の押圧 口縁部4本輪廊による波状文施文	北東部床面	
TP96	養生土器	土	-	(78)	-	石英・長石・黒付・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部4本輪廊による縦区画、区画内に波状文施文	北東部床面	
TP97	養生土器	土	-	(117)	-	石英・長石・黒付	にぶい黄	普通	頸部8本輪廊による縦区画、区画内に波状文施文、下縁波状文施文 胴部附加全二指附加1条の織文施文	北東部床面	
TP98	養生土器	土	-	(39)	-	石英・長石・黒付	にぶい黄	普通	胴部下高4本輪廊による通気文施文 胴部附加全一輪附加1条の織文施文	北東部床面	

### 第34号住居跡 (第210図)

**位置** 調査区の南部, E10e3区。標高31.2mの平坦部に位置している。

**重複関係** 第6号周溝墓の前方部の墳丘下で確認されている。

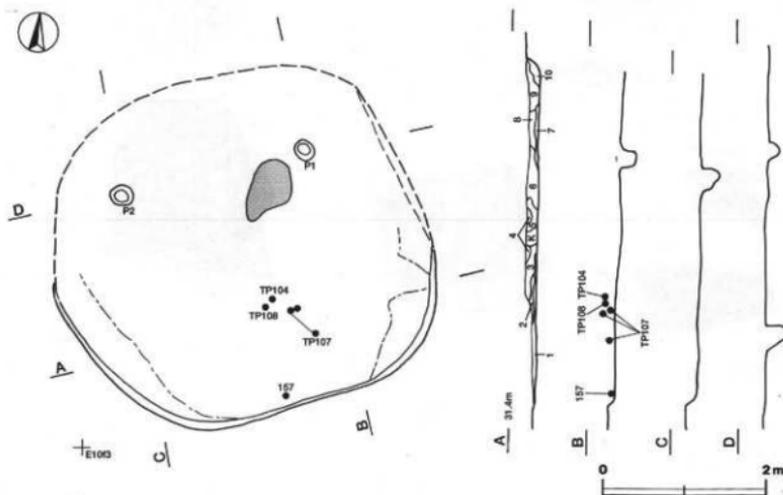
**規模と形状** 北壁は削平されているが、長軸4.4m, 推定短軸4.25mの隅丸方形と考えられる。壁は高さ14cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-22°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

**炉** 中央部に設けられている。長径80cm, 短径50cmの不整楕円形をした地床炉で、炉床は赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

**ピット** 2か所。P1・2は配列から主柱穴と考えられるが、掘り込みが浅い。深さは15~20cmである。

**覆土** 10層からなる。ブロック状の堆積を示し、ロームブロックや炭化粒子が含まれていることから、人為堆積と考えられる。



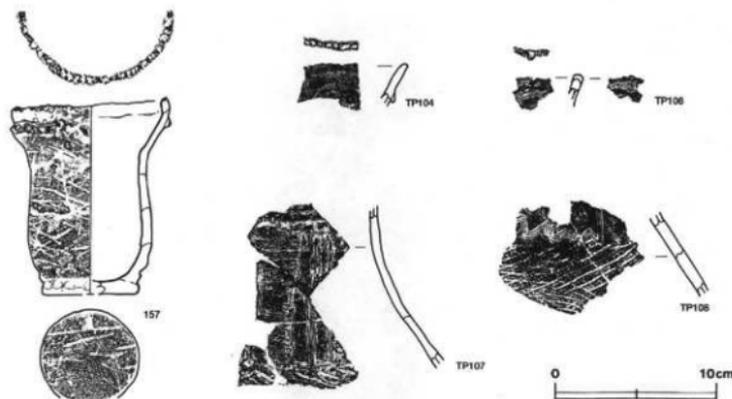
第210図 第34号住居跡実測図

## 土層解説

- |       |                       |        |                     |
|-------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量             | 6 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量      |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量        | 7 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量     | 8 黒褐色  | ロームブロック・炭化物微量       |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・粘土粒子微量  | 9 黒褐色  | ロームブロック・炭化物微量       |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 弥生土器片44点、礫6点のほか、攪乱等により混入したとみられる土師器片3点が出土している。遺物は遺構の南部から出土している。157の弥生土器小形広口壺は南縁側の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第211図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表 (第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
157	弥生土器	小形広口壺	9.2	12.2	[6.0]	灰石・炭屑・礫	にぶい濁	普通	口縁部・胎土面取り付け部縄文の正統 胴部外面 裏加糸の縄文を多方向に施文	南東部覆土下層	80% PL48
TP104	弥生土器	壺	-	(2.5)	-	石英・灰石・雲母	にぶい粒	普通	口縁部縄文の正統 口縁部下層の段帯棒状工具に よる押付	南東部覆土中層	
TP106	弥生土器	壺	-	(1.7)	-	石英・灰石・雲母	にぶい粒	普通	口縁部平ぎり目・突起 口縁部4不齊面による波 紋文施文	北西部覆土中	
TP107	弥生土器	壺	-	(3.0)	-	石英・灰石・雲母 ・赤色粒子	にぶい濁	普通	胎部6本輪面による短区画、区画内に縦文施文 胴部上端部加糸の縄文の上にて下向き連続文施文	南東部覆土下層	
TP108	弥生土器	壺	-	(4.9)	-	石英・灰石・雲母 ・赤色粒子	粒	普通	胴部短区画内に4本輪面による波状文施文 胴部 加糸一帯附加1本の縄文施文	南東部覆土中層	

## (2) 土坑

## 第10号土坑 (第212図)

**位置** 調査区の中央部、C8d7区。標高30.7mの平坦部に位置している。

**重複関係** 第18号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径1.12mほどの円形で、確認面からの深さは16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

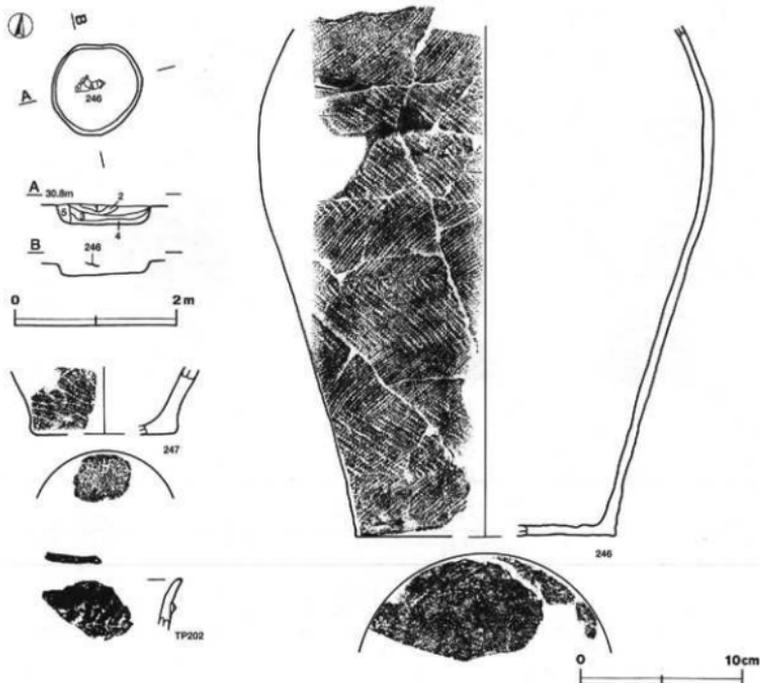
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                     |       |                |
|--------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒色   | 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量   | 4 暗褐色 | 砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色  | 砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・砂粒少量   |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・砂粒少量        |       |                |

遺物出土状況 弥生土器片6点、礫2点のほか、攪乱等により混入したとみられる土師器片2点、須恵器片1点が出土している。246の弥生土器者は中央部覆土上層から斜位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器と切り合い関係等から弥生時代後期後葉以降と考えられる。



第212図 第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表 (第212図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の形態	出土位置	備考
246	弥生土器	壺	—	(32.0)	[16.2]	石英・長石・ 磁石・赤色粒子	霞黄	普通	新形附加糸一輪附加2糸の縄文施文 羽状溝底 底部砂目痕	中央部覆土上層	5%
247	弥生土器	壺	—	(4.2)	[9.2]	石英・長石・ 磁石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	新形附加糸二輪附加1糸の縄文施文 底部砂目痕	覆土中	5%
TP202	弥生土器	(片口) 甕	—	(3.1)	—	長石・磁石	にぶい黄	普通	口縁部・発着部縄文の押圧 口縁部施文	覆土中	

## 第80号土坑 (第213図)

位置 調査区の南部, D10d2区。標高29.8mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.52m, 短径2.4mの楕円形で, 確認面からの深さは90cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-89°-Eである。底面は平坦である。

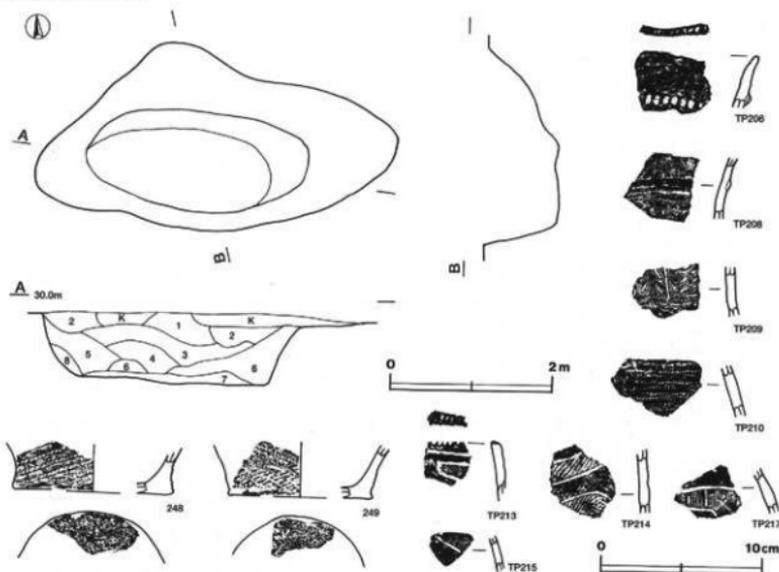
覆土 8層からなる。ブロック状の堆積を示し, ロームブロックや焼土粒子, 炭化粒子を含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量       |
| 2 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子微量          | 6 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック少量          |
| 3 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 7 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子微量  |
| 4 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 8 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片165点, 礫23点のほか, 攪乱等により混入したとみられる土師器片3点, 須恵器片1点が出土している。後期の弥生土器片と礫は覆土の中層から下層にかけてから出土している。中期中葉の弥生土器片は5点(内4点, TP213~215, 217を図化)は覆土上層から中層にかけてから出土している。

所見 中期中葉の土器片が遺構から出土したのは本跡のみである。中期中葉の土器片は表面でも採取されていることから, 本跡周辺に中期中葉の遺構の存在の可能性が考えられる。時期は, 出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第213図 第80号土坑・出土遺物実測図

第80号土坑出土遺物観察表 (第213図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考	
248	弥生土器	甕	-	[3.0]	[9.9]	右丸・長石・黄母・礫・炭化粒子	にじみ泥	普通	製部附加糸二種附加1糸の縄文陶文	成部研目直	南東部覆土の中層	5%

番号	発見	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	流紋	平法の特徴	出土層	備考
249	弥生土器	甕	—	(3.5)	[9.0]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加赤二條附加1条の縄文施文 或部砂目肌	南東部覆土上層	5%
TP206	弥生土器	甕	—	(3.3)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部・隆帯部縄文の押圧 口縁部加文	北西部覆土中層	
TP208	弥生土器	甕	—	(3.6)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯部押圧による押圧 胴部2本輪面による縦区画 区内に横走施文	北西部覆土上層	
TP209	弥生土器	甕	—	(2.9)	—	石英・長石・雲母	明赤色	普通	胴部4本輪面による縦区画 区内内に縦斜文・横走施文	北東部覆土中層	
TP210	弥生土器	甕	—	(3.2)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部附加赤一横附加1条の縄文施文	北東部覆土中層	
TP213	弥生土器	鉢	—	(3.7)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	口唇部半徑1目 口縁部縄文施文を三角形で区画し 区内内を磨り消す 外歪赤彩	南東部覆土上層	PL50
TP214	弥生土器	甕	—	(4.0)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部縄文の地文を沈線で区画し 区内内を磨り消す	北西部覆土上層	PL50
TP215	弥生土器	甕	—	(2.0)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部縄文の地文を沈線で区画し 区内内を磨り消す	南東部覆土上層	TP215と同番号B PL50
TP217	弥生土器	甕	—	(2.7)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部縄文の地文を沈線で区画し 区内内を磨り消す	北西部覆土上層	TP215と同番号B PL50

### 第115号土坑 (第214図)

位置 調査区の中央部、D8e7区。標高31.1mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.75m、短径2.4mの不整形円形で、確認面からの深さは106cmで、壁は急激に外傾して立ち上がっている。長径方向はN-37°-Wである。底面は皿状である。

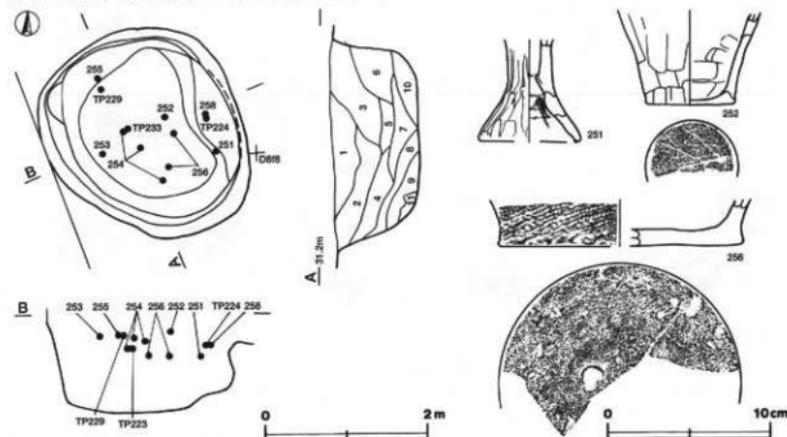
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

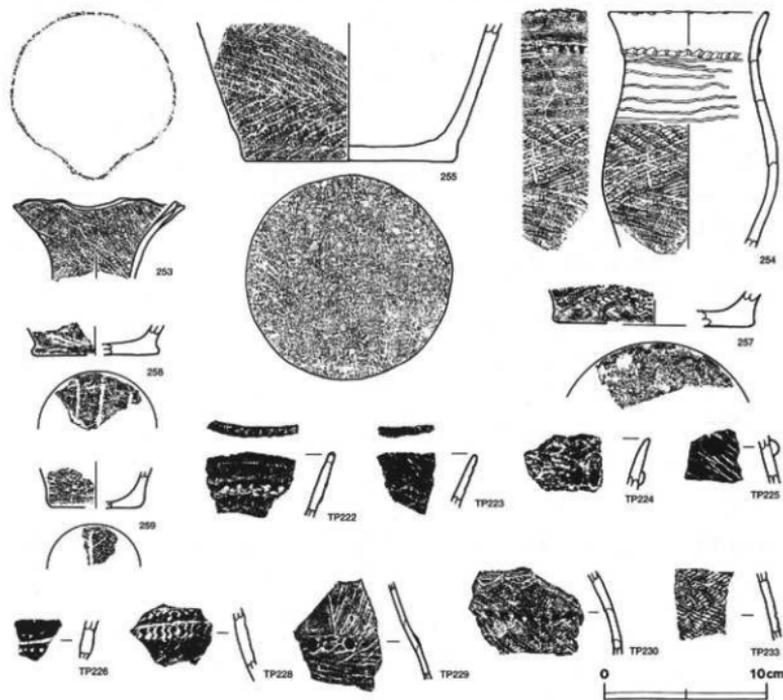
- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 黒色土多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量     | 7 黒色 黒色土多量、焼土粒子・赤色粒子少量、炭沼バミス微量 |
| 2 黒色 黒色土多量、焼土粒子・炭化材微量         | 8 黒色 炭沼バミス中量、炭化材・赤色粒子少量        |
| 3 黒色 黒色土多量、赤色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒色 黒色土多量、炭化材少量、赤色粒子微量        |
| 4 黒色 炭沼バミス少量、焼土粒子・炭化粒子微量      | 10 黒色 黒色土多量、炭沼バミス微量            |
| 5 黒色 黒色土多量、炭沼バミス微量            | 11 黒色 炭沼バミス少量、赤色粒子微量           |
| 6 黒色 黒色土多量、炭沼バミス微量            |                                |

遺物出土状況 弥生土器片211点、陶器片1点、須恵器片5点、礫4点が出土している。遺物は覆土上層の第1・2・3層から出土している。253の弥生土器片口壺は西部の覆土上層から、256の壺は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第214図 第115号土坑・出土遺物実測図



第215図 第115号土坑出土遺物実測図

第115号土坑出土遺物観察表 (第214・215図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備考
251	赤生土器	高杯	—	[6.4]	[6.4]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	胴部内へラナギ、内面ヘラナギ	東部覆土中層	20%
252	赤生土器	壺	—	[5.9]	5.4	長石・雲母	にぶい黄	普通	胴部内、外面ヘラナギ 底部木葉痕	中央部覆土上層	5%
253	赤生土器	片口壺	10.5	[5.0]	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口唇部キザミ目 口縁部附加物(二條附加1条)の縄文施文 多方向に施文後へラナギ	西部覆土上層	10%
254	赤生土器	広口壺	[9.6]	[14.8]	—	長石・雲母	極灰	普通	口唇部及び胎土縁部キザミ目 腰部2本線による縄文施文 胴部附加物二條附加1条の縄文施文 羽状底成	中央部覆土上層	30% 内縁
255	赤生土器	壺	—	[8.7]	13.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	胴部附加物二條附加1条の縄文施文 羽状底成	北部覆土上層	20%
256	赤生土器	壺	—	[2.8]	[15.2]	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄緑	普通	胴部附加物二條附加1条の縄文施文 底形部目取	中央部覆土中層	5%
257	赤生土器	壺	—	[2.2]	[12.4]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	胴部附加物二條附加1条の縄文施文 底形部目取	覆土中	5%
258	赤生土器	壺	—	[0.8]	[7.0]	長石・雲母	黄	普通	胴部下縁無文 底部木葉痕	東部覆土上層	5%
259	赤生土器	壺	—	[2.5]	[5.6]	長石・雲母	黄	普通	胴部附加物二條附加1条の縄文施文 底部木葉痕	覆土中	5%
TP222	赤生土器	広口壺	—	[3.8]	—	石英・長石・雲母	にぶい黄	普通	口唇部縄文の押注 口縁部無文 腰部部無文による押注	覆土中	
TP223	赤生土器	壺	—	[3.3]	—	石英・長石・雲母	にぶい黄	普通	口唇部弱い縄文の押注 口縁部附加物二條附加1条の縄文施文	覆土中	
TP224	赤生土器	壺	—	[3.1]	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口唇部縄文の押注 口縁部附加物二條附加1条の縄文施文に2葉1条の基礎	東部覆土上層	
TP225	赤生土器	壺	—	[3.0]	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	胴部附加物一條附加1条の縄文の上に発成	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 出 の 特 徴	出土位置	備考
TP226	弥生土器	壺	-	(2.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部刻文施文	覆土中	
TP228	弥生土器	壺	-	(3.6)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部刻文の押圧 胴部附加二線附加1条の縄文施文	覆土中	
TP229	弥生土器	壺	-	(6.1)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部3半輪曲による縦区画、区画内に横文・縦斜文施文、下段下向きの連風文施文後段斜形浮文 胴部附加条の縄文施文	北西部覆土上層	
TP230	弥生土器	壺	-	(5.1)	-	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	頸部下段横文・4本輪曲による下向きの連風文施文 胴部附加条二線附加1条の縄文施文	覆土中	
TP233	弥生土器	壺	-	(4.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二線附加1条の縄文施文 羽状横溝	中央部覆土上層	

## 第124号土坑（第216図）

**位置** 調査区の中央部，C8g6区。標高30.7mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.36m，短径2.27mの不整形円で，確認面からの深さは27cmで，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-20°-Wである。底面は皿状である。底面にピットが3か所（P1-3）確認されている。P4-7は壁外に位置しているが，壁からの距離と規模から判断して本路に伴うものと考えられる。深さはP1・3～5・7が13～19cm，P2が72cm，P6が45cmである。

### P6土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

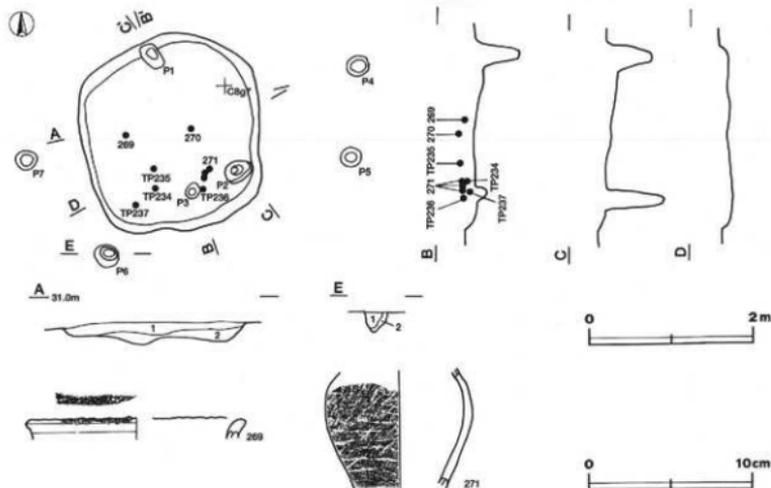
**覆土** 2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

### 土層解説

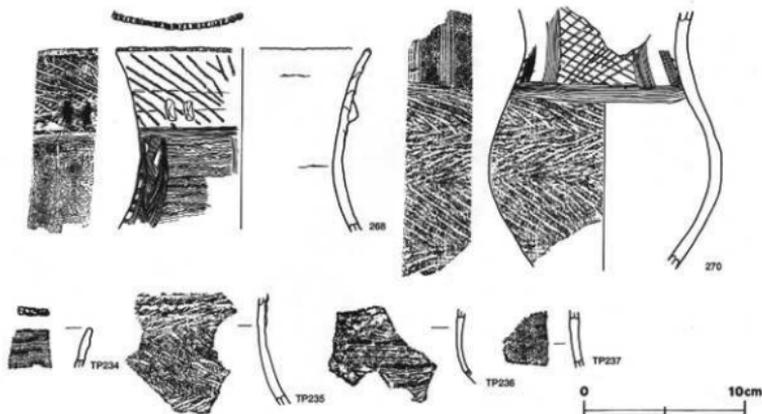
1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭屑パミス・赤色粘土微量 2 褐色 ロームブロック・炭屑パミス微量

**遺物出土状況** 弥生土器片36点，棟8点のほか，攪乱等により混入したとみられる土師器片2点が出土している。遺物は覆土の中層から上層にかけてから出土している。270の弥生土器壺は中央部の覆土上層から，271の弥生土器壺は南東部の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第216図 第124号土坑・出土遺物実測図



第217図 第124号土坑出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表 (第216・217図)

番号	種別	口径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	弥生土器	広口壺	[156]	(11.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい度	普通	胴部附加条二條附加1条の縄文施文	底面砂目状	覆土中 10% PL48
269	弥生土器	壺	[132]	(1.3)	-	石英・長石・雲母	濃紫	普通	口唇部縄文の圧痕		中央部覆土上層 5%
270	弥生土器	広口壺	-	(6.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄緑	普通	胴部7本横溝による縦区画内に格子目文・6本横溝による横 志文施文・胴部附加条一様附加1条の縄文施文	胴部横成	中央部覆土上層 30%
271	弥生土器	小形壺	-	(7.4)	-	石英・長石・雲母	灰黒	普通	胴部横溝による横志文施文・胴部附加条一様附加1条 の縄文を以て、結節文も施文		南東部覆土上層 10%
TP234	弥生土器	壺	-	(2.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい度	普通	口唇部縄文の圧痕	口縁部4本横溝による横志文	南西部覆土上層
TP235	弥生土器	壺	-	(7.0)	-	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい度	普通	腹帯部縄文の浮文	胴部附加条二條附加1条の縄文施文 以て構成	南西部覆土上層
TP236	弥生土器	壺	-	(3.8)	-	石英・長石・雲母	にぶい度	普通	胴部4本横溝による表状文施文		南東部覆土上層
TP237	弥生土器	壺	-	(3.4)	-	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい程	普通	胴部横文施文		南西部覆土中層

## 第139号土坑 (第218図)

位置 調査区の北部、A8b7区。標高30.8mの平坦部に位置している。

重複関係 第31号住居跡の西側を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.65m、短軸0.77mの長方形で、確認面からの深さは18cmで、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-3°-Eである。底面は平坦である。

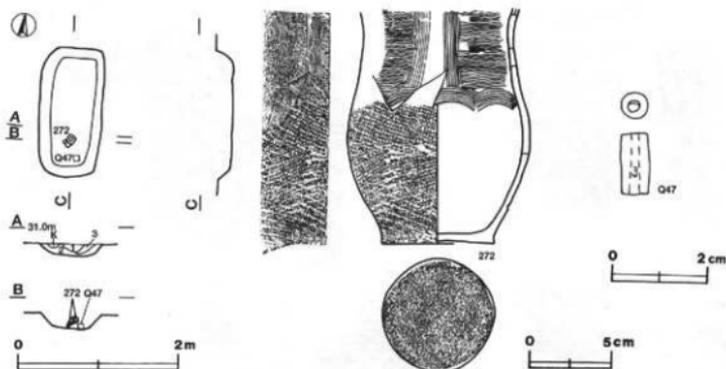
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量  
2 暗褐色 焼土粒子・赤色粒子少量、ロームブロック・炭化物微量  
3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 弥生土器1点、管玉1点が出土している。272の弥生土器壺は中央部南寄りの覆土下層から逆位の状態で、Q47の管玉は南部の底面から出土している。骨片は出土していない。

所見 時期は、遺構の形態と出土土器等から弥生時代後期後葉で、性格は土壌墓と考えられる。



第218図 第139号土坑・出土遺物実測図

第139号土坑出土遺物観察表 (第218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産成	手法の特徴	出土位置	備考
272	赤土土器	広口皿	-	(14.7)	7.1	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	胎土に本輪郭による縦区画内に横走文。下段を連続した横走文。胎土に本輪郭による縦区画内に横走文。胎土に本輪郭による縦区画内に横走文。	南東壁面	50% P1A8
番号	器種	長さ(径)	幅(内径)	厚さ	重量	材質	特徴	備考	出土位置	備考	
Q47	碧玉	1.3	0.2	0.6	0.5	緑色凝灰岩	表面丁寧に研磨		南東壁面	PL51	

### 3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された古墳時代の遺構は、竪穴住居跡6軒、周溝墓5基（前方後方形3基、円形1基、方形1基）、土坑2基である。これらの遺構は調査区全体に位置している。周溝墓は調査区の中央部から南部に位置している。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について、記述していく。

#### (1) 竪穴住居跡

##### 第1号住居跡 (第219図)

**位置** 調査区の北部、A9h2区。標高30.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.0m、短軸4.72mの方形である。壁は高さ27cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-32°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。

**炉** 中央部に設けられている。長径80cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

##### 炉土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量      3 褐灰色 灰中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量  
2 明褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

**ピット** 6か所。P1-4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は西部壁際に位置しているが、性格は不明である。深さはP1-4が44-50cm、P5が21cm、P6が28cmである。

## P 1 土層解説

- |       |                       |         |                        |
|-------|-----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量   | 5 褐色    | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 2 灰褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 橙褐色   | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量   | 7 にぶい褐色 | ローム粒子極めて多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |         |                        |

## P 2 土層解説

- |       |                       |          |                               |
|-------|-----------------------|----------|-------------------------------|
| 1 褐色  | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 橙褐色    | ローム粒子極めて多量、焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 灰褐色    | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量         |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 にぶい橙褐色 | ローム粒子極めて多量、粘土粒子少量、炭化粒子微量      |

貯蔵穴 東コーナー部に設けられている。長径60cm、短径42cmの楕円形で、深さは28cmである。

## 貯蔵穴土層解説

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子少量 | 4 明褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量   |

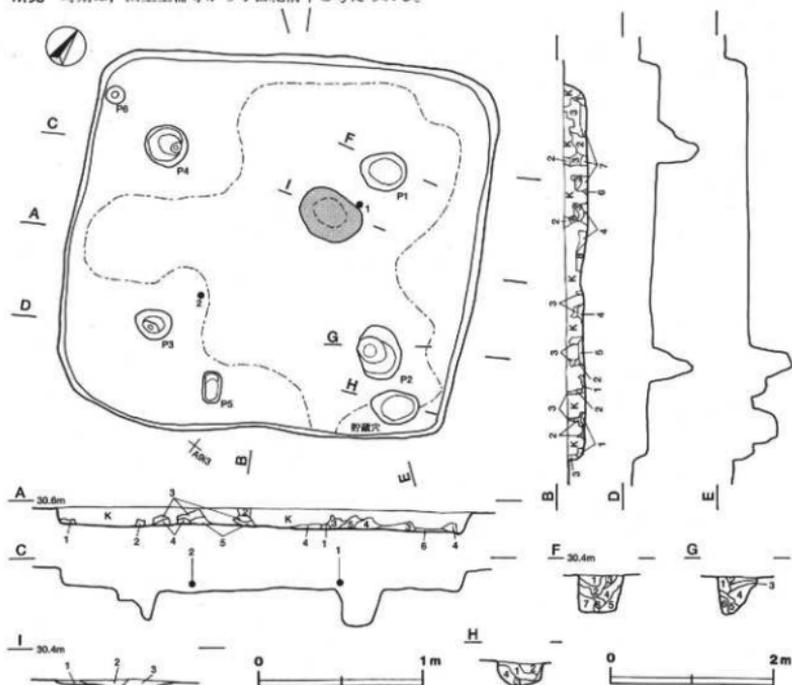
覆土 8層からなる。擾乱が多いが、ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

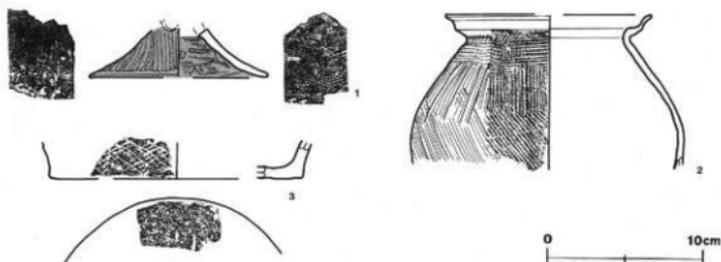
- |        |                             |       |                             |
|--------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子・炭屑パミス少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量         |
| 2 黒褐色  | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量         | 6 灰褐色 | ローム粒子・炭屑パミス中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量         | 7 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・炭屑パミス少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量         | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量         |

遺物出土状況 土師器片53点、鏝12点のほか、擾乱等により混入したとみられる縄文土器片2点、弥生土器片6点、陶器片1点が出土している。これらの遺物は炉跡周辺や中央部から出土している。1の土師器台は炉跡の北東側の覆土下層から、2の土師器台付爿は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第219図 第1号住居跡実測図



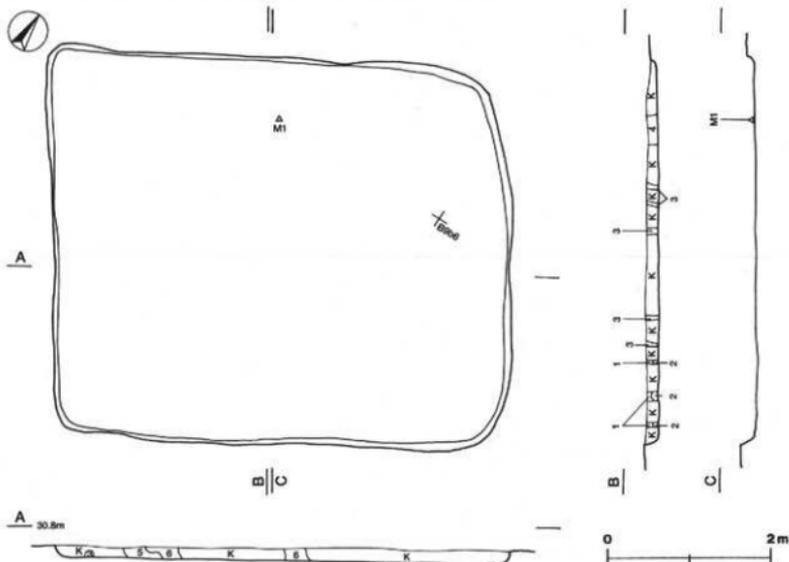
第220図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第220図)

番号	種別	跡種	口径	跡高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	—	(3.0)	[11.2]	石英・長石	赤胎	普通	脚部外面へラ磨り、内面ハケ目調整 内・外面赤彩	伊藤北堂遺土下層	5%
2	土師器	台付壺	[13.2]	(9.9)	—	石英・長石	にぶい焼	普通	口縁部内・外面緑ナメ 身体外面ハケ目調整、内面ナメ	東郷遺土下層	15%
3	雑土器	壺	—	(2.4)	[16.0]	石英・長石・雲母	にぶい焼	普通	胴部附加条二線刻加1条の縄文施文 底部粉目肌	北西館遺土上	5%

### 第2号住居跡 (第221図)

位置 調査区の北部、B9b5区。標高30.6mの平坦部に位置している。



第221図 第2号住居跡実測図

**規模と形状** 長軸5.62m, 短軸4.80mの長方形である。壁は高さ13cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-33°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 確認されなかった。

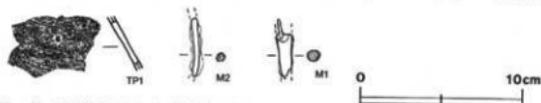
**覆土** 6層からなる。トレンチャーによる攪乱が激しいため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |       |                           |       |                        |
|-------|---------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量    | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化材微量       |
| 3 黒色  | 炭化粒子少量, ローム粒子微量           | 6 黒色  | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片61点, 不明鉄製品2点, 瑪瑙の原石1点, 鏝9点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片4点, 須恵器片5点が出土している。遺物は覆土中からの出土である。

**所見** 本跡では, 加路や柱穴は確認されなかった。時期は, 出土土器等から古墳時代と考えられる。



第222図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第222図)

番号	群別	器種	口徑	器高	底徑	胎土	色調	焼成	手法	特徴	出土位置	備考
TP1	土師器	鏝	-	(3.3)	-	石灰・長石・雲母	にぶい褐色	普通	係部外置ハナ目調整		東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	原石	2.5	1.4	1.3	4.2	瑪瑙		南西部覆土中	久慈川産 未掲載
M1	不明鉄製品	(3.8)	0.9	0.7	(2.8)	鉄	断面円形	北西部塚面	
M2	不明鉄製品	(3.6)	0.4	0.5	(2.0)	鉄	断面方形 縁の歪み?	南西部覆土中	

**第10号住居跡(第223図)**

**位置** 調査区の中央部, B9j2区。標高30.5mの平坦部に位置している。

**重複関係** 北部を第3号土坑に, 中央部やや西寄りを第11号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.51m, 短軸3.75mの長方形である。壁は高さ15cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-50°-Eである。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は見られない。壁際に, 径が10~30cmの凹形や楕円形をし、深さが6~17cmほどの小ピット群が20か所見られ、壁柱穴の可能性が考えられる。

**炉** 確認できなかった。

**ピット** 24か所(その中の20か所は床の項で述べたピット群)。P1~4は配置が不自然であるが、規模から柱穴と考えられる。深さはP1~4が15~30cmである。

**P2土層解説**

- |       |           |       |                          |
|-------|-----------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 |       |                          |

**P3土層解説**

- |       |                 |         |           |
|-------|-----------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量         | 3 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |         |           |

**覆土** 2層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

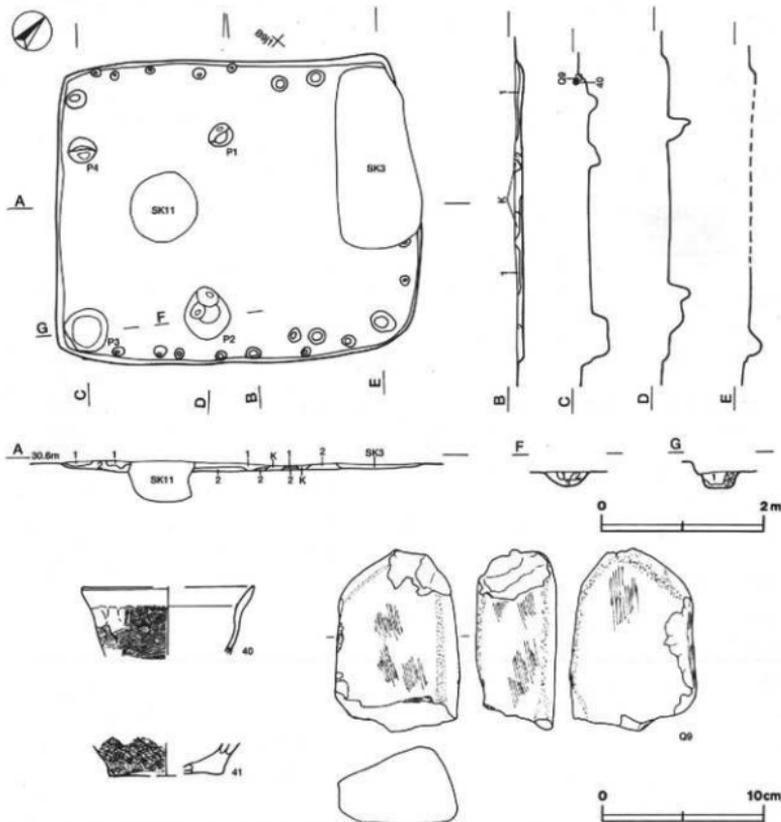
土層解説

1 黒褐色 砂粒少量、ロームブロック微量

2 暗褐色 砂粒少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片23点、敲石1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片2点が出土している。遺物は北西部から出土している。40の土師器小形甕は西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器等から4世紀代と考えられる。



第223図 第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表(第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	小形甕	[10.4]	(4.3)	-	石英・長石・雲母	灰黒	普通	胎面外面指紋による押圧 体部外面ハタ目調整	西部床面	5%
41	弥生土器	甕	-	(2.0)	-	石英・雲母	に灰・赤褐色	普通	横部附加糸二條附加1糸の縄文織文	覆土中	5%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	磨石	[11.2]	7.8	5.0	(570.5)	石英焼石	4面磨りの痕跡有り	西部床面	

## 第17号住居跡 (第224図)

**位置** 調査区の中央部, C9c2区。標高30.6mの平坦部に位置している。

**重複関係** 南側を第1号周溝墓に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.56m, 確認できた短軸4.17mで, 方形あるいは長方形と考えられる。壁は高さ16cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-16°-Wである。

**床** はほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

**炉** 中央部やや東寄りに設けられている。長径90cm, 短径52cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 亦変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので, 比較的短期間の使用と考えられる。

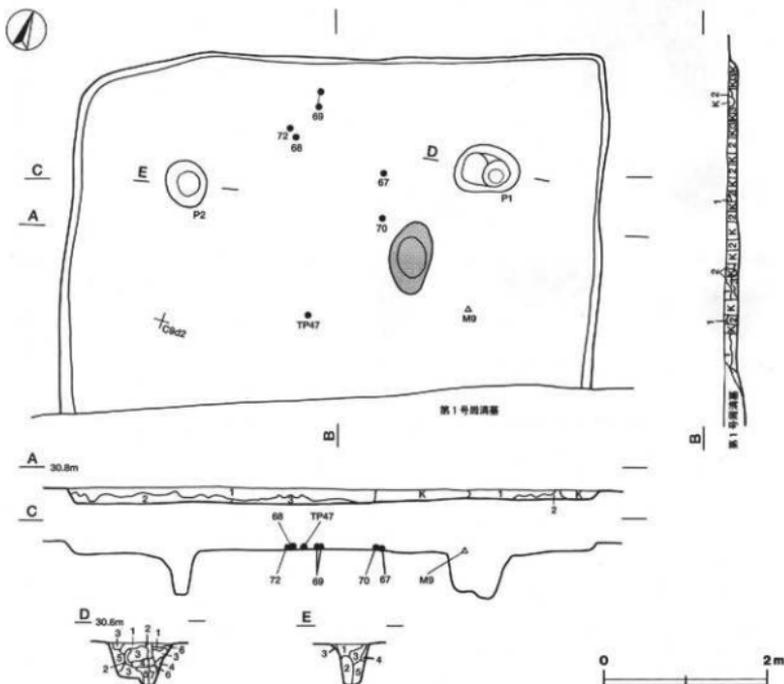
**ピット** 2か所。P1・2は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは54~55cmである。

## P1土層解説

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 5 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 6 灰褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量         |                              |

## P2土層解説

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量  | 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量      |
| 2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 灰褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |                                 |



第224図 第17号住居跡実測図

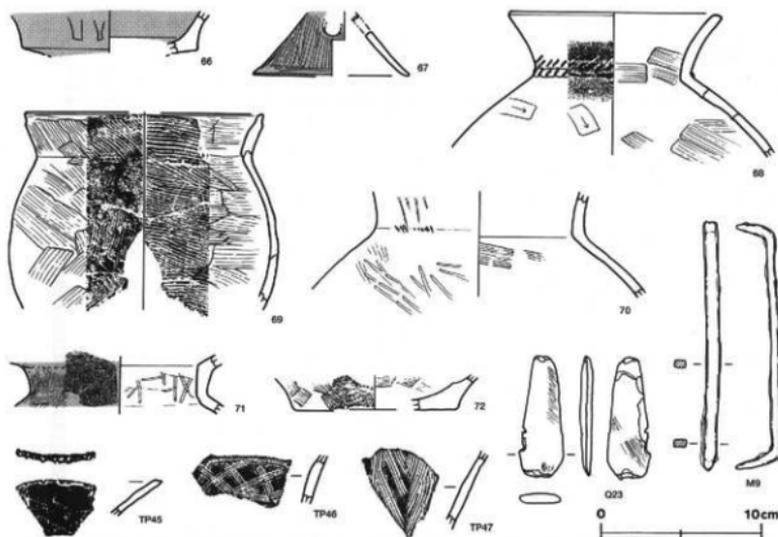
覆土 3層からなる。トレンチャーによる攪乱が激しいが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片167点、弥生土器片43点、不明石製品1点、不明鉄製品1点、礫16点のほか、攪乱等により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。遺物は遺構全体に散在するような状況で出土している。弥生土器片は覆土中からの出土である。67の土師器器台と68の土師器器蓋は北部の床面から出土している。所見 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第225図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表 (第225図)

番号	類別	器種	口径	高さ	底径	土質	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
66	土師器	高坏	-	(2.6)	-	石英・雲母・赤色粒子	明赤顔	普通	内・外面ナデ 内・外面赤彩	東西部覆土中	5%
67	土師器	器台	-	(3.0)	[9.8]	石英・長石	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面ナデ 外面赤彩 脚部側面4孔	中央部床面	5%
68	土師器	蓋	12.6	[9.0]	-	長石・雲母	橙	普通	脚部外面粘土粒残り付後摩削L状の縄文施文、内面ハナ目調整 縁部外面ヘラ磨り、内面ハナ目調整	北西部床面	10%
69	土師器	蓋	[14.8]	[12.3]	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	口・縁部内・外面ハナ目調整	北西部覆土下層	20%
70	土師器	蓋	-	(6.7)	-	長石・雲母	にぶい焼	普通	縁部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	中央部覆土下層	5%
71	土師器	蓋	-	[3.6]	-	石英・雲母	赤	普通	脚部外面ハナ目調整、内面ヘラ磨き 外面赤彩	東西部覆土中	5%
72	土師器	蓋	-	(2.2)	[10.0]	長石・雲母	にぶい赤顔	普通	外面ハナ目調整、内面ヘラナデ	北西部覆土中層	5%
TP45	弥生土器	高坏	-	(2.1)	-	石英・長石・雲母	にぶい焼	普通	口唇部縄文の押圧 口縁部摩削L状の縄文施文	北西部覆土下層	
TP46	弥生土器	蓋	-	(3.0)	-	長石・雲母	灰橙	普通	口縁部4本磨削による格子目文施文	東西部覆土中	
TP47	弥生土器	蓋	-	(4.7)	-	石英・長石・雲母	にぶい焼	普通	脚部4本磨削による格子目文施文	中央部覆土下層	

番号	写真	長さ	幅	厚さ	産地	材質	分類	出土位置	備考
Q23	不明な製品	7.5	2.7	0.6	229	粘板瓦	表式磁質	北西隅出土	
M9	不明な製品	25.4	0.8	0.5	41.6	鉄	寛介 鋼葉長方形 縁の可変性あり	中壁内面	

第19号住居跡 (第226図)

位置 調査区の中央部、C8a3区。標高30.8mの平坦部に位置している。

重複関係 西部が調査区域外となっているため、全体を調査することはできなかった。東コーナー部を第9号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.88m、確認できた短軸2.33mで、方形あるいは長方形と考えられる。壁は高さ14cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-27°-Wである。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉 確認されなかった。

ピット 1か所。P1は南東壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さは12cmである。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

貯蔵穴 北コーナー部に設けられている。長径58cm、短径54cmの円形で、深さは50cmである。

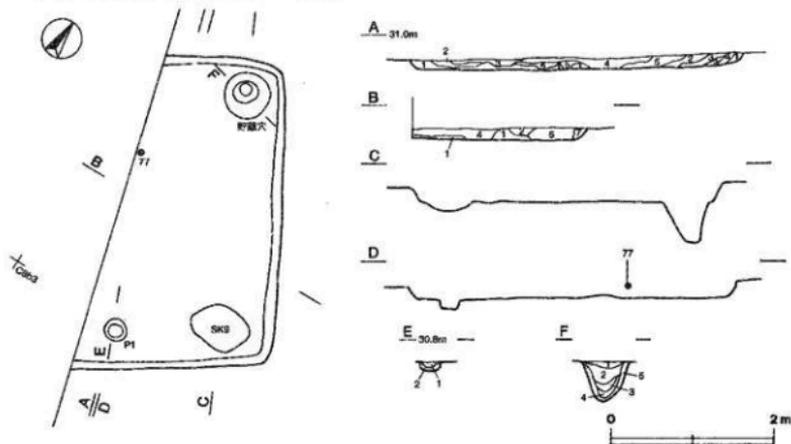
貯蔵穴土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 灰褐色 ローム粒子多量

覆土 7層からなる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

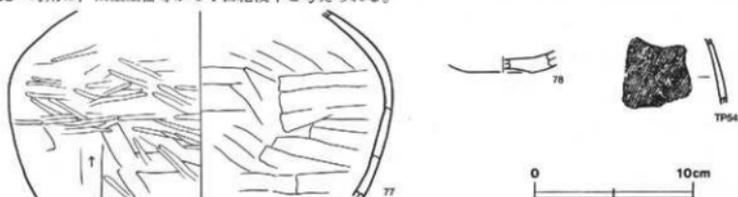
- 1 黒色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 黒色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 黒色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第226図 第19号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片20点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片4点が出土している。遺物は中央部から少量出土している。77の土師器壺は中央部の覆土土層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



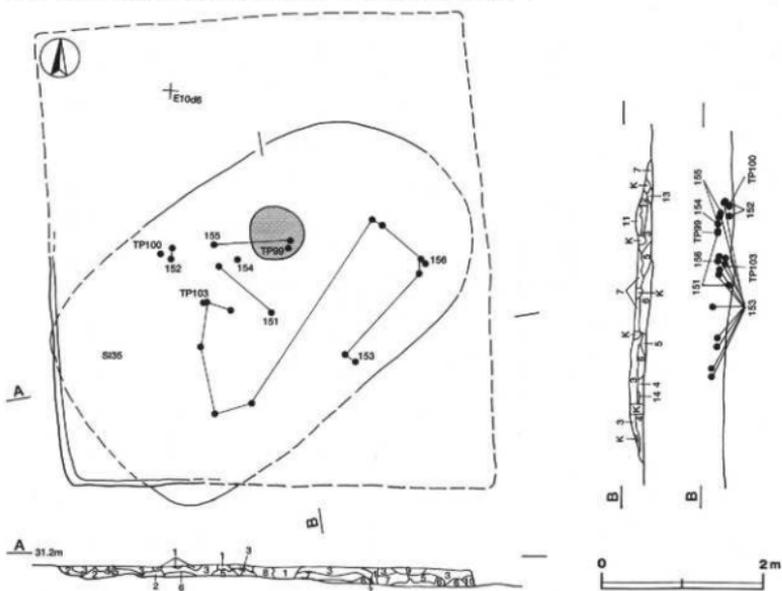
第227図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表 (第227図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	土師器	壺	-	(12.0)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	外部外面へラ削り後へラ磨き、内面へラナデ	中央部覆土中層	10%
78	土師器	小形壺	-	[1.4]	[3.6]	石英・雲母	橙	普通	外部外面ナデ	北西側覆土中	5%
TP54	土師器	壺	-	(3.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外部外面へラ目調整	P 1内覆土中	

### 第33号住居跡 (第228図)

**位置** 調査区の南部、E10d6区。標高31.1mの平坦部に位置している。



第228図 第33号住居跡実測図

**重複関係** 第6号周溝墓の後方部墳丘下で確認し、第35号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 推定長軸5.94m、短軸5.41mの方形と考えられる。壁は高さ15cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-6°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

**炉** 中央部に設けられている。径70cmの円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

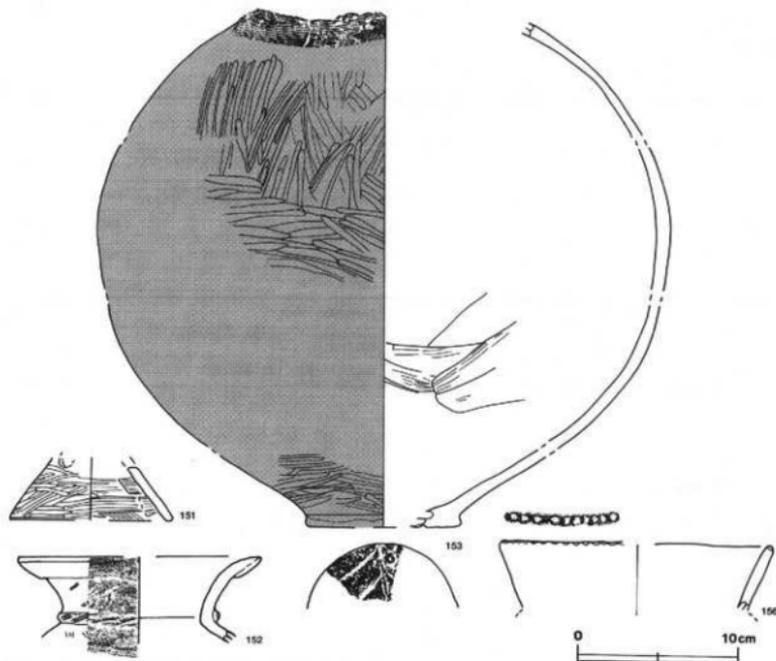
**覆土** 14層からなる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

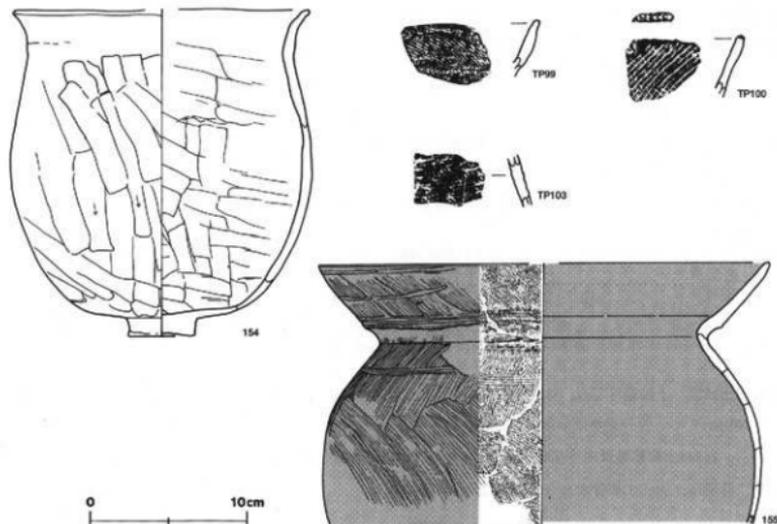
1 灰褐色	粘土質土多量、砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗赤褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 黒色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化材微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、焼土ブロック・粘土粒子微量	11 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 橙褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	13 濃い赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	14 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片75点、弥生土器片7点、礫1点のほか、攪乱等により混入したとみられる縄文土器片4点が出土している。遺物は炉跡の周辺から散在した状況で出土している。152の土師器壺は北西部の覆土中層から、155の土師器壺は中央部の覆土中層から、TP100の弥生土器壺は北西部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から3世紀末葉と考えられる。



第229図 第33号住居跡出土遺物実測図(1)



第230図 第33号住居跡出土遺物実測図(2)

第33号住居跡出土遺物観察表(第229・230図)

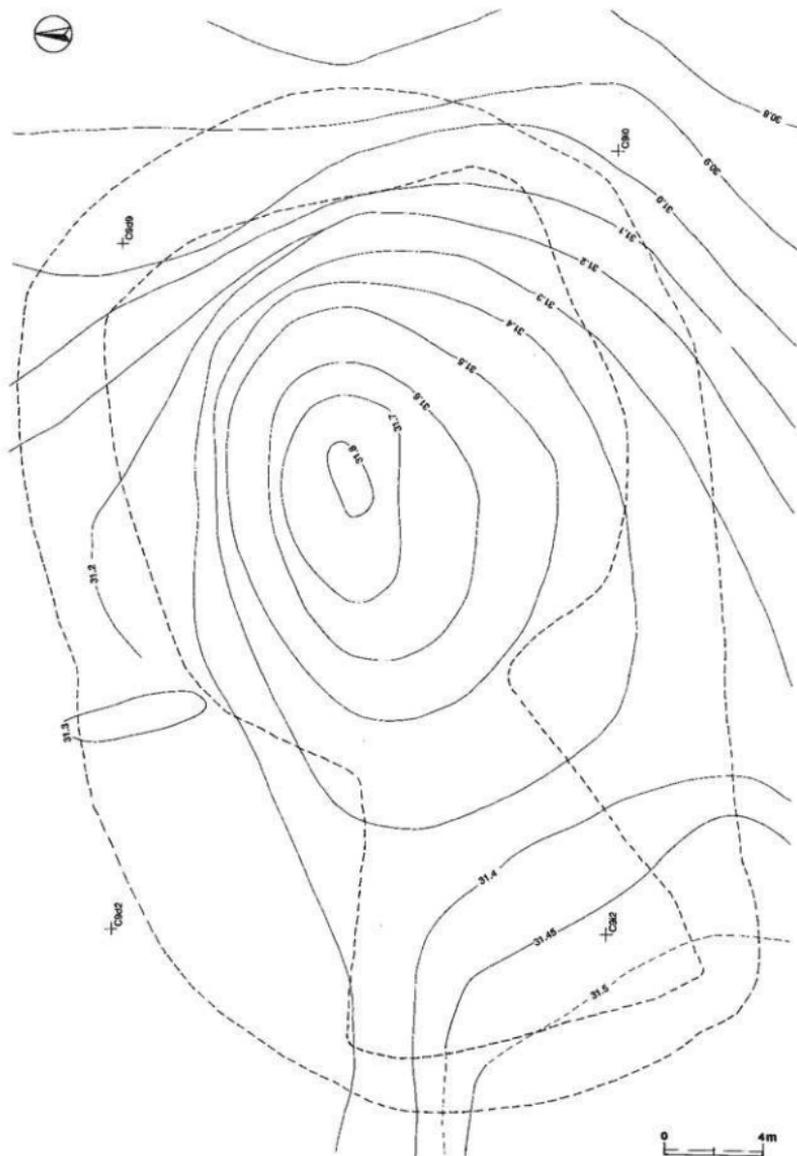
番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成型	手法の特徴	出土位置	発見
151	土師器	器台	—	(3.9)	[9.8]	長石・雲母・礫	にぶい緑	普通	胴部外面へラ磨き、内面ハケ目調整	中央部覆土上層	20%
152	土師器	甕	[18.0]	(5.4)	—	石英・長石	黄	普通	頸部粘土粘り付け 口縁部から胴部縦溝による明角 体部内面ハケ目調整	北西部覆土中層	10% PL68
153	土師器	甕	—	(31.5)	[9.6]	石英・長石・雲母・礫・赤色粘土	明赤褐色	普通	体部外面上端縁面による山形文・縦目状磨文。全面ヘラ磨き、内面ヘラナゲ	東部覆土中層	20%
154	土師器	甕	[18.5]	20.9	4.0	石英・長石・雲母・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ磨り、内面ヘラナゲ	中央部覆土上層	30% PL68
155	土師器	甕	[28.6]	[16.7]	—	石英・長石・礫	浅黄褐色	普通	口・体部外面ハケ目調整 内・外面赤彩	中央部覆土中層	60%
156	弥生土器	甕	[16.8]	(4.1)	—	石英・長石	黄	普通	口縁部縄文の圧痕	東部覆土中層	5%
TP99	土師器	甕	—	(3.3)	—	石英・長石・雲母・赤色粘土	黄	普通	口縁部外面磨文化ナゲ	中央部覆土上層	
TP100	弥生土器	甕	—	(3.6)	—	石英・長石・雲母	にぶい緑	普通	口縁部縄文の正栞 口縁部附加糸一縷(附加1糸)の縄文施文	西部覆土中層	
TP103	弥生土器	甕	—	(3.2)	—	石英・長石・雲母・赤色粘土	にぶい緑	普通	胴部附加糸一縷附加1糸の縄文施文	中央部覆土中層	

## (2) 周溝墓

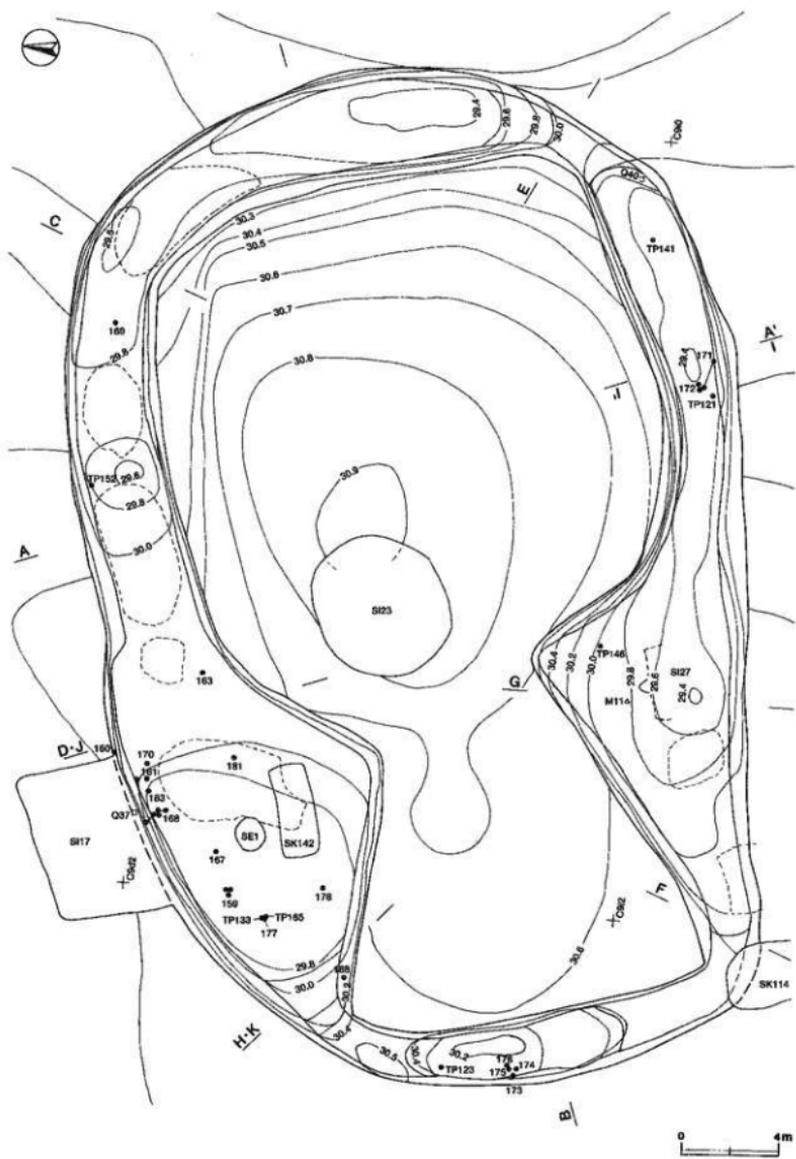
### 第1号周溝墓(第231~234図)

**位置** 調査区の中央部、C9区。標高30.5mの平坦部に位置している。第3号周溝墓の南西方向に、第2号周溝墓の北西方向に位置している。

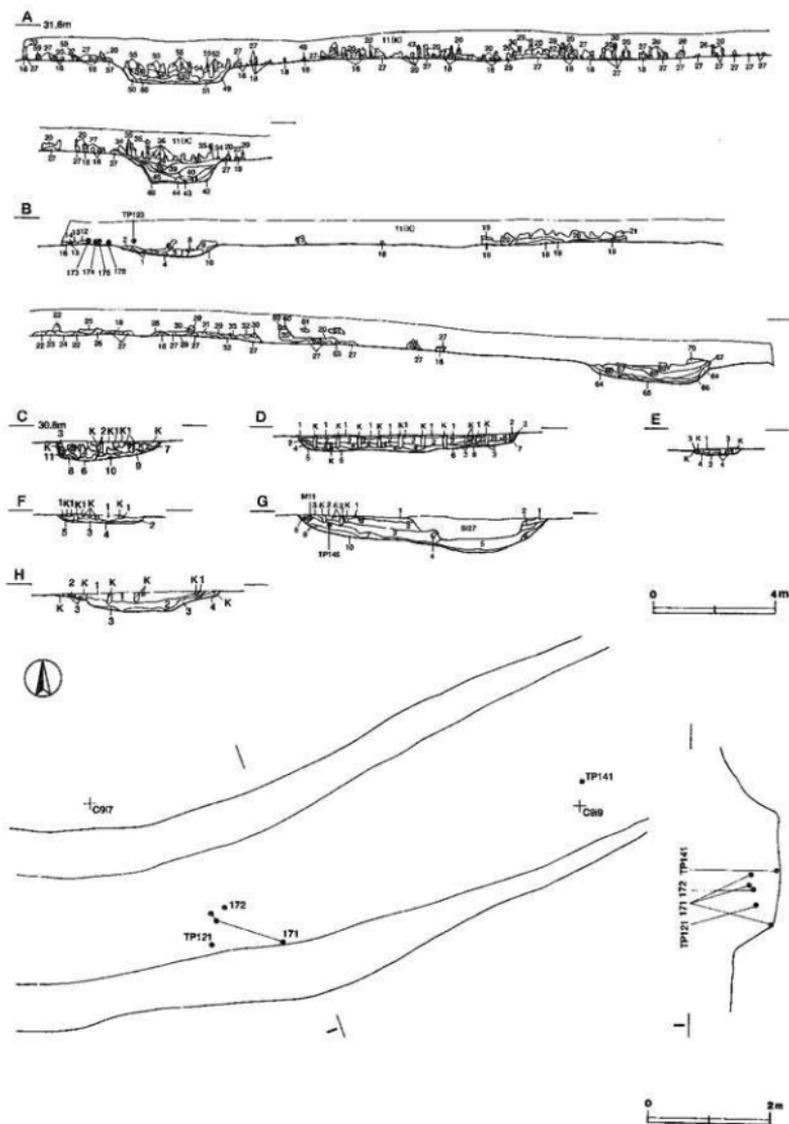
**重複関係** 後方は第23号住居跡の上に構築している。くびれ部の南側周溝の覆土を第27号住居跡に掘り込まれている。くびれ部の北側周溝は第17号住居跡を掘り込んで、第1号井戸と第142号土坑に掘り込まれている。前方部南西コーナー部の周溝は第114号土坑に掘り込まれている。



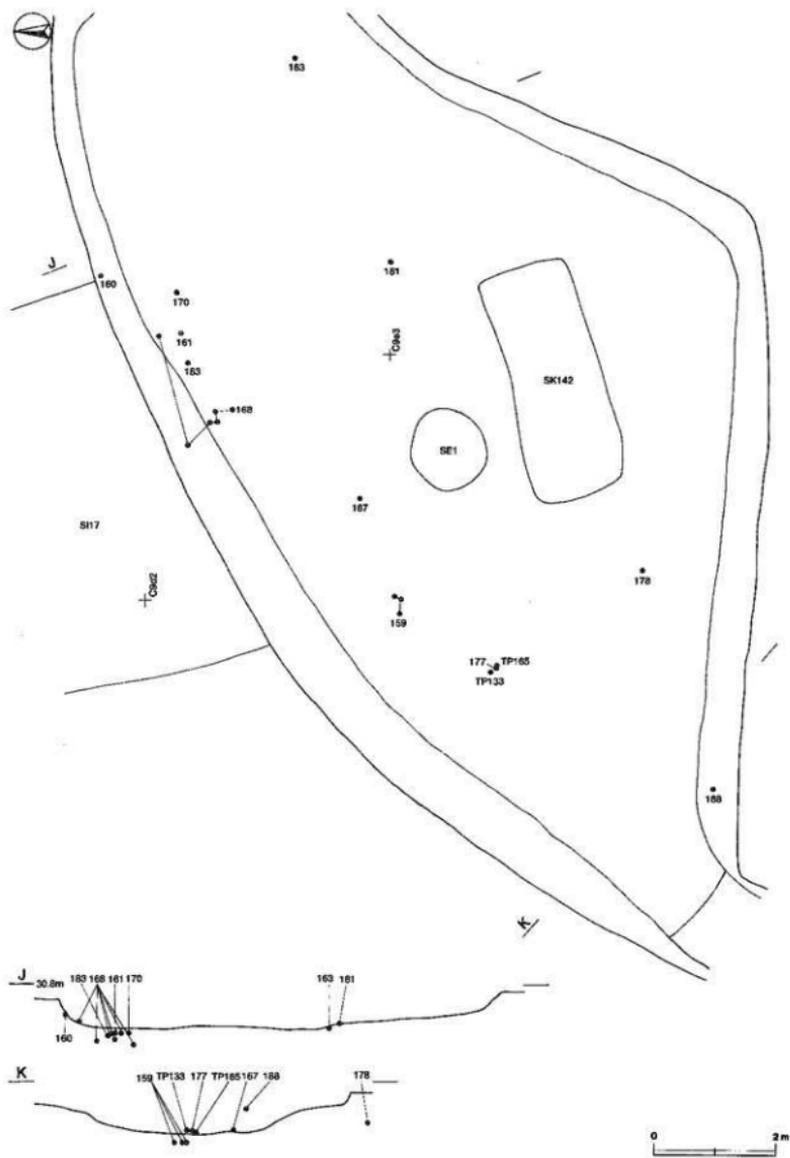
第231図 第1号周溝墓実測図(1)



第232图 第1号周周濠墓实测图(2)



第233図 第1号周溝墓実測図(3)



第234图 第1号沟渠实测图(4)

**規模と形状** 周溝内法で全長35.1mの前方後方形、後方部の平面形は隅丸方形状で、周辺に比べ0.96mほどの高まりが確認できた。前方部長12.9m、後方部長22.2mで、前方部長：後方部長＝約2：3である。前方部幅14.5m、後方部幅20.1mであり、前方部幅：後方部幅＝約2：3である。土層を観察すると現在の耕作による擾乱がほとんどであるが、わずかに封土と考えられるものが見られ、低墳丘と考えられる。第26層が口表土の可能性が考えられる。主軸方向はN-75°Eである。

#### 墳丘土層解説 (A-A', B-B')

1	にぶい褐色	ロームブロック多量	36	黒褐色	ローム粒少量、焼土粒少量、炭化粒子・炭屑パミス微量
2	褐色	ロームブロック少量	37	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒微量
3	灰褐色	ローム粒子中量	38	黒褐色	炭化粒中量、炭屑パミス少量、ローム粒・焼土粒微量
4	にぶい褐色	ロームブロック少量	39	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒・焼土粒微量
5	灰褐色	ロームブロック少量	40	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒微量
6	黒褐色	ローム粒少量	41	褐色	ローム粒少量、炭化粒子微量
7	にぶい褐色	ロームブロック少量	42	黒褐色	ローム粒・炭化粒少量
8	灰褐色	ローム粒少量	43	褐色	ローム粒中量、炭化粒・炭屑パミス少量、焼土粒微量
9	灰褐色	ローム粒少量	44	褐色	ローム粒多量、炭屑パミス少量、焼土粒・炭化粒微量
10	にぶい褐色	ロームブロック中量	45	褐色	ロームブロック・炭屑パミス少量、焼土粒・炭化粒微量
11	褐色	ローム粒少量	46	黒褐色	ローム粒・炭屑パミス少量、焼土粒・炭化粒微量
12	褐色	ローム粒少量	47	褐色	炭化粒少量、ロームブロック・焼土粒微量
13	褐色	ロームブロック微量	48	暗褐色	炭化粒少量、ロームブロック・焼土粒微量
14	暗褐色	ローム粒少量	49	褐色	炭中量、ロームブロック・焼土粒微量、炭化粒子微量
15	灰褐色	ローム粒少量	50	黒褐色	焼土粒・炭化粒少量、ロームブロック・埋没層
16	暗褐色	ロームブロック微量	51	黒褐色	ローム粒・焼土粒少量、炭化粒子微量
17	暗褐色	ローム粒少量	52	黒褐色	炭化粒・焼土粒、ロームブロック・焼土ブロック微量
18	暗褐色	ロームブロック・炭化粒・炭屑パミス微量	53	黒褐色	炭化粒少量、ローム粒・焼土粒・砂微量
19	黒褐色	炭化粒中量、ローム粒・炭屑パミス微量	54	黒褐色	炭化粒中量、ロームブロック・焼土粒微量
20	灰褐色	ロームブロック・炭化粒・炭屑パミス少量、焼土粒微量	55	黒褐色	ローム粒・炭化粒中量、焼土粒微量
21	黒褐色	炭化粒中量、ローム粒・焼土粒微量	56	黒褐色	ロームブロック・炭化粒少量、焼土粒微量
22	黒褐色	炭化粒中量、ロームブロック・焼土粒微量	57	暗褐色	炭化粒少量、ロームブロック微量
23	黒褐色	炭化粒中量、焼土粒・炭屑パミス少量、ローム粒微量	58	黒褐色	炭化粒少量、ロームブロック・焼土粒微量
24	黒褐色	炭屑中量、焼土粒少量、ローム粒・炭屑パミス微量	59	黒褐色	ロームブロック・炭化粒少量、焼土粒微量
25	黒褐色	ローム粒・炭化粒少量、焼土粒・炭屑パミス微量	60	黒褐色	炭化粒中量、ロームブロック少量、焼土粒微量
26	黒褐色	炭化粒少量、ロームブロック・焼土粒微量	61	黒褐色	ローム粒・炭化粒少量、炭屑パミス微量
27	暗褐色	ローム粒少量、炭化粒・焼土粒微量	62	暗褐色	炭化粒少量、ロームブロック・炭化粒少量、焼土粒微量
28	暗褐色	炭屑中量、焼土粒少量、ローム粒・炭屑パミス微量	63	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒少量、焼土粒微量
29	暗褐色	炭化粒少量、ローム粒・赤色粒少量	64	黒褐色	ローム粒・炭化粒・焼土粒・炭屑微量
30	黒褐色	ローム粒・炭化粒少量、焼土粒微量	65	黒褐色	炭化粒中量、ローム粒・焼土粒・埋没層
31	灰褐色	炭化粒・炭屑、ロームブロック微量	66	黒褐色	炭化粒中量、ロームブロック・焼土粒微量
32	黒褐色	炭化粒・赤色粒少量、ロームブロック・焼土粒微量	67	黒褐色	炭化粒中量、ローム粒・焼土粒・埋没層
33	黒褐色	ローム粒・炭化粒少量、焼土粒微量	68	黒褐色	炭化粒中量、ローム粒・焼土粒・埋没層
34	灰褐色	ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量	69	黒褐色	炭化粒少量、ローム粒・焼土粒
35	黒褐色	ローム粒・炭化粒少量、焼土粒・炭屑パミス微量	70	黒褐色	炭化粒少量、ローム粒微量

**周溝** 全周している。前方部の北西コーナー部と南西コーナー部、後方部の南東コーナー部の掘り込みは浅くなっている。規模は上幅1.9～4.6m、下幅1.3～3.6mで、深さ0.18～0.84mである。後方部の南東コーナー部では上幅1.9m、下幅1.3mで、深さ0.18mと、極端に狭く浅くなっている。くびれ部の幅広の箇所では上幅8.9～10.3m、下幅7.9～8.8mで、深さ0.65～0.77mと極端に広がっている。覆土はほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

##### C-C'

1	黒褐色	焼土粒・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒中量
2	黒褐色	ローム粒・焼土粒・炭化粒子微量	8	にぶい褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒微量	9	灰褐色	ロームブロック中量、焼土粒少量
4	暗褐色	ローム粒・焼土粒微量	10	にぶい褐色	ロームブロック中量
5	灰褐色	ローム粒少量、炭化粒子微量	11	にぶい褐色	ロームブロック少量
6	灰褐色	ローム粒少量			

##### D-D'

1	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量	5	明褐色	ローム粒多量
2	黒褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	砂多量、ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック少量	7	明褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭屑パミス微量			

##### F-E'

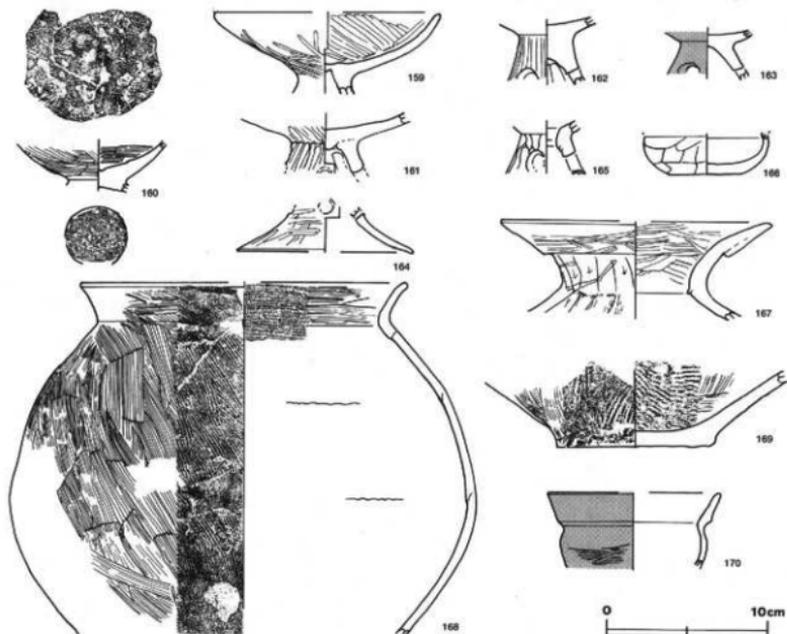
1	黒褐色	ローム粒・炭化粒中量、焼土粒微量	3	褐色	ローム粒中量、焼土粒・炭化粒少量
2	黒褐色	ローム粒・炭化粒中量、炭屑パミス少量、焼土粒微量	4	暗褐色	ローム粒中量、炭屑パミス少量、炭化粒微量

F-F'					
1	黒褐色	ローム粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子中量、鹿沼パミス少量
2	黒褐色	ローム粒子少量、鹿沼パミス微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック・鹿沼パミス微量			
G-G'					
1	黒褐色	ローム粒子少量、砂粒微量	6	暗褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量	7	灰褐色	泥多量、ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	明褐色	ローム粒子多量
4	暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・糠微量	10	褐色	ロームブロック少量
H-H'					
1	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量	3	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量	4	明褐色	ローム粒子多量

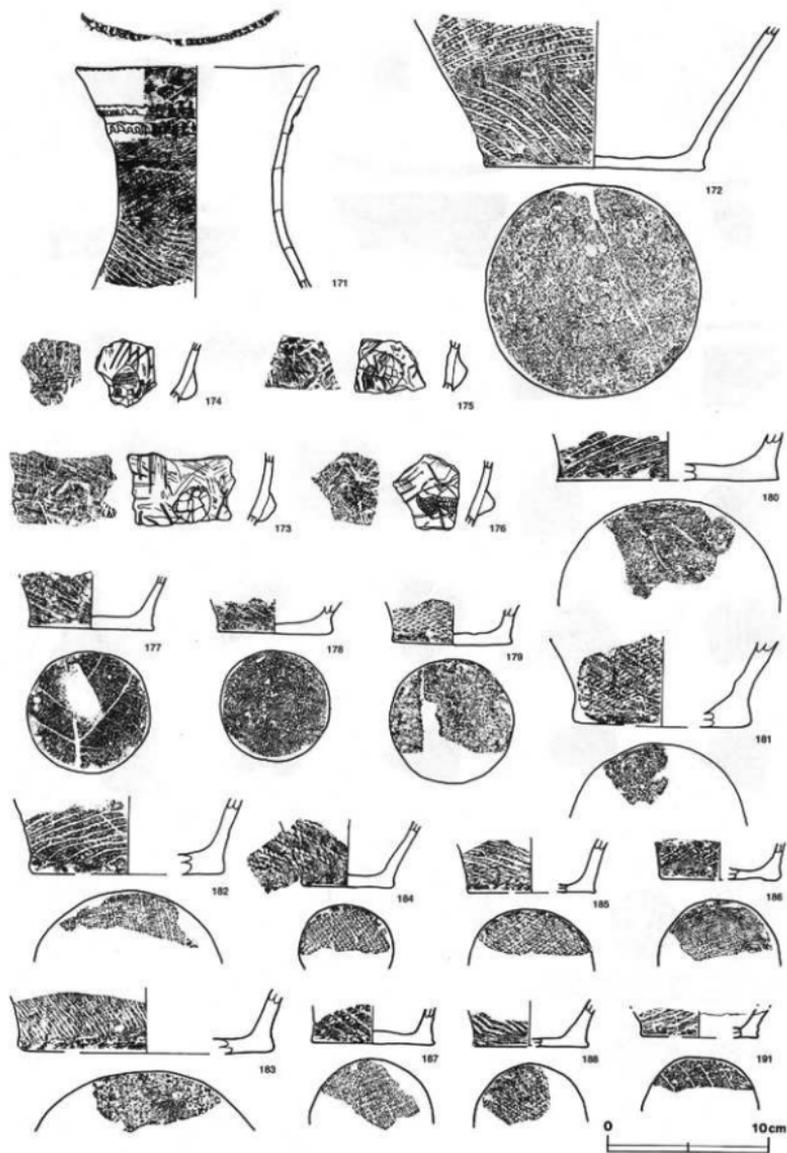
**埋葬施設** 封土を丁寧に下げていったが確認されなかった。最初から作らなかった可能性も考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片659点、弥生土器片1349点、土製紡錘車1点、磨石1点、剥片1点、瑪瑙の原石1点、不明石製品1点、礫25点、鉄鎌1点、不明鉄製品1点のほか、攪乱等により混入したとみられる須恵器片54点、陶器片6点、鉄滓（鉄分有り）1点が周溝から出土している。北側のくびれ部や後方部の北側と南側、前方部西側から集中して出土している。159・P161の土師器高坏、167の土師器壺、168の土師器甕、177の弥生土器壺は北側のくびれ部の底面から、178の弥生土器壺は覆土下層から、160の土師器高坏は覆土中層から出土している。171・172の弥生土器壺は後方部南側の覆土下層から、173・174の弥生土器壺は前方部西側の覆土中層から出土している。

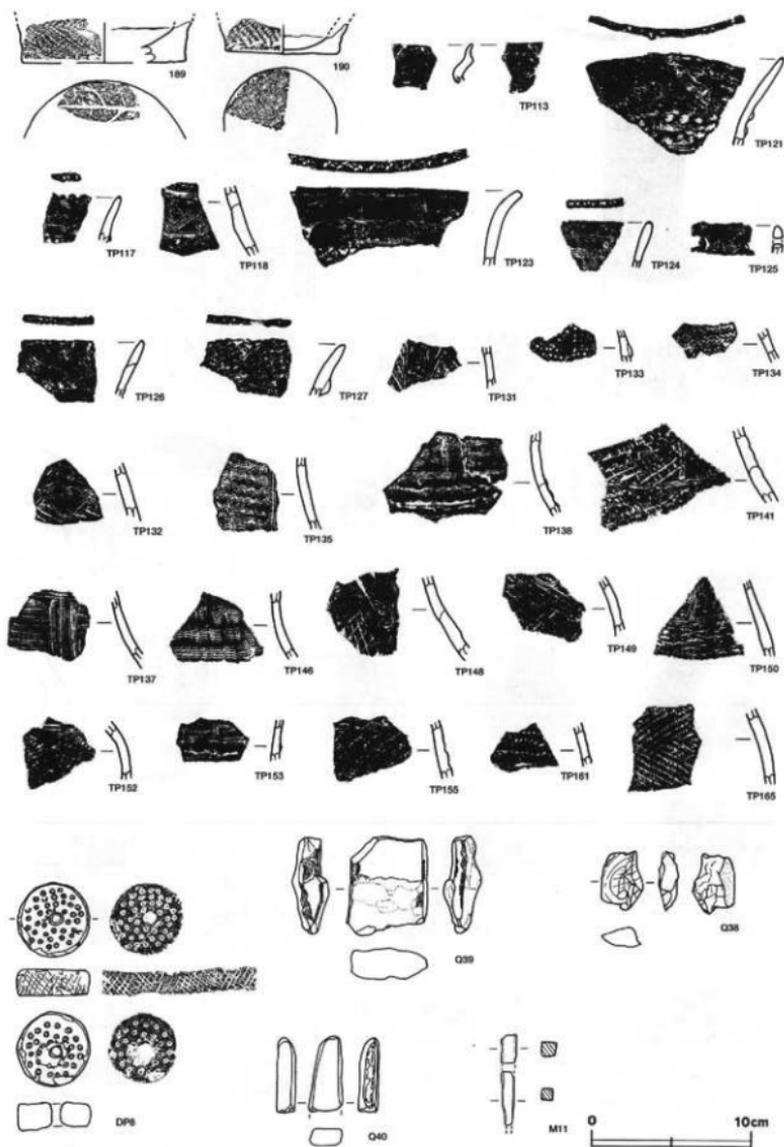
**所見** 時期は、出土遺物から4世紀前半と考えられる。重複している古墳時代前期の第17号住居跡よりは新しいが、時期差はほとんどないと考えられる。同じ墳形の第6号周溝墓と主軸方向がほぼ一致している。



第235図 第1号周溝墓出土遺物実測図(1)



第236图 第1号周溝墓出土遺物実測図(2)



第237图 第1号周溝墓出土遺物実測図(3)

第1号周溝墓出土遺物観察表(第235~237図)

番号	種類	図録	寸法	重量	産地	色別	特徴	出土地	割合		
139	土師器	高杯	74.0	28.1	-	石炭・長石・赤色粘土	2.0~1.5倍	普通	杯部内・外縁ヘラつき	くびれ部は流土埋没中	40% PL39
140	土師器	高杯	-	43.1	-	石炭・長石・赤色粘土	2.0~1.5倍	特殊	杯部外縁ヘラつき、内側ヘラ直線、器部内縁ヘラ直線	くびれ部は流土埋没中	10%
141	土師器	高杯	-	43.6	-	石炭・雲母	普通	普通	杯部外縁ヘラつき、飾部内縁ヘラつき、内側ヘラ直線、器部内縁ヘラ直線	くびれ部は流土埋没中	10%
142	土師器	高杯	-	42.0	-	石炭・長石・雲母	普通	普通	飾部外縁ヘラつき、内側ヘラ直線、器部内縁ヘラ直線	くびれ部は流土埋没中	5%
143	土師器	高杯	-	32.2	-	石炭・長石・雲母	普通	普通	器部外縁ヘラつき、内側直線	後方部は流土埋没中	5%
144	土師器	高杯	-	22.9	30.6	長石・雲母	特殊	普通	飾部外縁ヘラ直線、器部外縁ヘラ直線	後方部は流土埋没中	5%
145	土師器	器台	-	33.4	-	雲母	特殊	特殊	飾部外縁ヘラつき	後方部は流土埋没中	5%
146	土師器	片	-	22.6	4.0	石炭・長石	流土埋没	普通	流土埋没ヘラつき	後方部は流土埋没中	10%
147	土師器	片	-	16.7	6.1	長石・雲母・赤色粘土	2.0~1.5倍	普通	口縁部内・外縁及び器部内縁ヘラつき、器部外縁ヘラ直線	くびれ部は流土埋没中	10% PL40
148	土師器	片	-	20.5	22.0	石炭・長石・雲母・赤色粘土	普通	普通	口縁部内・外縁及び器部外縁ヘラ直線	くびれ部は流土埋没中	20%
149	土師器	片	-	14.8	9.8	石炭・長石・赤色粘土	2.0~1.5倍	普通	器部内・外縁ヘラ直線	後方部は流土埋没中	10%
150	土師器	小形器	10.6	4.2	-	雲母・赤色粘土	特殊	普通	外縁外縁ヘラつき、外縁直線	くびれ部は流土埋没中	20%
151	土師器	口門部	16.0	13.7	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	口縁部外縁の直線、器部外縁ヘラ直線	後方部は流土埋没中	20% PL40
152	赤土土器	器	-	69.2	13.4	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁ヘラ直線、器部外縁ヘラ直線	後方部は流土埋没中	20%
153	赤土土器	器	-	5.5	-	石炭・長石・雲母	普通	普通	器部外縁直線	前方部は流土埋没中	5% PL40
154	赤土土器	器	-	44.2	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	前方部は流土埋没中	5%
155	赤土土器	器	-	13.4	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	前方部は流土埋没中	5%
156	赤土土器	器	-	44.6	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	前方部は流土埋没中	5%
157	赤土土器	器	-	33.4	7.6	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	前方部は流土埋没中	5%
158	赤土土器	器	-	21.1	7.0	石炭・長石・雲母	特殊	普通	飾部外縁直線	くびれ部は流土埋没中	5%
159	赤土土器	器	-	22.6	7.6	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
160	赤土土器	器	-	53.0	13.8	石炭・長石・雲母・赤色粘土	流土埋没	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
161	赤土土器	器	-	34.9	11.0	石炭・長石・雲母・赤色粘土	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
162	赤土土器	器	-	44.7	11.6	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
163	赤土土器	器	-	34.1	15.0	石炭・長石・雲母・赤色粘土	普通	普通	飾部外縁直線	くびれ部は流土埋没中	5%
164	赤土土器	器	-	44.1	8.7	石炭・長石・雲母	特殊	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
165	赤土土器	器	-	34.4	7.8	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
166	赤土土器	器	-	24.1	17.4	石炭・長石・雲母・赤色粘土	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
167	赤土土器	器	-	24.9	7.6	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
168	赤土土器	器	-	22.6	7.0	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
169	赤土土器	器	-	22.3	10.1	石炭・長石・雲母・赤色粘土	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
170	赤土土器	器	-	11.8	7.1	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
171	赤土土器	器	-	16.7	7.5	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	飾部外縁直線	後方部は流土埋没中	5%
TP113	土師器	台付器	-	22.1	-	石炭・長石・雲母	普通	普通	器部内・外縁ヘラ直線、S字状直線	くびれ部は流土埋没中	
TP117	赤土土器	器	-	22.9	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP118	赤土土器	器	-	6.1	-	雲母	普通	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP121	赤土土器	器台	-	5.4	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP123	赤土土器	器	-	4.2	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP125	赤土土器	器	-	22.6	-	石炭・長石・雲母	特殊	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP126	赤土土器	小形器	-	3.7	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP128	赤土土器	器	-	33.3	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP129	赤土土器	器	-	32.2	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	
TP134	赤土土器	器	-	22.3	-	石炭・長石・雲母	2.0~1.5倍	普通	器部外縁直線	後方部は流土埋没中	

番号	種別	巻形	口徑	器高	底径	胎土	胎色	胎質	胎文	手法の考案	出土位置	備考
TP32	赤土土器	空	—	(3.6)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底4本脚面による環状支脚文・脚部環状文の上を閉じた線の縄文	後方部沼津南側土中	
TP33	赤土土器	空	—	(2.2)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底3本脚面による環状支脚文・脚部環状文の上を閉じた線の縄文	くびれ部沼津北側土中	
TP34	赤土土器	空	—	(1.8)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底3本脚面による環状支脚文	くびれ部沼津北側土中	
TP35	赤土土器	空	—	(1.5)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底4本脚面による環状区画・区画内に環状支脚文	後方部沼津南側土中	
TP37	赤土土器	空	—	(1.0)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底5本脚面による環状区画・区画内に環状支脚文	後方部沼津南側土中	
TP38	赤土土器	空	—	(5.0)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底4本脚面による環状区画・器内面に環状支脚文・器底部加敷による縄文	後方部沼津南側土中	
TP41	赤土土器	空	—	(1.8)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底4本脚面による環状区画・器内面に格子目支脚文・器底部加敷の縄文	後方部沼津南側土中	
TP46	赤土土器	空	—	(4.0)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底6本脚面による環状支脚文	くびれ部沼津南側土中	
TP49	赤土土器	空	—	(1.5)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底5本脚面による環状支脚文	後方部沼津南側土中	
TP49	赤土土器	空	—	(3.2)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文・器底部加敷・器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文	後方部沼津南側土中	
TP50	赤土土器	空	—	(4.8)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底3本脚面による環状区画・器内面に環状支脚文・器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文	後方部沼津南側土中	
TP52	赤土土器	空	—	(3.7)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底4本脚面による環状区画・器内面に格子目支脚文・器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文	後方部沼津南側土中	
TP53	赤土土器	空	—	(2.4)	—	白灰・長石	赤	滑	無	器底4本脚面による環状区画・器内面に格子目支脚文・器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文	後方部沼津南側土中	
TP55	赤土土器	空	—	(3.6)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文・器底部加敷	後方部沼津南側土中	
TP61	赤土土器	空	—	(2.6)	—	白灰・長石・雲母	赤	滑	無	器底部加敷の縄文支脚文・器底部加敷	後方部沼津南側土中	
TP65	赤土土器	空	—	(1.8)	—	白灰・長石・雲母・赤褐色粒子	赤	滑	無	器底部加敷一列附け1本の縄文支脚文・器底部加敷	くびれ部沼津北側土中	

番号	器種	長さ(径)	幅(口徑)	厚さ	重量	材質	胎文	出土位置	備考
DF8	助磨器	4.6	0.7	1.6	362	土	上下側削文・前面格子目文・器底環状文	後方部沼津南側土中	100% PL50
Q37	石皿	21.6	12.0	8.7	2767.8	砂岩	内面分溝環状有り	くびれ部沼津南側土中	木筒状
Q38	陶片	3.7	2.6	1.2	11.1	チャート	上部からの打穿による割破	くびれ部沼津北側土中	
Q39	不明石製品	6.1	5.0	2.3	79.0	珪岩	割裂した凹痕	くびれ部沼津南側土中	久慈川産
Q40	不明石製品	(4.7)	2.0	1.1	(266)	磁石質	表面丁寧な磨削、小形の柱状突起の彫刻	後方部沼津南側土中	
M11	鉄鏝	(5.1)	0.9	0.9	(5.9)	鉄	鎌倉型・底面欠損・表面磨削有り	くびれ部沼津南側土中	

## 第2号周溝墓(第238~240図)

位置 調査区の中央部、C10~D11区。標高30.0mの平坦部から台地の縁辺部にかけての場所に位置している。

第1・3号周溝墓の南東方向に位置している。

重複関係 北側周溝上に第24号住居が床を貼って構築されている。

規模と形状 周溝内法で全長27.5mの前方後方形で、後方部はほぼ整然とした方形で、周辺に比べ0.6mほどの高まりが確認できた。前方部長9.5m、後方部長18.0mであり、前方部長：後方部長=1：2である。前方部幅12.0m、後方部幅16.1mであり、前方部幅：後方部幅=1：3である。トレンチャーによる掘削が激しくて旧表土は確認できなかった。主軸方向はN-19°-Wである。

### 墳丘土層解説(A-A', B-B', C-C')

1	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	赤褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・炭化粒子微量
7	赤褐色	ロームブロック多量	17	赤褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量	18	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子多量	19	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

21	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・雑草	52	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
22	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	53	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
23	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	54	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
24	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	55	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
25	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	56	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
26	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	57	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
27	にがい褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	58	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
28	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	59	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
29	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	60	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
30	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	61	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
31	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	62	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
32	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	63	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
33	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	64	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
34	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	65	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
35	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	66	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
36	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	67	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
37	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	68	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
38	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	69	黒褐色	雑草多量・ローム粒子少量
39	黒褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	70	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
40	黒褐色	ローム粒子微量	71	暗褐色	ローム粒子少量・雑草多量
41	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・雑草	72	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
42	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・雑草	73	暗褐色	雑草多量・ローム粒子少量
43	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・雑草	74	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
44	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	75	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
45	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	76	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
46	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	77	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
47	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	78	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
48	にがい褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量	79	暗褐色	雑草多量・ローム粒子少量
49	暗褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量	80	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
50	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	81	暗褐色	ローム粒子少量・雑草多量
51	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	82	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量

周溝 全周している。後方部の北西コーナー部の掘り込みは浅くなっている。規模は上幅2.8~4.0m, 下幅1.7~2.8mで、深さ0.28~0.8mである。後方部の北西コーナー部では上幅3.2m, 下幅2.3mで、深さ0.28mと、幅には変化はないが浅くなっている。くびれ部の幅広の箇所では上幅8.5m, 下幅6.1mで、深さ0.7mと極端に広くなっている。覆土はほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

## D-D

1	黒褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	3	黒褐色	ローム粒子少量・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量			

## E-E

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量・焼土粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	炭中量・焼土粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量

## F-F

1	黒褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック中量・雑草少量
2	暗褐色	ロームブロック少量・雑草			

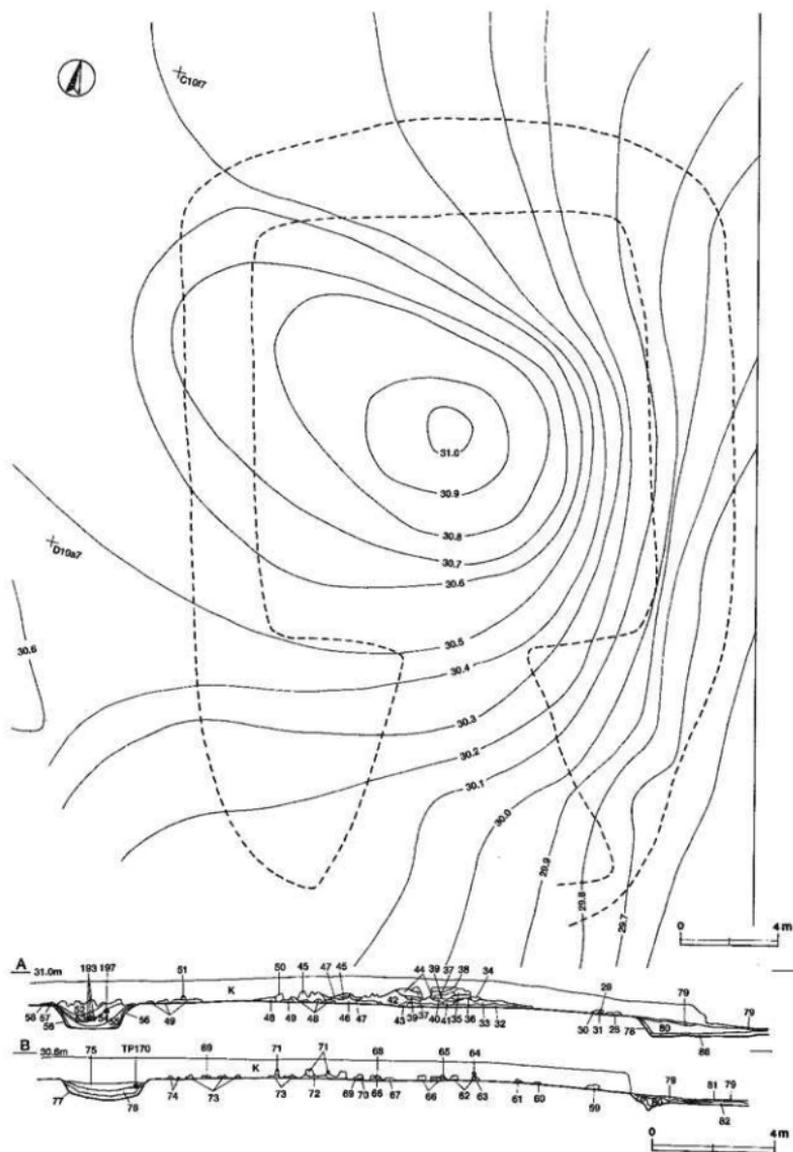
## G-G

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック中量			

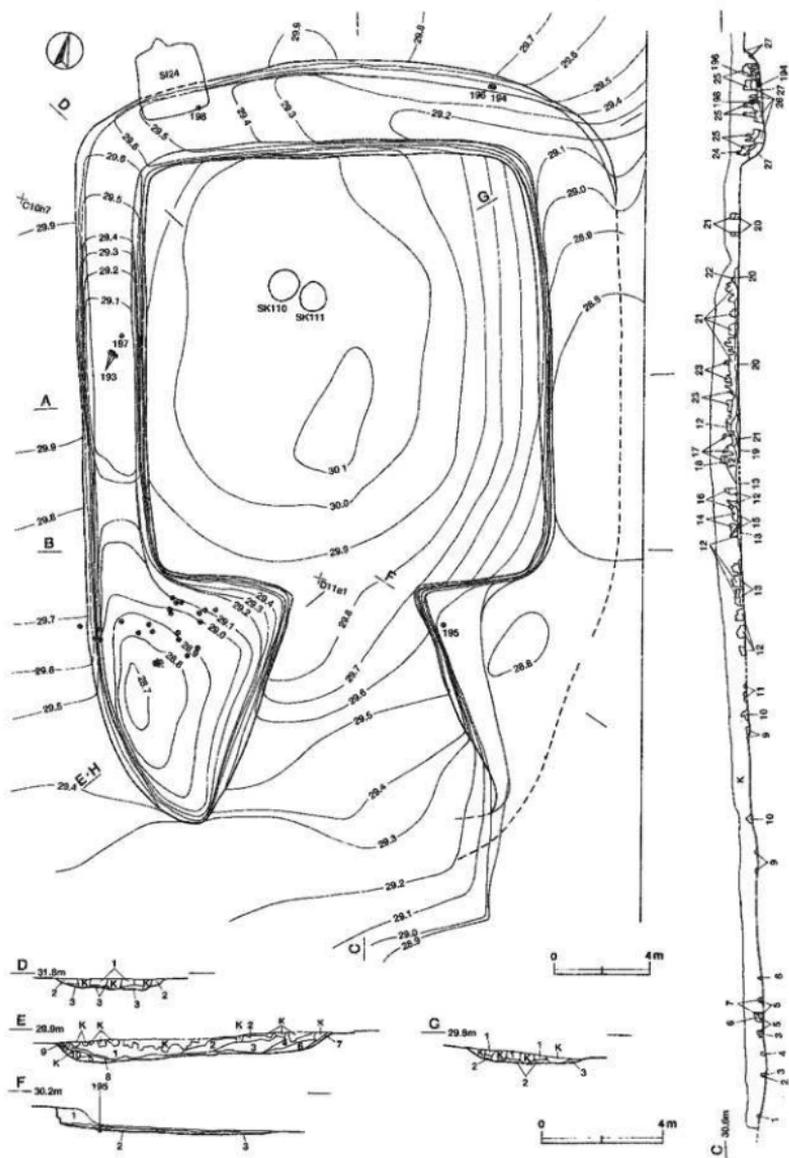
埋葬施設 封土を丁寧に下げていったが確認されなかった。最初から作らなかった可能性も考えられる。

遺物出土状況 土師器片265点(内50点ほどは平安時代のもので混入したもの)、弥生土器片55点、鉄線2点、不明鉄製品2点、燧石17点のほか、掘削等により混入したとみられる須恵器片89点、緑釉陶器1点、燧石1点、鉄線4点が周溝から出土している。後方部の西側や北側、くびれ部の外側から集中して出土している。平安時代の土師器片や須恵器片、緑釉陶器、燧石、鉄線は周溝西側のくびれ部の内側から投棄された状態で出土している。192の土師器片は西側のくびれ部の外側の底面から、193の土師器片は外側の覆土中層から、195の土師器片は東側のくびれ部の底面から出土している。194・196の土師器片は後方部の北側の覆土下層から、197の弥生土器片は後方部の西側の覆土中層から出土している。

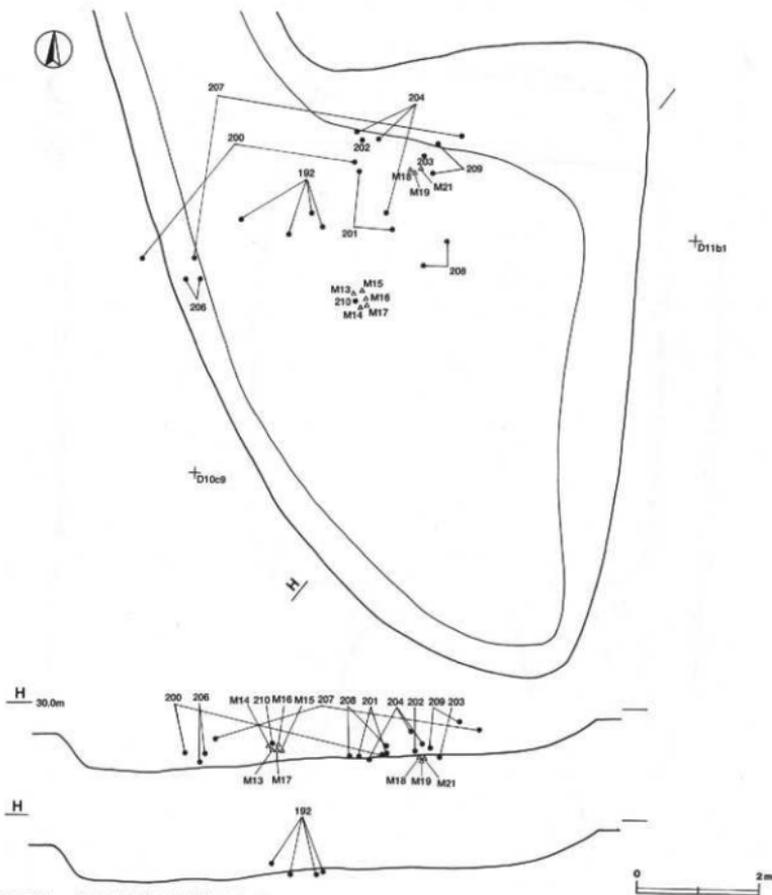
所見 時期は、出土遺物から4世紀前半と考えられる。



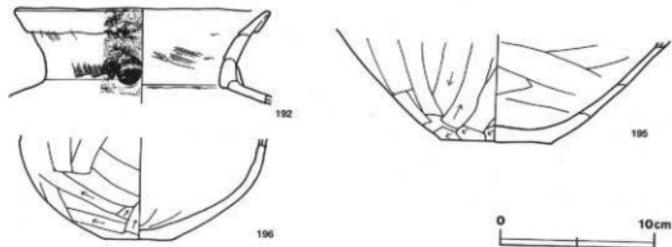
第238图 第2号周溝墓实测图(1)



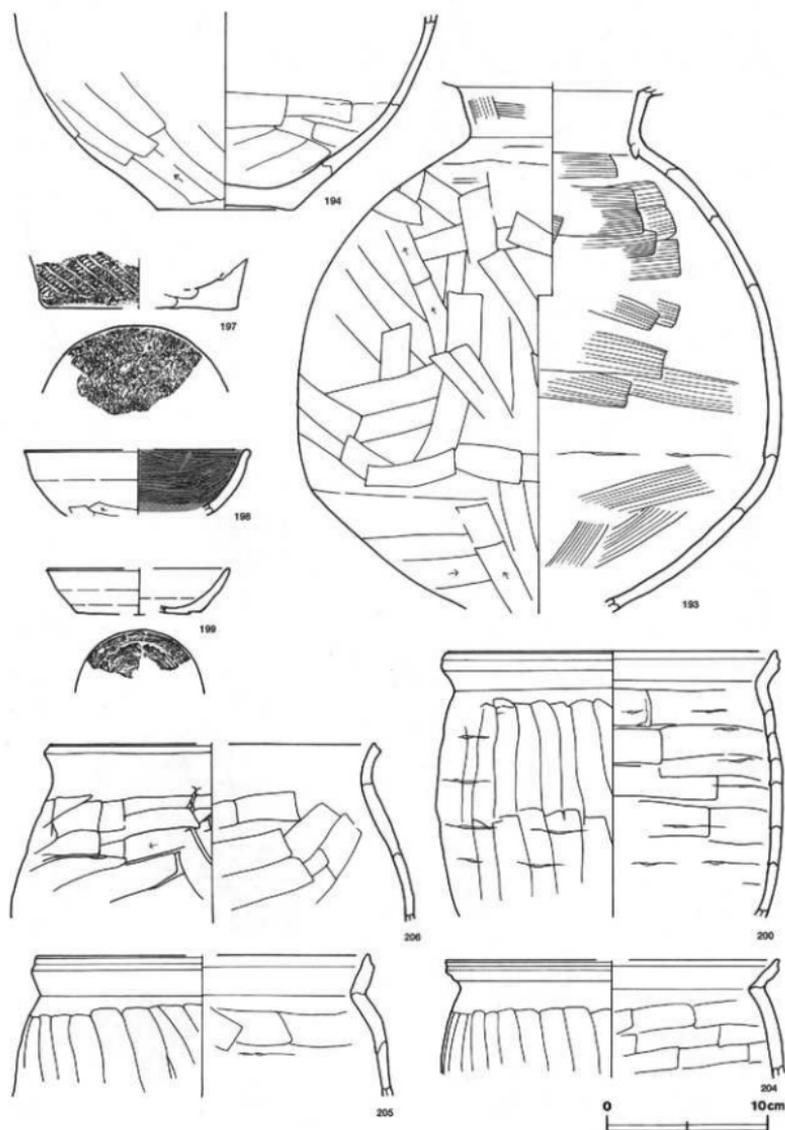
第239図 第2号周溝墓実測図(2)



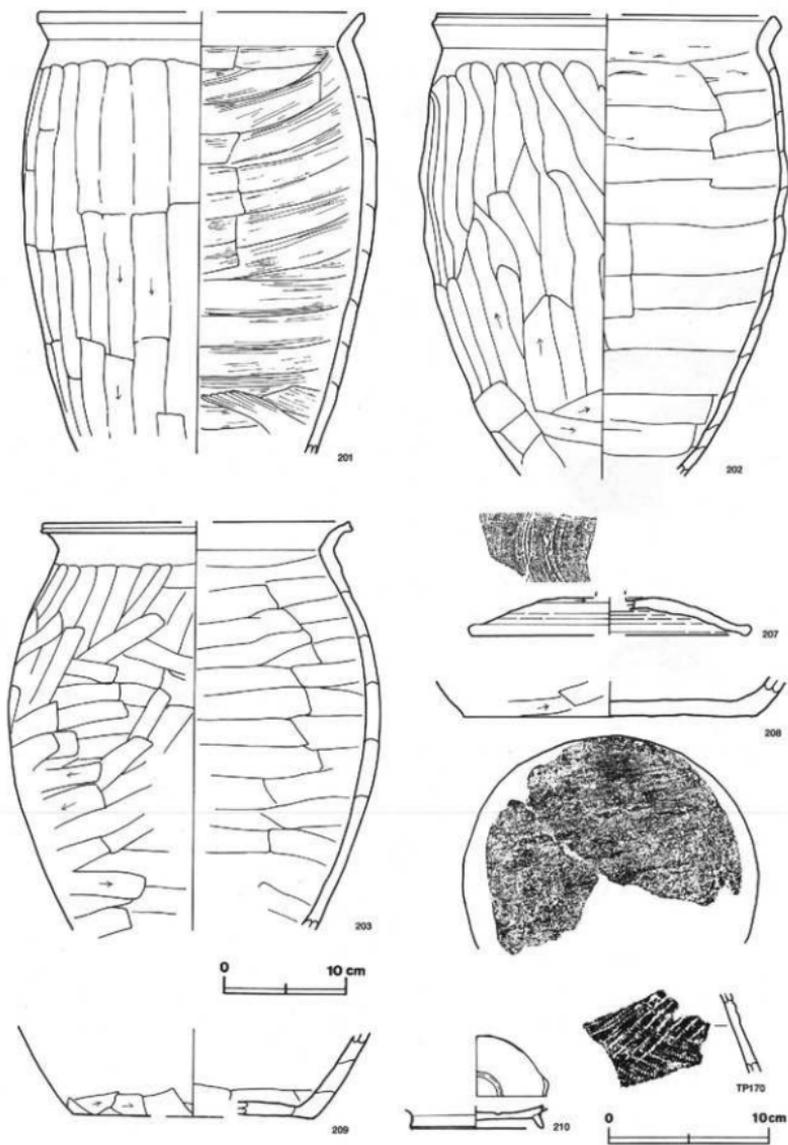
第240图 第2号周溝墓实测图(3)



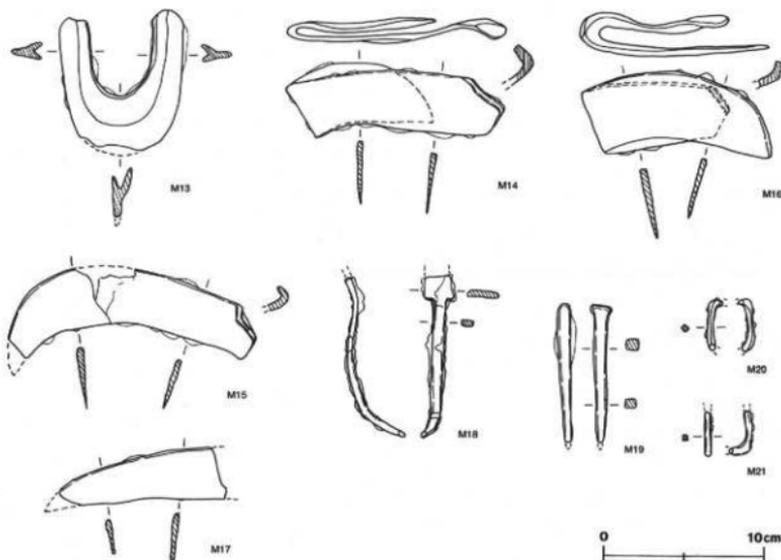
第241图 第2号周溝墓出土遗物实测图(1)



第242図 第2号周溝墓出土遺物実測図(2)



第243图 第2号周墓出土遗物实测图(3)



第244図 第2号周溝墓出土遺物実測図(4)

第2号周溝墓出土遺物観察表(第241~244図)

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
192	土師器	甕	16.6	(6.0)	—	石英・長石・雲母・糠	橙	普通	胎面に凹彫浮文、胎器内・外両面にハケ目調	くびれ部周溝西内側墓上	5% PL49
193	土師器	皿	—	(33.4)	—	石英・長石・雲母・赤色粘土・糠	にぶい橙	普通	胎器外側面にハケ目調 胎器外側ヘラナデ・ヘラ削り、内面強いハケ目調	溝溝西内側墓上	70% PL49
194	土師器	甕	—	(12.4)	8.5	石英・長石・雲母・赤色粘土・糠	にぶい橙	普通	胎器外側ヘラ削り、内面ヘラナデ	後方部周溝北側墓上ノ墓	10%
195	土師器	甕	—	(6.9)	7.0	石英・長石・雲母・赤色粘土	明橙	普通	胎器外側ヘラ削り、内面ヘラナデ	くびれ部周溝東側墓上	10%
196	土師器	甕	—	(6.5)	4.4	石英・長石・雲母・糠	にぶい橙	普通	胎器外側ヘラ削り、内面ヘラナデ	後方部周溝北側墓上ノ墓	10%
197	灰土器	甕	—	(3.2)	(12.3)	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	後方部周溝西側墓上	5%
198	土師器	杯	[14.0]	[4.1]	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	溝溝北外側墓上	20%
199	土師器	杯	[11.4]	2.9	[6.0]	石英・長石・雲母・糠	橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	30%
300	土師器	甕	20.5	(16.7)	—	石英・長石・雲母・赤粘土・糠	にぶい橙	普通	胎器内・外両ヘラナデ	くびれ部周溝西内側墓上	40%
201	土師器	甕	[20.0]	(27.5)	—	石英・長石・雲母・糠	橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	30% PL49
202	土師器	甕	[21.0]	(29.1)	—	石英・長石・雲母・糠	橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	40%
203	土師器	甕	[25.0]	(34.0)	—	石英・長石・雲母・糠	にぶい橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	30%
204	土師器	甕	[20.0]	(7.3)	—	石英・長石・雲母・糠	橙	普通	胎器内・外両ヘラナデ	くびれ部周溝西内側墓上	5%
205	土師器	甕	[20.0]	(8.9)	—	石英・長石・雲母・糠	淡黄	普通	胎器内・外両ヘラナデ	くびれ部周溝西内側墓上	5%
206	土師器	甕	[20.4]	(11.3)	—	石英・長石・雲母・糠	にぶい橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	30%
207	須恵器	蓋	[17.2]	(2.3)	—	石英・長石・雲母・糠	黄泥	良好	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	5%
208	須恵器	甕	—	(2.3)	[18.4]	石英・長石・雲母・糠	明赤黄	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	5%
209	須恵器	甕	—	(3.5)	[15.0]	石英・糠	灰	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	くびれ部周溝西内側墓上	5%
210	須恵器	甕	—	(1.4)	8.2	硝子	灰白	良好	見込みにも隙がある 全面に緑褐色	くびれ部周溝西内側墓上	30% 胎加敷
214	須恵器	甕	—	(4.5)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	胎器胎加敷二種(胎加1条)の横文施文	後方部周溝西側墓上	

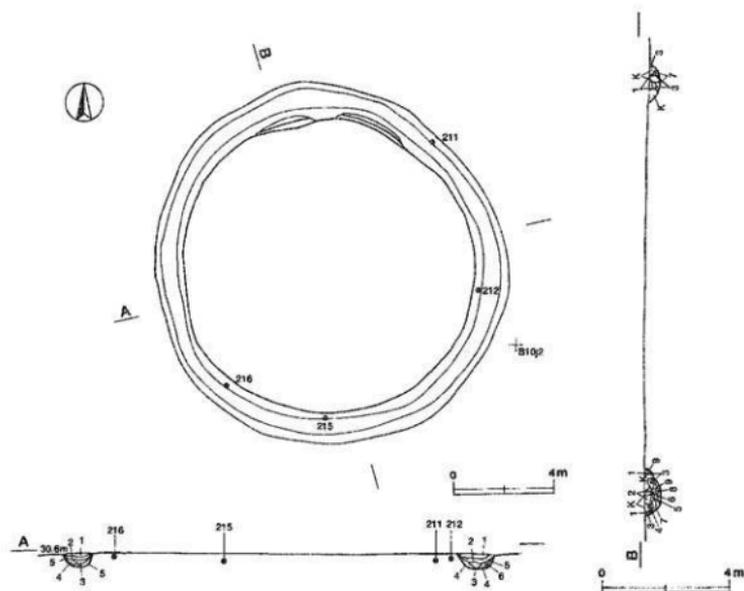
番号	器名	長さ	底	厚さ	重量	材料	特徴	出所	備考
M13	鏡片	(18.7)	7.8	1.5	(63.4)	鉄	平削り字跡 輪切V字目	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
M14	鏡	(13.6)	3.9	0.5	63.9	鉄	刃存 鋸歯上縁割り返し	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
M15	鏡	(13.4)	3.8	0.4	(75.6)	鉄	刃部先端欠損 縁部上縁割り返し	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
M16	鏡	(11.8)	4.0	0.4	105.8	鉄	刃存 鋸歯上縁割り返し	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
M17	鏡	(10.2)	3.7	0.3	(27.6)	鉄	刃部先端・鋸歯欠損	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
M18	鉄鍔	(10.2)	1.8	0.1	(16.9)	鉄	鍔の部・突起部欠損 帯状突起目方形	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
M19	釘	(6.6)	0.7	0.7	(13.4)	鉄	鍔部先端欠損 鍔部突起は厚み約1.5cmに斜り直交している 鍔部後方方形	くびれ部周溝内銅葉上	PL-D1
K20	不明鉄製品	(3.4)	0.6	0.1	(1.9)	鉄	鍔部方形	くびれ部周溝内銅葉上中	
M21	不明鉄製品	(3.7)	0.4	0.1	(2.0)	鉄	鍔部方形	くびれ部周溝内銅葉上	

### 第3号周溝墓(第245図)

**位置** 調査区の中央部、B9～B10区。標高30.5mの平坦部に位置している。第1号周溝墓の北東方向に、第2号周溝墓の北西方向に位置している

**規模と形状** 墳丘は削平されていて、封土の状況は不明である。周溝を含めた径13.9mの円形で、周溝内径で11.4mである。主軸方向はN-30°-Wである。

**周溝** 全周している。上幅0.88～1.8m、下幅0.44～0.76mで、深さ0.34～0.5mである。覆土は擾乱がみられるが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



第245図 第3号周溝墓実測図

## 土層解説

## A-A'

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
2	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	5	明褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子中量
3	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量

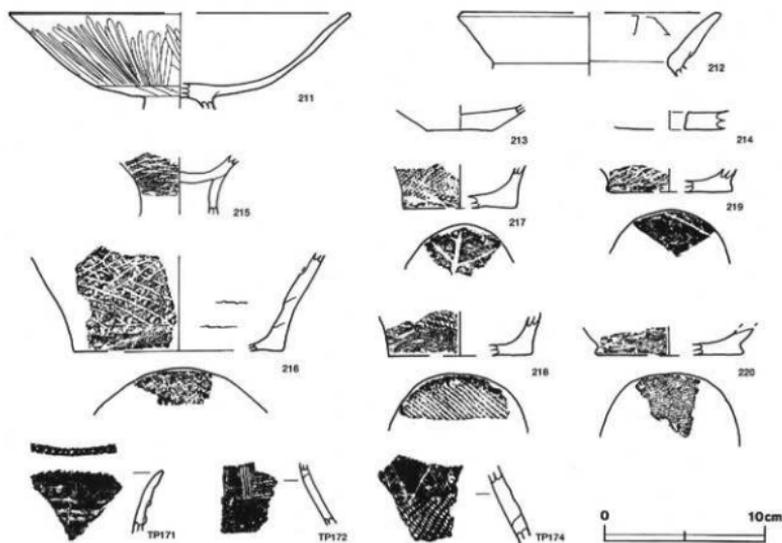
## B-B'

1	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	6	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量	7	にぶい褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	8	灰褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	明褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量			

埋葬施設 確認されなかった。

遺物出土状況 土師器片131点, 弥生土器片44点, 竊13点のほか, 攪乱等により混入したとみられる須恵器片2点が周溝から出土している。211の土師器高坏は北東部周溝の覆土下層から, 212の土師器甕は東部周溝の覆土下層から, 215の弥生土器高坏は南部周溝の覆土下層から, 216の弥生土器壺は南西部周溝の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀前半と考えられる。



第246図 第3号周溝墓出土遺物実測図

第3号周溝墓出土遺物観察表(第246図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手洗の特徴	出土位置	備考
211	土師器	高坏	[21.2]	(6.0)	—	石英・炭石・ 雲母・塵	澄	普通	外側外面へウナナギ。下溝へウナナギ	北東部周溝覆土下層	20%
212	土師器	甕	[16.0]	(4.0)	—	石英・炭石・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外周縁ナゲ。内面へウナナギ	東部周溝覆土下層	5%
213	土師器	甕	—	(1.6)	[4.0]	石英・炭石・ 赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内・外面ナゲ	北東部周溝覆土中	5%
214	土師器	甕	—	(1.2)	—	石英・炭石・ 雲母	にぶい褐色	普通	体部内・外面ナゲ	北東部周溝覆土中	5%
215	弥生土器	高坏	—	(3.8)	—	石英・炭石・ 雲母・赤色粒子	浅黄	普通	外側附加条二枚附加1条の横文施文	南西部周溝覆土下層	10% TP149
216	弥生土器	壺	—	(6.0)	[13.0]	石英・炭石・ 雲母・赤色粒子	浅黄褐色	普通	口縁部附加条二枚附加1条の横文施文 高部ナゲ	南西部周溝覆土上層	5%

番号	発掘時期	経緯	位置	高さ	形状	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
217	弥生上層	南	-	(2.7)	[7.0]	石質・黄土	に多い宮壁	赤土	外周部は第一層部(加1)の粘土質土	遺跡本層	北西四角溝墓土台	5%							
218	弥生上層	南	-	(2.7)	[6.8]	石質・黄土・腐植	黒豆地	赤土	副郭部(加第2層部)加1の粘土質土	遺跡本層	溝郭部の遺跡土	5%							
219	弥生上層	南	-	(1.3)	[7.8]	石質・黄土・腐植	(1.6)の層	赤土	副郭部(加第2層部)加1の粘土質土	遺跡本層	溝郭部の遺跡土	5%							
220	弥生上層	南	-	(1.7)	[8.2]	石質・黄土・腐植・赤色粘土	に多い宮壁	赤土	副郭部(加第2層部)加1の粘土質土	遺跡本層	北西四角溝墓土台	5%							
TP177	弥生上層	北西	-	(3.6)	-	石質・黄土・腐植	に多い宮壁	赤土	副郭部(加第2層部)加1の粘土質土	遺跡本層	北西四角溝墓土台	5%							
TP172	弥生上層	南	-	(3.3)	-	石質・黄土・腐植	に多い宮壁	赤土	副郭部(加第2層部)加1の粘土質土	遺跡本層	北西四角溝墓土台	5%							
TP174	弥生上層	南	-	(4.1)	-	石質・黄土・腐植・赤色粘土	に多い宮壁	赤土	副郭部(加第2層部)加1の粘土質土	遺跡本層	北西四角溝墓土台	5%							

### 第5号周溝墓(第247図)

**位置** 調査区の南部, D11区。標高29.5mの平坦部から台地の縁辺部近くにかけての場所に位置している。第2号周溝墓の南方向に位置している。

**重複関係** 南部と東部が調査区域外となっているため、全体を調査することはできなかった。方台部西側は第25号住居跡を掘り込んで構築している。

**規模と形状** 墳丘は削平されており、封土の状況は不明である。副溝を含めた縦認できた長軸15.4m、短軸10.1mの方形あるいは長方形と考えられる。主軸方向はN-77°-Eと推定される。

**周溝** 調査区域外を除いて全周している。上幅1.16~2.34m、下幅0.92~1.88mで、深さ0.34~0.56mである。西側溝の北側でやや幅が広がっている。覆土は擾乱がみられるが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

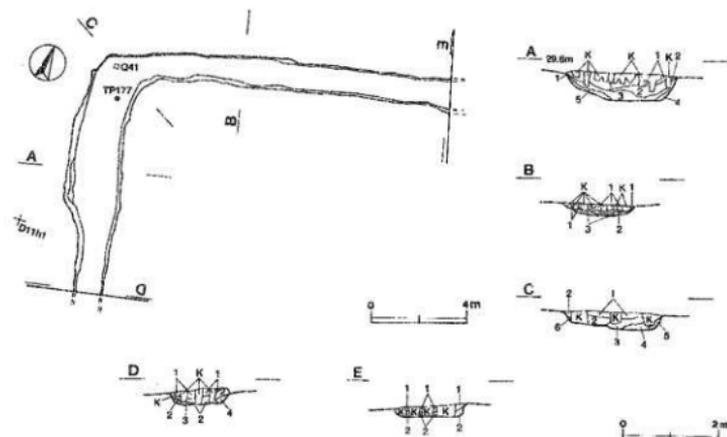
#### 土層解説

##### A-A'

- 1 黒褐色 ローム粒子・砂土粒子・炭化粒子・腐植バミス少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・腐植バミス少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・赤色粘土少量
- 4 褐色 ロームブロック中量、赤色粘土少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・赤色粘土少量

##### B-B'

- 1 暗褐色 ローム粒子・腐植バミス少量、赤色粘土微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量



第247図 第5号周溝墓実測図

- C-O
- 黒褐色 ロームブロック・赤色粒子・炭化パミス少量
  - 黒褐色 ロームブロック少量、炭化パミス微量
  - 黒色 ロームブロック微量
  - 黒褐色 ロームブロック微量
  - 暗褐色 ロームブロック少量、赤色粒子微量
  - 暗褐色 ローム粒子・赤色粒子少量
- D-O
- 黒褐色 ローム粒子・赤色粒子少量
  - 暗褐色 ローム粒子少量、赤色粒子微量
  - 褐色 ロームブロック少量、赤色粒子微量
  - 黒褐色 ロームブロック少量、赤色粒子微量
- E-E
- 暗褐色 ロームブロック少量
  - 暗褐色 ローム粒子少量



埋葬施設 確認されなかった。

遺物出土状況 磨石1点、礫5点のほか、攪乱等により混入したとみられる縄文土器片1点、弥生土器片1点が周溝から出土している。

第248図 第5号周溝墓出土遺物実測図

所見 遺構に伴うと考えられる出土遺物がないため、時期を決定することは難しいが、遺構の形態から前期と考えられる。

第5号周溝墓出土遺物観察表(第248図)

番号	種別	部材	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成	手洗の形跡	出土位置	備考
TP177	赤土上部	部	-	(3.0)	-	石灰・長石・雲母	暗	普通	無彫4本横溝1より縦区画、区画内に横本文施文	北西コーナー一部周溝埋土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	磨石	(8.0)	(12.9)	5.3	(790.8)	安山岩	3面に磨りの痕跡有り	北西コーナー一部周溝埋土中層	

### 第6号周溝墓(第249~251図)

位置 調査区の南部、E9~E10区。標高約31.2mの平坦部に位置している。第1号周溝墓の南方向に離れて、第5号周溝墓の南西方向に位置している。

重複関係 前方部は第34号住居跡の上に構築している。後方部は第33・35号住居跡の上に構築している。南側周溝は第32号住居に掘り込まれている。

規模と形状 周溝内法で全長31.0mの前方後方形で、後方部はほぼ整然とした長方形で、周辺に比べ1.0mほどの高まりが確認できた。前方部長12.0m、後方部長19.0mであり、前方部長：後方部長=約2：3である。前方部幅12.0m、後方部幅14.8mであり、前方部幅：後方部幅=約3：4である。主軸方向はN-78°-Eである。

#### 墳丘土層解説(A-A', F-F', G-G', H-H')

1	黒色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	15	黒色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	16	褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3	黒色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	17	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	18	黒色	炭化粒子中量、ローム粒子微量
5	黒色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	19	黒色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	20	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
7	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	21	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	22	にぶい褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
9	灰褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	23	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	24	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
11	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	25	黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	26	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
13	黒色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	27	黒色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
14	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量			

周溝 全周している。前方部の南西コーナー部の掘り込みは浅くなっている。規模は上幅2.2~3.8m、下幅1.7~2.7mで、深さ0.24~0.64mである。前方部の南西コーナー部では上幅4.0m、下幅3.0mで、深さ0.24mと、幅

に変化はないが浅くなっている。くびれ部の幅広の箇所では上幅4.5~5.6m、下幅2.8mで、深さ0.7mと極端に  
 広くなっている。特に北側で広がっている。覆土はほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考え  
 られる。

土層解部

B-B'

1	黒	褐色	炭化粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子	5	黒	色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	黒	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・埋没物	6	黒	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・埋没物	7	黒	色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・埋没物
4	黒	褐色	炭化粒子・微量、ロームブロック・焼土粒子微量				

C-C'

1	黒	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	4	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量				

D-D'

1	黒	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	黒	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	黒	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

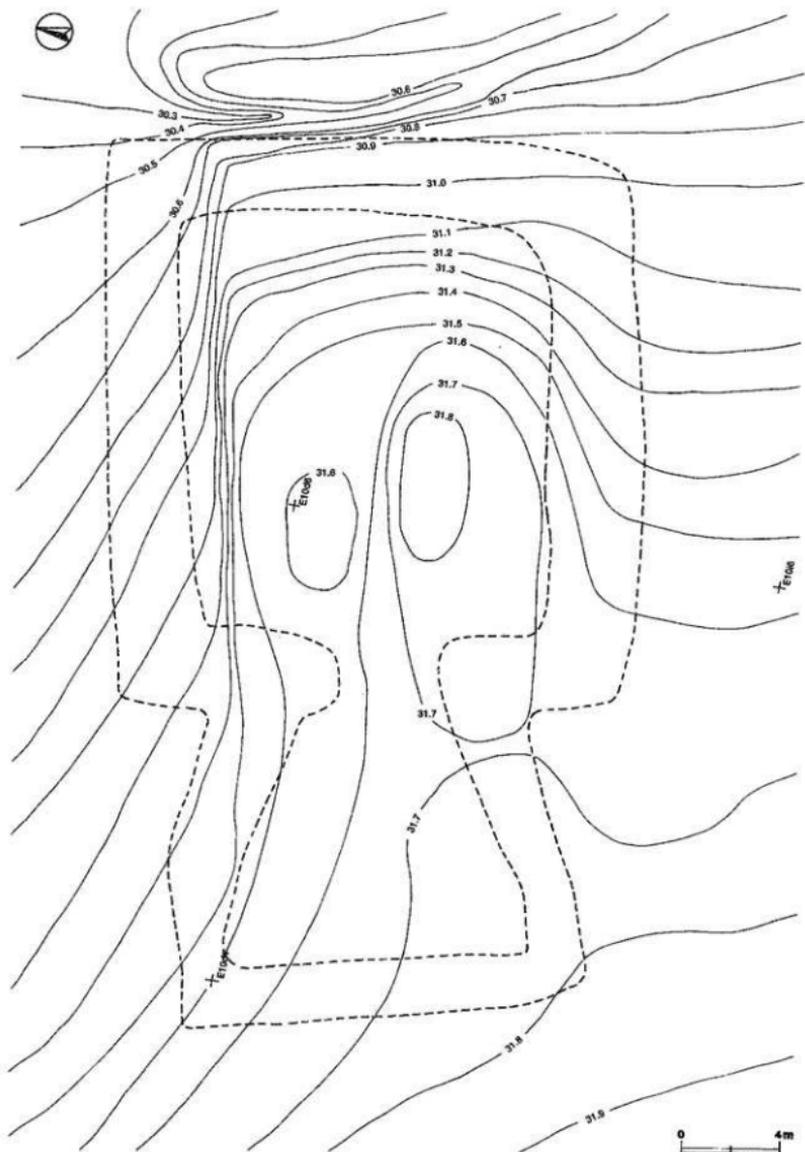
E-E'

1	黒	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	3	黒	褐色	炭化粒子・砂少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒	褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	4	黒	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

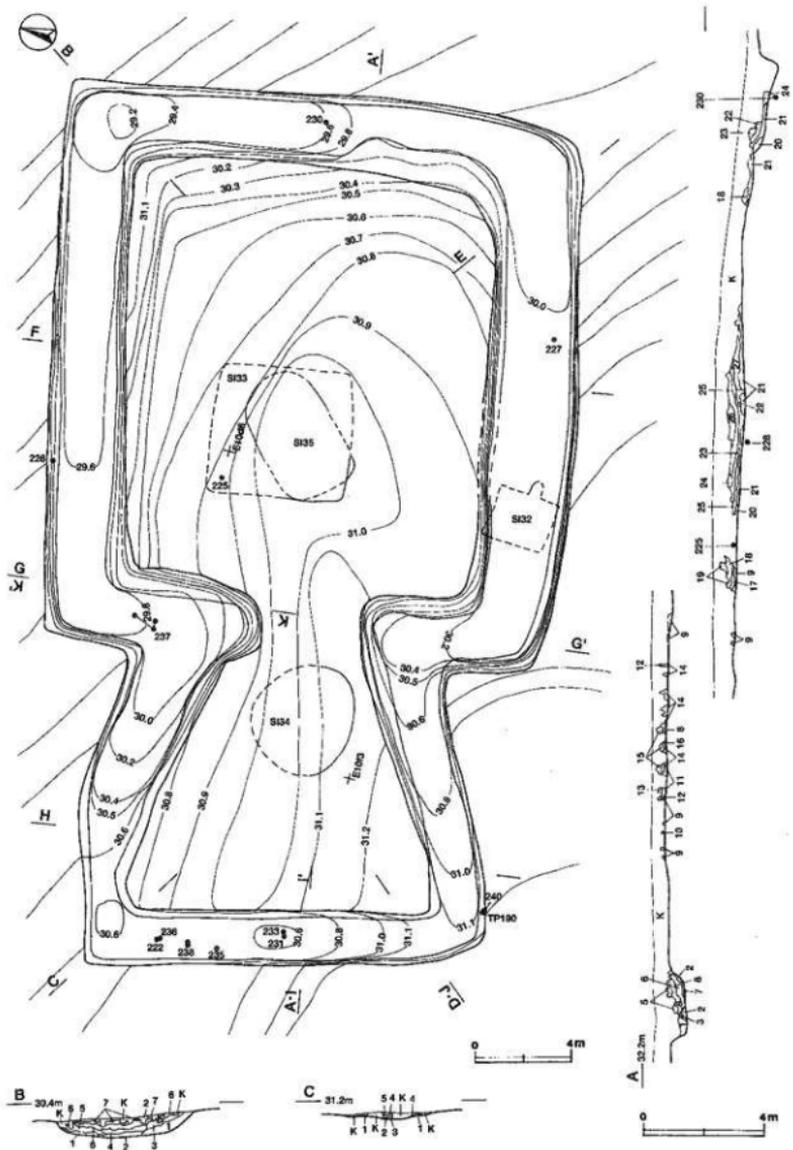
埋葬施設 封土を丁寧に下げていったが確認されなかった。最初から作らなかった可能性も考えられる。

遺物出土状況 土師器片332点（内80点ほどは平安時代のもので混入したもの）、弥生土器片496点、不明石製品1点、瑪瑙の原石1点、不明鉄製品1点、土製紡錘車1点、鉄滓（鉄分有り）5点、礫21点のほか、攪乱等により混入したとみられる縄文土器片70点、須恵器片10点、陶器片1点が周溝から出土している。わずかに土師器片が後方部の墳丘下から出土している。周溝の北側のくびれ部や前方部の西側から集中して出土している。222の土師器壺は北側のくびれ部の覆土上層から、237の土師器壺は覆上下層から出土している。228の土師器壺は後方部北側の覆土上層から、230の土師器壺は東側の底面から、227の土師器壺は南側の覆土下層から出土している。231・233の土師器台付甕、235・238の土師器壺は前方部の西側の底面から、240の弥生土器壺は南西コーナーの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器等から3世紀末葉と考えられる。重複している古墳時代前期の第33号住居跡よりは新しいが、時期差はほとんどないと考えられる。同じ墳形の第1号周溝壺と主軸方向がほぼ一致している。

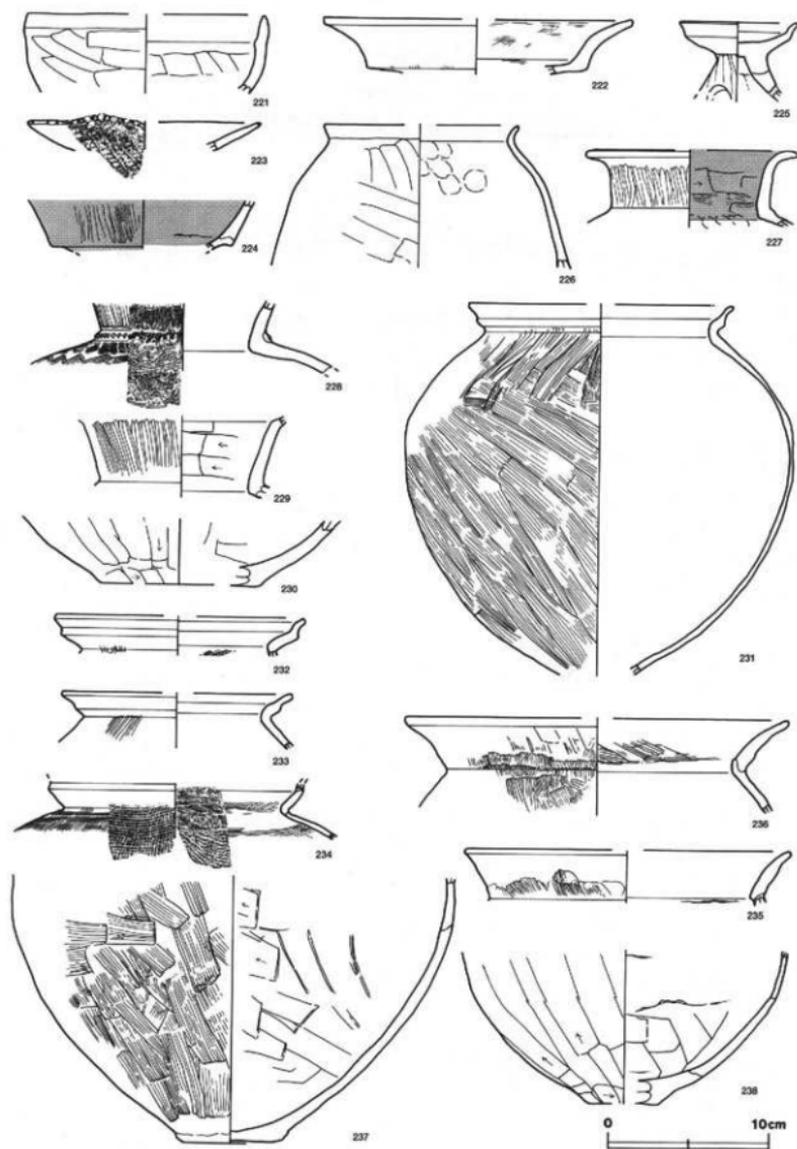


第249図 第6号周溝墓穴測図(1)

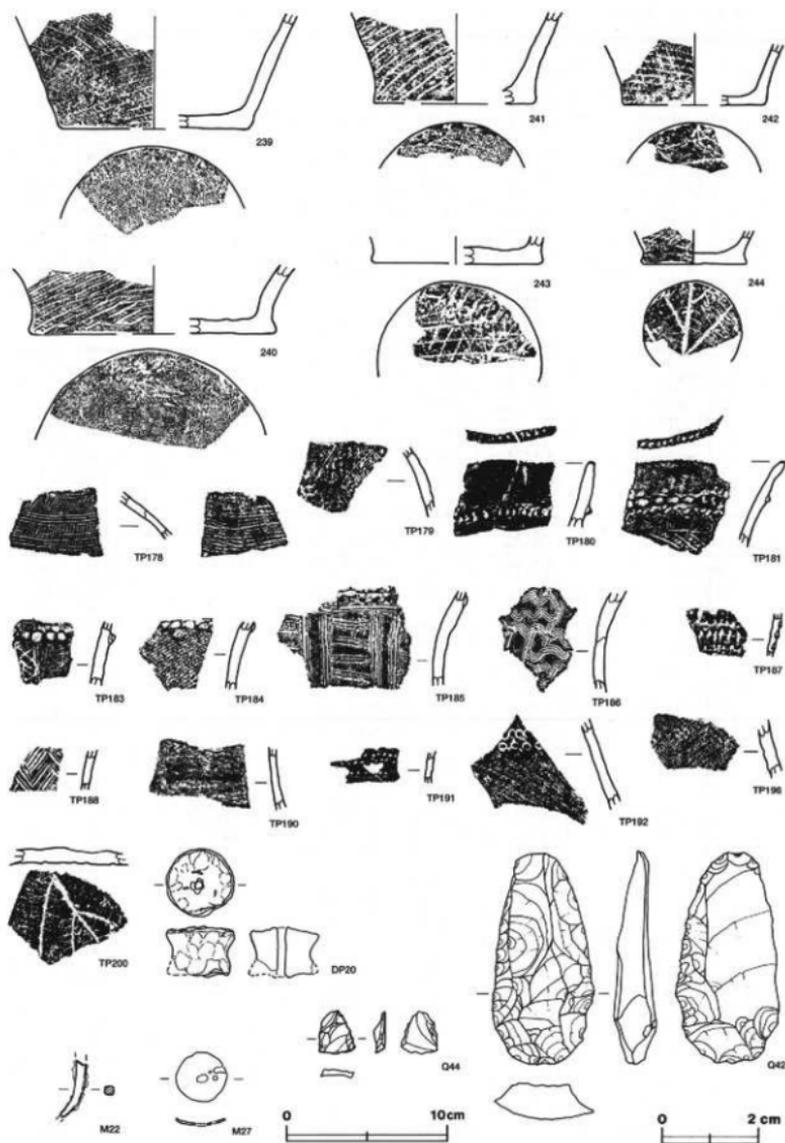


第250图 第6号周溝草実測図(2)





第252图 第6号周溝墓出土遺物実測図(1)



第253図 第6号周溝墓出土遺物実測図(2)

第6号周清墓出土遺物観察表(第252-253頁)

番号	性別	品名	口徑	器高	底径	胎土	色調	地域	平注の符号	出土位置	備考
221	土師器	甕	[14.6]	19.6	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	緑	香取	赤褐色・外周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	10%
222	土師器	甕	[18.2]	23.1	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	緑・赤い斑	香取	口縁部内周ヘラツタ、内面トナ	くびら部河内北瀬上	16%
223	弥生土師	高杯	[14.6]	17.2	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	緑・赤い斑	香取	口縁部トナリ、杯底内周縁部ヘラツタ、杯底に赤い斑	東方部河内南瀬上	3%
224	土師器	高杯	-	13.1	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ、外周赤斑	東方部河内南瀬上	5%
225	土師器	高杯	7.0	15.0	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	緑・赤い斑	香取	杯底内周ヘラツタ、内面トナリ	東方部河内南瀬上	40%、P.49
226	土師器	甕	[22.0]	29.6	-	石炭・灰石・雲母	緑	香取	杯底内周ヘラツタ、外周赤斑による赤花	東方部河内南瀬上	5%
227	土師器	甕	[22.9]	27.8	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	口縁部内周ヘラツタ、内面ヘラツタ、杯底に赤い斑	東方部河内南瀬上	10%
228	土師器	甕	-	14.1	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内北瀬上	30%、P.49
229	土師器	甕	-	15.0	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内北瀬上	5%
230	土師器	甕	-	14.1	[10.0]	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	緑・赤い斑	香取	口縁部外周ヘラツタ、内面ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
231	土師器	高杯	[16.4]	22.5	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ、5字印口縁	東方部河内南瀬上	40%、P.49
232	土師器	高杯	[15.2]	22.0	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ、5字印口縁	東方部河内南瀬上	5%
233	土師器	高杯	[14.1]	21.4	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
234	土師器	高杯	-	13.1	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
235	土師器	甕	[20.0]	23.3	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
236	土師器	甕	[23.6]	29.9	-	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
237	土師器	甕	-	16.1	6.2	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	くびら部河内南瀬上	30%
238	土師器	甕	-	16.6	[4.4]	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	10%
239	弥生土師	甕	-	17.1	[11.6]	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ、口縁部ヘラツタ	東方部河内南瀬上	10%
240	弥生土師	甕	[4.2]	[15.0]	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ、口縁部ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%	
241	弥生土師	甕	[6.7]	[10.0]	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%	
242	弥生土師	甕	[3.8]	[6.8]	石炭・灰石・雲母・赤色粘土	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%	
243	弥生土師	甕	-	10.6	[10.2]	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
244	弥生土師	甕	-	12.1	6.2	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	5%
TP178	土師器	(付付) 甕	-	22.5	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP179	土師器	甕	-	13.8	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP180	弥生土師	甕	-	14.1	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP181	弥生土師	甕	-	13.2	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP182	弥生土師	甕	-	16.0	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP183	弥生土師	甕	-	16.2	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP184	弥生土師	甕	-	15.2	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP185	弥生土師	甕	-	13.8	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP186	弥生土師	甕	-	16.3	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP187	弥生土師	甕	-	12.6	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP188	弥生土師	甕	-	12.5	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP189	弥生土師	甕	-	13.6	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP191	弥生土師	甕	-	12.0	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP192	弥生土師	甕	-	15.1	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP193	弥生土師	甕	-	13.1	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	
TP200	弥生土師	甕	-	10.9	-	石炭・灰石・雲母	赤	香取	杯底内周ヘラツタ	東方部河内南瀬上	

番号	品名	底寸(径)	軸(長径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土地	備考
Q90	動輪草	4.2	0.5	3.1	14.2	七	丹州(西ノ子) 須磨浜巻草状	く(伊古部) 須磨浜巻草上中	70%
Q92	ナイフ形石	4.4	2.1	0.9	6.0	ナヤート	縦長型(口)、右側縁に鋭利部	須磨浜巻草上中	PL51
Q93	石	5.2	2.8	2.5	33.2	片端		須磨浜巻草上中	久野川産(本採集)
Q94	石	2.7	2.3	0.7	2.4	ナヤート	上部からの打撃による割断	須磨浜巻草上中	PL51
M22	不明製品	(3.6)	0.6	0.6	(4.6)	鉄	断面方形 断面の歪曲の可能性あり	須磨浜巻草上中	
M27	不明製品	3.1	0.2	0.1	(3.6)	鉄	中央部に孔あり(両側)、両側の断面が	須磨浜巻草上中	

表4 二の沢B遺跡(古墳群) 周溝墓一覧表

番号	位置	形状	方位	規模(m)						構造	周溝(m)			備考
				全長	幅	前方幅	前方趾幅	後方幅	後方趾幅		上幅	下幅	深さ	
1	C9	前方後方形	N 23° W	35.1	6.96	11.5	12.9	30.1	25.2	1.9-10.3	1.2-8.8	0.18-0.94	1河部、南生土層、土製埴輪、鉄器	S11-21+本誌-S127, S8-114+本誌-S11
2	C10-D11	前方後方形	N 19° W	27.5	3.6	12.0	9.5	16.1	18.0	2.5-8.5	1.7-6.1	0.28-0.8	1河部、南生土層、土製埴輪、鉄器、土器	本誌-S124
3	B9-H10	円形	N-30° W	1.4	-	-	-	-	-	0.98-1.8	0.91-0.76	0.31-0.5	1河部、南生土層	
4	D11	1方形	N 77° E	14.2	-	-	-	-	-	1.56-2.34	0.92-1.88	0.36-0.56	縄文土層中、南生土層、土器	S125+本誌
6	G9-K10	前方後方形	N 78° E	31.0	4.0	12.0	12.0	14.8	19.0	2.2-3.6	1.7-3.0	0.21-0.7	1河部、南生土層、土製埴輪	S120-34-35+本誌-S122

## (3) 土坑

## 第9号土坑(第254図)

位置 調査区の中央部、C8a3区。標高30.7mの平坦部に位置している。

重複関係 第19号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.76m、短径0.58mの楕円形で、確認面からの深さは20cmで、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。長径方向はN-31°-Wである。底面は皿状である。

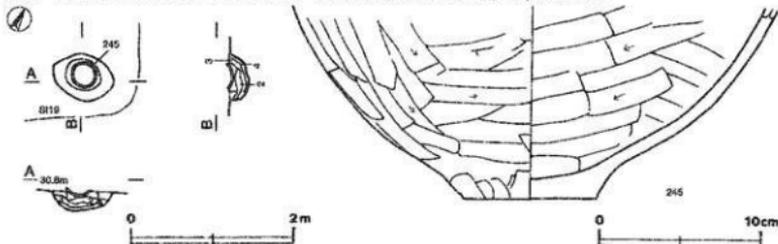
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 3 黒色 ロームブロック・炭化粒子少量、炭土粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、炭土粒子微量 4 明褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、炭土粒子微量

遺物出土状況 245の土師器壺1点が正位の状態でも出土している。骨片は出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態と出土土器等から古墳時代前期の埴輪遺構と考えられる。



第254図 第9号土坑・出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表(第254図)

番号	種別	形状	材質	状態	出土	色澤	構成	手法の特征	出土位置	備考
245	土師器	壺	-	(12.0)	8.3	白濁・灰青・黄・桃	粘土質	手製	埴輪内(外付付)	覆土上層 40%

### 第117号土坑 (第255図)

**位置** 調査区の中央部, B10h2区。標高30.4mの平坦部に位置している。

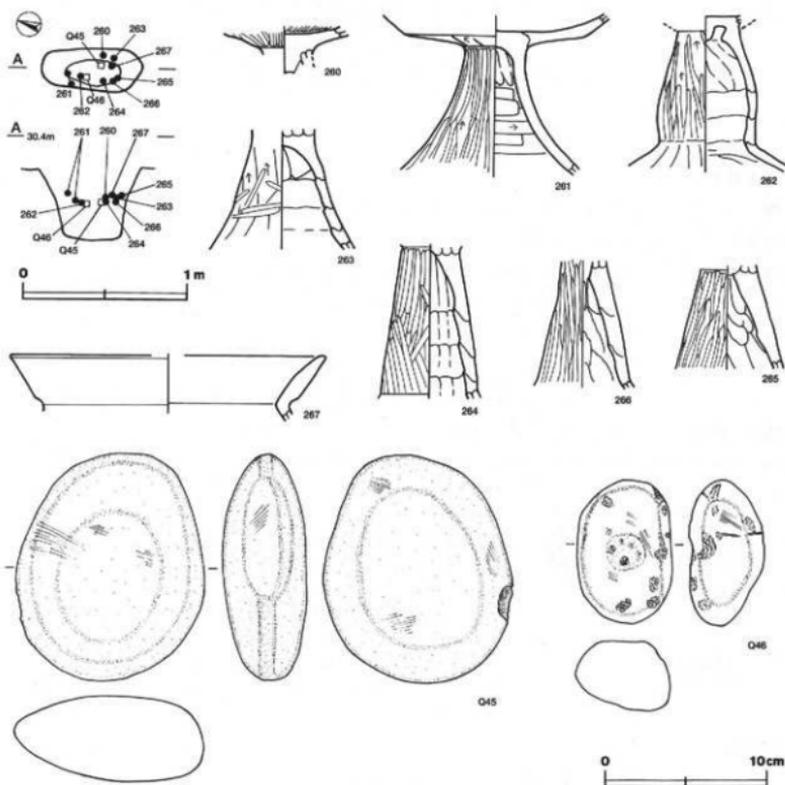
**重複関係** 第13号住居跡の西部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径0.6m, 短径0.25mの楕円形で, 確認面からの深さは44cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-18°-Wである。底面は平坦である。

**覆土** 明確ではないが, 人為堆積と考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片21点, 礫11点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片5点が出土している。遺物は非常に小形の土坑に埋め戻したような状況で, しかも出土する高坏はすべて破潰したような状況である。261と262の土師器高坏は覆土中層から横位の状態で出土している。

**所見** 時期は, 出土土器等から5世紀前葉から中葉にかけての時期と考えられる。当遺跡で5世紀段階に位置付けられる遺構は本跡のみである。



第255図 第117号土坑・出土遺物実測図

第117号土坑出土遺物観察表 (第255図)

番号	種別	品名	土層	層高	出土	形状	長さ	幅	重量	備考
201	土器類	高杯	-	18.0	-	白灰・長石	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き	層中出土 5%
204	土器類	高杯	-	19.5	-	石灰・黒石・赤色粘土	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き、内面ヘラ付き	層中出土 15%
202	土器類	高杯	-	19.0	-	石灰・黒石・赤	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き、内面ヘラ付き	層中出土 40%
203	土器類	高杯	-	17.1	-	石灰・長石・黒石・赤色粘土	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き、内面ヘラ付き	層中出土 30%
204	土器類	高杯	-	18.0	-	石灰・長石・赤色粘土	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き、内面ヘラ付き	層中出土 20%
205	土器類	高杯	-	15.3	-	石灰・長石	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き、内面ヘラ付き	層中出土 20%
206	土器類	高杯	-	17.9	-	石灰・長石	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き、内面ヘラ付き	層中出土 15%
207	土器類	兼	[19.4]	13.9	-	石灰・黒石・赤色粘土	にぶい灰	普通	内面外・外縁ヘラ付き	層中出土 5%

番号	形状	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土層	備考
Q43	赤石	14.0	11.5	5.2	19335	灰白石	全周折りの段差あり	層中出土	
Q45	赤石	8.0	5.8	4.2	2000	灰白石	上下面部を削いで折りの段差あり	層中出土	

#### 4 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された平安時代の遺構は、堅穴住居跡1軒である。これらの遺構は調査区中央部から南部にかけて位置している。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について、記述していく。

##### (1) 堅穴住居跡

###### 第3号住居跡 (第256図)

**位置** 調査区の中央部、B9d1区。標高30.7mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.90m、推定短軸3.7mの方形と考えられる。壁は高さ8cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-20°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。竈の前部に硬化面が見られる。

**竈** 北西壁中央部や北寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで114cm、袖部幅83cmで、壁外への掘り込みは60cmほどである。袖部は削平されているが、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を7cmほど掘りくぼめ、火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

###### 土層解説

1	明赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	6	暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、砂粒微量	7	にぶい赤褐色	粒土粒子・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、赤い砂子少量、炭化粒子微量	8	赤黒色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粒土粒子微量	9	にぶい赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・粒土粒子微量
5	暗赤灰色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、赤い砂子微量			

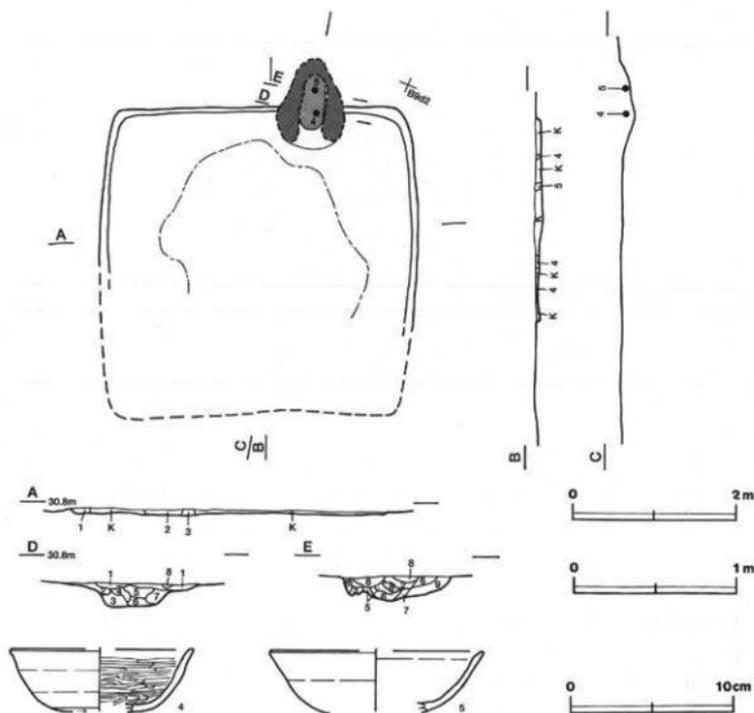
**覆土** 5層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる擾乱が多いため、堆積状況は不明である。

###### 土層解説

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	灰褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子少量	5	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	黒色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片10点、須恵器銅片2点、鏝5点が出土している。遺物は室内から出土している。4・5の土師器碗は室内から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から10世紀前半と考えられる。



第256図 第3号住居跡・出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表(第256図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地産	手法の特徴	出土位置	備考
4	土師器	甗	[11.2]	[3.9]	-	石英・黄石・ 赤砂・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部下縁へう割り、内面へう磨き	竈内底面	10%
5	土師器	甗	[13.0]	[3.8]	-	石英・黄石・ 赤砂・赤色粒子	にぶい橙	普通	二次焼熟 内・外両面成	竈内底面	10%

第4号住居跡(第257図)

位置 調査区の中央部, B8e3区。標高31.0mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.5m, 短軸2.85mの長方形である。壁は高さ30cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-30°-Wである。

床 ほぼ平坦である。竈の前方部に硬化面が見られる。壁溝が北東壁下と南東壁下中央の一部, 南西壁下を巡っている。上幅12~16cm, 下幅6~10cm, 深さ5~10cmで、断面形は皿状である。

竈 北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅115cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面の上にローム混じりの粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用して、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上が

っている。

#### 壁土層解説

1 濃い赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	9 濃い赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 極暗赤褐色	炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 濃い赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 暗赤褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12 灰褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	13 褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量
6 暗赤褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量	14 褐色	焼土粒子・粘土ブロック少量
7 濃い赤褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	15 灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	16 灰褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子少量

**ピット** 5か所。P1は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P2～4は南西壁際に位置しているが、性格は不明である。深さはP1が22cm, P2～4が10～18cmである。

**貯蔵穴** 東コーナー部に付設されている。長径80cm, 短径70cmの楕円形で、深さは54cmである。

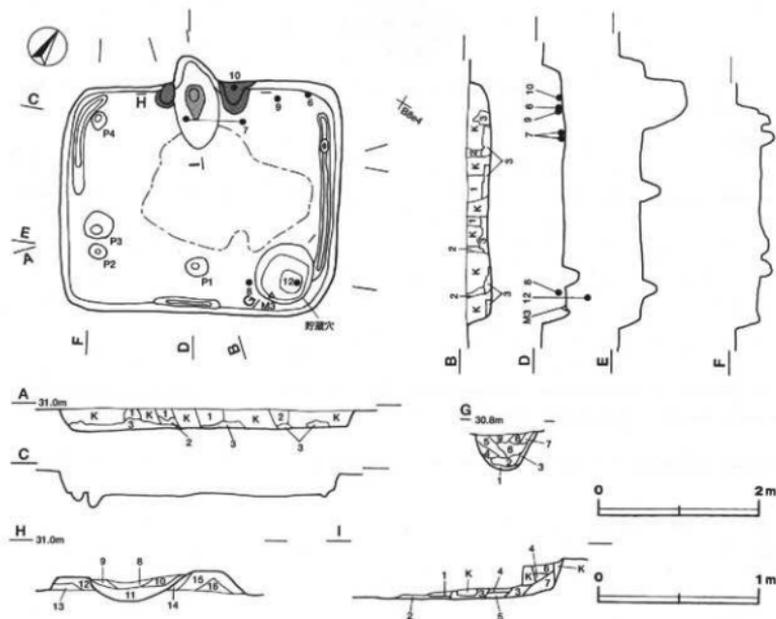
#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム粒子微量	7 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	8 濃い褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子少量	9 褐色	ローム粒子中量
5 灰褐色	ローム粒子微量		

**覆土** 3層からなる。トレンチャーによる視乱が激しいが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

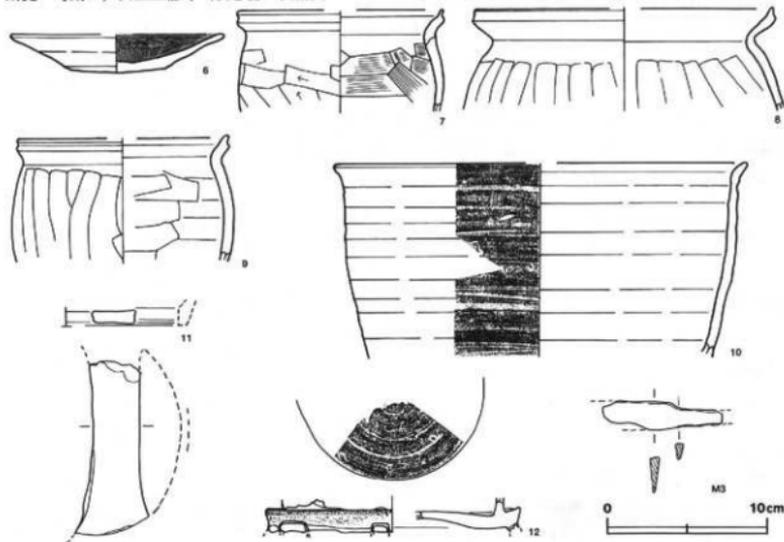
1 黒褐色	ロームブロック少量	3 黒褐色	ローム粒子少量
2 極暗褐色	ローム粒子少量		



第257図 第4号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片229点、須恵器片12点、礫12点、刀子1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点が出土している。遺物は竈内や竈前方部、貯蔵穴内や貯蔵穴周辺から出土している。6の土師器片は北コーナー部の床面から、12の円面硯は貯蔵穴内から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等（須恵器の供膳具がみられない）から10世紀前葉と考えられる。



第258図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	皿	[13.2]	2.3	6.7	石英・長石・雲母・赤色粒子	褐色	普通	底縁多方向へのヘラ削り 内面褐色処理	北コーナー部 床面	40%
7	土師器	甕	[12.6]	16.3	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	にがい灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 縁部外面への削り、内面へのナデ	竈内床面	16%
8	土師器	甕	[18.5]	16.2	-	石英・長石・雲母	褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 縁部内・外面へのナデ 外面厚付き	南東部床面	10%
9	土師器	甕	[12.6]	(7.7)	-	石英・長石・雲母	褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 底部内・外面へのナデ	北コーナー部 床面	10%
10	須恵器	甕	[26.0]	(12.1)	-	石英・長石	黄灰	普通	体部外面横ナデ張り	竈東端内	16%
11	須恵器	瓶	-	(1.0)	-	石英・長石・雲母	灰	普通	3孔式のアリッジ 孔への削り	北西部埋土中	5%
12	須恵器	円面硯	-	(2.1)	-	長石	黄灰	普通	縁部削削への削り 底への削り 自然削り	貯蔵穴南土7層	10% P1.46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	刀子	(7.5)	1.7	0.6	(13.3)	鉄	背欄有り	東東部埋土中	

### 第5号住居跡（第259図）

**位置** 調査区の中央部、C10b3区。標高30.0mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.03m、短軸2.73mの長方形である。壁は高さ7cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-70°-Eである。

**床** ほぼ平坦である。中央部に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅12~14cm、下幅4~8cm、深さ

5～8cmで、断面形は皿状である。

**竈** 北東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで85cm、袖幅73cmで、壁外への掘り込みは50cmほどである。袖部は削平されているが、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめ、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・粘土ブロック少量         | 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量        |
| 2 黒灰色 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭沼パミス少量 | 5 にぶい赤褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭沼パミス少量       |                          |

**ピット** 1か所。P1は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さは21cmである。

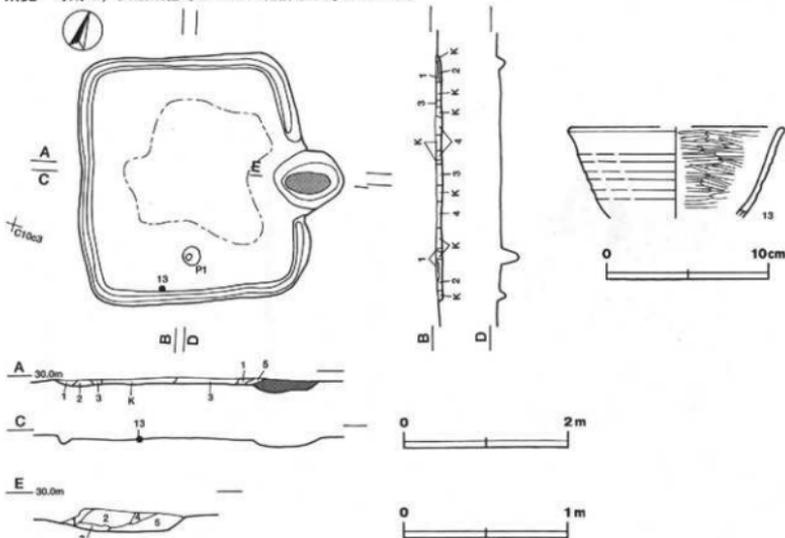
**覆土** 5層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる擾乱が多く見られるが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                            |                                       |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量  | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量      |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量   |                                       |

**遺物出土状況** 土師器片4点、須恵器片1点、裸1点のほか、擾乱等により混入したとみられる弥生土器片1点が出土している。遺物は竈内から出土している。13の土師器坏は南部壁際床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第259図 第5号住居跡・出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表 (第259図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	土師器	碗	113.0	(5.5)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	体内外面僅々凹凸い、内面へつ磨き	南部壁際床面	10%

### 第6号住居跡（第260図）

位置 調査区の中央部，C9i0区。標高30.2mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.75m，短軸2.60mの方形である。壁は高さ25cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-16°-Wである。

床 ほぼ平坦である。竈前方部を中心に硬化面が見られる。

竈 北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで132cm，袖部幅85cmで，壁外への掘り込みは70cmほどである。袖部は削平されているが，シルト石を芯材として砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用して，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

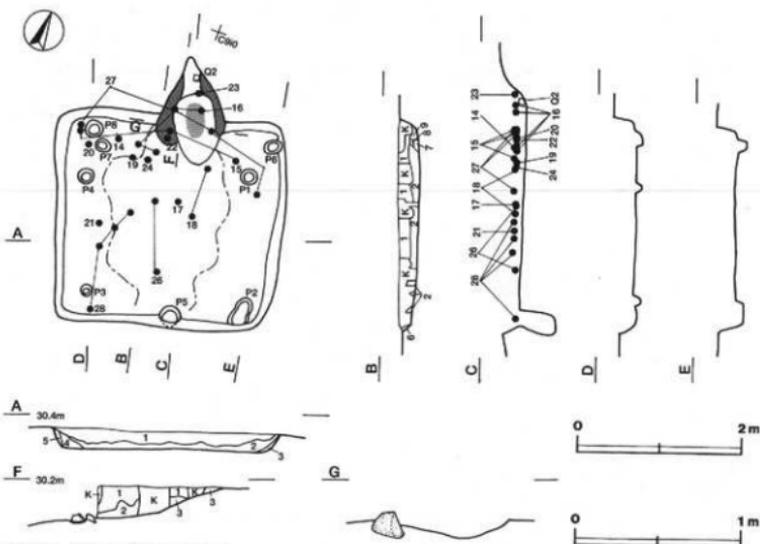
- |        |                       |      |                       |
|--------|-----------------------|------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量   | 3 褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 赤灰色  | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量 |      |                       |

ピット 8か所。P1～4は配置から主柱穴の可能性が考えられるが，主柱穴としては小規模である。P5は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～8の性格は不明である。深さはP1～4が9～11cm，P5が46cm，P6～8が9～13cmである。

覆土 9層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いが，各層にロームブロックや焼土粒子，炭化粒子が見られることから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

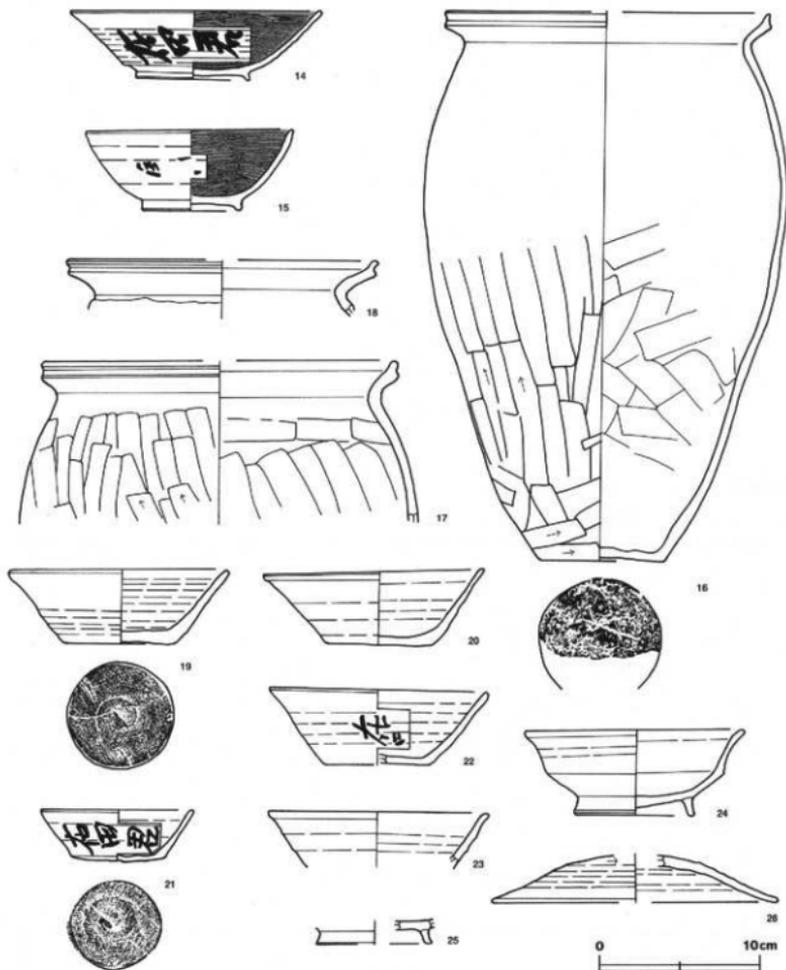
- |       |                  |       |                     |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック中量           |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 7 褐色  | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック少量        | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 明褐色 | ローム粒子多量          |       |                     |



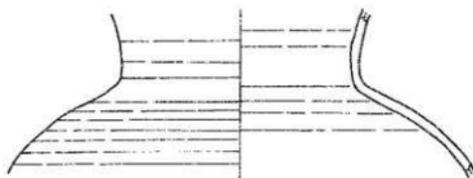
第260図 第6号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片120点、須恵器片23点、石製支脚1点、碟24点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片18点が出土している。遺物は遺構全体から出土している。14の「在田君」と墨書された土師器高台付坏は北西部の床面から正位の状態、15の土師器高台付坏は北東部の床面から逆位の状態、19の須恵器坏は北西部の床面から逆位の状態、21の「在田君」と墨書された須恵器坏は中央部西寄りの床面から正位の状態、22の「在」と墨書された須恵器坏は竈前方部の床面から出土している。

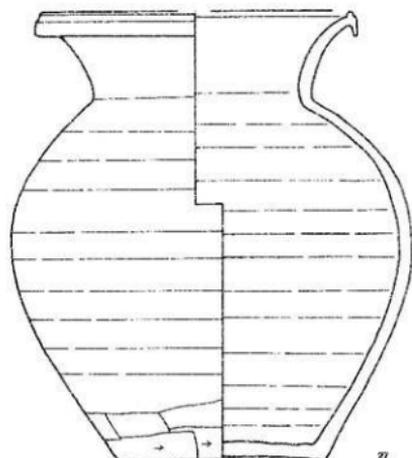
**所見** 時期は、出土土器等から9世紀後葉と考えられる。それぞれの墨書土器の字体は同一と思われる。



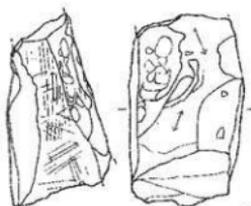
第261図 第6号住居跡出土遺物実測図(1)



26



27



C2



第262図 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

第6号住居跡出土遺物観察表(第261-262図)

番号	種別	形状	寸法	高さ	底径	口径	底径	地産	手法の特徴	出土位置	備考
14	土師器	高台付杯	15.4	4.4	6.8	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	常陸下湯の川河内ナガ 須部陶板ヘタ取り残ナガ 穴貫直巻紀通	北内塚跡南	97% 体部調査 (土師器) PL.45
15	土師器	高台付杯	11.6	5.1	4.0	石突・黄土・茶色・黒石・黒石・黒石・黒石	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ 穴貫直巻紀通	境内から 北内塚跡南	97% 体部調査 PL.46
16	土師器	壺	[20.1]	94.3	7.9	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	体部調査ヘタ取り残ナガ 穴貫直巻紀通	境内から 北内塚跡南	30%
17	土師器	壺	[21.7]	[10.]	-	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	体部調査ヘタ取り残ナガ 穴貫直巻紀通	中央塚跡北	10%
18	土師器	壺	[18.8]	[2.5]	-	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	体部調査ヘタ取り残ナガ 穴貫直巻紀通	中央塚跡南	5%
19	須恵器	杯	13.4	4.7	6.6	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ, ヘタ取り等 体部調査	北内塚跡南	100% PL.36
20	須恵器	杯	13.1	5.0	6.3	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ 体部調査	北内塚跡南	700% PL.46
21	須恵器	杯	9.3	3.4	5.9	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ, ヘタ取り等	宮田跡南	100% 体部調査 (土師器) PL.16
22	須恵器	壺	13.5	1.8	16.5	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ	境内成沢	60% 体部調査 (土師器) PL.45
23	須恵器	杯	13.5	3.3	-	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ	境内成沢	97%
24	須恵器	高台付杯	13.4	3.4	7.4	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ	北内塚跡南	90% PL.26
25	須恵器	高台付杯	-	11.5	17.2	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	高台付杯付残ナガ	北内塚跡南	3%
26	須恵器	壺	17.6	[2.9]	-	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	穴貫直巻紀通ヘタ取り	中央塚跡南	20%
27	須恵器	壺	19.0	28.0	13.6	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ	宮田跡南	70% PL.36
28	須恵器	壺	-	[10.4]	-	石突・黄土・茶色	二山い雲成	常陸	須部陶板ヘタ取り残ナガ	宮田跡南	10%

番号	種別	長さ(寸)	幅(寸)	高さ	底径	口径	地産	備考	出土位置	備考
Q2	土師器	11.9	7.0	5.5	690.6	740.6	常陸	穴貫直巻紀通	境内成沢	

## 第9号住居跡(第263図)

位置 調査区の南部, D9a9区。標高30.0mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.95m, 短軸2.7mの方形である。壁は高さ10cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-31°-Wである。

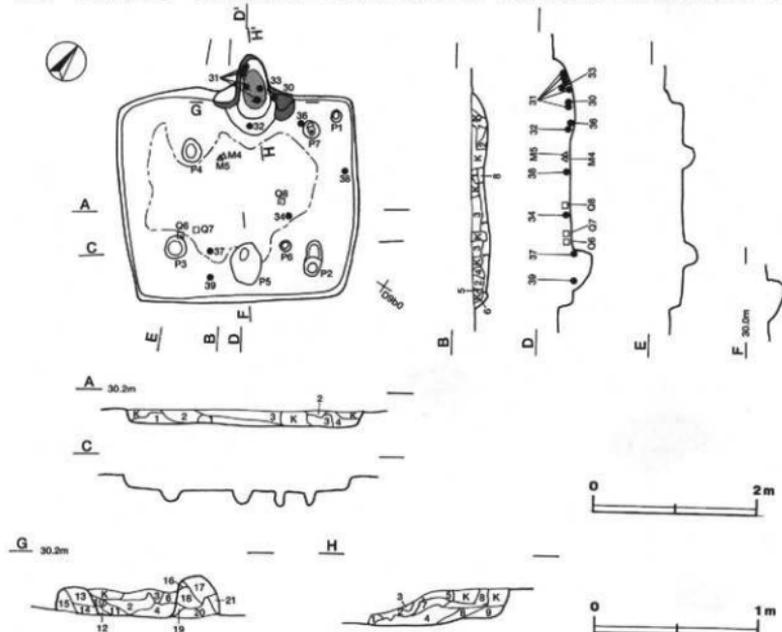
床 ほぼ平坦である。竈の前方部を中心に硬化面が見られる。炭化材が床面に貼りつくように確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで102cm, 袖部幅100cmで、壁外への掘り込みは50cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面の上に、ローム混じりの粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さの地山面をそのまま使用して、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

## 竈土層解説

1 暗 灰 色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
2 にぶい 橙 色	粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 赤 灰 色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
3 にぶい 赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	14 暗 灰 色	粘土ブロック中量, 焼土粒子少量
4 暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	15 黒 褐色	焼土粒子・粘土ブロック少量
5 にぶい 赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	16 灰 褐色	ローム混じり粘土中量, 焼土ブロック・炭化材少量
6 暗 赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	17 黒 褐色	ローム混じり粘土少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰 褐色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量	18 にぶい 褐色	ローム混じり粘土極めて多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 赤褐色	焼土粒子多量, 粘土ブロック微量	19 にぶい 褐色	ローム混じり粘土少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量	20 灰 褐色	ローム混じり粘土中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
10 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	21 黒 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・ローム混じり粘土少量, 炭化粒子微量
11 暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量		

ピット 7か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置しているこ



第263図 第9号住居跡実測図

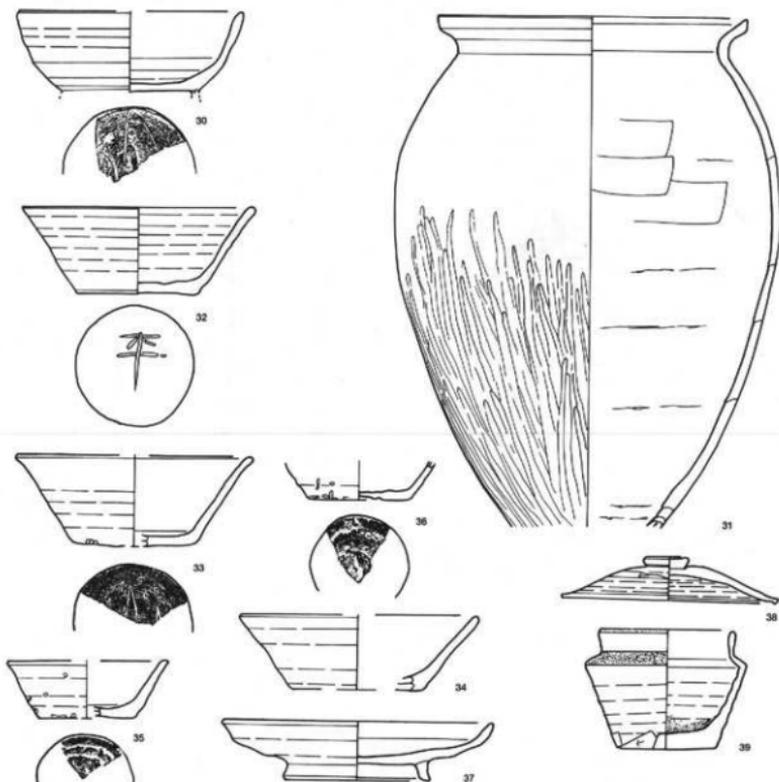
とから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・7の性格は不明である。深さはP 1～4が13～22cm、P 5が24cm、P 6・7が13～20cmである。

**覆土** 8層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

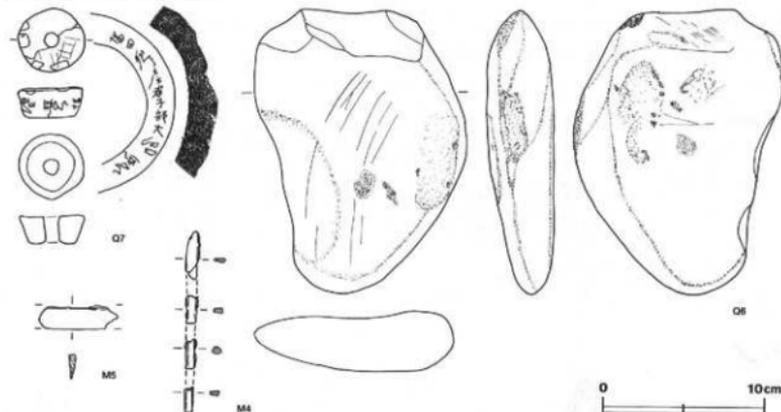
- |       |                         |       |                       |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 5 褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子微量        |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化材微量    | 6 明褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量   | 7 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 8 黒色  | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック少量 |

**遺物出土状況** 土師器片106点、須恵器片28点、磨石1点、石製紡錘車1点、瑪瑙原石1点、刀子1点、不明鉄製品1点が出土している。M 4の刀子は中央部の床面から、Q 7の「幡田郷戸主君子部大偏麻呂」とヘラ書きされた石製紡錘車は南部の床面から、39の須恵器短頸甕は南部の床面から横位の状態、32の「平」とヘラ書きされた須恵器坏は甕前方部から逆位の状態で出土している。



第264図 第9号住居跡出土遺物実測図(1)

所見 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から9世紀中葉と考えられる。



第265図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

第9号住居跡出土遺物観察表(第264・265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
30	須恵器	高台付杯	[14.0]	(5.1)	—	石英・長石・雲母	にじみ赤褐色	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ、ヘラ記号 内面重ね焼き痕	竈東縁部内	30%
31	土師器	壺	19.0	(32.3)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にじみ赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	竈内覆土下層	75% PL46
32	須恵器	杯	14.1	5.4	7.4	石英・長石・雲母・針状炭化物	褐色	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	竈西方部床面	100% 房書「平」PL46
33	須恵器	杯	[14.4]	5.2	[7.8]	石英・長石・雲母・針状炭化物	褐色	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ ヘラ記号	竈内覆土下層	45%
34	須恵器	杯	[14.4]	4.5	[7.8]	石英・長石・雲母	黄褐色	普通	口縁部内・外面磨ナデ	中央部床面	20%
35	須恵器	杯	[10.0]	3.8	[6.0]	石英・長石・雲母・針状炭化物	オリーブ灰	普通	体部外面磨の痕跡 底部回転ヘラ削り 内面ターム付着	北東部覆土中	15%
36	須恵器	杯	—	(2.4)	(6.2)	石英・長石	灰赤	普通	体部外面磨の痕跡 底部回転ヘラ削り 内面ターム付着	北東部床面	10%
37	須恵器	壺	16.4	3.7	9.0	石英・長石・雲母・針状炭化物	黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	東部床面	95% PL47
38	須恵器	蓋	13.2	2.7	—	長石・雲母・針状炭化物	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後ナデ	東部床面	60% PL47
39	須恵器	加蓋器	6.1	7.5	6.1	石英・長石・雲母	黄褐色	普通	底面一方肉のヘラ削り 底部外面及び内面下層焼付着	南西部床面	100% PL47

番号	器種	長さ(径)	厚(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	礫石	17.7	12.2	4.0	1087.2	安山岩	4面磨りの痕跡有り	東部床面	
Q 7	特殊傘	4.1	4.1	1.8	(37.8)	粘板岩	上面にヘラ状の記号あり 鏡面に刻書	東部床面	房書「藤田昭彦」王子塚大野山墓内 PL20
Q 8	礫石	5.5	4.0	3.0	71.0	地層		中央部床面	久慈川産未調査
M 4	鉄鏃	(8.8)	0.7	0.5	(2.8)	鉄	長鍔片刃	中央部床面	
M 5	刀子	(4.9)	1.4	0.4	(5.5)	鉄	刃部欠損	中央部床面	

### 第12号住居跡(第266図)

位置 調査区の中央部、B10g5区。標高30.3mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.80m、短軸2.53mの長方形である。壁は高さ12cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-39°-Wである。

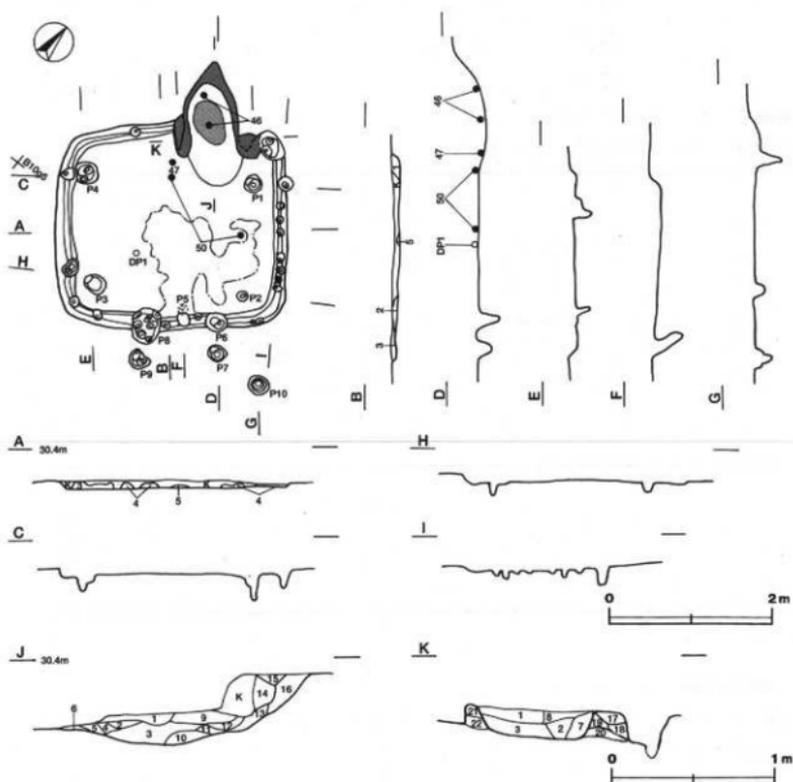
床 ほぼ平坦である。竈前方部に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅10~20cm、下幅6~10cm、深

さ4cmで、断面形は 状である。溝の中に径が5～18cmの円形や楕円形をし、深さ7～28cmほどの小ピット群が16か所見られ、壁柱穴の可能性が考えられる。炭化材が床面に貼り付くように確認されている。

**竈** 北西壁中央部や北寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで153cm、袖部幅104cmで、壁外への掘り込みは73cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面の上に砂質粘土構築されている。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめ、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

**電土層解説**

- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 灰 褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量        | 12 黒 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量      |
| 2 黒 褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量  | 13 梅碓赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量    |
| 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 14 褐 灰色 焼土粒子・粘土粒子少量        |
| 4 灰 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 15 灰 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量    | 16 黒 褐色 粘土粒子少量             |
| 6 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量    | 17 灰 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量    |
| 7 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 18 褐 灰色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量  |
| 8 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 19 黒 褐色 粘土ブロック・赤色粒子少量      |
| 9 黒 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量          | 20 明 褐色 ローム粒子多量、赤色粒子少量     |
| 10 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量         | 21 褐 灰色 粘土ブロック多量           |
| 11 におい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 22 灰 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量    |



第266図 第12号住居跡実測図

ピット 26か所(その中の16か所は床面の項で述べた壁際のピット群)。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7とP8・9はP5を挟んで対になって位置していることから、これらのピットも出入口施設に関連するピットの可能性が考えられる。P10は屋外に位置しているが、壁からの距離と規模から判断して、本跡に伴うものと考えられる。深さはP1~4が13~36cm, P5~9が18~38cm, P10が23cmである。

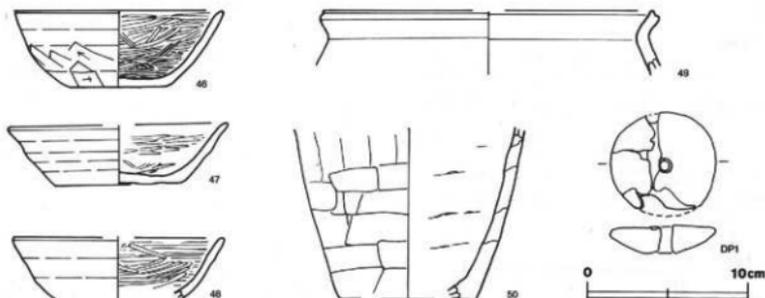
覆土 5層からなる。トレンチャーによる擾乱が見られるが、ブロック状の堆積を示し、ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 4 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 5 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土粒微量  
3 黒色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片30点, 土製紡錘車1点, 礎2点のほか, 擾乱等により混入したとみられる弥生土器片4点が出土している。遺物は中央部や竈内から出土している。46の土師器片は竈内から, DP1の土製紡錘車は中央部の床面から出土している。

所見 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第267図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
46	土師器	坪	12.6	4.8	6.0	石英・長石・雲母	浅黄腔	普通	底部下縁へツ削り, 内面へツ磨き	竈内一方隅のへツ削り	90% PL47
47	土師器	坪	13.4	4.7	7.8	石英・長石・雲母	浅黄腔	普通	底部内面へツ磨き	竈内方隅縁面	50%
48	土師器	坪	13.0	(2.9)	-	石英・長石・雲母・鐵	にぶい腔	普通	底部内面へツ磨き	竈内覆土中	10%
49	土師器	壺	20.4	(4.0)	-	石英・長石・雲母	明赤腔	普通	口縁部内・外面磨ナデ	北東部覆土上	5%
50	土師器	壺	-	(10.7)	[8.6]	石英・長石・雲母	にぶい腔	普通	底部外面へツ削り	中央部床面	10%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	紡錘車	6.6	0.7	1.7	(60.5)	土	表面ナデ裏面造台形	中央部床面	85% PL50

第14号住居跡 (第268図)

位置 調査区の中央部, B9i7区。標高30.5mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.97m, 短軸2.88mの方形である。壁は高さ10cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-86°-Eである。

床 はほぼ平坦である。中央部に硬化面が見られる。壁溝は西壁下と南壁下を巡っている。上幅10~14cm, 下幅6~10cm, 深さ5cmで, 断面形は状である。

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで80cm, 袖部幅64cmで, 壁外への掘り込みは43cmほどである。袖部は削平されているが, ローム混じりの粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめ, 火熱を受け, 赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |                              |                            |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 灰 赤 色 焼土粒子少量               | 5 赤 褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量       |
| 2 にいり赤褐色 粘土粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 6 赤 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 赤 褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量        | 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量    |
| 4 赤 黒色 焼土粒子中量, ローム粒子少量       | 8 暗赤褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量    |

ピット 1か所。P1は南壁際中央部の西寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さは20cmである。

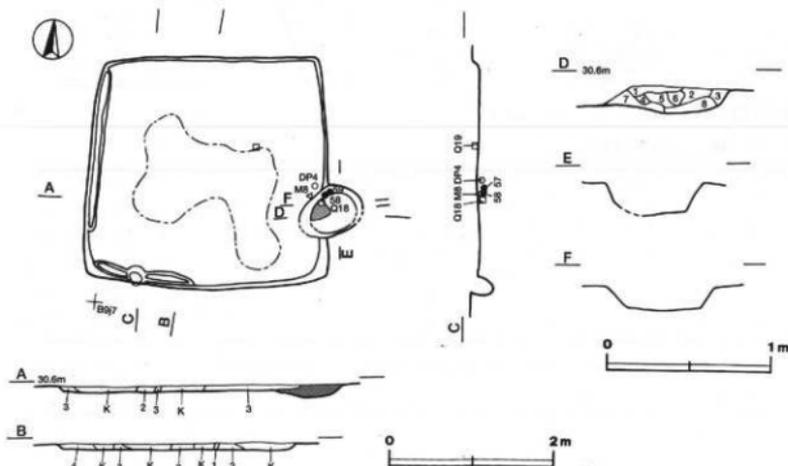
覆土 4層からなる。層厚が薄く, トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

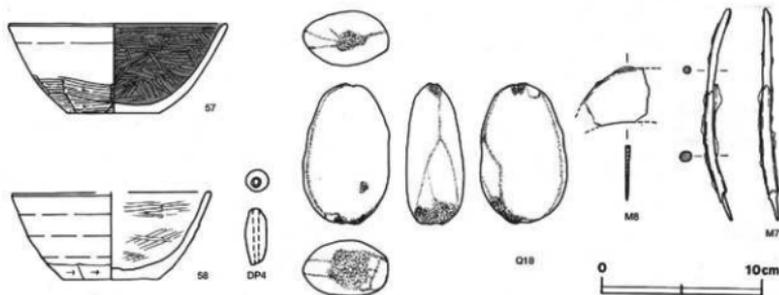
- |                            |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・炭屑パミス微量 | 3 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量       |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片34点, 敲石1点, 瑪瑙の原石1点, 管状土錘1点, 鎌1点, 不明鉄製品1点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片13点が出土している。遺物は竈内や北部から出土している。57の土師器坏やM8の鎌は竈内から出土している。

所見 時期は, 出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第268図 第14号住居跡実測図



第269図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第269図)

番号	種別	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
57	土器跡	鉢	13.8	5.6	5.6	石英・長石・雲母	浅黄緑	普通	外部下縁へツ振り、内面へツ振り 底部一方のへツ振り	竈火床面	95% PL67
58	土器跡	鉢	[12.2]	5.4	6.0	石英・長石・雲母	におい黄緑	普通	外部下縁へツ振り、内面へツ振り	竈火床面	10%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	管状土罐	3.5	0.4	1.4	5.6	土	外縁丁寧なナデ	竈北西側床面	100% PL30
Q18	磨石	5.3	3.4	8.7	228.4	安山岩	表面に磨りの痕跡あり 上下端部に発汗痕あり	竈火床部覆土下層	
Q19	磨石	3.2	2.6	1.2	9.9	磨石		中央部床面	久慈川産 未確認
M7	不明鉄製品	(13.1)	0.7	0.7	(13.3)	鉄	断面円形跡の可能性あり	東西部覆土上	
M8	鎌	(4.2)	3.5	0.2	(6.7)	鉄	刃部片 刃部先端欠損	竈火床面	

## 第20号住居跡 (第270図)

位置 調査区の南部、D10d1区。標高29.9mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.5m、短軸2.47mの方形である。壁は高さ5cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-21°-Eである。

床 ほぼ平坦である。竈の前方に硬化面が見られる。

竈 北東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで70cm、袖部幅68cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は削平されているが、ローム混じりの粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面とは同じ高さの地山面をそのまま使用して、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 2 暗褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

ピット 2か所。P1は南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。深さはP1・2とも14cmである。

## P1土層解説

1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

## P2土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は東コーナー部に、貯蔵穴2は西コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長径54cm、短径48cmの不整形円形で、深さは14cmである。貯蔵穴2は長軸78cm、短軸74cmの不整形形で、深さは10cmである。

貯蔵穴1土層解説

1 黒褐色 炭化材少量、ロームブロック・焼土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

貯蔵穴2土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量

2 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量

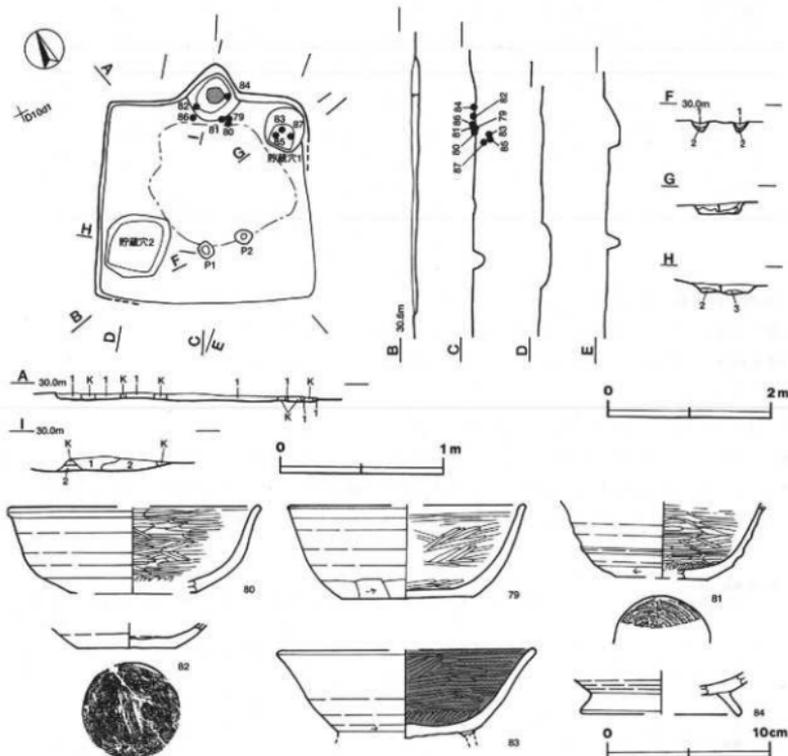
覆土 単一層である。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

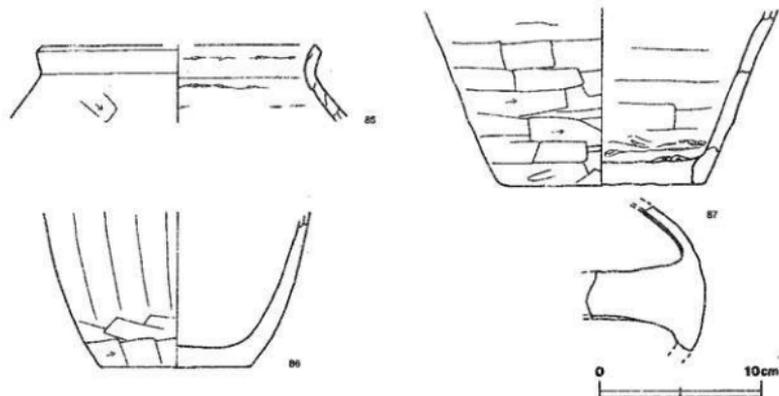
1 黒色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片32点、須恵器片4点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片5点が出土している。遺物は竈内と貯蔵穴内から出土している。86の土師器甕は竈内から、83の土師器高台付坏と87の須恵器甕は貯蔵穴1内から出土している。

所見 時期は、出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第270図 第20号住居跡・出土遺物実測図



第271図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表(第270-271図)

番号	種類	素材	口径	底径	高さ	胎土	文様	地域	用法の特徴	出土状況	備考
79	土師器	滑	14.4	5.8	8.0	石質・雲母	にのみ・散粒	吉野	体部下段へり削り、内面へりつき、口部内へり削り	堀内大塚西	30%
80	土師器	滑	15.3	5.3	12.5	灰石・雲母・赤色粘土	にのみ・粗	吉野	体部下段面へり削り、内面へりつき	堀内大塚東	10%
81	土師器	滑	-	4.7	7.5	灰石・雲母・赤色粘土	粗	吉野	体部下段面へり削り、内面へりつき、北端部止み切り	堀内大塚西	10%
82	土師器	滑	11.0	6.0	-	灰石・雲母・赤色粘土	粗	吉野	体部一方向のへり削り	堀内大塚西	10%
83	土師器	滑合付付	15.0	6.5	-	石質・灰石・雲母	武原	吉野	内面へりつき、体部四方向へり削り、内面黒色結核	新渡大塚南	60%
84	土師器	滑合付付	-	2.3	19.0	石質・灰石・雲母・赤色粘土	にのみ・滑	吉野	体部口タコナ	堀内大塚西	5%
85	土師器	滑	16.8	4.7	-	石質・灰石・雲母	にのみ・滑	吉野	体部外面へり削り	新渡大塚西	10%
86	埴輪	滑	-	3.0	9.4	石質・灰石・雲母	灰イリフ	吉野	体部外面へり削り、焼色により磨滅	堀内大塚東	30%
87	埴輪	滑	-	10.0	12.7	石質・灰石・雲母・赤色粘土	粗	吉野	体部外面へり削り、アコッラジへり削り、イボ式	新渡大塚西	30%

## 第24号住居跡(第272図)

位置 調査区の中央部、C10f8区。標高29.9mの平坦部に位置している。

重複関係 南部が第2号周溝の周溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.85m、短軸2.7mの方形である。壁は高さ6cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-30°-Wである。

床 はほぼ平坦である。窓前部に硬化面が見られる。

竈 北西壁中央部のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで86cm、袖部幅54cmで、壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は削平されているが、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を2cmほど掘りくぼめ、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量  
 2 橙褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子少量  
 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子少量  
 4 灰白褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 3か所。P1は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P 2・3は東コーナー部と南コーナー部に位置し、規模から支柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。深さはP 1が32cm、P 2・3が40~46cmである。

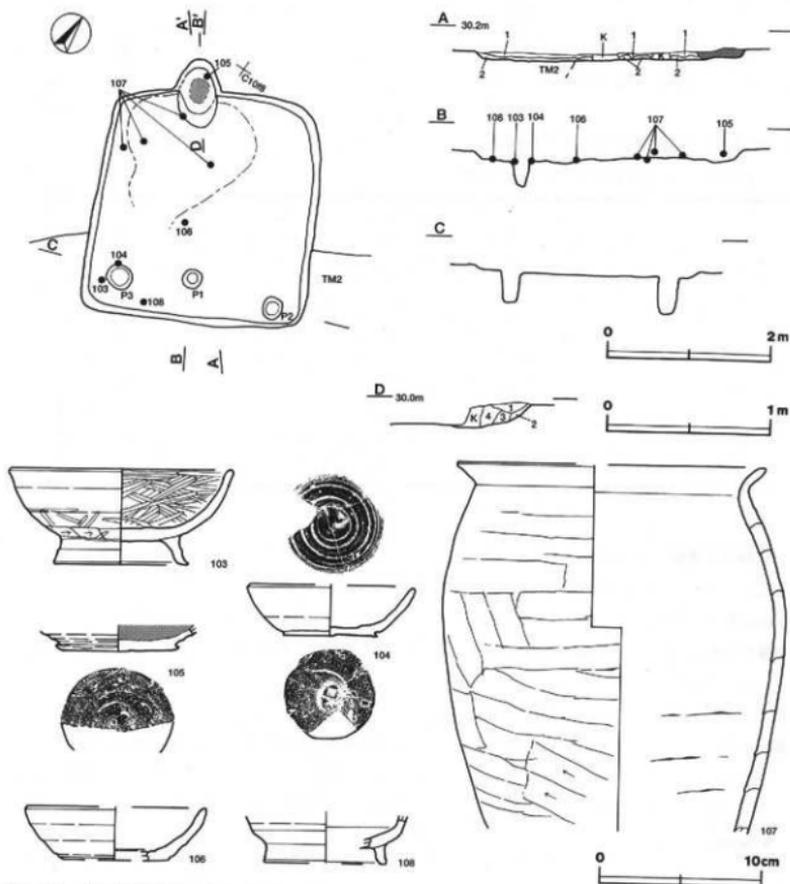
**覆土** 2層からなる。層厚が薄いのが、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 灰褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量      2 灰褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片20点、須恵器片1点が出土している。竈内から竈前方部にかけてと南コーナー部から出土している。103の土師器高台付坏は正位の状態、104の土師器坏と108の須恵器高台付坏は南コーナー部から逆位の状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から10世紀前葉から中葉と考えられる。



第272図 第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表 (第272図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色別	地成	手法の特徴	出土位置	備考
103	土師器	高台付杯	[3.6]	5.9	8.0	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部下縁へう削り後へう磨き、内面へう磨き	南部床面	80% PL47
104	土師器	皿	[10.0]	3.1	5.6	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部回転へう削り後へう磨き、内面へう磨き	南部床面	40%
105	土師器	杯	—	[1.6]	6.9	石英・長石・雲母・赤色粘土	褐色	普通	内面へう磨き 体部回転へう削り後へう磨き 内面黒色処理	覆土中層	10%
106	土師器	杯	[11.0]	3.5	[6.8]	石英・長石・雲母・赤色粘土	明赤褐色	普通	口・体部磨ナデ	中央部床面	5%
107	土師器	壺	[19.0]	[22.6]	—	石英・長石	浅黄褐色	普通	体部外面へう削り、内面磨ナデ	北部床面	60% PL48
108	須恵器	高台付杯	—	[3.2]	[7.4]	長石・雲母	褐色	普通	体部磨ナデ	南部床面	5%

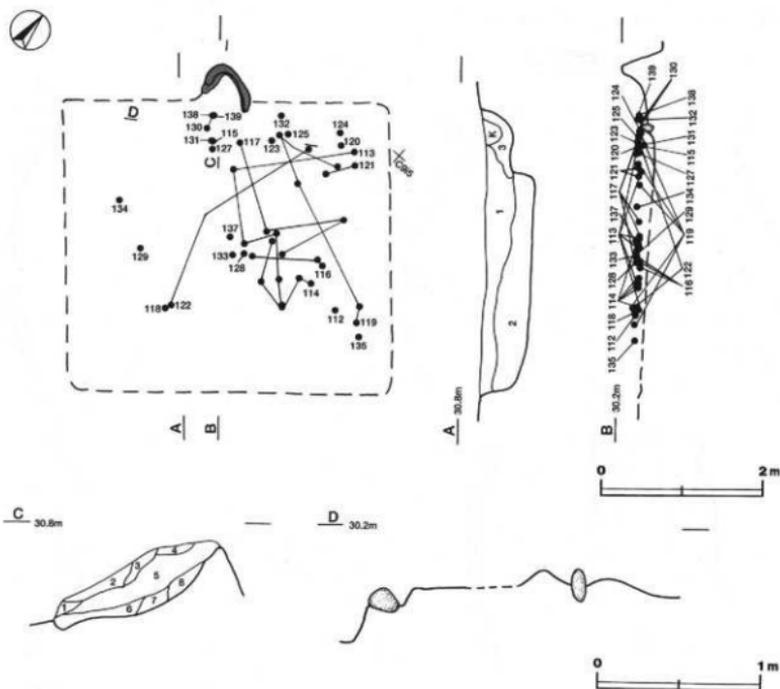
## 第27号住居跡 (第273図)

位置 調査区の中央部、C9i4区に位置している。

重複関係 本跡は第1号周溝墓の周溝の覆土を掘り込んで確認されている。

規模と形状 壁は削平されているが、推定長軸4.03m、短軸3.66mの方形と考えられる。主軸方向はN-38°-Wである。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。



第273図 第27号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで116cm、両袖部幅134cmで、壁外への掘り込みは50cmほどであると考えられる。袖部は削平されているが、チャート質の自然石を芯材とし、砂質粘土構築されていたと考えられる。火床面は床面と同じ高さで、火熱を受け、赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |        |                       |        |                           |
|--------|-----------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量        | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化材・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量             |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色  | ローム粒子・焼土ブロック少量            |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色  | 焼土粒子少量、炭化粒子微量             |

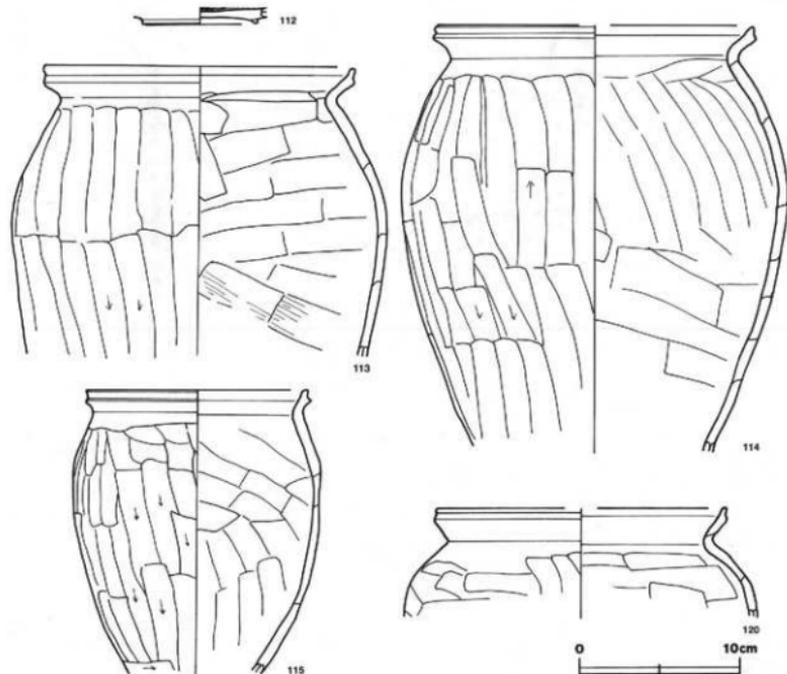
**覆土** 3層からなる。ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

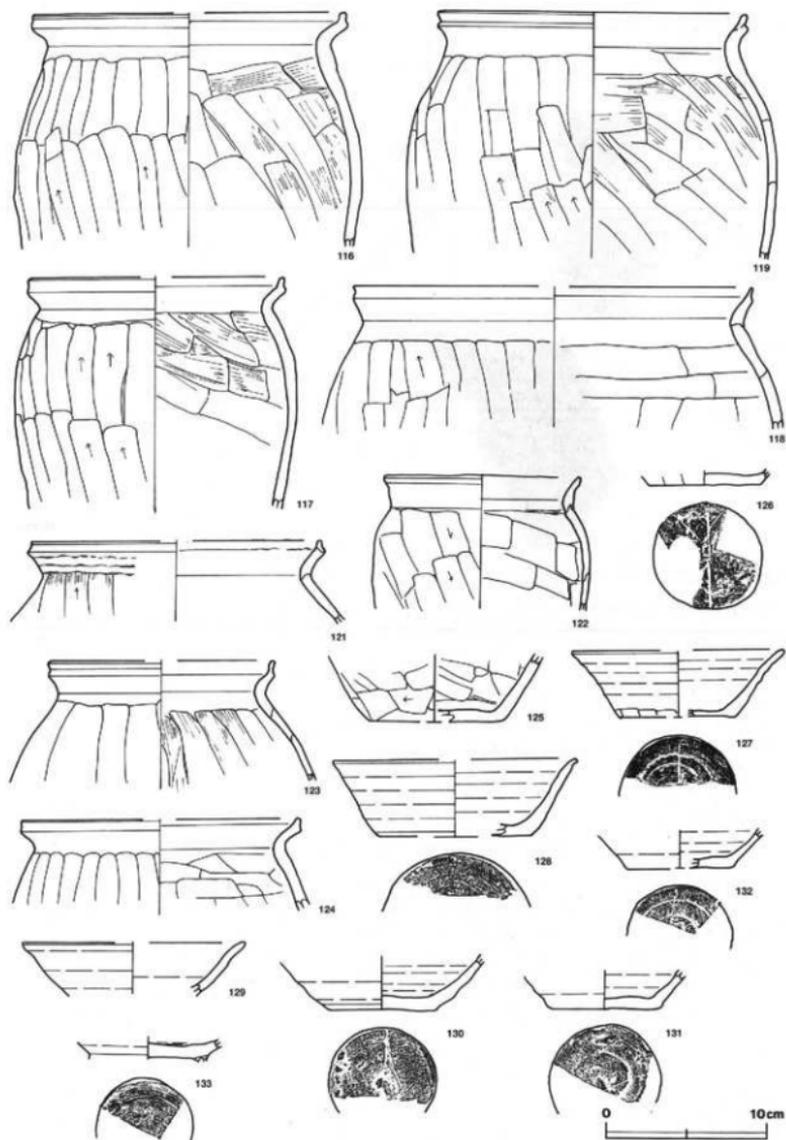
- |       |                   |        |                         |
|-------|-------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量        | 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（竈の土層） |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 |        |                         |

**遺物出土状況** 土師器片256点、須恵器片23点、礫3点（内1点は支脚に利用したとみられる自然石）のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器8点が出土している。遺物は竈内や北部から中央部にかけて投棄したような状況で出土している。115の土師器甕はつぶれた状態で、127の須恵器坏は斜位の状態で、それぞれ竈内から出土している。

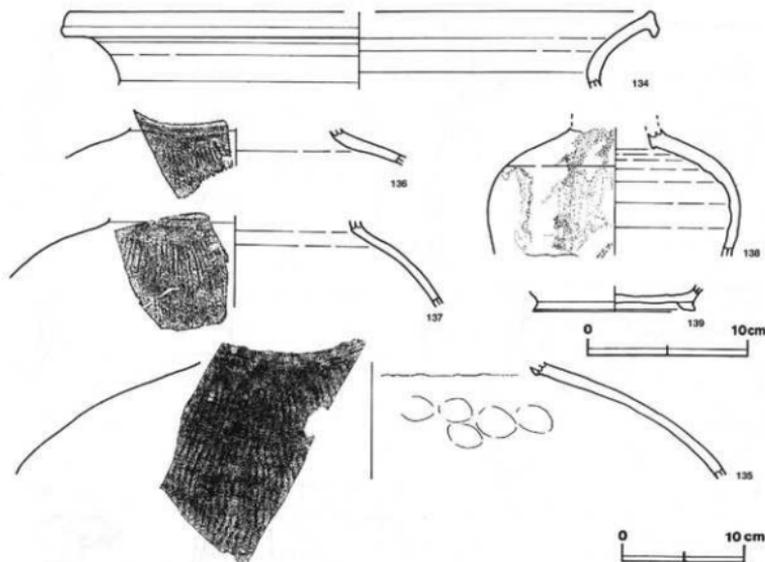
**所見** 時期は、出土土器等から9世紀前葉と考えられる。



第274図 第27号住居跡出土遺物実測図（1）



第275図 第27号住居跡出土遺物実測図(2)



第276図 第27号住居跡出土遺物実測図(3)

第27号住居跡出土遺物観察表(第274~276図)

番号	種別	品類	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	割合
112	土師器	裏面付杯	—	0.0	7.0	石灰・長石・雲母・赤色粒子	灰黄緑	普通	内面ヘラ磨き 内面黒色化処理	東部床面	5%
113	土師器	壺	19.0	(18.1)	—	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	北部壁土層	40%
114	土師器	壺	[19.6]	[26.7]	—	石灰・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	中央部床面	40% PL48
115	土師器	壺	13.6	(17.8)	—	石灰・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	北西部床面	70% PL48
116	土師器	壺	[19.2]	(14.7)	—	石灰・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	北東部床面	20%
117	土師器	壺	[15.5]	(14.5)	—	石灰・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	北東部床面	20%
118	土師器	壺	[24.8]	18.0	—	石灰・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	南部床面	10%
119	土師器	壺	19.0	(15.4)	—	石灰・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	北部壁土下層	20%
120	土師器	壺	[17.8]	16.7	—	石灰・長石・雲母	灰褐色	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部床面	10%
121	土師器	壺	[18.0]	0.0	—	石灰・長石・雲母	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ナデ	北部床面	5%
122	土師器	壺	12.0	16.4	—	石灰・長石・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	南部壁土下層	10%
123	土師器	壺	[13.9]	7.9	—	石灰・長石・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部床面	5%
124	土師器	壺	[17.0]	0.9	—	石灰・長石・雲母	褐色	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部床面	5%
125	土師器	壺	—	[4.2]	[8.2]	石灰・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面下層ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	北部壁土中層	5%
126	土師器	壺	—	(1.0)	7.0	石灰・長石・雲母	にぶい褐色	普通	底部本壁敷	壁土中	5%
127	須恵器	杯	[13.0]	4.2	[7.2]	石灰・長石・針状結核	黄灰	普通	体部下層ヘラ磨り 底部回転ヘラ磨り後ナデ ヘラ記号	北西部床面	40%
128	須恵器	杯	[14.8]	4.8	[9.3]	長石・輝・針状結核	灰	普通	体部下層ヘラ磨り 底部回転ヘラ磨り後ナデ	中央部壁土層	30%
129	須恵器	杯	[13.6]	0.4	—	長石・雲母・輝・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口・体部磨ナデ	南西部壁土中層	10%
130	須恵器	杯	—	(3.4)	6.6	長石・雲母・針状結核	にぶい褐色	普通	底部回転ヘラ磨り後ナデ	北西部壁土下層	30%
131	須恵器	杯	—	(2.5)	7.0	長石・輝	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ磨り後ナデ ヘラ記号	北西部床面	20%
132	須恵器	杯	—	(2.4)	[6.5]	長石・輝	灰	普通	底部回転ヘラ磨り後ヘラ磨り	北部壁土層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
133	須恵器	高台付杯	-	(1.4)	-	長石・雑	灰	普通	裏面面転へう張り後ナデ	中央部床面	20%
134	須恵器	壺	(36.0)	(5.0)	-	長石・雑	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ	西部壁土上層	5%
135	須恵器	壺	-	(8.5)	-	石英・長石	雑灰	普通	係部外面縦位の平行叩き、内面彫画による押圧 外面自然釉付着	東部壁土下層	5%
136	須恵器	壺	-	(2.4)	-	石英・長石	灰	普通	係部外面縦位の平行叩き	覆土中	
137	須恵器	壺	-	(5.3)	-	石英・長石	灰	普通	係部外面縦位の平行叩き	中央部壁土上層	
138	須恵器	水甕	-	(8.1)	-	石英・長石	粗灰	普通	係部横ナデ 外面自然釉付着	北西部床面	20% P138と同一器体少
139	須恵器	水甕?	-	(1.6)	10.0	石英・長石	雑灰	普通	張り付け高台 内面自然釉付着	北西部床面	5% P138と同一器体少

## 第32号住居跡 (第277図)

位置 調査区の南部, E10g6区に位置している。

重複関係 第6号周溝墓の周溝の覆土を掘り込んでいる。

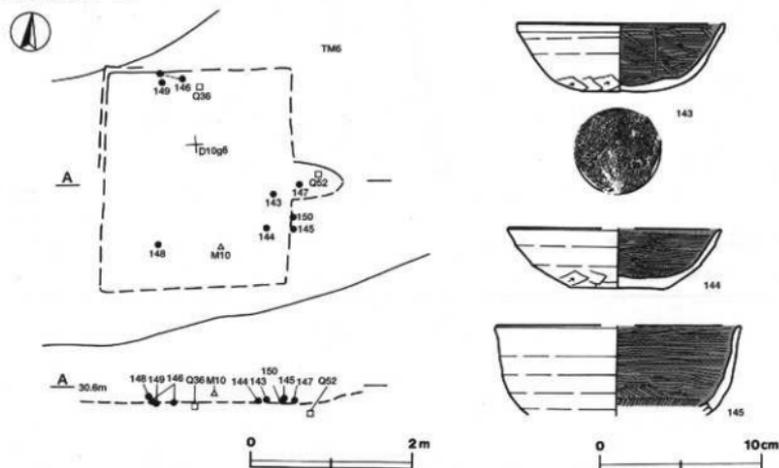
規模と形状 壁は削平されているが, 推定長軸2.8m, 短軸2.37mの長方形と考えられる。主軸方向はN-93°-Eである。

床 はほぼ平坦である。硬化面が確認されなかった。

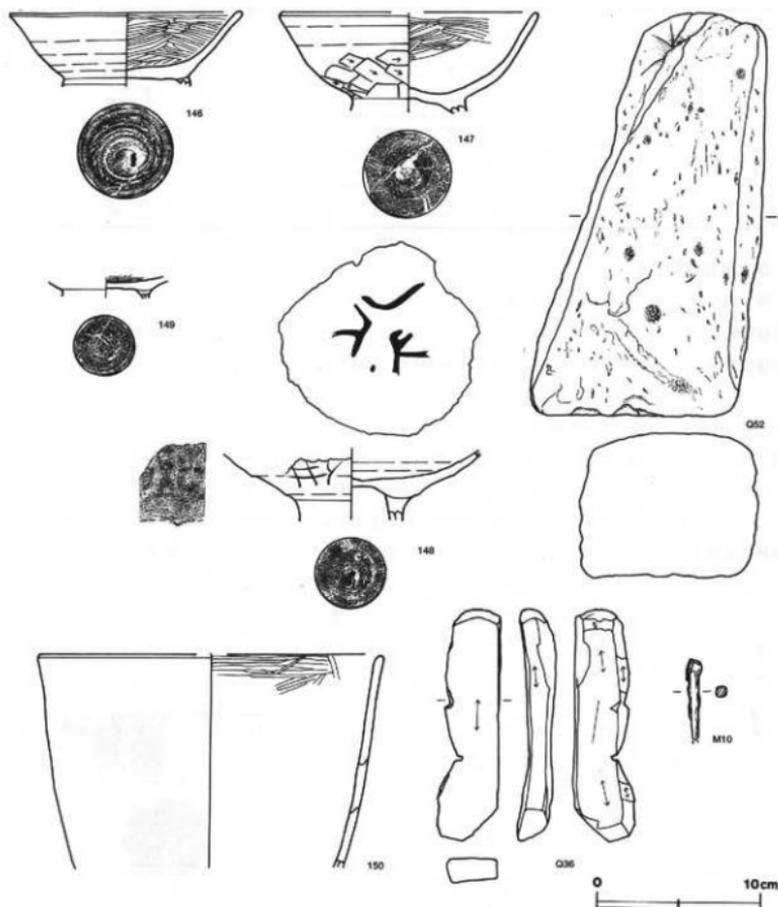
竈 東壁中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで90cm, 袖部幅48cmで, 壁外への掘り込みは60cmほどであると考えられる。袖部は削平されているが, 砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面と同じ高さで, 火熱を受け, 赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片20点, 礫1点, 釘1点, 土製支脚1点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点が出土している。遺物は竈内及びその前方部と北西コーナー部から出土している。146の土師器高台付杯は北西コーナー部から逆位の状態で, 143の土師器杯は竈前方部から正位の状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器等から10世紀前葉と考えられるが, 内面黒色処理された杯の割合が高いので若干古い様相を示している。



第277図 第32号住居跡・出土遺物実測図



第278図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表 (第277-278図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	土師器	甗	12.8	4.3	4.5	石英・長石・雲母	にぶい黄緑	普通	作部下縁へつ削り、内面へつ磨き、内面 黒色処理	南東部床面	80%
144	土師器	坏	[13.0]	2.8	5.8	石英・灰石	にぶい緑	普通	体部下縁へつ削り、内面へつ磨き、内面 黒色処理	南東部床面	60%
145	土師器	碗	[15.0]	5.5	-	石英・雲母	にぶい黄緑	普通	体部内面へつ磨き 内面黒色処理	南東部度土下層	15%
146	土師器	真合付杯	14.1	4.7	-	石英・長石・雲母・糖 - 針状鉱物	にぶい緑	普通	体部内面へつ磨き 底部回転へつ削り	北西部床面	90%
147	土師器	高台付杯	[15.6]	(6.3)	-	長石・雲母・糖	にぶい黄	普通	作部下縁へつ削り、内面へつ磨き	東端面	50%
148	灰土器	高坏	-	(4.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄緑	普通	耳部外面磨ナア	南西部壁土下層	40% 外面磨き「黄」 内面磨き「土」内底

番号	形制	面積	面積	形状	土質	色調	構成	手法	特徴	出土位置	備考
149	土師器	高台石鉢	—	(1.3)	灰石・雲母・白色砂子	灰青陶	塗土	條目内へり腐る	底部へり出骨	北西縁部	10%
150	土師器	鉢	(21.0)	(13.2)	—	石灰・灰石・黄砂	紅褐色	—	條目内へり腐る	南東隅部中心部	10%

番号	形制	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q26	灰石	14.2	3.8	2.1	119.2	凝灰岩	灰石3割	北西縁部	PL51
Q52	灰石	15.2	14.2	9.0	274.8	凝灰岩	灰石混り	—	PL54
M10	灰	15.0	0.6	0.7	5.2	灰	得部先端欠損 遺物先端部打痕あり	南東隅部中心部	—

表5 二の沢B遺跡住居跡一覧表

番号	位置	軸方向	平面形	縦横 (m)	面積 (㎡)	厚さ (cm)	築期	築法	内 部 設 置				備 考	特 徴	出土位置	備 考	
									土柱	土間	土間	土間					
1	A 912	N 32°-W	方形	3.0×4.22	27	平垣	—	—	—	—	—	—	—	1	人土	土師器(管台・付帯器、弥生土器)等	4世紀前半
2	B 945	N 33°-W	長方形	3.62×4.80	33	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	凝灰岩、不明鉄製品	古墳時代
3	B 941	N 20°-W	方形	3.90× [3.70]	8	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(環)	10世紀前後
4	B 843	N 30°-W	長方形	3.5×2.85	30	平垣	北西コーナー→雲母	—	1	4	凝1	—	—	—	自然	土師器(土・甕、須恵器(甕・付帯器)、灰石)	10世紀前後
5	C 1003	N 70°-E	長方形	3.03×2.73	7	平垣	全周	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(管)	10世紀前後
6	C 949	N 16°-W	方形	2.75×2.60	25	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(高台付帯器、甕、須恵器(甕・高台付帯器・甕・甕)、不明鉄製品)	5世紀後半
7	B 943	N 24°-W	長方形	[4.2] × [4.0]	6	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕、灰石)	弥生時代後期後半
9	D 949	N 31°-W	方形	2.85×2.7	10	平垣	全周	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(甕・甕、須恵器(甕・甕・甕)、白磁粉砕器、灰石)	5世紀前半
10	B 912	N 50°-E	長方形	4.31×3.75	15	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(小形甕)、弥生土器(甕、磨石)	4世紀代
11	B 840	N 40°-W	方形	4.91×4.60	21	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕、付帯器)、磨石、石鉢、不明鉄製品	弥生時代後期後半
12	B 1005	N 38°-W	長方形	2.80×2.63	12	平垣	北西全周	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(甕)、土師器(甕)	10世紀前後
13	B 1002	N 44°-W	八角形	5.28× [5.27]	6	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕)、土師器(甕・甕、甕)、磨石、土製粉砕器	弥生時代後期後半
14	B 917	N 86°-E	方形	2.97×2.88	10	平垣	西南部	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(甕)、管状土師器	10世紀前後
15	B 917	N 33°-W	方形	4.45×4.30	13	平垣	全周	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕)、土師器(甕・甕)、土師器(甕・甕)、磨石	弥生時代後期後半
16	C 944	N 24°-W	方形	[3.82] × [3.68]	12	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕)、土師器(甕・甕)、土師器(甕・甕)	弥生時代後期後半
17	C 942	N 16°-W	長方形	6.56× (4.17)	16	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(甕・甕・甕・甕)、不明鉄製品	4世紀前半
18	C 848	N 40°-W	方形	4.45×4.45	10	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕・高台)、磨石	弥生時代後期後半
19	C 843	N 27°-W	長方形	3.86× (2.35)	14	平垣	[全周]	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(甕)	4世紀後半
20	D 1001	N 21°-E	方形	2.5×2.47	5	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	土師器(甕・甕、須恵器(甕))	10世紀前後
21	D 1003	N 35°-E	八角形	4.85×4.64	7	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕、灰石)	弥生時代後期後半
22	D 940	N 31°-W	[方形]	[4] × [4.5]	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕、不明鉄製品)	弥生時代後期後半
23	C 944	N 45°-E	扇形	6.13×5.36	15	平垣	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器(甕・甕・甕・甕)、磨石	弥生時代後期後半

番号	位置	坐向方向	平面形	規模 (m) [長軸 × 短軸 (9°)]	築成 (m)	土質	内 部 結 構					備 考	特 徴 的 遺 物	時 期	考 考 (旧→新)	
							土柱 穴	土門 口	土 柱	土 柱	土 柱					
24	C108	N-30°-W	方形	2.85×2.7	6	平野	-	1	2	竪	-	円形	上層部中・高台付坪・礎・灰層 (西・高台付坪)	10世紀 前期～中葉	本跡 → 本跡	
25	D112	N 45° W	長方形	3.7×3.18	5	平野	全埋	4	1	3	竪	-	不明	弥生時代 後期後半	本跡 → TM5	
26	D848	N 65° E	八角形	5.37×4.88	14	平野	-	4	1	31	竪	-	白・人	弥生土器(土器)・磨石・伊石	弥生時代 後期後半	
27	C911	N-36°-W	方形	[4.03] × [3.66]	平野						竪	-	円形	上層部高台付坪・礎・灰層 (坪・高台付坪・礎・水缸)	9世紀前半	TM1 → 本跡
28	D100	N 11° W	不整形	4.08×3.61	20	平野	-	3	-	6	竪	-	不明	縄文土器片	縄文時代 末期～前期	本跡 → SK6・SK7
29	D942	N-45°-E	[楕円形]	[4.8] × [2.8]	平野		13								縄文時代	本跡 → SK7
30	D942	N 45° W	[方形]	[4.17] × [4.16]	-	平野	-	11	-	13	-	-	-	-	縄文時代	
31	A837	N-16°-W	方形	[4.55] × [4.3]	10	平野	-	4	1	-	-	-	不明	弥生土器(土門)	弥生時代 後期後半	本跡 → SK19
32	E106	N-65° E	[長方形]	[2.8] × [2.37]	不明	平野					竪	-	上層部中・高台付坪・礎・礎・ 石敷支那・礎石・釘	10世紀前半	本跡 → 本跡→TM6	
33	K106	N 6° -W	方形	[5.91] × [5.91]	15	平野	-	-	-	-	竪	-	人形	土師器(土器・灰)	3世紀末	SK3 → TM6
34	E103	N-22°-W	略正方形	4.40 × 4.25	14	平野 (今道)		2			竪	-	人形	弥生土器(土門)	弥生時代 後期後半	本跡 → TM6
35	K105	N 49 E	[長方形]	[3.4] × [3.28]	-	平野 (今道)	11	-	2	-	-	-	縄文土器(土門)	縄文時代前期 末期～前期	本跡 → TM6-SK3	

## 5 中世の遺構と遺物

今回の調査で確認された中世の遺構は、地下式竪坑2基である。これらの遺構は、調査区の中央部に位置している。以下、それぞれの遺構の特徴について、記述していく。

### (1) 地下式竪坑

#### 第1号地下式竪坑 (SK21) (第279図)

**位置** 調査区の中央部、B8e9区。標高30.7mの平坦部に位置している。主軸方向はN-77°-Eである。

**竪坑** 西壁中央部に位置し、上面は長径1.22m、短径1.0mの楕円形をしていて、確認面からの深さは0.8mである。底面は主室の底面より40cmほど高く、主室に向かって緩やかに傾斜している。

**主室** 平面形は長軸2.54m、短軸2.0mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは1.2mである。天井部は完全に崩落している。底面は平垣で、壁はほぼ直立して、あるいは内傾して立ち上がっている。

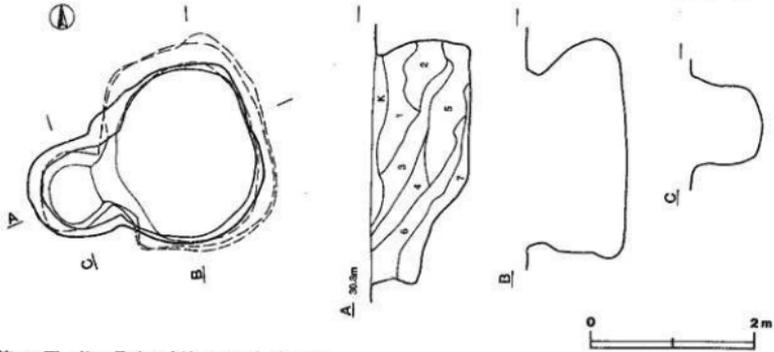
**覆土** 7層からなる。第2・5層はロームブロックを主体とした天井部の崩落層である。第6・7層が竪坑から主室に向かって流れ込んだ後、天井中央部の第5層が崩落し、その後、第3・4層が流れ込んだと考えられる。そして、最後に、壁際天井部の第2層が崩落したと考えられる。

#### 土層解説

- |       |                                |       |                              |
|-------|--------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・塵埃(バミ)少量   | 5 明褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量        |
| 2 褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子中量、焼土粒子・塵埃       | 6 黒色  | 炭化粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量      |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量、粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 黒色  | ローム粒子・炭化粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒色  | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量          |       |                              |

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 本跡は、出土遺物がないため、時期を決定することは難しいが、遺構の形態から中世と判断した。



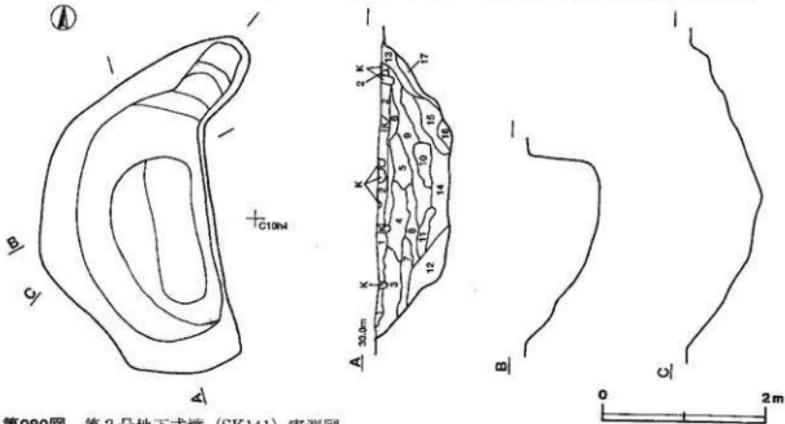
第279図 第1号地下式墳 (SK21) 実測図

第2号地下式墳 (SK141) (第280図)

位置 調査区の中央部、C10g3区。標高29.5mの平坦部に位置している。主軸方向はN-11°-Wである。

竪坑 北東コーナー部に位置し、上面は長径1.16m、短径0.9mの楕円形をしていて、確認面からの深さは0.5mである。底面は主室の底面より40cmほど高く、主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 平面形は長軸3.66m、短軸2.2mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは0.9mである。天井部は完全に崩落している。底面は皿状で、壁はほぼ直立して、あるいは緩やかに外傾して立ち上がっている。



第280図 第2号地下式墳 (SK141) 実測図

覆土 17層からなる。第10・11層はロームブロックを主体とした天井部の崩落層である。第9・13~17層は堅坑から室室に向かって流れ込むような堆積である。

#### 土層解説

1	黒色	ローム粒子・赤色粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック中層、赤色粒子微量
2	黒色	ローム粒子少量、赤色粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック中層、赤色粒子微量
3	褐色	ロームブロック・赤色粒子微量	12	新褐色	ロームブロック少量、赤色粒子微量
4	黒色	赤色粒子少量、ロームブロック微量	13	黒褐色	赤色粒子少量、ロームブロック微量
5	黒色	赤色粒子少量、ローム粒子微量	14	黒色	ローム粒子微量
6	黒色	ローム粒子・赤色粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック・赤色粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・赤色粒子微量	16	褐色	ロームブロック中層、赤色粒子微量
8	黒色	ロームブロック・赤色粒子微量	17	新褐色	ロームブロック少量、赤色粒子微量
9	黒色	ロームブロック・赤色粒子微量			

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 本跡は、出土遺物がなため、時期を決定することは難しいが、遺構の形態から中世と判断した。

## 6 その他の遺構と遺物

今回の調査で時期不明の土坑100基、溝2条、井戸跡2基を確認した。これら遺構については、管状土鍾が12点出土した土坑については解説をし、それ以外については実測図と一覧表に示すことにする。また、遺構に伴わない主な遺物については、本項で一括して実測図と観察表を掲載する。

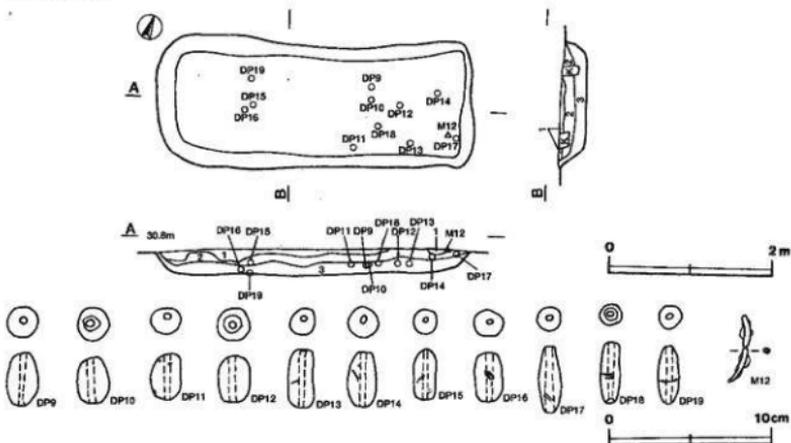
### (1) 土坑

#### 第142号土坑（第281図）

位置 調査区の中央部、C9e2区。標高30.7m平坦部に位置している。

重複関係 第1号周溝墓の周溝の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.87m、短軸1.48mの長方形で、深さは32cmである。長軸方向はN-71°-Eである。底面は平坦で、壁は高さ32cmで、外傾して立ち上がっている。確認面には砂と粘土混じりの礫が付き固められたように硬化している。



第281図 第142号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。この土坑がほぼ埋まった後に、砂と粘土混じりの礫をつき固めたと考えられる。

## 土層解説

- 1 黒褐色 礫多量、粘土ブロック中層、ローム粒下・砂少量 3 黒色 ローム粒下微礫
- 2 黒色 ローム粒少量

遺物出土状況 土師器細片12点、管状土鍾11点、瑪瑙の原石1点、不明鉄製品1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点が出土している。管状土鍾は東部から8点、中央部から西部にかけて3点が覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器が細片なので不明であるが、重複関係から古墳時代前期以降である。

第142号土坑出土遺物観察表(第281図)

番号	名称	長さ(径)	幅(直径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	管状土鍾	3.2	0.4	1.9	10.6	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP10	管状土鍾	2.8	0.5	2.0	11.3	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP11	管状土鍾	2.9	0.4	1.8	7.6	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP12	管状土鍾	2.8	0.4	2.0	11.6	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP13	管状土鍾	3.6	0.4	1.6	11.3	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP14	管状土鍾	3.3	0.4	1.7	10.4	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP15	管状土鍾	3.1	0.3	1.5	7.4	土	外周ナデ	西部覆土下層	100% PL50
DP16	管状土鍾	3.0	0.4	1.8	8.9	土	外周ナデ	西部覆土下層	100% PL50
DP17	管状土鍾	4.1	0.4	1.4	6.5	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP18	管状土鍾	3.7	0.4	1.3	6.5	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP19	管状土鍾	3.5	0.5	1.4	6.8	土	外周ナデ	東部覆土下層	100% PL50
M12	不明鉄製品	φ4.0	0.4	0.3	0.01	鉄	断面長方形	東部覆土上層	100%

表6 二の沢B遺跡土坑一覽表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) 長径×短径	深さ(m)	壁材	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (埋蔵・新・旧)
1	B064	N-22°-W	楕円形	0.92×0.78	20	外壁	皿状	自然		
2	D065	N-42°-E	楕円形	0.96×0.90	18	外壁	皿状	自然		
3	B062	N-65°-W	長方形	2.28×0.94	3	外壁	平底	自然		S10→本跡
4	B060	N-77°-E	長方形	2.52×0.76	10	外壁	平底	人工	弥生土器片	
5	B069	-	円形	0.88×0.88	16	外壁	平底	人工	焼けた礫	
6	B069	N-81°-W	楕円形	1.45×1.28	30	外壁	平底	人工	焼けた礫	
7	B066	N-81°-W	楕円形	2.21×1.60	31	外壁	凸凹	自然	礫	本跡→SK 8
8	B066	-	[H形]	1.60×1.55	20	外壁	平底	自然	焼けた礫	SK 7→本跡
9	C063	N-31°-W	[H形]	0.76×0.58	20	壁材	皿状	自然	土師器(白)	古墳時代前期の 埋蔵遺物 S119・本跡 弥生時代末期後葉 S118→本跡
10	C067	-	円形	1.12×1.11	16	外壁	平底	自然	弥生土器(赤)	弥生土器片、土師器片
11	B062	-	円形	0.86×0.82	30	外壁	皿状	不明		S110→本跡
12	D064	N-32°-W	長方形	2.18×0.98	12	外壁	平底	人工		S116→本跡
13	A064	N-20°-W	長方形	1.50×0.76	9	外壁	平底	不明		
14	A062	N-17°-W	楕円形	1.0×0.8	21	壁材	皿状	自然		
15	A061	N-12°-W	楕円形	1.02×0.69	17	外壁	平底	自然		
16	A063	N-25°-E	楕円形	0.98×0.8	21	外壁	平底	自然		
17	D066	N-80°-E	楕円形	0.97×0.88	20	壁材	皿状	自然		

番号	位置	長短方向 (長短方向)	平面形	取積 (m) 長×短	高さ (cm)	壁厚	底層	覆土	主 要 注 意 事 項	備 考 (材料・高・厚)
18	D9d2	N-31°-W	不整形門形	2.28×1.4	28	外壁	コンクリート	自然		掘土時注意(掘土穴) 設置にホット着る
19	B9d6	N-20°-W	門形	0.95×0.72	17	外壁	平瓦	自然		
20	B9d7	N-30°-E	不整形門形	2.41×1.26	86	外壁	コンクリート	自然		
21	B9d9	N-77°-E	隅丸長方形	2.96×2.17	130	内壁	平瓦	自然	壁	品1号地下式溝小径
22	B9d3	N-81°-E	不整形門形	1.65×1.28	22	壁面	コンクリート	自然		
23	B9d7	N-15°-W	門形	0.97×0.55	10	外壁	コンクリート	自然		
24	B9d7	N-35°-E	門形	1.48×0.96	22	外壁	コンクリート	自然		
25	B9d6	-	門形	0.84×0.82	10	外壁	コンクリート	自然		
26	C9d3	N-29°-W	門形	1.25×1.03	12	外壁	平瓦	自然		
27	B9d6	N-2°-W	門形	1.06×0.59	20	壁面	コンクリート	自然	土溝部分	
28	D10d7	N-85°-E	門形	2.05×0.97	29	壁面	平瓦	自然		
29	C9d2	N-20°-W	門形	1.3×0.86	20	壁面	平瓦	自然		
30	B9d6	N-25°-W	門形	0.67×0.54	16	外壁	平瓦	自然		
31	B9d6	N-76°-E	門形	0.76×0.58	38	外壁	平瓦	自然		
32	C9d2	N-43°-W	門形	0.58×0.81	22	壁面	平瓦	自然		
33	B9d1	N-23°-W	[門形]	(1.36) × 0.79	16	壁面	平瓦	自然		
34	B9d3	-	門形	0.86) × 0.85	11	外壁	平瓦	自然		
35	B9d2	N-19°-W	門形	1.86×0.8	16	外壁	平瓦	自然		
36	B9d7	N-21°-W	門形	1.42×0.81	21	外壁	平瓦	自然		
37	D9d1	N-12°-W	隅丸長方形	1.83×1.07	20	外壁	平瓦	自然		
38	B9d1	N-5°-W	門形	1.63×1.02	11	外壁	平瓦	自然		
39	B9d1	N-5°-W	隅丸長方形	1.73×0.95	11	外壁	平瓦	自然	掘土上部分	
40	C9d1	-	門形	1.02×0.96	24	壁面	平瓦	自然		
41	B9d2	N-15°-E	不整形	2.72×1.81	45	壁面	コンクリート	自然		
42	B9d4	N-23°-W	門形	1.42×1.14	19	壁面	平瓦	自然		
43	B9d3	N-5°-W	門形	1.5×1.2	18	外壁	平瓦	自然		
44	B9d3	N-20°-E	門形	1.45×0.8	10	外壁	平瓦	自然		
45	B9d2	N-30°-W	門形	0.74×0.61	18	外壁	平瓦	自然		
46	B9d1	N-38°-E	不整形	3.12×1.89	107	外壁	平瓦	自然		
47	B9d9	N-70°-E	不整形	3.30×2.5	46	壁面	コンクリート	自然		本館+SK2
48	B9d8	N-6°-E	不整形	2.61×1.10	22	外壁	平瓦	自然		本館+SK71
49	C9d8	N-37°-E	門形	2.75×1.45	26	外壁	平瓦	自然		
50	C9d8	N-20°-E	門形	1.47×1.20	19	外壁	平瓦	自然		
51	B9d8	-	門形	1.0×0.85	17	外壁	平瓦	自然		
52	B9d7	N-18°-E	門形	1.32×0.98	13	外壁	平瓦	不明		
53	B9d0	-	門形	0.65×0.61	13	外壁	平瓦	自然		
54	C9d1	-	門形	1.2×1.15	32	壁面	平瓦	自然		
55	B9d7	N-33°-W	不整形門形	2.6×0.7	15	外壁	平瓦	自然		
56	B9d8	N-64°-W	不整形門形	1.75×0.85	26	外壁	平瓦	自然		
57	D9d2	-	門形	0.72×0.71	18	外壁	平瓦	自然		
58	B9d7	N-88°-E	門形	0.92×0.75	31	外壁	平瓦	自然		
60	B9d6	N-80°-E	門形	0.84×0.65	10	外壁	平瓦	自然		
62	B9d5	N-52°-W	門形	0.79×0.62	10	壁面	平瓦	自然		
62	B9d5	N-32°-W	門形	1.12×0.98	40	外壁	平瓦	自然		
63	B9d4	-	[門形]	0.88 × (0.90)	11	外壁	平瓦	自然		
64	B9d4	N-80°-E	門形	0.95×0.81	16	外壁	平瓦	自然		

番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	深径 (m) 長径×短径	厚さ (cm)	墳周	墳頂	出土	主要出土遺物	備考 (構造・材質・PC)
65	B814	N-31°-E	楕円形	1.29×0.71	11	外堀	平頂	自然		
66	B814	N-15°-W	楕円形	1.29×1.1	13	外堀	平頂	人為		
67	B814	N-42°-W	楕円形	1.08×0.80	15	垂直	平頂	自然		
68	B813	N-17°-W	1幅内形	1.111×0.61	15	外堀	平頂	自然		
69	B813	-	円形	1.1×1.06	19	外堀	平頂	自然		
70	B814	-	円形	1.01×1.0	21	外堀	平頂	自然		
71	B818	-	円形	1.31×1.20	26	外堀	平頂	自然		SK48・木料
72	B817	N-5°-E	楕円形	1.0×0.68	14	竪割	平頂	自然		
73	C8a6	N-33°-E	楕円形	1.48×1.05	12	外堀	平頂	人為		
74	C8a7	N-25°-W	楕円形	0.63×0.57	26	竪割	圓状	自然		
75	C7a7	N-41°-E	楕円形	0.78×0.66	20	外堀	平頂	人為		
76	C8b6	N-06°-W	楕円形	1.6×1.27	19	竪割	圓状	自然		
77	C8a8	N-48°-W	不整形円形	1.34×0.83	22	竪割	平頂	自然		
78	C8a9	N-8°-W	不整形円形	2.28×1.29	25	竪割	平頂	人為		
79	C8a0	N-8°-W	楕円形	0.9×0.51	15	外堀	平頂	自然		
80	D10a2	N-89°-E	不整形円形	4.52×2.4	90	外堀	平頂	人為	弥生上層部	弥生時代後層後葉
81	D10c1	N-54°-W	不整形円形	2.30×2.07	42	外堀	平頂	人為		
82	D9b0	-	円形	0.96×0.93	18	竪割	平頂	自然	弥生上層部, 弥生中層部, 弥生下層部	
83	D10j1	-	円形	1.02×0.96	21	竪割	平頂	自然		
84	D9j8	-	円形	0.98×0.97	16	外堀	平頂	自然		
85	D9j8	-	円形	0.9×0.9	24	外堀	平頂	自然	礎	
86	D9j6	N-90°-W	楕円形	1.45×1.21	40	竪割	平頂	人為	礎石の礎	
87	D9j6	N-7°-W	楕円形	1.41×1.27	20	竪割	平頂	自然		
88	E9a2	N-7°-E	不整形円形	0.67×0.27	35	内堀・外堀	平頂	人為		
89	E8a6	N-30°-W	不整形円形	1.03×0.79	23	外堀	平頂	自然		
90	E9a5	-	円形	0.93×0.87	79	外堀	平頂	人為	礎	
91	B8j6	-	円形	0.88×0.83	15	竪割	平頂	不明		
92	B8j5	N-20°-W	楕円形	0.90×0.76	20	外堀	平頂	人為		
93	C8b6	N-90°-W	楕円形	2.3×1.83	13	外堀	平頂	人為		
94	C8b6	N-7°-W	四角長方形	2.77×1.15	21	外堀	平頂	人為		
95	C8j7	N-12°-W	楕円形	2.14×1.65	18	外堀	平頂	人為		
96	C8b6	N-15°-E	楕円形	2.45×1.62	24	外堀	平頂	自然		
97	C8c5	-	円形	1.16×1.12	30	外堀	平頂	自然		
98	C8c6	N-17°-W	楕円形	0.98×0.84	13	竪割	圓状	自然	弥生上層部, 礎	
99	C8d6	-	円形	1.00×0.98	13	竪割	圓状	自然		
100	E9a5	N-71°-W	不整形円形	0.59×0.54	20	外堀	圓状	自然		
101	D9j4	N-78°-E	不整形円形	0.77×0.70	9	外堀	平頂	不明	弥生上層部	
102	D8a0	N-81°-W	不整形円形	2.12×1.78	7	外堀	平頂	人為		
103	D8j0	N-22°-W	1幅内形	1.129×1.05	19	竪割	平頂	自然		
104	D9c2	N--W	楕円形	0.97×0.86	35	竪割	圓状	自然		
106	A8b8	N-79°-E	長方形	1.45×0.63	33	垂直	平頂	人為		
107	A8b0	N-75°-E	楕円形	2.00×0.7	17	竪割	円形	人為		
108	D9d6	-	円形	0.73×0.71	9	竪割	圓状	自然	弥生上層部	
109	D9d6	-	円形	0.77×0.71	8	竪割	圓状	自然		
110	C10a9	N°-E	楕円形	1.33×1.19	9	外堀	平頂	人為		
111	C10b0	-	楕円形	1.25×1.11	36	竪割	圓状	人為	礎石の礎	

番号	位置	長尺方向 (長軸方向)	平面形状	規模 (m) 長径×短径	高さ (cm)	築年	築材	覆土	所在	備考 (特記・新・旧)
112	D85	N-24°-W	楕円形	0.81×0.33	22	外堀	平瓦	不明		
113	C846	-	円形	1.11×1.09	20	葺石	平瓦	人海		
114	C911	N-25°-W	不定形	3.97×2.15	10	葺石	葺石	自然	西土土層中、西土土層中、土加蓋中	TM1→本跡
115	D847	N-37°-W	不規則形状	2.75×2.4	106	外堀	平瓦	自然	西土土層中、西土土層中、土加蓋中	弥生時代後期前後
116	C845	N-21°-W	楕円形	0.85×0.91	21	葺石	平瓦	自然		
117	D852	N-18°-W	楕円形	0.6×0.23	41	外堀	平瓦	人海	土層中、西土土層中	5世紀前半、西土土層中
118	B833	N-22°-E	楕円形	0.30×0.22	27	外堀	凸瓦	不明		
119	C864	-	円形	1.13×1.08	25	葺石	平瓦	自然		
120	C865	N-11°-W	楕円形	1.36×0.97	19	葺石	平瓦	自然		
121	C861	N-82°-W	楕円形	0.89×0.61	13	外堀	平瓦	自然		
122	C848	N-20°-W	不規則形状	2.17×1.15	15	葺石	平瓦	人海		
123	C847	-	円形	0.76×0.7	13	葺石	平瓦	自然		
124	C849	N-20°-W	小楕円形	2.36×2.27	27	葺石	平瓦	自然	西土土層中	弥生時代後期前後
125	C849	N-16°-W	楕円形	0.91×0.65	14	葺石	平瓦	人海		
126	C940	N-27°-W	楕円形	1.09×1.30	14	外堀	平瓦	人海		
127	C849	N-20°-W	楕円形	0.74×0.63	16	葺石	葺石	自然		
128	C940	N-7°-E	楕円形	1.20×0.72	6	葺石	平瓦	自然		
129	C849	N 90°-E	長方形	1.15×0.98	10	葺石	平瓦	人海		
130	B942	N-35°-E	溝状長方形	1.06×0.35	12	外堀	平瓦	自然		
131	B942	-	円形	0.70×0.64	14	外堀	平瓦	自然		
132	B943	N-40°-E	楕円形	0.77×0.57	11	外堀	平瓦	自然		
134	B942	-	円形	1.13×1.10	27	葺石	平瓦	自然		
135	C103	N 8°-W	楕円形	1.48×1.24	15	葺石	平瓦	人海		
136	H104	N-28°-E	楕円形	1.14×0.88	14	葺石	平瓦	人海		
137	A943	N-42°-W	楕円形	1.34×1.11	94	外堀	平瓦	人海		SD2→本跡
138	H662	N-41°-W	楕円形	1.66×1.42	27	外堀	平瓦	人海		
139	A847	N-3°-E	長方形	1.65×0.77	18	外堀	平瓦	自然	西土土層中、西土土層中	弥生時代後期前後の土層中、SD1→本跡
140	D944	N-60°-E	楕円形	0.85×0.67	20	外堀	平瓦	不明		
141	C103	N-11°-W	不定形	3.87×2.17	90	葺石	葺石	自然		第2号地下式土層中
142	C942	N-71°-E	長方形	3.87×1.48	32	外堀	凸瓦	不明		
143	A940	N-78°-E	楕円形	1.83×0.62	10	葺石	平瓦	人海		
145	C840	-	円形	0.96×0.9	15	外堀	平瓦	人海		
151	A840	N-75°-E	長方形	1.92×0.6	67	外堀	平瓦	不明		

## (2) 溝

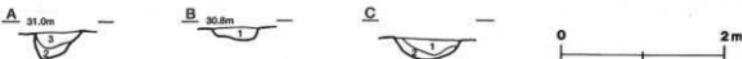
表7 二の沢B遺跡溝跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規模 (m)				築年	築材	覆土	所在	備考 (特記・新・旧)	
				溝幅	上幅	下幅	深さ						
1	A841-B843-A840	N 36°-W N-30°-E	「く」の字状	(61.1)	0.15~0.40	0.22~0.32	0.25	外堀	平瓦	自然		不明	
2	A848-A849-A942	N-47°-W N-42°-E N-47°-W	「フ」の字状	(54.5)	0.5-1.6	0.48-1.04	0.42	外堀	平瓦	西土土層中	土加蓋中	不明	本跡・SK137

第1号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 ローム粒子中量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量



第282図 第1号溝跡実測図

第2号溝土層解説

A-A'

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  
3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  
5 褐色 ロームブロック少量

B-B'

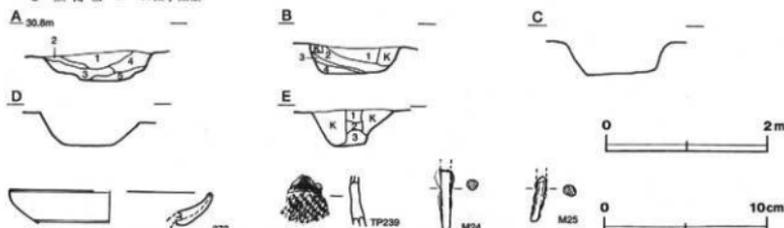
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
4 褐色 ロームブロック少量

E-E'

- 1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量



第283図 第2号溝跡・出土物実測図

第2号溝跡出土物観察表 (238図)

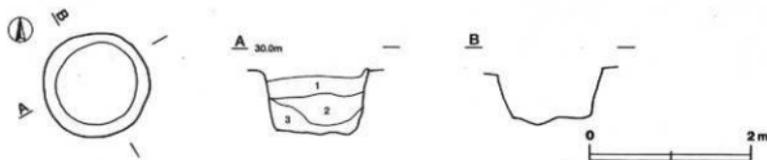
番号	種別	器種	口径	器高	表径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
273	土師器	甕	[12.2]	(2.0)	-	石英・辰石・雲母 赤色粒子	にぶい赤黒	普通	口縁部内・外面磨ナシ	S D 2 覆土中	5%
TP230	鉄生土器	鏝	-	(3.0)	-	石英・辰石・雲母	橙	普通	磨製無文・駒形附加条一種(附加1条)の縄文	S D 2 覆土	

番号	器種	長さ(径)	幅(口径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	鉄鏝	(3.7)	0.7	0.6	(2.7)	鉄	条部片 断面方形	S D 2 覆土中	
M25	鉄鏝	(2.8)	0.7	0.7	(1.2)	鉄	条部片 断面方形	S D 2 覆土中	

(3) 井戸跡

表8 二の沢B遺跡(古墳群)井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向 (長機方向)	平面形	縦横(m) 長径×短径	深さ(cm)	壁面	表面	覆土	主な出土物	番号 (時期・数-目)
1	C 9 e 2	-	円形	1.3×1.3	75	外傾	凹凸	自然		TM 1→不明
2	B 8 j 9	-	円形	1.13×1.12	180~	垂直	-	不明		堀溝にヒット2有り



第284図 第1号井戸跡実測図

第1号井戸跡土層解説

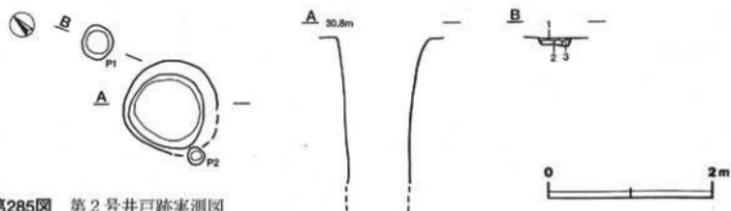
- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック・微量

第2号井戸跡P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

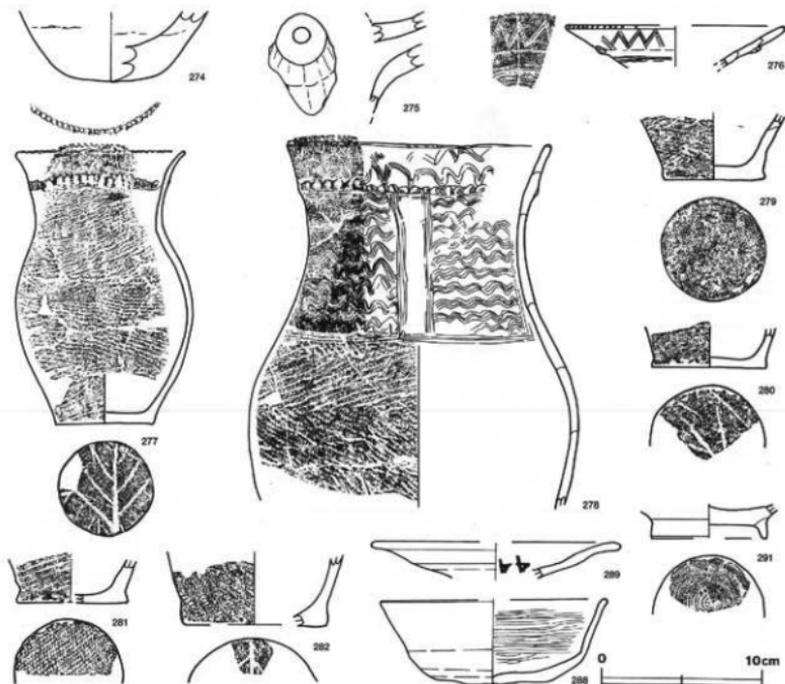
- 3 明黄褐色 ロームブロック・産中量

- 3 褐色 ローム粒子中量

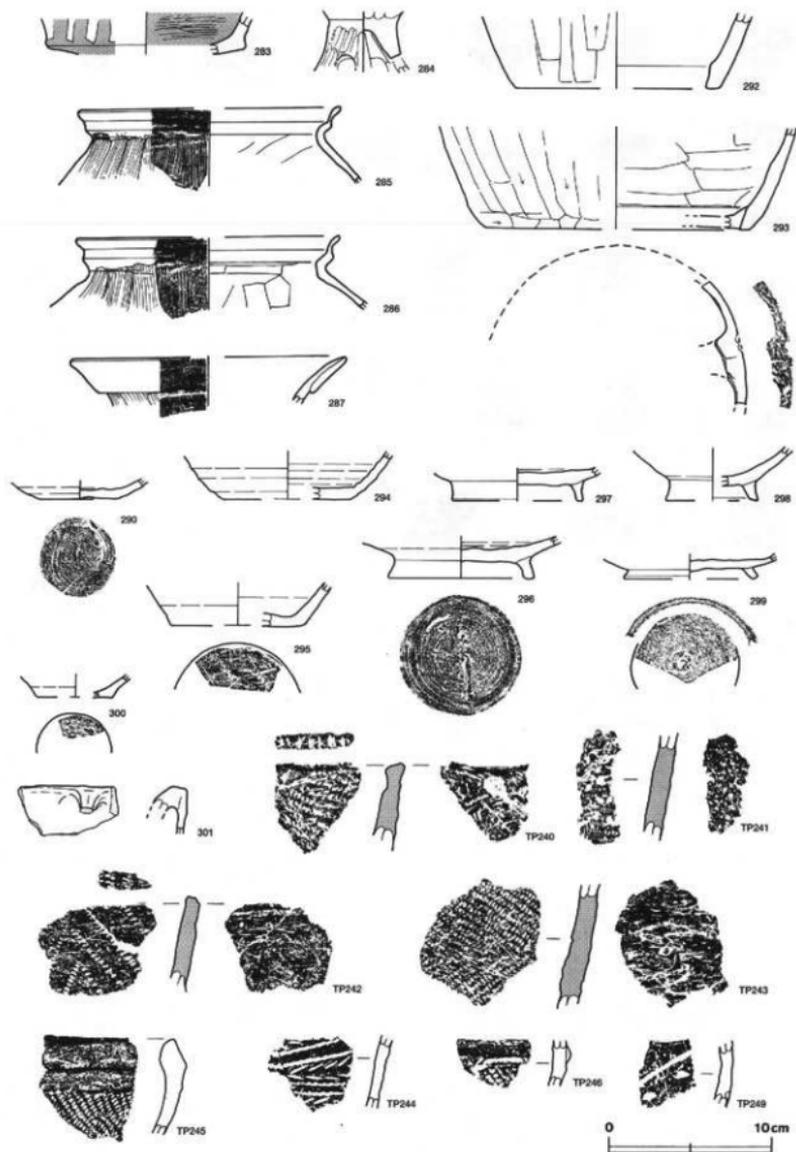


第285図 第2号井戸跡実測図

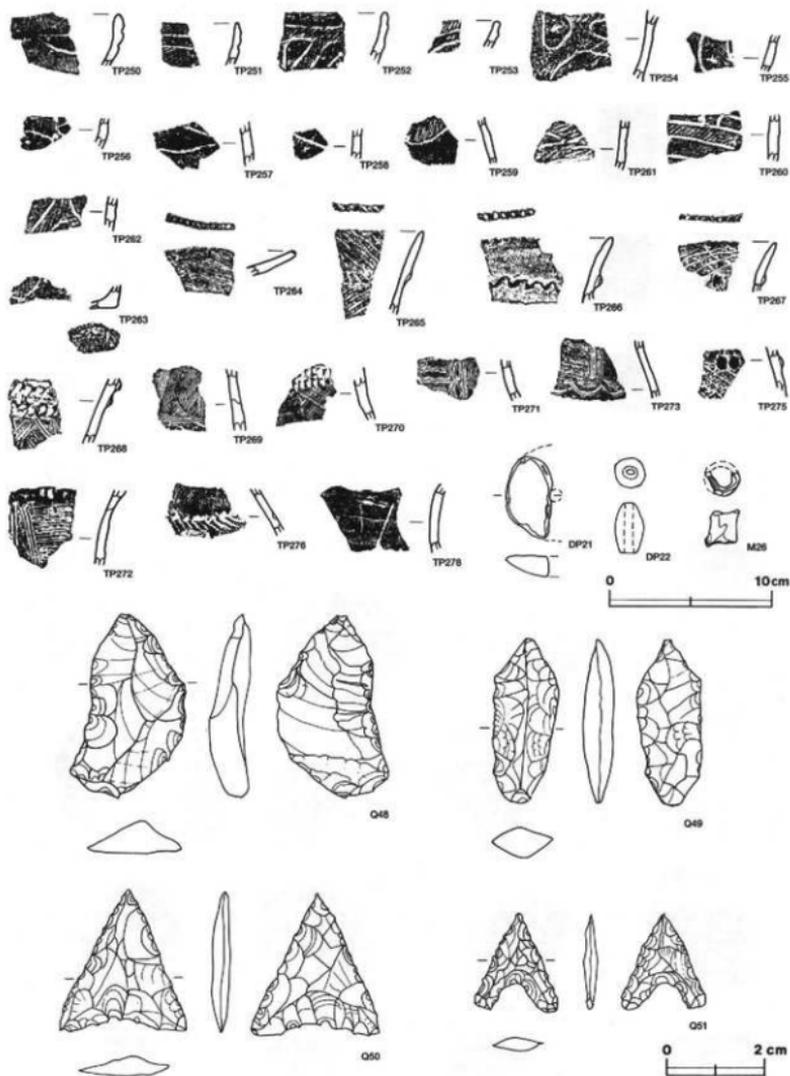
(4) 遺構外出土遺物



第286図 遺構外出土遺物実測図(1)



第287図 遺構外出土遺物実測図(2)



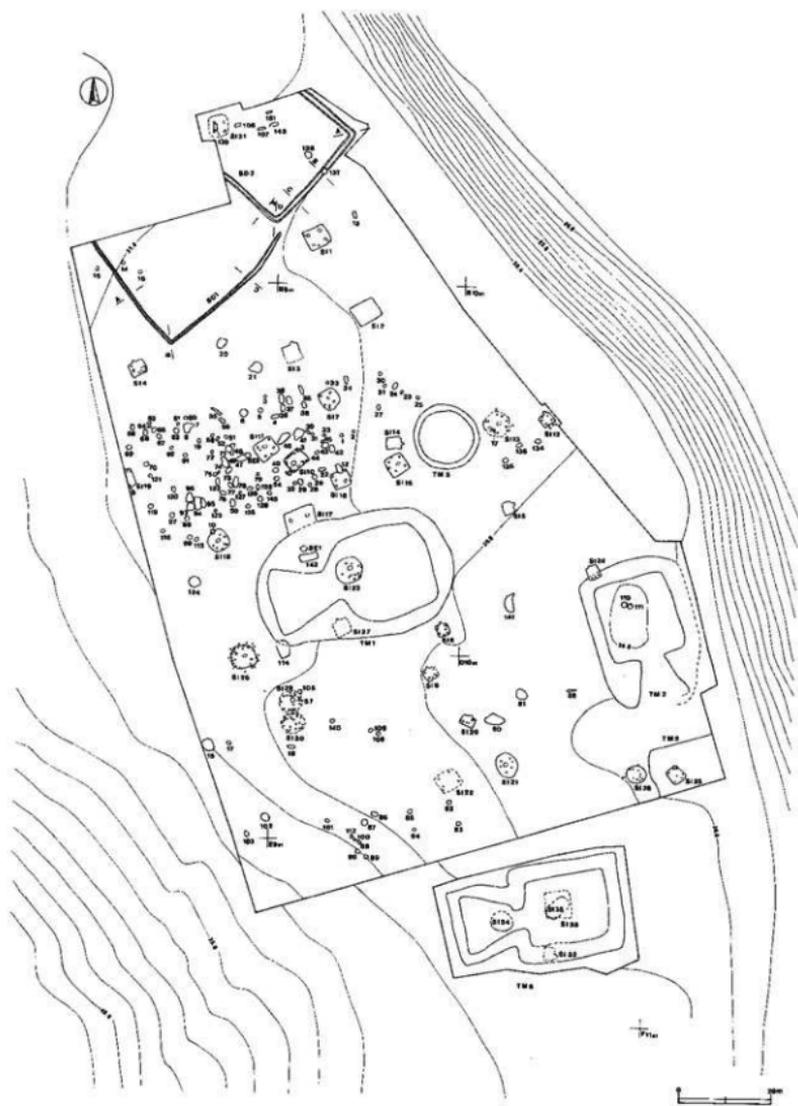
第288图 遗構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第286~288頁)

番号	種別	形状	口径	高さ	口径	胎土	胎質	胎色	手法	特徴	出土位置	備考	
274	縄文土器	油埴	-	(1.4)	4.6	石灰・灰石・雲母	粉	青褐色	割製灰文		T1(6)東溝遺構上土層	3%	
275	縄文土器	器口付埴	(6.3)	-	長石・雲母・赤色粘土	にこい	粗	青褐色	内面ヘラナデ		T1(1)東溝遺構上土層	3%	
276	弥生土器	器口付	(13.6)	(2.6)	-	長石・赤色粘土	にこい	粗	青褐色	口部外側へラナデ・口部内側へラナデによる割製・割製加飾・横溝加飾1条の縄文系灰文・口部縁部	表土中	6%	
277	弥生土器	器口付	(16.4)	(2.1)	6.0	赤土・灰石・雲母	にこい	粗	青褐色	口部縁部へラナデ・口部縁部4本筋加飾による割製・区内内へラナデ・上下を波状文・横溝加飾・口部縁部加飾2種別加飾の縄文系灰文・赤色縁部	表土中	70% PL59	
278	弥生土器	器口付	(16.0)	(2.2)	-	長石・雲母・糠	にこい	粗	青褐色	割製加飾・横溝加飾1条の縄文系灰文・割製加飾	表土中	20% PL49	
279	弥生土器	器	-	(4.2)	6.5	長石・雲母・糠	にこい	粗	青褐色	割製加飾・横溝加飾2種別加飾の縄文系灰文・赤色縁部	表土中	10%	
280	弥生土器	器	-	(2.5)	7.2	長石・雲母	粗	青褐色	割製加飾・横溝加飾	表土中	5%		
281	弥生土器	器	-	(2.8)	(2.0)	石灰・長石	粗	青褐色	割製加飾・横溝加飾1条の縄文系灰文・器口付	表土中	5%		
282	弥生土器	器	-	(4.5)	(4.8)	石灰・長石・雲母	粗	青褐色	割製加飾・横溝加飾1条の縄文系灰文・器口付	表土中	5%		
283	土師器	器口付	-	(2.6)	-	石灰・長石・雲母	明赤陶	青褐色	内面へラナデ・内・外側赤彩		表土中	3%	
284	土師器	器口付	-	(3.8)	-	雲母・長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・内面へラナデ・器口縁部3孔		表土中	10%	
285	土師器	器口付	(6.0)	(4.6)	-	石灰・長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・内面へラナデ		表土中	5%	
286	土師器	器口付	(6.0)	(4.5)	-	石灰・長石	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・内面へラナデ		表土中	5%
287	土師器	器	(16.6)	(2.9)	-	石灰・長石・雲母	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	5%	
288	土師器	器	(18.9)	5.4	7.0	石灰・長石	にこい	粗	青褐色	器口付内側へラナデ		表土中	5%
289	土師器	器	(11.0)	(2.5)	-	長石・雲母	にこい	粗	青褐色	口・器口縁部		T1(6)東溝遺構上土層	3% 表土中内側部(注)
290	土師器	器	-	(1.1)	4.6	石灰・長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		T1(6)東溝遺構上土層	20%	
291	土師器	器口付	-	(2.0)	(7.0)	石灰・長石・赤色粘土	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		T1(6)東溝遺構上土層	10%	
292	土師器	器	-	(4.7)	(12.4)	長石・赤色粘土	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部へラナデ・多孔		T1(6)東溝遺構上土層	5%
293	土師器	器	-	(6.3)	(16.2)	石灰・長石・雲母・赤色粘土	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・内面へラナデ・器口縁部へラナデ・多孔		表土中	5%
294	土師器	器口付	-	(3.0)	(7.6)	石灰・雲母・鉄鉱物	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部へラナデ		表土中	10%
295	土師器	器口付	-	(2.7)	(3.0)	石灰・赤色粘土・鉄鉱物	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部へラナデ・器口縁部へラナデ		表土中	10%	
296	土師器	器口付	-	(2.6)	8.3	長石・鉄鉱物	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	20%	
297	土師器	器口付	-	(2.0)	(4.0)	長石・鉄鉱物	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	10%	
298	土師器	器口付	-	(3.3)	(5.6)	長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		T1(1)東溝遺構上土層	10%	
299	土師器	器	-	(1.6)	(3.2)	長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		T1(1)東溝遺構上土層	10%	
300	土師器土器	小皿	-	(1.4)	(1.6)	長石・雲母	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	10%
301	土師器土器	内耳杯	-	(2.9)	-	長石・雲母	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部		表土中	20%	
T2100	縄文土器	油埴	-	(5.3)	-	雲母・石灰・灰石・雲母・赤色粘土	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部		T1(6)東溝遺構上土層		
T2101	縄文土器	油埴	-	(6.6)	-	雲母・石灰・長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部		T1(6)東溝遺構上土層		
T2102	縄文土器	油埴	-	(4.4)	-	雲母・石灰・灰石・雲母・赤色粘土	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部		T1(6)東溝遺構上土層	
T2103	縄文土器	油埴	-	(7.7)	-	雲母・石灰・長石・雲母・赤色粘土	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部		T1(6)東溝遺構上土層		
T2104	縄文土器	油埴	-	(4.2)	-	石灰・雲母・赤色粘土・糠	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ・器口縁部		表土中	
T2105	縄文土器	油埴	-	(5.6)	-	石灰・長石・雲母	明赤陶	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中		
T2106	縄文土器	油埴	-	(2.8)	-	石灰・雲母	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	
T2107	縄文土器	油埴	-	(1.1)	-	長石・雲母	明赤陶	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中		
T2108	弥生土器	器	-	(3.1)	-	長石・雲母	にこい	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	PL50
T2109	弥生土器	器	-	(2.5)	-	長石・雲母	明赤陶	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	PL50	
T2110	弥生土器	器	-	(3.1)	-	長石	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	70% PL50 器口付	
T2111	弥生土器	器	-	(1.5)	-	石灰・雲母	明赤陶	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	PL50	
T2112	弥生土器	器	-	(4.0)	-	石灰・雲母	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	70% PL50 器口付	
T2113	弥生土器	器	-	(2.2)	-	石灰・雲母・赤色粘土	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中	PL50	
T2114	弥生土器	器	-	(1.9)	-	長石・雲母	粗	青褐色	器口付外側へラナデ		表土中		

番号	形 別	器種	寸法	器高	底径	胎 土	色 澤	焼成	平 法 の 特 徴	出土状況	備 考
TP237	赤土上器	鉢	—	12.0	—	辰石・雲母	黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	PL30
TP258	赤土中器	鉢	—	11.7	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	PL30
TP259	赤土中器	鉢	—	12.0	—	石英・辰石・雲母	に濃い黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	PL30
TP260	赤土上器	鉢	—	12.9	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す 外面赤彩	表土中	PL30
TP261	赤土上器	鉢	—	12.9	—	辰石・雲母	黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	PL30
TP262	赤土上器	鉢	—	12.0	—	辰石・雲母・雲	に濃い黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す 外面赤彩	表土中	PL30
TP263	赤土土器	鉢	—	11.4	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	体部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP264	赤土土器	皿	—	11.6	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	口縁部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す 外面赤彩	表土中	
TP265	赤土中器	皿	—	13.1	—	辰石・雲母・雲	に濃い黄	普通	口縁部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す 外面赤彩	表土中	
TP266	赤土上器	碗	—	13.0	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	口縁部赤キザミ目 口縁部胎土の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP267	赤土中器	碗	—	13.0	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP269	赤土上器	皿	—	13.9	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP270	赤土上器	皿	—	13.3	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP271	赤土上器	碗	—	12.3	—	辰石・雲母	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP272	赤土上器	碗	—	14.0	—	石英・辰石・雲母	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP273	赤土土器	碗	—	13.4	—	辰石	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP275	赤土中器	皿	—	12.9	—	石英・辰石・雲母	に濃い黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP276	赤土上器	皿	—	12.6	—	辰石・雲母	黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	
TP278	胎土器	皿	—	13.5	—	辰石・雲母・雲母	灰黄	普通	胎土赤彩の地文を比較的区画し、区画内を磨り出す	表土中	

番号	形 別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP21	磨鉢	3.1	0.7	1.3	(15.2)	土	断面平坦形状	表土中	49%
HP22	磨鉢上器	3.1	0.5	1.6	9.7	土	外面平坦形状	表土中	100% PL30
Q48	磨鉢	3.6	2.3	0.7	4.7	チャート	断面の二面面を調整	表土中	PL51
Q49	磨鉢先形丸磨鉢	3.4	1.3	0.6	2.6	チャート	断面の二面面を調整	表土中	PL51
Q50	石磨	2.9	2.6	0.4	1.9	チャート	断面の二面面を調整、断面の縁りは凸	表土中	PL51
Q51	石磨	2.0	1.7	0.3	0.6	チャート	断面の二面面を調整、断面の縁りは凸	表土中	PL51
M26	不詳調整法	2.2	1.2	1.5	(4.0)	土	断面平坦形状	表土中	



第289図 二の沢B遺跡(古墳群)遺構全体図

## 第4節 ま と め

今回の調査によって確認した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑(陥し穴)1基、弥生時代の竪穴住居跡13軒、土坑5基(内竪墓1基)、古墳時代の竪穴住居跡6軒、土坑2基、周溝墓5基(前方後方形3基、円形1基、方形1基)、平安時代の竪穴住居跡11軒、中世の地下式塚2基、時期不明の土坑132基、溝2条、井戸跡2基である。

ここでは、各時代ごとに主な遺構と遺物について概要を述べ、まとめとしたい。

### 1 旧石器時代

今回の調査によって出土した旧石器時代の遺物はQ11とQ42のナイフ形石器、Q48の彫器とQ49の楕先形尖頭器である。Q11のナイフ形石器は信州産の黒曜石と考えられる。出土地点周辺の精査を行ったが、何ら発見することはできなかった。周辺遺跡で旧石器時代の遺物は、水戸市のニガサワ遺跡<sup>2</sup>から彫刻刀形石器、十万原遺跡<sup>3</sup>からスクレイパー・石核・剥片・台石が出土している。

### 2 縄文時代

今回の調査によって縄文時代の竪穴住居跡4軒(内出土土器から早期末葉から前期初頭の時期が2軒)、土坑(陥し穴)1基を確認した。同時期の住居跡は隣接する二の沢A遺跡、取手市の塩五郎崎遺跡<sup>4</sup>、守谷市の今城遺跡<sup>5</sup>、鹿嶋市の伏見遺跡<sup>6</sup>等で確認されている。遺物は、糸俣文系の土器や羽状縄文の繊維土器のほか、表面で採取されている中期の加曾利E式土器、後期の称名寺式土器がある。

### 3 弥生時代

今回の調査によって弥生時代の竪穴住居跡13軒、土坑5基(内土塚墓1基を含む)を確認した。時期は出土土器から後期後葉に位置付けられる。

竪穴住居跡は、南部に4軒、中央部に8軒の二つのグループのほか、離れて北部に1軒確認されている。中央部のグループはさらに第18・23・26号住居跡と第7・11・13・15・16号住居跡の二つのグループに分けられ、この3・4軒で一つの共同体を構成していると考えられる。平面形は、長方形3軒、方形4軒、隅丸方形2軒、八角形3軒、楕円形1軒とバラエティーに富んでいる。規模は、20～30m<sup>2</sup>が5軒、20m<sup>2</sup>未満が8軒で、平均は19.5m<sup>2</sup>と小形である。炉は10軒の住居跡で確認され、その内の7軒の住居跡で炉石が確認されている。茨城県北部から酒沼川流域においては、当期の炉跡に炉石が掘られている割合が高いことが指摘されており<sup>7</sup>、当遺跡も同様な状況である。第80号土坑の覆土中層と表面で採取されている土器片に中期中葉に位置付けられる土器片がみられる。この土器片は、時間的にはひたちなか市の猪達遺跡を標識名とする猪式土器<sup>8</sup>の時期ではあるが、文様構成は、福島県いわき市の龍門寺遺跡を標識名とする龍門寺式土器<sup>9</sup>や栃木県宇都宮市の野沢遺跡を標識名とする野沢式土器<sup>10</sup>にも類似していると感じられる。この土器の出土例としては、隣接する水戸市のニガサワ遺跡、那珂郡那珂町の森戸遺跡<sup>11</sup>、同郡瓜連町の瓜連城跡<sup>12</sup>や久慈郡金砂郷町の長者屋敷遺跡<sup>13</sup>等がある。第139号土坑は後期後葉の土塚墓で、威信財として緑色凝灰岩製の管玉が出土している。この時期の茨城県内での墓制は土器棺墓が多く、土塚墓はほとんど見られず、東茨城県大洗町長峯遺跡の第1号土塚<sup>14</sup>が比較的似ていると思われる。

### 4 古墳時代

今回の調査によって古墳時代の竪穴住居跡6軒、周溝墓5基(前方後方形3基・円形1基・方形1基)、土坑2基を確認した。当遺跡の西南東5～6kmの地点に前方後方墳の安土風古墳<sup>15</sup>が位置し、時期は4世紀前半と

考えられている。

当遺跡の前方後方形の遺構を、3基とも墳丘全長で35mと同規模あるいはそれ以下であること、出土土器が比較的古いことから、前方後方墳ではなく、前方後方形周溝墓と捉えた<sup>16)</sup>。この前方後方形周溝墓については、

第1号周溝墓-小形丸底甕が出土していること

第2号周溝墓-有段口縁壺の体部が下膨れであることや頸部に円形浮文が見られること

第6号周溝墓-S字状口縁台甕に赤塚綱年のB類<sup>17)</sup>がみられること、体部上端に網目状熱糸文が見られ装飾性のある壺がみられることや有段口縁壺の口縁部が外反すること

等の出土遺物の特徴(各周溝墓出土の遺物の特徴の詳細についてはそれぞれの住居跡の項目を参照されたい)から、第6号周溝墓→第2号周溝墓→第1号周溝墓といった一応の変遷が考えられるであろう<sup>18)</sup>。ただし第1号周溝墓と第2号周溝墓との時期差はほとんどなく同時期とも考えられる。この前方後方形周溝墓である第6号周溝墓が、先行あるいは中核とし、その後周囲に前方後方形周溝墓、円形周溝墓や方形周溝墓が展開するといった群構成を示していると考えている<sup>19)</sup>。これらの周溝墓に伴う集落は隣接する二の沢A遺跡が考えられる。二の沢A遺跡からは古墳時代前期と考えられる住居跡が65軒確認されている。前期でも前半に位置付けられる住居跡が29軒確認され、この時期の集落が周溝墓に伴うものと思われる。この中で第5・57・89号住居跡が古い様相を示し、第6号周溝墓に比較的近い時期と思われる。二の沢A遺跡からは、古墳や周溝墓からの出土事例の多い有段口縁壺やパレス壺の様相を示す壺が出土している。特に第89号住居跡からはこの有段口縁壺やパレス壺の様相を示す壺が出土し、遺物量も豊富であること、規模が48㎡と大形であることから首長の住居跡の可能性が考えられる。前期前半に位置付けられる住居跡の中で、第10・92号住居跡が次のことから首長の住居跡と考えられる。第10号住居跡は規模が50㎡と大形で、しかも遺物量が豊富である。第92号住居跡は規模が60㎡と大形である。遺物量は少ないが、覆土が薄く堆積状況は明確ではないが、覆土中に炭化粒子が多量に含まれていることから、焼失住居の可能性が考えられ、住居廃棄時に遺物を持ち去ったためと考えられることによる。遺跡全体の出土遺物の胎土を観察すると在地で作られたものと思われる。周溝墓出土の土器も在地で作られたと考えられ、器種も高坏・器台・有段口縁壺・甕等で、何ら集落出土の土器との違いは見られない。ただし第6号周溝墓出土のP228の壺は搬入された可能性が高いと思われる。

## 5 平安時代

今回の調査によって平安時代の駅穴住居跡11軒を確認した。出土遺物から大きく3期に区分し、若干の検討を加えたい。

### ・平安1期

本期に当たる住居跡は、第27号住居跡で、9世紀前半のものである。この住居跡は調査区の中央部の第1号周溝墓の周溝内から確認されている。主軸方向はN-38°-Wで、平面形は方形で、規模は14.7㎡ほどで小形である。

遺物は土師器の高台付坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕・水甕である。実測可能な土器での比率を見ると、土師器：須恵器=15：13で、やや土師器の比率が高い。

### ・平安2期

本期に当たる住居跡は、第6・9号住居跡で、9世紀中葉から後半のものである。これらの住居跡は調査区の中央部で、隣接する位置で確認されている。主軸方向はN-16°-31°-Wの狭い範囲にあり、規則性が感じられる。平面形は方形で、規模は7～8㎡で、前期に比べさらに小形である。

遺物は土師器の高台付坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕・蓋・壺・小形短頸壺、鉄鎌・刀子、石製紡錘車

である。実測可能な土器での比率を見ると、土師器：須恵器＝1：4で、須恵器の比率が極めて高い。特筆される遺物として、墨書土器が第6号住居跡から「在田君」2例、「在」1例、第9号住居跡から「平」のヘラ書き1例が出土している。第9号住居跡からは、この他に「幡田郷戸主君子部大領麻呂」と刻書された石製紡錘車や須恵器の短頸甕が出土している。この紡錘車の釈文中の幡田郷は現在のひたちなか市那珂湊周辺に比定され、当遺跡周辺は古代において入野郷に比定されていた。水戸市の台渡里廃寺跡の出土瓦にこの幡田郷に相当すると思われる「幡」とヘラ書きのある文字瓦がみられる<sup>30</sup>。この釈文中の「君子部」と直接関係はないと思われるが、八・九世紀の多珂郡の大領・少領の姓が「君子部」である<sup>31</sup>。また、鹿の子C遺跡の第80号住居跡から「公子部」と表記された漆紙文書も出土している<sup>32</sup>。当遺跡出土の紡錘車の釈文に類似した文字例としては、埼玉県本庄市の南大通り線内遺跡出土石製紡錘車の「武藏国児玉郡草田郷戸主人田部身方呂」の刻書<sup>33</sup>、つくば市の中原遺跡出土土師器甕の「常陸国河内郡真幡郷戸主刑部歌人」の墨書<sup>34</sup>例がある。中原遺跡は古代河内郡曾田郷に比定され、墨書土器の釈文中の郷名とは異なり、この点当遺跡の出土例と同様である<sup>35</sup>。この中の「戸主」＝「戸長」＝「長」のように解釈が可能ならば、「郷戸主」＝「郷長」と捉えられよう。当遺跡の南約10kmの地点に位置する大塚新地遺跡から「郷長」と墨書された須恵器杯<sup>36</sup>が出土している。津野仁氏はこの遺跡を分析して郷長集落と捉えている<sup>37</sup>。

#### ・平安3期

本期に当たる住居跡は、第3～5・12・14・20・24・32号住居跡で、10世紀前葉のものである。これらの住居跡は、調査区の南部・東部から北部にかけて標高31mの線に沿うような形で確認されている。第20号住居跡を除くと主軸方向はN-20°～39°-WとN-70°～93°-Eの2つのグループに分けられ、東寇のグループがみられ、規則性が感じられる。平面形は方形と長方形が見られ、規模は6.2㎡～14.4㎡で、平均8.6㎡で、前期と同様に小形である。

遺物は土師器の杯・高台付杯・甕・皿・壺・鉢、須恵器の高台付杯・高杯（高甕）・壺・甕・円面甕、刀子・鎌、管状土錘・土製紡錘車である。実測可能な土器での比率を見ると、土師器：須恵器＝33：7で、土師器の比率が極めて高い。須恵器は壺・甕・円面甕等がわずかに残るのみである。特筆される遺物では、第4号住居跡から須恵器の円面甕が出土している。第32号住居跡からは外面に「佛」とヘラ書きされ、内面には判読は不明であるが2文字と考えられる墨書がなされた高杯（高甕）が出土している。

遺構には伴わないが第2号周溝から平安時代の土師器片・須恵器片、鋤先、鉄鏝や鉄鎌と共に緑釉陶器の椀が出土している。この緑釉陶器の椀は猿投産の黒釜90号窯に位置付けられる。当遺跡周辺でのこの時期の緑釉陶器の出土例として、水戸市の梶内遺跡の除刻花文椀、ひたちなか市の三反田T高井遺跡<sup>38</sup>の椀、武田西塚遺跡<sup>39</sup>の椀、長名屋敷遺跡の椀・皿、笠間山石井台遺跡<sup>40</sup>の除刻花文椀等がある。一般に緑釉陶器の出土している遺跡は、寺院、官衙関連遺跡あるいは大規模集落の場合が多い<sup>41</sup>。鋤先や鉄鏝の年代を、古庄浩明氏の編年<sup>42</sup>を基に考えてみると、おおむね9世紀から10世紀に位置付けられ、土器の年代観と一致している。このような点から、当遺跡の集落の廃絶に伴って、主要な遺物をこの第2号周溝に投棄した可能性が考えられる<sup>43</sup>。

## 6 中世

今回の調査によって中世の地下式墳2基を確認した。遺構に伴う遺物は出土しなかったが、表面で土師質土器の内耳鍋・小皿が採取されている。

### 註

- 1) 小林 孝「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書」ニガサリ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第169集 2000年

- 2) 皆川 修「上万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 上万原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集 2001年
- 3) 中山忠久「取手都市計画事業下高井特定土地地区西整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 甚五郎崎遺跡ほか」『茨城県教育財団文化財調査報告』第107集 1995年
- 4) 和田進次ほか「南守谷上地区調整事業地内埋蔵文化財調査報告書 今城遺跡ほか」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅷ 1981年 当教育財団編文化時代研究班「守谷町(市)今城遺跡出土土器の検討(1)(2)」『研究ノート』10・11号 茨城県教育財団 2001・2002年
- 5) 小野真一「常陸伏見」伏見遺跡調査会 1979年
- 6) 鶴見貞雄氏は「炉石住居が確認されている遺跡となると、…大きく二地域にまとめることができ特徴的である。一つは県北部から圓沼周辺にかけてであり、…もう一つは恋瀬川と板川流域周辺であり、…この二地域は茨城の後期弥生土器を代表する十土台式土器と上稲古式土器の文化圏中心域に当たるところでもある。…炉石住居は両文化圏を特徴づける一要素と言えるものであろう」との指摘をしている。  
・ 鶴見貞雄「炉石住居覚書-茨城県の弥生・古墳時代の住居例から-」『研究ノート』5号 茨城県教育財団 1996年
- 7) 藤本弥城『常陸那珂川下流域の弥生土器』1983年 藤本 武「藤本弥城先史資料整理調査報告書」1991年
- 8) 猪狩忠雄ほか「龍門寺遺跡-重要幹線街路事業に伴う調査-」『いわき市埋蔵文化財調査報告』第11冊 1985年
- 9) 小玉秀成「常陸地域における弥生土器編年の大枠」『霞ヶ浦沿岸の弥生文化』霞ヶ浦郷土資料館 1998年
- 10) 川崎純徳ほか「那珂町の考古学」1990年 齊藤弘道ほか「那珂町森(遺跡)出土の縄文式・弥生式土器及び土師器について」『年報』9 茨城県教育財団 1990年
- 11) 加藤雅美「瓜連城跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書」瓜連町教育委員会 1996年
- 12) 矢ノ倉正男「主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 長者屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第117集 1997年 矢ノ倉正男「長者屋敷遺跡出土の弥生土器について」『研究ノート』6号 茨城県教育財団 1997年
- 13) 井上義安ほか「茨城県大洗町長峯遺跡」『大洗町文化財調査報告書』第4集 1973年
- 14) 茂木雅博ほか「常陸安戸鼻古墳」常陸安戸鼻古墳調査団 1982年
- 15) 前方後方墳と前方後方形の周溝墓とを明確に区別することは難しいが、梅澤重昭氏は「前方後方墳と前方後方形周溝墓の相違を宗沢に求めるかは、種々議論のあるところである。筆者は、基本的にそれは墳丘形態において高塚形式の墳丘をもったものか、あるいは低平な台状形式の墳丘をもったものかをもって分類するのがよいと考えている。おのずから、それは墳丘規模に反映されており、前方後方墳と前方後方形周溝墓との区分は、墳丘全長40m内外のところに目安を置いたらと考えている。」としている。赤塚次郎氏は「大きさと平面形から前方後方墳を2つに大別しておきたい。規模45mという数字、前方部幅・長と後方部幅の比が8割という値を目安にして前方部が大きく、規模の大きい前方後方墳の2者である。(中略)前者をB型後者をA型前方後方墳としておこう」としている。当遺跡の前方後方形の遺構は、平面形からは前方後方墳といった方がいいのかもしれないが、規模からは前方後方形の周溝墓といえると思われる。また、規模から考えてみると、県内の前方後方墳と捉えているものも、前方後方形周溝墓とされるものもあると思われる。  
・ 梅澤重昭「前方後方墳と東国の古墳発生」『大塚初重先生頌寿記念考古学論集』2000年  
・ 赤塚次郎「前方後方墳覚書89」『考古学ジャーナル』No.307 1989年
- 16) 赤塚次郎「『S字型』覚書」85(財)愛知県埋蔵文化財センター『年報 昭和60年度』1986年  
赤塚次郎『廻間遺跡(財)愛知県埋蔵文化財センター 1990年

- 17) 当教育財団古墳時代研究班(集落グループ)「茨城の『S字状口縁付甕』について(3)」「研究ノート」7号 1998年や塚谷修氏の編年案による「土器が語る一関東古墳時代の黎明―」古墳時代土器研究会 1998年所収
- 18) 本跡のように、前方後方形周溝墓を先行あるいは中核として、その後に周囲に前方後方形周溝墓、円形周溝墓や方形周溝墓が展開するといった群構成を示している例は見られないが、前方後方墳と方墳(前方後方形周溝墓、方形周溝墓)による群構成がみられる例はある。栃木県小川町吉田新宿古墳群、佐野市松山遺跡や群馬県波志江中野面遺跡等である。
- ・ 真保昌弘「那須吉田新宿古墳群」『小川町埋蔵文化財調査報告第12冊』栃木県小川町教育委員会 1999年
  - ・ 片澤清八ほか「松山遺跡」『栃木県埋蔵文化財調査報告第259集』(財)とちぎ生涯学習文化財団 2001年
  - ・ 角田芳昭「波志江中野面遺跡(1)―古墳時代以降編―」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団第281集』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001年
- 19) 志田浩一ほか『茨城歴史 原始古代編』1985年
- 20) 鎌田元一「群の成立と国造」『日本史研究』176 1977年 森公 章「群の成立と創造」『日本史研究』299 1987年
- 21) 川井正一ほか「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 1983年
- 22) 増田一裕「南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」埼玉県本庄市教育委員会 1987・1989・1991年  
山添奈苗「線刻入り紡錘車から見た古代地域社会―関東地方出土事例から―」『土壘』第6号 2002年
- 23) 高野節夫ほか「中根・金田台特定上地区西側埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年
- 24) 増田一裕氏によると埼玉県や群馬県では郷名記載の線刻紡錘車の郷名と出土遺跡の古代にける郷名とは一致しているとのご教示を得、当遺跡とは様相が異なっている。
- 25) 石井 毅ほか「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 大塚新地遺跡ほか」『茨城県教育財団文化財調査報告』XI 1981年
- 31) 津野 仁「遺跡からみた郷長の性格―茨城県大塚新地遺跡の検討を中心として―」『大平郷史』10号 1991年
- 26) 田所剛大ほか「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 三反田下高井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第128集 1998年
- 27) 佐々木義則ほか「武田西端遺跡 奈良・平安時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第24集 2002年
- 28) 大川 清「石井台遺跡(資料編)うら山古墳・歴史時代集落の調査」『考古学研究室 乙種第3冊』国士郎大学文学部研究室 1973年
- 29) 当教育財団奈良・平安時代研究班「茨城県内における施釉陶器の検討(3)」『研究ノート』7号 茨城県教育財団 1998年  
当遺跡から緑釉陶器、須恵器の円面硯・高登・短頸壺、墨書土器、ヘラ書き土器が出土している。遺物から見ると官衙的色彩を帯びているが、遺構からはそのような様相は見られない。
- 30) 古庄浩明「古代における鉄製農具の所有形態―世紀から10世紀の南関東を中心として」『考古学雑誌』第79巻 第3号 1994年
- 31) 第2号周溝墓の周溝から土師器片・須恵器片、緑釉陶器と共に鋤先、鉄錐や鉄錐等が出土していることから、周溝内埋葬墓といった考え方もあるが、この周辺土の堆積状況や埋まった土を掘り込んだような様相が見られないことから、やはり放棄したと考えたい。
- ・ 真保昌弘「那須吉田新宿古墳群」『小川町埋蔵文化財調査報告第12冊』栃木県小川町教育委員会 1999年

茨城県教育財団文化財調査報告第208集

二の沢 A 遺跡  
二の沢 B 遺跡(古墳群)  
ニガサワ古墳群

上巻

平成15(2003)年3月20日 印刷

平成15(2003)年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2号  
茨城県水戸生涯学習センター分館内

T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 エリート印刷  
〒300-1211 牛久市柏田町3269

T E L 029-872-2231